

茨城県教育財団文化財調査報告第279集

大戸富士山遺跡

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書Ⅶ

下 巻

平成19年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第279集

お お ど ふ じ や ま

大戸富士山遺跡

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書Ⅶ

下 巻

平成19年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

目 次

一 下 卷 一

第4章 大戸富士山遺跡	295
第1節 遺跡の概要	295
第2節 基本層序	295
第3節 遺構と遺物	296
1 旧石器時代の石器集中地点と遺物	296
(1) 調査方法	296
(2) 石器集中地点の記載方法	298
(3) 石器集中地点	298
(4) 調査区外出土旧石器	312
2 縄文時代の遺構と遺物	314
(1) 竪穴住居跡	314
(2) 陥し穴	316
3 奈良・平安時代の遺構と遺物	317
(1) 竪穴住居跡	317
(2) 掘立柱建物跡	399
(3) 柵跡	406
(4) 溝跡	408
4 その他の遺構と遺物	409
(1) 炭焼窯跡	410
(2) 土坑	413
(3) ピット群	420
(4) 埋没谷	423
(5) 遺構外出土遺物	424
第4節 まとめ	425

写真図版

第4章 大戸富士山遺跡

第1節 遺跡の概要

大戸富士山遺跡は、東茨城郡茨城町の北西部に位置し、涸沼前川の支流である小橋川の左岸、標高24～29mの舌状台地上に立地している。調査区西部は小橋川に下る斜面部であり、北部と南部には谷津が入っている。調査の結果、奈良・平安時代を中心とした旧石器時代から奈良・平安時代にわたる複合遺跡であることが確認された。調査前現況は山林で、調査面積は13,354㎡である。

確認された遺構は、旧石器時代の石器集中地点4か所、縄文時代の竪穴住居跡1軒、陥し穴2基、奈良・平安時代の竪穴住居跡30軒、掘立柱建物跡6棟、柵跡2列、溝跡1条のほか、時期不明の炭焼窯跡5基、土坑43基、ピット群2か所などである。また、北部と南部に確認された2か所の埋没谷について、複数のトレンチを設定して調査を行った。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に33箱分出土しており、大半は奈良・平安時代のものである。主な遺物は、縄文土器片、土師器片（坏・高台付坏・高台付皿・甕・甑）、須恵器片（坏・高台付坏・盤・蓋・高盤・長頸瓶・短頸壺・甕）、陶器片（壺）、土製品（紡錘車・支脚）、石器・石製品（ナイフ形石器・礫器・石核・剥片・鏃・磨石・敲石・砥石・紡錘車）、金属器・金属製品（刀子・鏃・鎌・釘・鉸具・不明）、古銭などである。

なお、調査区は便宜上西部をA区、東部をB区と分けている。

第2節 基本層序

調査A区北西部のC2d6区及び調査B区北部のD5g0区にテストピットを設定し、地表から深さ約3.0mほど掘り下げて基本土層の堆積状況（第1図）の観察を行った。テストピットの土層は、色調・構成粒子・含有物・粘性・縮まりなどから12層に分層された。調査A区西部の斜面部においては男体七本桜軽石層が部分的に観察することができたが、テストピットにおいては確認されなかった。

以下、テストピットの観察から、層序について記述する。

第1層は黒褐色を呈する耕作土層で、ローム粒子を少量含んでいる。層厚は約40cm前後である。

第2層は暗褐色を呈するソフトローム層で、層厚は17～32cmである。

第3層は褐色を呈するソフトローム層で、層厚は36～44cmである。

第4層は褐色を呈するハードローム層で、縮まりが強い。層厚は32～50cmである。

第5層は褐色を呈するハードローム層で、黒色粒子を微量含み、縮まりが強い。層厚は25～35cmである。

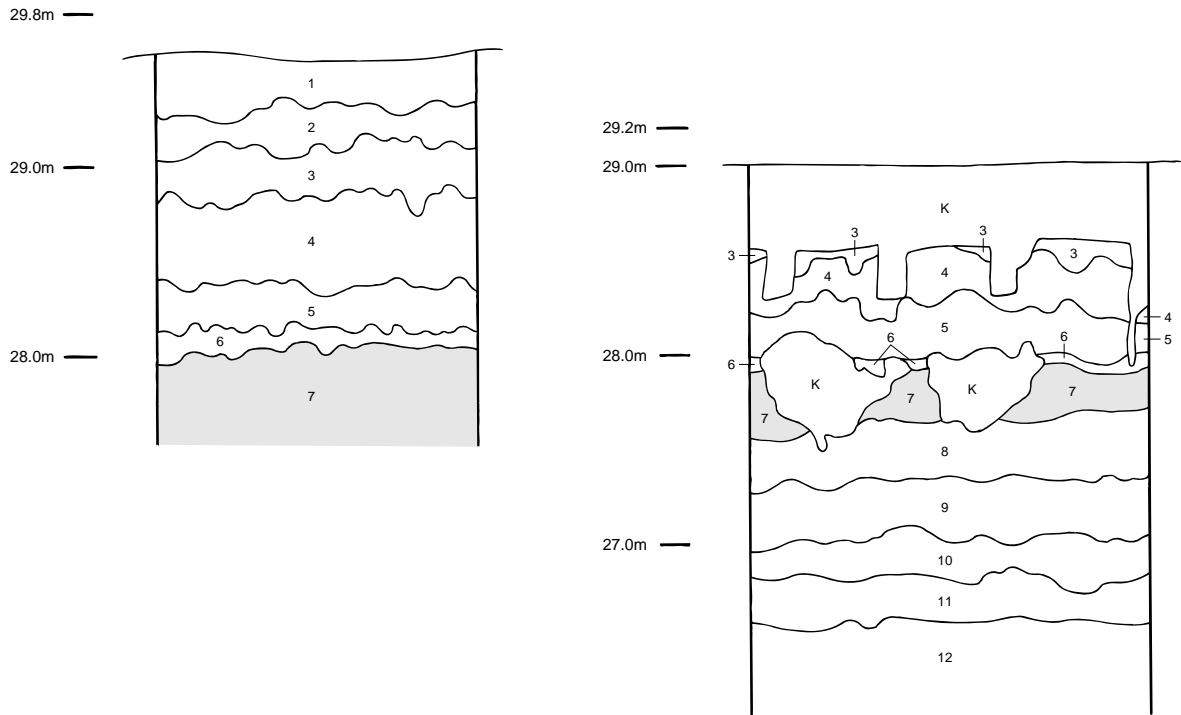
第6層は黄褐色を呈する鹿沼パミス層への漸移層で、ローム粒子及び鹿沼パミス粒子を中量含み、粘性が弱く、縮まりは強い。層厚は8～10cmである。

第7層は明黄褐色を呈する鹿沼パミス層で、粘性が弱く、縮まりは強い。層厚は27～35cmである。

第8層は褐色を呈するハードローム層で、鹿沼パミス粒子を微量含んでいる。層厚は28～30cmである。

第9層は褐色を呈するハードローム層で、粘性・縮まりが強い。層厚は24～34cmである。

第10層は褐色を呈するハードローム層で、黒色粒子を微量含んでいる。層厚は15～27cmである。



第1図 基本土層図

第11層はにぶい黄褐色を呈する常総粘土層の漸移層で、粘土粒子を少量含んでいる。層厚は21～25cmである。第12層は灰黄色を呈する常総粘土層で、粘土粒子を多量含んでいる。下層は未掘のため本来の層厚は不明である。

なお、遺構の多くは第3・4層で確認されている。

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の石器集中地点と遺物

(1) 調査の方法

遺構確認作業及び各時代の遺構調査を進めていく過程で、旧石器時代の石器が出土したため、石器集中地点が確認できると想定される地点に調査区を設定し、ローム層の掘り下げを行った。

調査区は大きく3か所に分けられる。第1調査区はA区の中央部、標高28.5～29.0mの台地上の平坦部で調査面積は約564㎡である。第2調査区はA区の西部、標高28.0～28.5mの谷津に向かう緩斜面部で調査面積は288㎡である。第3調査区はA区の東部、標高28.5～29.0mの台地上の平坦部で調査面積は64㎡である。

調査の結果、第1調査区ではC 3 b8～C 3 e8区から99点、C 2 h0～C 3 i1区から36点、C 3 e6～C 3 f7区から31点、第2調査区ではD 2 b9～D 3 d1区から138点が出土した。なお、第3調査区においては、石器の集中は確認されなかった。

調査の過程で出土した石器などは原位置を保持しながら、該期の遺構にも配慮して掘り下げ、出土状況の写真撮影及び位置と標高の計測を行った。



石器集中地点



0 40m

第2図 旧石器時代調査区設定図

(2) 石器集中地点の記載方法

4か所の石器集中地点から出土した石器の総数は304点である。遺物番号は石器集中地点ごとに付した。本報告書の番号とともに、調査時の番号も合わせて掲載した。また、実測図未掲載の石器もすべて一覧表で記載した。記載内容は「番号」「遺物番号」「器種」「石質」「グリッド」「出土位置」である。「出土位置」は小グリッド北西角を基準にして、X（南北）、Y（東西）への距離であり、Zは「標高」である。なお、X・Y・Zの数値のないものは、集中地点の攪乱中において確認したものである。原位置は保っていないが、その集中地点に属するものと判断して一覧表に記載している。

また、集中地点以外から出土した遺物については、表面採集したものも含めて一括し、「調査区外出土旧石器」として扱い、一覧表に掲載した。

時期の特定については「茨城県後期旧石器時代編年案」（『茨城県における旧石器時代研究の到達点 ― その現状と課題― 発表要旨・資料集』）を参考にした。

(3) 石器集中地点

第1調査区において確認された3か所の石器集中地点をそれぞれ第1・3・4号石器集中地点、第2調査区において確認された石器集中地点を第2号石器集中地点とし、以下その特徴と出土した石器について記述する。

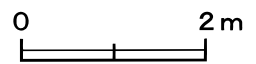
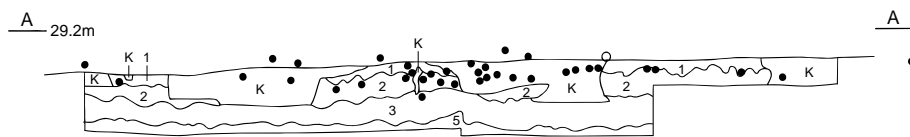
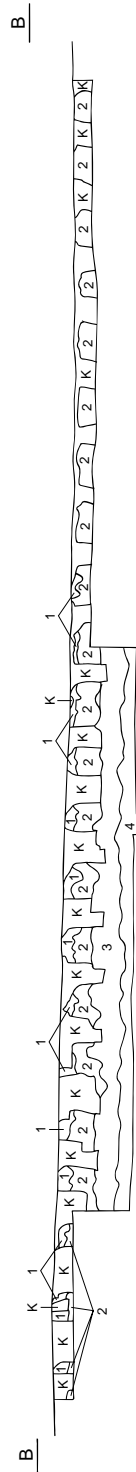
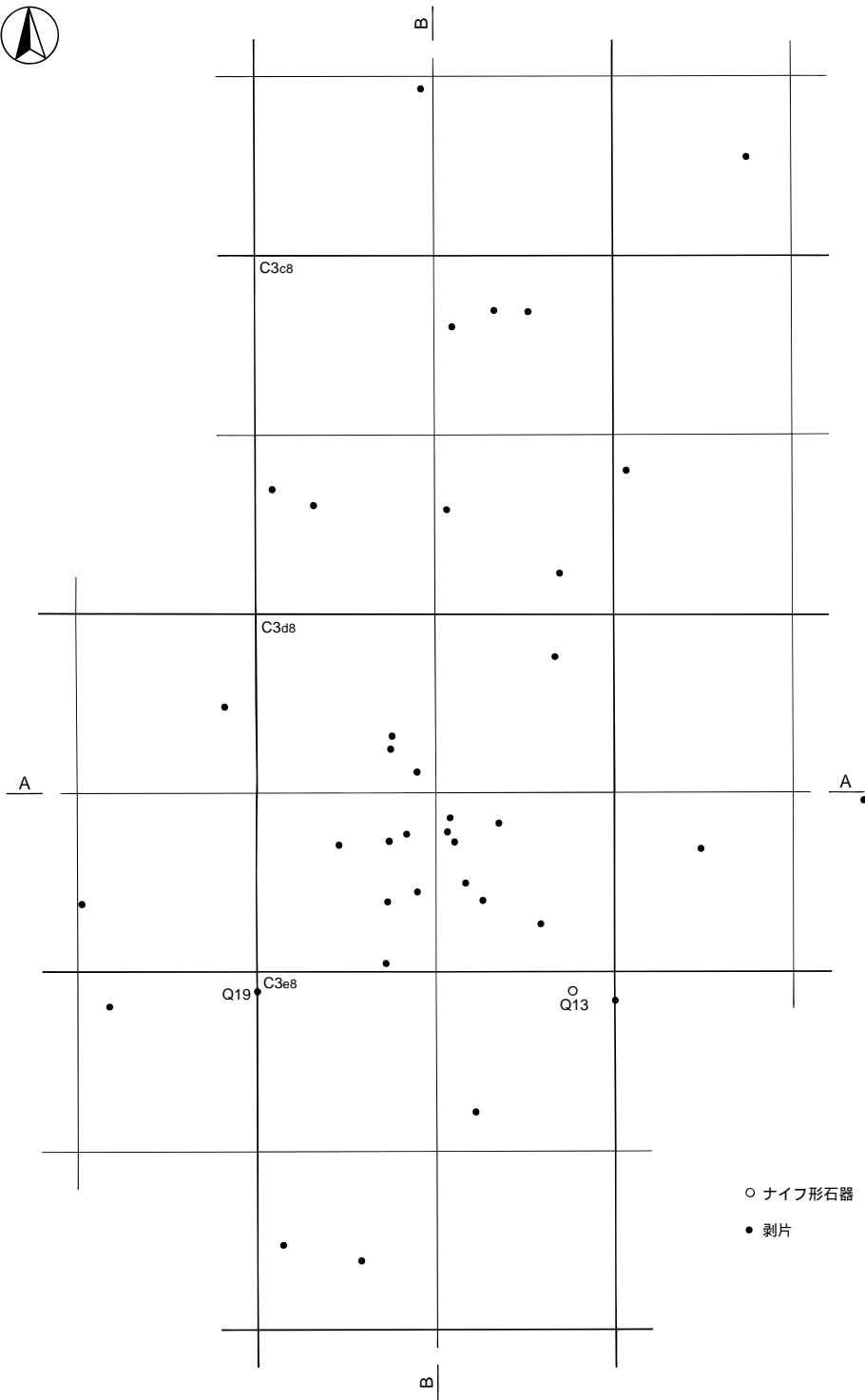
第1号石器集中地点（第3～5図）

位置 調査A区中央部、第1調査区のC3b8・C3b9・C3b0・C3c7・C3c8・C3c9・C3c0・C3d7・C3d8・C3d9・C3d0・C3e7・C3e8区で、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

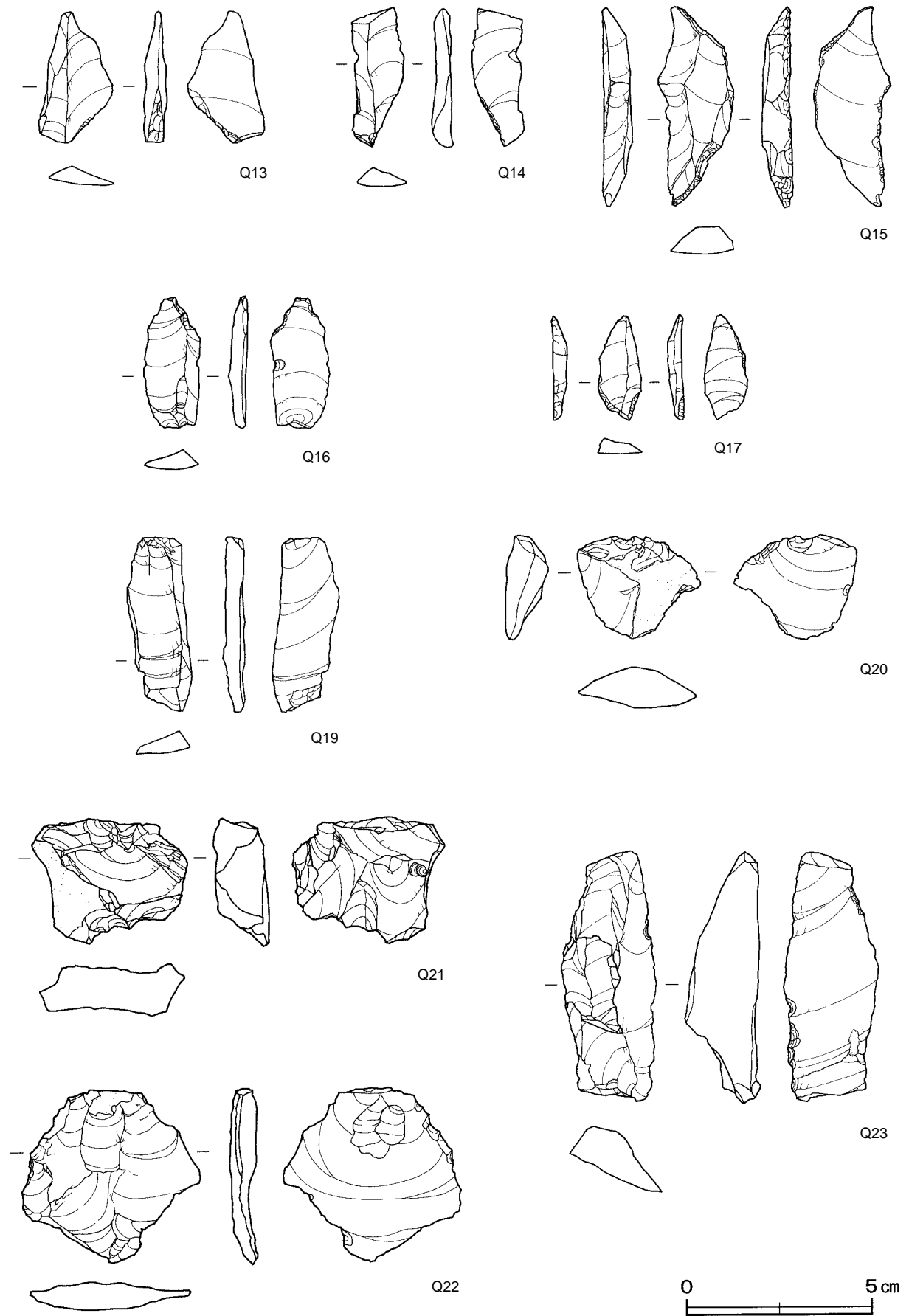
遺物出土状況 99点の石器が出土している。うち38点は原位置を保ったもの、61点は攪乱中から確認されたものである。垂直分布は標高28.559～28.939mで、基本層序の第3層（土層断面図の第1層）から第4層上部（土層断面図の第2層上部）に相当する。

遺物 ナイフ形石器5点（瑪瑙）、打製石斧1点（ホルンフェルス）、敲石1点（砂岩）、剥片92点（瑪瑙85点、チャート3点、頁岩3点、安山岩1点）が出土している。Q13は小形のナイフ形石器で、基部に大きく調整を施した後、打面を取り除いている。Q14は縦長剥片を素材とし、基部の両側縁に調整を施している。Q15は厚めの縦長剥片を素材とし、一側縁全体ともう一方の側縁の下部に細かな調整を施している。Q16は一側縁の上部に部分的に調整を施している。Q17は小形の剥片を素材とし、一側縁ともう一方の基部に調整を施している。Q20は二次加工を有する剥片で、小形の素材剥片の端部に細かな調整が施してある。Q22は縦長剥片を剥離する際の打面調整剥片、Q23は背面に自然面を有する縦長剥片である。Q26は側面に敲打痕を有する敲石で、剥片剥離作業に用いられた可能性も想定される。

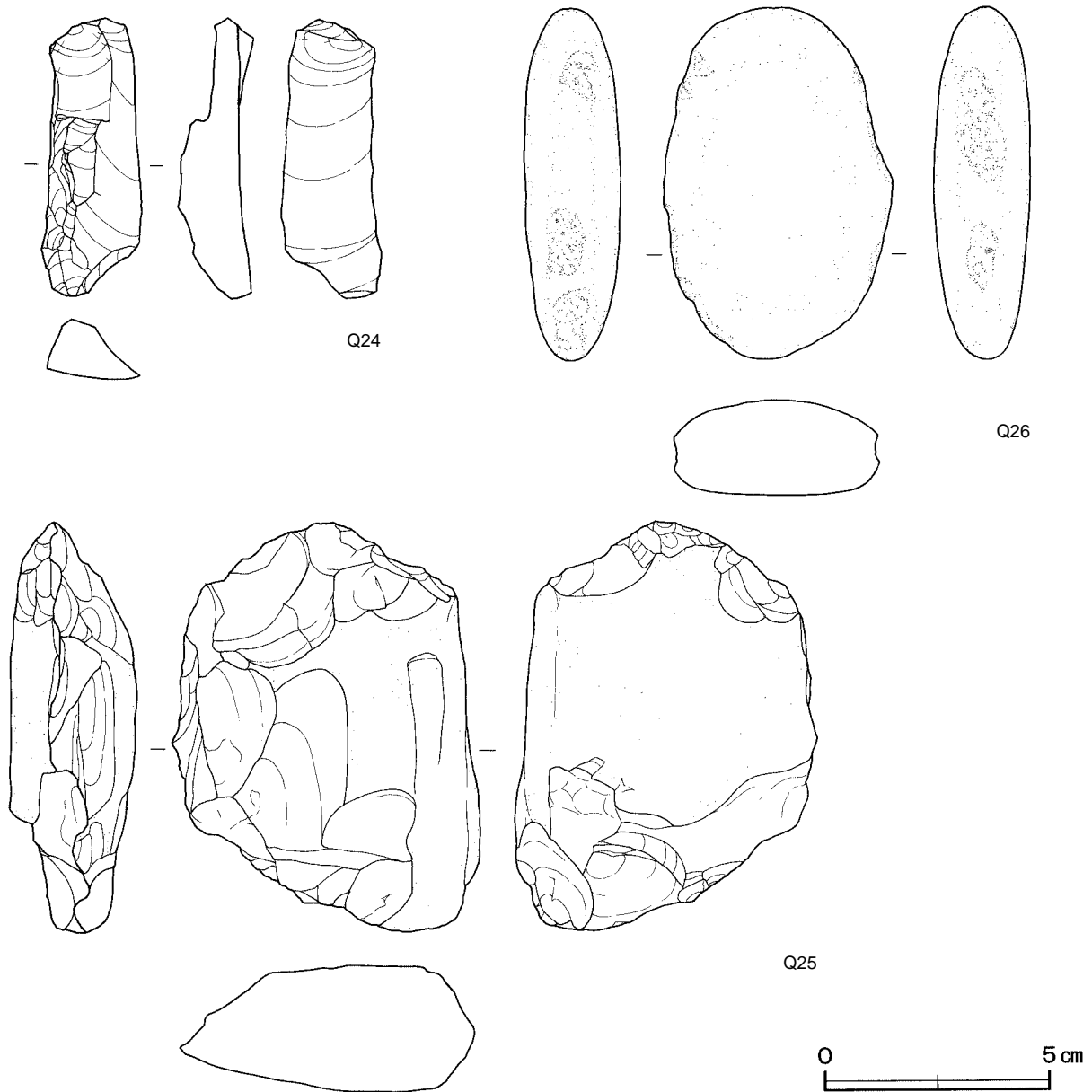
所見 本石器集中地点は、瑪瑙を主体とした石材を用いており、石器製作が行われていた場と考えられる。小形のナイフ形石器で構成されていることから、時期は、第3・4号石器集中地点と同時期のIIc期の石器群と考えられる。



第3図 第1号石器集中地点実測図



第4图 第1号石器集中地点出土遺物実測図(1)



第5図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(2)

第1号石器集中地点出土遺物観察表(第4・5図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	ナイフ形石器	3.50	2.00	0.65	3.40	瑪瑙	縦長剥片を素材とし、基部に大きく調整を施す	C 3 e8	PL19
Q14	ナイフ形石器	3.75	1.40	0.55	2.46	瑪瑙	縦長剥片を素材とし、基部の両側縁に調整を施す 先端部欠損	C 3 b8	PL19
Q15	ナイフ形石器	5.40	2.05	0.80	7.85	瑪瑙	縦長剥片を素材とし、一側縁全体ともう一方の側縁の下部に調整を施す	C 3 c8	PL19
Q16	ナイフ形石器	3.50	1.55	0.55	2.56	瑪瑙	縦長剥片を素材とし、一側縁の上部に調整を施す	C 3 d9	PL19
Q17	ナイフ形石器	2.80	1.20	0.40	1.22	瑪瑙	剥片を素材とし一側縁ともう一方の基部に調整を施す	C 3 e8	PL19
Q19	石刃	4.70	1.80	0.60	3.92	瑪瑙	背面に1本稜線を持つ 主要剥離面と同方向の剥離面が稜をなしている	C 3 e7	PL19
Q20	剥片	2.80	3.30	1.10	7.85	瑪瑙	小形の素材剥片の端部に二次加工を施す 背面に自然面を有する	C 3 b0	PL19
Q21	剥片	3.40	4.20	1.50	2.12	瑪瑙	石核から打面再生のために剥離されたものと思われる厚手の剥片	C 3 c0	PL19
Q22	剥片	4.70	4.80	0.70	14.10	瑪瑙	打面調整剥片	C 3 d8	PL19
Q23	剥片	6.70	2.60	2.00	25.60	瑪瑙	縦長剥片 背面に前段階の剥離痕 側面に自然面を有する	C 3 d8	PL19

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q24	石刃	6.20	2.20	1.60	16.90	瑪瑙	縦長剥片 背面に前段階の剥離痕を有する	C 3 d9	PL19
Q25	打製石斧	9.00	6.70	2.80	209.00	ホルンフェルス	一側縁に両面から調整を加え刃部を形成	C 3 d9	PL22
Q26	敲石	7.80	5.05	2.15	118.30	砂岩	両側面に3か所に敲打痕 剥片剥離作業に使用された可能性あり	C 3 d0	

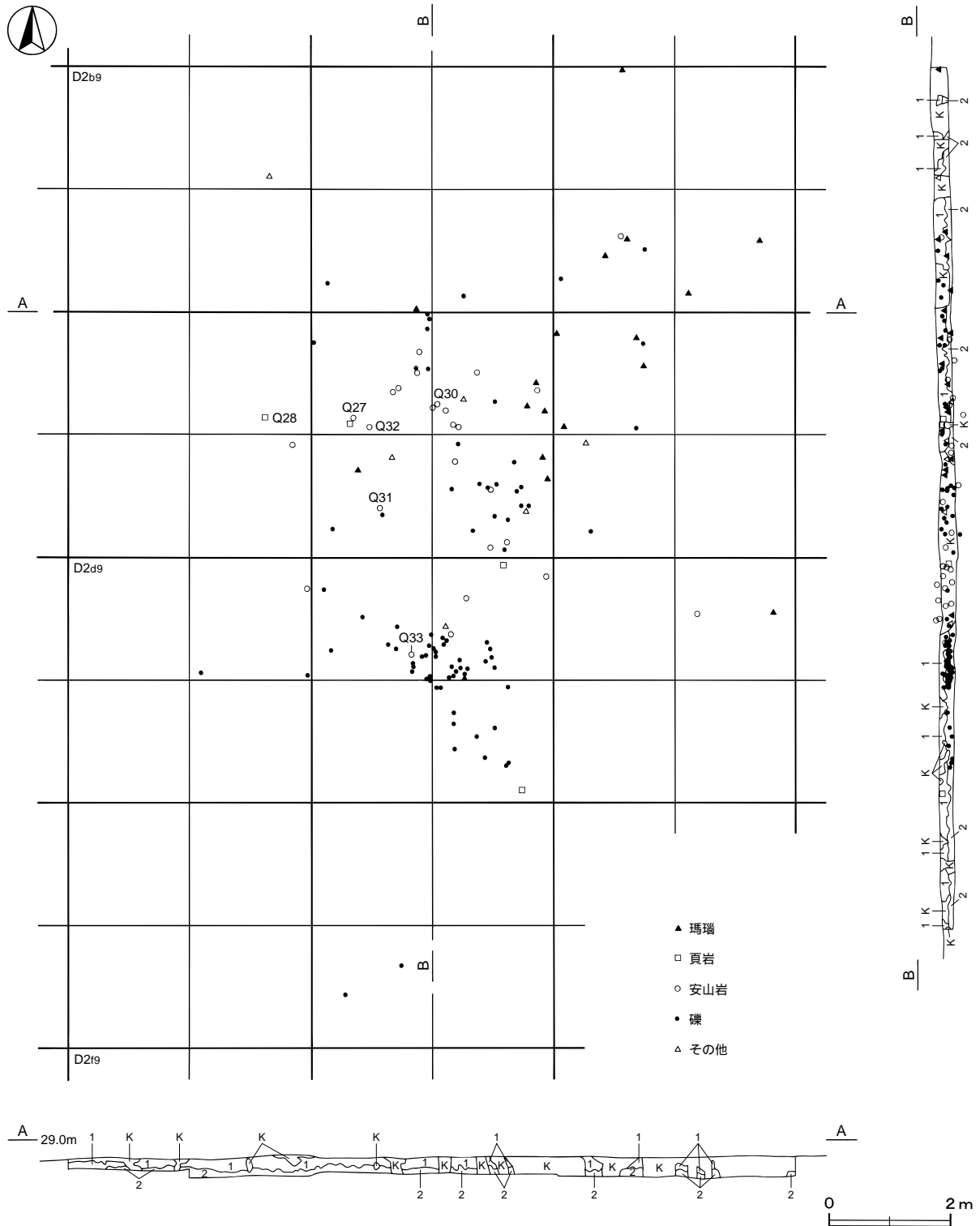
表1 第1号石器集中地点における石器出土位置

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	重量(g)	X(m)	Y(m)	Z(m)
1		剥片	瑪瑙	C 3 b8	1.06	-2.17	1.88	28.591
2		剥片	瑪瑙	C 3 b9	0.03	-2.90	1.37	28.611
3		剥片	瑪瑙	C 3 c8	0.16	-0.64	3.08	28.707
4		剥片	瑪瑙	C 3 c8	0.81	-0.78	2.20	28.684
5		剥片	瑪瑙	C 3 c8	0.24	-0.61	2.67	28.640
6		剥片	瑪瑙	C 3 c8	0.24	-3.56	3.36	28.754
7		剥片	瑪瑙	C 3 c8	0.22	-2.82	2.15	28.676
8		剥片	瑪瑙	C 3 c8	2.34	-2.60	0.18	28.650
9		剥片	瑪瑙	C 3 c8	0.12	-2.79	0.66	28.584
10		剥片	瑪瑙	C 3 c9	0.66	-2.46	0.04	28.744
11		剥片	瑪瑙	C 3 d7	0.35	-1.05	3.66	28.727
12		剥片	瑪瑙	C 3 d7	0.21	-3.23	2.04	28.827
13		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.24	-0.47	3.35	28.752
14		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.23	-2.34	2.71	28.850
15		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.62	-3.46	3.18	28.743
16		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.16	-3.01	2.35	28.718
17		剥片	頁岩	C 3 d8	1.28	-3.18	2.54	28.643
18		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.42	-2.45	2.11	28.807
19		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.35	-2.54	2.21	28.788
20		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.67	-2.30	2.17	28.743
21		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.31	-3.92	1.44	28.840
22		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.35	-3.12	1.80	28.762
23		剥片	瑪瑙	C 3 d8	1.10	-2.45	1.67	28.755
24		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.20	-2.54	1.47	28.736
25		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.05	-3.23	1.44	28.707
28		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.12	-2.58	0.44	28.626
29		剥片	頁岩	C 3 d8	0.06	-1.36	1.53	28.678
30		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.18	-1.52	1.50	28.559
31		剥片	瑪瑙	C 3 d8	2.66	-1.75	1.76	28.642
34		剥片	チャート	C 3 d9	0.38	-2.15	2.82	28.834
35		剥片	瑪瑙	C 3 d9	1.36	-2.65	0.94	28.678
36	Q19	石刃	瑪瑙	C 3 e7	3.92	-0.22	3.99	28.891
37		剥片	瑪瑙	C 3 e7	0.38	-0.38	2.36	28.678
38		剥片	瑪瑙	C 3 e8	0.56	-1.57	2.41	28.939
39	Q13	ナイフ形石器	瑪瑙	C 3 e8	3.40	-0.20	3.53	28.896
40		剥片	瑪瑙	C 3 e8	2.68	-0.32	3.98	28.745
41		剥片	瑪瑙	C 3 e8	4.82	-3.23	3.13	28.871
42		剥片	瑪瑙	C 3 e8	0.08	-3.03	0.26	28.806
43	Q14	ナイフ形石器	瑪瑙	C 3 b8	2.46			
44	Q20	剥片	瑪瑙	C 3 b0	7.85			
45		剥片	瑪瑙	C 3 c8	10.80			
46		剥片	瑪瑙	C 3 c8	2.00			
47		剥片	瑪瑙	C 3 d8	3.72			
48	Q25	打製石斧	ホルンフェルス	C 3 d9	209.00			
49		剥片	瑪瑙	C 3 b8	1.34			
50		剥片	瑪瑙	C 3 b8	1.20			
51		剥片	瑪瑙	C 3 b8	2.06			
53		剥片	瑪瑙	C 3 b9	4.92			
54		剥片	瑪瑙	C 3 b9	0.13			
55		剥片	瑪瑙	C 3 b9	0.10			

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	重量(g)	X(m)	Y(m)	Z(m)
56		剥片	瑪瑙	C 3 b9	2.50			
57		剥片	瑪瑙	C 3 b9	0.10			
58		剥片	瑪瑙	C 3 b9	0.10			
59		剥片	瑪瑙	C 3 b0	0.57			
60		剥片	瑪瑙	C 3 c8	1.56			
61		剥片	瑪瑙	C 3 c8	0.58			
62		剥片	瑪瑙	C 3 c8	1.46			
63		剥片	瑪瑙	C 3 c8	3.34			
64	Q15	ナイフ形石器	瑪瑙	C 3 c8	7.85			
65		剥片	瑪瑙	C 3 c8	0.07			
66		剥片	瑪瑙	C 3 c8	4.42			
67		剥片	チャート	C 3 c9	3.48			
68		剥片	瑪瑙	C 3 c9	0.46			
69		剥片	瑪瑙	C 3 c9	0.84			
70		剥片	瑪瑙	C 3 c9	4.44			
71		剥片	瑪瑙	C 3 c9	0.61			
72		剥片	瑪瑙	C 3 c9	0.98			
73		剥片	瑪瑙	C 3 c0	3.02			
74	Q21	剥片	瑪瑙	C 3 c0	2.12			
75		剥片	瑪瑙	C 3 d8	1.66			
76	Q22	剥片	瑪瑙	C 3 d8	14.10			
77		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.70			
78		剥片	瑪瑙	C 3 d8	2.26			
79		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.17			
81		剥片	瑪瑙	C 3 d8	13.30			
82		剥片	チャート	C 3 d8	0.64			
83		剥片	瑪瑙	C 3 d8	1.16			
84		剥片	頁岩	C 3 d8	0.92			
85		剥片	瑪瑙	C 3 d8	1.18			
86	Q23	剥片	瑪瑙	C 3 d8	25.60			
87		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.12			
88		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.25			
89		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.28			
90		剥片	瑪瑙	C 3 d9	2.18			
91		剥片	瑪瑙	C 3 d9	0.66			
92	Q24	石刃	瑪瑙	C 3 d9	16.90			
93	Q16	ナイフ形石器	瑪瑙	C 3 d9	2.56			
94		剥片	瑪瑙	C 3 d9	0.35			
95		剥片	瑪瑙	C 3 d0	0.46			
96		剥片	瑪瑙	C 3 d0	1.52			
97	Q17	ナイフ形石器	瑪瑙	C 3 e8	1.22			
98		剥片	瑪瑙	C 3 c7	3.10			
99		剥片	瑪瑙	C 3 d8	0.11			
100		剥片	瑪瑙	C 3 e7	1.54			
101		剥片	瑪瑙	C 3 e8	0.88			
102		剥片	安山岩	C 3 c9	359.00			
117		剥片	瑪瑙	C 3 c9	5.90			
126		剥片	瑪瑙	D 2 d0	4.86			
128	Q26	敲石	砂岩	C 3 d0	118.30			

第2号石器集中地点（第6～8図）

位置 調査A区西部，第2調査区のD 2 b9・D 2 b0・D 2 c9・D 2 c0・D 2 d9・D 2 d0・D 2 e0・D 3 a1・D 3 a2・D 3 b1・D 3 b2・D 3 c1・D 3 d1区で，西に下る標高28.5mほどの緩斜面部に位置している。

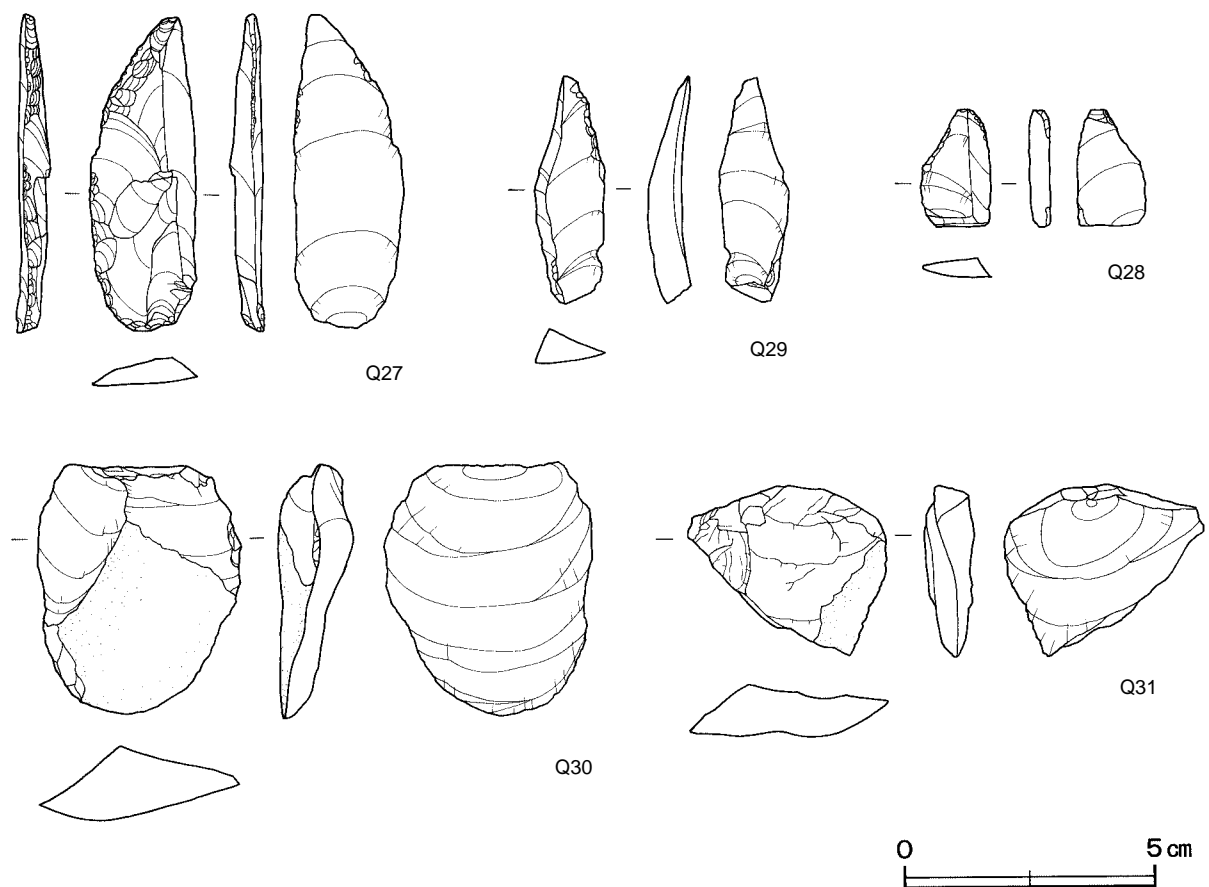


第6図 第2号石器集中地点実測図

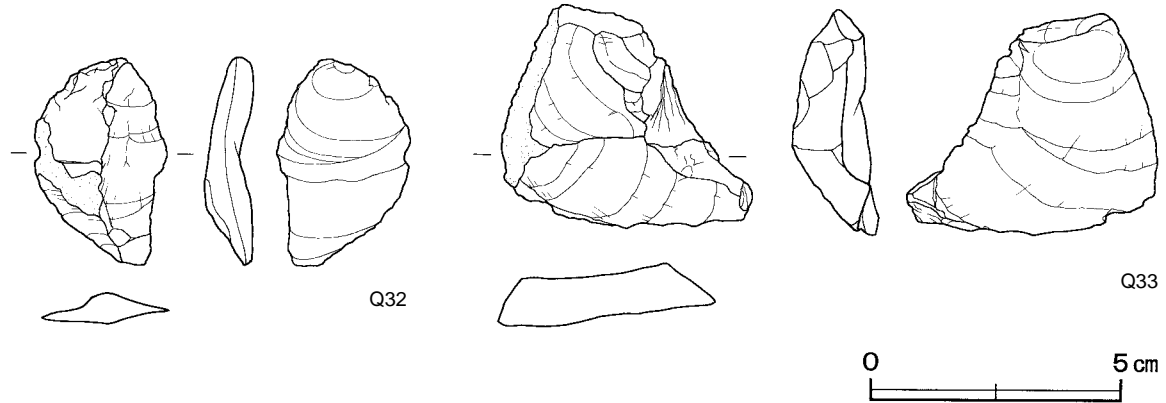
遺物出土状況 138点の石器が出土している。うち125点は原位置を保ったもの、13点は攪乱中から確認したものである。垂直分布は標高28.267～28.721mで、第3層下部（土層断面図の第1層）から基本層序の第4層（土層断面図の第2層）の間に相当する。

遺物 ナイフ形石器3点、礫83点、剥片52点が出土している。Q27は珪質頁岩、Q29は瑪瑙の縦長剥片を素材としたナイフ形石器で一側縁加工が施されている。Q28は硬質頁岩の剥片を素材としたナイフ形石器で、両側縁の基部に加工が施されている。Q30～Q33は安山岩の剥片である。安山岩の剥片は28点であるが、製品や石核は確認されなかった。剥片の石材は安山岩（ガラス質黒色安山岩、トロトロ石）、硬質頁岩、珪質頁岩、瑪瑙、チャート、ホルンフェルス等が確認された。83点の礫はそのほとんどが火熱を受け、焼痕を残している。中には、熱によってひび割れしているものや、黒色の物質が付着しているものもみられる。特にD2d0区においては45点の礫が集中して確認された。垂直分布は28.408～28.594mでハードルーム層の上部に集中している。炭化物の集中及び焼土の分布に留意して調査を行ったが、いずれも検出されなかった。石質は砂岩、安山岩、チャート、花崗岩、流紋岩など、近隣で入手可能なものである。

所見 ガラス質黒色安山岩を石材とした石器製作の場であったと想定される。焼礫の集中については出土層位から石器製作の行われた時期と同時期と考えられる。石器の調整の様相などから、第1・3・4号石器集中地点よりも古い段階のⅡb期と考えられる。



第7図 第2号石器集中地点出土遺物実測図(1)



第8図 第2号石器集中地点出土遺物実測図(2)

第2号石器集中地点出土遺物観察表(第7・8図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q27	ナイフ形石器	6.25	2.15	0.70	7.05	珪質頁岩	縦長剥片を素材とし、一側縁全面に細かな調整を施す	D 2 c0	PL20
Q28	ナイフ形石器	2.25	1.40	0.40	1.42	硬質頁岩	縦長剥片を素材とし、一側縁の上部に細かな調整を施す 下部欠損	D 2 c9	PL20
Q29	ナイフ形石器	4.50	1.40	0.90	3.68	瑪瑙	縦長剥片を素材とし、一側縁の上部ともう一方の側縁の基部に加工を施す 刃部は斜行している	D 3 c2	PL20
Q30	剥片	5.00	4.05	1.50	28.90	安山岩	厚手の横長剥片 背面に前段階の剥離痕と自然面を有する	D 2 c0	
Q31	剥片	3.40	3.95	1.00	12.90	安山岩	平坦な打面から剥離された横長剥片 一部自然面を有する	D 2 c0	PL20
Q32	剥片	4.15	2.65	0.95	7.25	安山岩	背面に前段階の剥離痕を有する	D 2 c0	PL20
Q33	剥片	4.45	5.05	1.70	27.50	安山岩	背面に前段階の多方向からの剥離痕、一部自然面を有する	D 2 d0	PL20

表2 第2号石器集中地点における石器出土位置

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	重量(g)	X(m)	Y(m)	Z(m)
1		剥片	トロトロ石	D 2 b9	3.52	-1.80	3.30	28.681
2		礫	砂岩	D 2 b0	536.00	-3.74	2.52	28.620
3		礫	チャート	D 2 b0	159.00	-3.96	1.74	28.587
4		礫	凝灰岩	D 2 b0	119.50	-3.53	0.28	28.594
5	Q28	ナイフ形石器	硬質頁岩	D 2 c9	1.42	-1.72	3.24	28.616
6		剥片	安山岩	D 2 c9	4.84	-2.16	3.70	28.578
7		剥片	安山岩	D 2 c0	33.60	-1.57	2.03	28.632
8		剥片	安山岩	D 2 c0	1.90	-0.99	2.74	28.641
10		礫	花崗岩	D 2 c0	16.40	-1.47	3.05	28.571
11		剥片	その他	D 2 c0	0.27	-1.52	3.54	28.569
12		剥片	安山岩	D 2 c0	1.92	-1.27	3.74	28.560
13	Q30	剥片	安山岩	D 2 c0	28.90	-1.52	2.08	28.546
14		剥片	安山岩	D 2 c0	2.68	-1.86	2.44	28.550
16		剥片	その他	D 2 c0	4.84	-1.14	3.70	28.534
17		剥片	安山岩	D 2 c0	0.24	-1.85	2.40	28.472
18		剥片	トロトロ石	D 2 c0	0.18	-1.49	3.51	28.440
19		剥片	安山岩	D 2 c0	0.33	-1.62	2.24	28.410
20		剥片	チャート	D 2 c0	2.02	-1.62	3.88	28.513
21		礫	材質不明	D 2 c0	306.00	-2.85	3.48	28.605
22		礫	凝灰岩	D 2 c0	58.30	-3.16	3.58	28.611
23		剥片	チャート	D 2 c0	13.60	-2.68	3.90	28.601
24		礫	材質不明	D 2 c0	27.00	-3.56	2.66	28.573
25		礫	凝灰岩	D 2 c0	63.60	-3.33	3.02	28.588
26		剥片	トロトロ石	D 2 c0	8.60	-3.24	3.53	28.571
27		剥片	安山岩	D 2 c0	2.34	-2.89	2.98	28.607
28		礫	安山岩	D 2 c0	1.20	-2.45	3.34	28.562
29		礫	安山岩	D 2 c0	192.90	-2.16	2.43	28.536
30		礫	安山岩	D 2 c0	8.30	-2.88	2.32	28.539
31		礫	凝灰岩	D 2 c0	9.90	-3.14	3.48	28.532
32		礫	砂岩	D 2 c0	4.54	-2.80	2.78	28.501
34		礫	凝灰岩	D 2 c0	2.66	-2.93	3.40	28.489
35		剥片	安山岩	D 2 c0	1.22	-3.83	2.95	28.438
36		剥片	安山岩	D 2 c0	9.20	-2.43	2.39	28.450
38		剥片	安山岩	D 2 c0	2.32	-3.74	3.22	28.427
39		礫	砂岩	D 2 c0	7.70	-3.88	3.18	28.429
40		礫	花崗岩	D 2 c0	88.50	-2.82	3.07	28.410
41		礫	安山岩	D 2 c0	4.00	-3.39	3.24	28.565
42		礫	チャート	D 2 c0	29.10	-2.86	2.92	28.547
43		礫	凝灰岩	D 2 c0	9.70	-3.54	0.36	28.604
44		剥片	ホルンフェルス	D 2 c0	0.50	-2.58	0.78	28.575
45		剥片	トロトロ石	D 2 c0	9.70	-2.37	1.34	28.510
46		礫	チャート	D 2 c0	5.20	-3.32	1.20	28.430
48	Q31	剥片	安山岩	D 2 c0	12.90	-3.20	1.13	28.397
50		剥片	安山岩	D 2 c0	0.19	-1.30	1.36	28.659

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	重量 (g)	X (m)	Y (m)	Z (m)
51	Q32	剥片	安山岩	D 2 c0	7.25	-1.86	0.96	28.633
52		剥片	安山岩	D 2 c0	11.40	-1.73	0.71	28.626
53	Q27	ナイフ形石器	珪質頁岩	D 2 c0	7.05	-1.81	0.63	28.635
55		剥片	安山岩	D 2 c0	10.30	-0.98	1.74	28.643
56		礫	凝灰岩	D 2 c0	130.00	-0.93	1.94	28.613
57		礫	花崗岩	D 2 c0	49.10	-0.12	1.95	28.588
58		礫	凝灰岩	D 2 c0	10.20	-0.04	1.94	28.610
59		礫	花崗岩	D 2 c0	30.20	-0.28	1.92	28.574
60		剥片	安山岩	D 2 c0	1.96	-0.64	1.79	28.502
61		礫	凝灰岩	D 2 c0	1.76	-0.50	0.04	28.572
62		剥片	安山岩	D 2 c0	2.04	-1.26	1.44	28.457
63		礫	凝灰岩	D 2 d9	5.45	-1.92	3.93	28.602
64		礫	材質不明	D 2 d9	0.31	-1.88	2.20	28.458
65		剥片	安山岩	D 2 d9	4.56	-0.50	3.94	28.457
66		礫	安山岩	D 2 d0	7.65	-1.90	2.51	28.587
68		剥片	トロトロ石	D 2 d0	0.34	-1.12	2.20	28.486
69		剥片	安山岩	D 2 d0	0.17	-0.65	2.55	28.426
70		剥片	安山岩	D 2 d0	4.16	-1.24	2.30	28.402
71		剥片	硬質頁岩	D 2 d0	0.33	-0.10	3.18	28.537
72		剥片	安山岩	D 2 d0	5.05	-0.30	3.87	28.267
73		礫	砂岩	D 2 d0	133.30	-1.40	2.88	28.541
74		礫	砂岩	D 2 d0	83.30	-1.63	2.96	28.541
75		礫	花崗岩	D 2 d0	131.00	-1.50	2.94	28.515
76		礫	砂岩	D 2 d0	384.00	-1.35	2.12	28.501
77		礫	砂岩	D 2 d0	16.60	-1.30	2.15	28.547
78		礫	凝灰岩	D 2 d0	116.60	-1.35	2.24	28.512
79		礫	凝灰岩	D 2 d0	246.00	-1.82	2.58	28.501
80		礫	砂岩	D 2 d0	59.80	-1.67	2.43	28.534
81		礫	流紋岩	D 2 d0	183.60	-1.76	2.33	28.492
82		礫	砂岩	D 2 d0	98.30	-1.69	2.85	28.514
83		礫	花崗岩	D 2 d0	86.00	-1.82	2.43	28.498
84		礫	凝灰岩	D 2 d0	87.00	-1.85	2.37	28.479
85		礫	花崗岩	D 2 d0	69.40	-1.55	2.06	28.506
86		礫	材質不明	D 2 d0	129.00	-1.50	2.02	28.502
87		礫	砂岩	D 2 d0	43.30	-1.59	2.05	28.467
88		礫	安山岩	D 2 d0	18.20	-1.77	2.98	28.418
89		礫	凝灰岩	D 2 d0	36.10	-1.95	2.26	28.474
90		剥片	その他	D 2 d0	6.40	-1.94	2.51	28.475
91		剥片	硬質頁岩	D 2 d0	0.08	-3.77	3.48	28.641
92		礫	砂岩	D 2 d0	66.80	-2.11	2.08	28.594
93		礫	凝灰岩	D 2 d0	29.40	-2.66	2.38	28.561
94		礫	花崗岩	D 2 d0	126.70	-2.47	2.38	28.514
95		礫	砂岩	D 2 d0	199.00	-3.05	2.41	28.503
96		礫	砂岩	D 2 d0	136.20	-2.10	3.24	28.516
97		礫	砂岩	D 2 d0	41.20	-2.75	3.02	28.479
98		礫	砂岩	D 2 d0	387.00	-3.25	2.88	28.437
99		礫	砂岩	D 2 d0	29.20	-3.38	3.23	28.499

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	重量 (g)	X (m)	Y (m)	Z (m)
100		礫	砂岩	D 2 d0	67.40	-3.35	3.25	28.489
101		礫	砂岩	D 2 d0	57.60	-2.90	2.73	28.421
102		礫	花崗岩	D 2 d0	33.90	-2.12	2.14	28.493
103		礫	チャート	D 2 d0	186.00	-0.96	0.84	28.518
104		礫	凝灰岩	D 2 d0	186.10	-1.42	1.26	28.528
105		礫	砂岩	D 2 d0	161.00	-1.50	0.34	28.457
106		礫	材質不明	D 2 d0	316.00	-1.13	1.40	28.492
107		礫	砂岩	D 2 d0	90.80	-1.75	1.68	28.535
108		礫	砂岩	D 2 d0	11.70	-0.52	0.21	28.510
109		礫	石英	D 2 d0	74.50	-1.50	1.40	28.505
110	Q33	剥片	安山岩	D 2 d0	27.50	-1.56	1.66	28.509
111		礫	安山岩	D 2 d0	22.90	-1.72	1.68	28.534
112		礫	材質不明	D 2 d0	74.50	-1.85	1.66	28.488
113		礫	凝灰岩	D 2 d0	27.50	-1.93	1.96	28.547
114		礫	花崗岩	D 2 d0	22.90	-1.97	1.90	28.483
115		礫	チャート	D 2 d0	265.00	-1.44	1.96	28.482
116		礫	砂岩	D 2 d0	138.90	-1.61	1.82	28.479
117		礫	花崗岩	D 2 d0	153.00	-1.61	1.86	28.475
118		礫	チャート	D 2 d0	131.70	-1.25	1.98	28.408
119		礫	砂岩	D 2 d0	8.90	-1.98	1.96	28.457
120		礫	砂岩	D 2 e0	1.66	-3.11	0.55	28.569
122		礫	凝灰岩	D 2 e0	43.60	-2.63	1.48	28.505
123		剥片	瑪瑙	D 3 b1	0.78	-2.82	3.38	28.548
126		礫	凝灰岩	D 3 b1	69.60	-3.46	0.11	28.721
128		剥片	安山岩	D 3 b1	5.60	-2.76	1.09	28.599
130		剥片	瑪瑙	D 3 b1	2.88	-0.05	1.10	28.644
131		剥片	トロトロ石	D 3 b1	19.20	-2.13	0.52	28.536
132		礫	凝灰岩	D 3 c1	96.90	-3.68	0.60	28.308
136		礫	凝灰岩	D 3 c1	1.40	-1.92	1.32	28.620
137		礫	凝灰岩	D 3 c1	7.85	-0.52	1.46	28.638
138		剥片	その他	D 3 c1	14.60	-0.42	1.36	28.629
139		剥片	その他	D 3 c1	6.15	-0.86	1.48	28.614
143		剥片	安山岩	D 3 d1	0.41	-0.88	2.38	28.524
144		剥片	その他	D 3 d1	0.96	-0.88	3.64	28.430
146		礫	安山岩	D 2 c0	279.00			
147		礫	花崗岩	D 2 c0	51.30			
149	Q29	ナイフ形石器	瑪瑙	D 3 c2	3.68			
151		剥片	安山岩	D 2 b0	0.81			
152		剥片	硬質頁岩	D 2 c0	0.20			
153		剥片	安山岩	D 3 a1	4.20			
154		剥片	その他	D 3 a2	1.18			
156		剥片	硬質頁岩	D 3 b1	3.58			
157		礫	花崗岩	D 3 b1	50.30			
158		礫	花崗岩	D 3 b2	20.50			
160		礫	砂岩	D 3 c1	0.95			
195		剥片	トロトロ石	D 2 c0	4.28			
197		剥片	瑪瑙	D 2 c0	0.44			

第3号石器集中地点 (第9・10区)

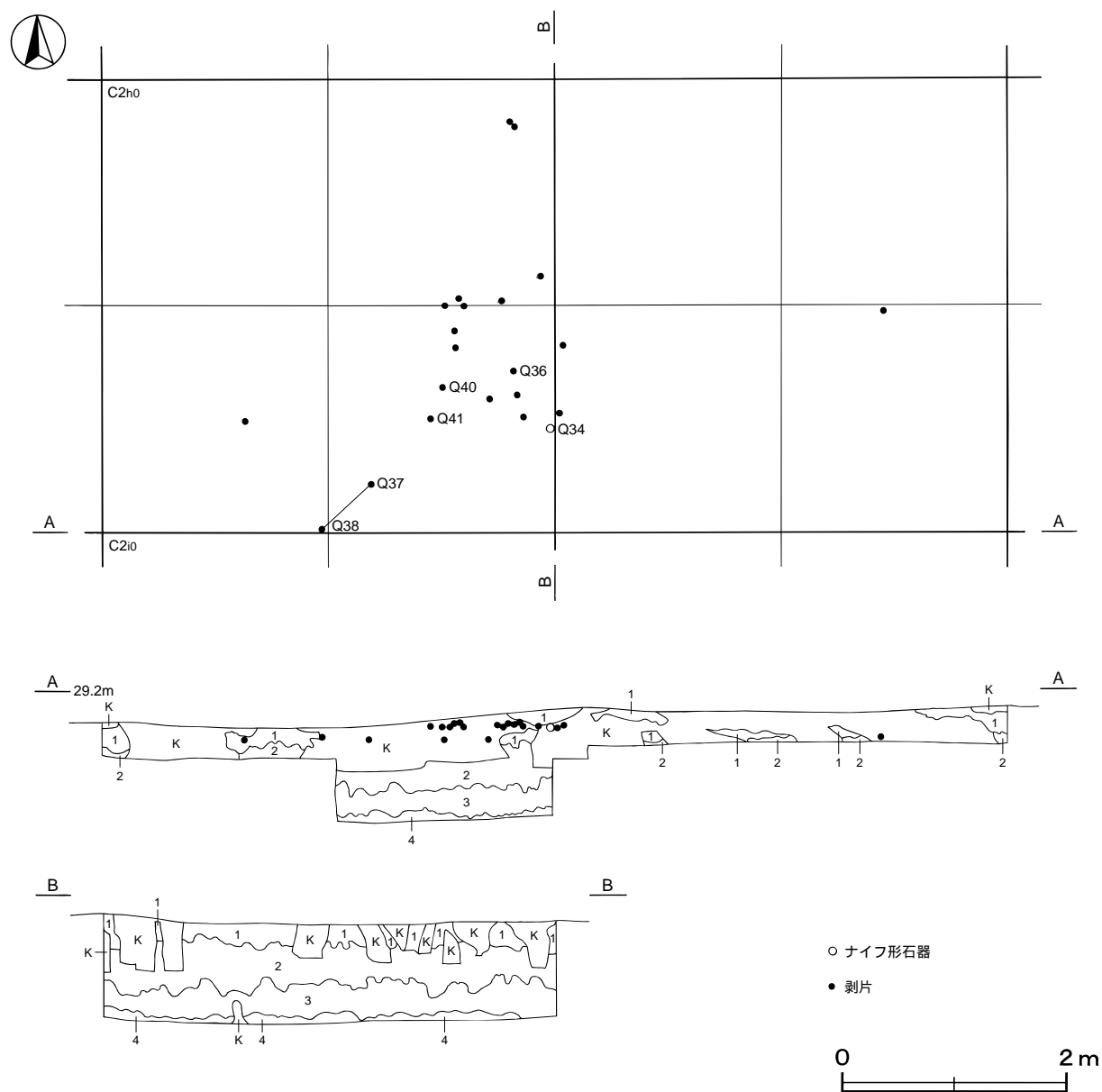
位置 調査A区西部, 第1調査区のC 2 h0・C 2 i0・C 3 h1・C 3 i1区で, 標高28.5mの台地上平坦部に位置している。

遺物出土状況 36点の石器が出土している。うち22点は原位置を保ったもの, 14点は撓乱中から確認したもの

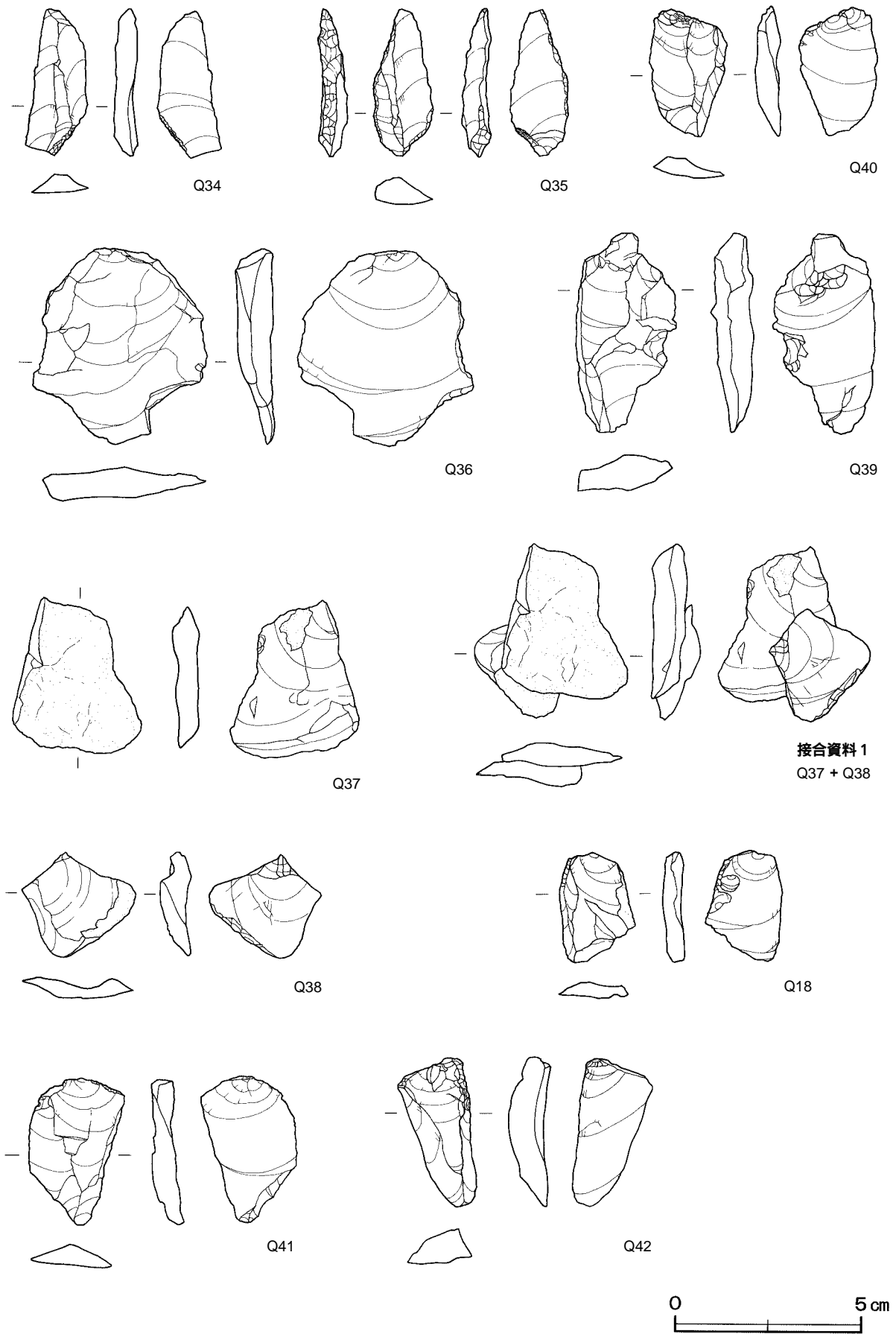
である。垂直分布は標高28.684~28.901mで、第3層（土層断面図の第1層）から基本層序の第4層上部（土層断面図の第2層）に相当する。

遺物 ナイフ形石器2点（瑪瑙）、剥片34点（瑪瑙32，頁岩1，安山岩1）が出土している。Q34・Q35は小形のナイフ形石器である。Q34は縦長剥片を素材とし、基部に細かな調整を施した後に打面を取り除いている。Q35は縦長剥片を素材とし、一側縁全体ともう一方の基部に調整を施している。Q36~Q38は石核の打面調整剥片で、Q37とQ38は接合関係にある（接合資料1）。Q39~Q42は縦長剥片で、いずれも背面に前段階の剥離の痕を有する。Q39は打点の周囲に二次加工痕を有することから、石器製作の過程において遺棄された可能性も想定される。

所見 本石器集中地点は、瑪瑙を主体とした石材を用いて石器製作が行われていたと考えられる。小形のナイフ形石器で構成されていることや、出土層位、瑪瑙を石材に用いていることなどから第1・4号石器集中地点と同時期のII c期の石器群と考えられる。



第9図 第3号石器集中地点実測図



第10图 第3号石器集中地点出土遺物実測図

第3号石器集中地点出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	剥片	3.20	2.20	0.60	2.66	瑪瑙	小形の素材剥片の形状を変えずに端部に二次加工を施す。台形様石器カ	C 2 h0	
Q34	ナイフ形石器	3.90	1.70	0.70	3.34	瑪瑙	縦長剥片を素材とし、一側縁の基部と先端部に調整を施す	C 2 h0	PL21
Q35	ナイフ形石器	3.90	1.50	0.80	4.02	瑪瑙	縦長剥片を素材とし、一側縁全体ともう一方の基部に調整を施す。刃部が斜行する	C 3 i1	PL21
Q36	剥片	5.25	4.70	1.05	21.40	瑪瑙	打面再生剥片	C 2 h0	PL21
Q37	剥片	4.10	3.40	0.90	11.70	瑪瑙	石核の打面を形成するための調整剥片。背面に自然面を有する。Q38と接合	C 2 h0	接合資料1 PL21
Q38	剥片	2.80	3.00	0.80	4.19	瑪瑙	石核の打面を形成するための調整剥片。背面に自然面を有する。Q37と接合	C 2 h0	接合資料1 PL21
Q39	剥片	5.30	2.70	1.20	12.80	瑪瑙	二次加工を有する剥片。縦長剥片の上部に細かく調整を施す	C 3 i1	PL21
Q40	剥片	3.50	2.10	0.70	3.92	瑪瑙	縦長剥片。背面に前段階の剥離痕を有する	C 2 h0	PL21
Q41	剥片	3.90	2.60	0.80	5.30	瑪瑙	縦長剥片。背面に前段階の剥離痕を有する	C 2 h0	PL21
Q42	剥片	3.95	2.15	1.05	5.60	瑪瑙	縦長剥片。背面に前段階の剥離痕を有する	C 3 i1	PL21

表3 第3号石器集中地点における石器出土位置

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	重量(g)	X(m)	Y(m)	Z(m)
1		剥片	安山岩	C 3 h1	4.06	-2.05	2.89	28.880
2		剥片	瑪瑙	C 3 h1	2.82	-2.34	0.07	28.886
3		剥片	頁岩	C 3 h1	11.70	-2.95	0.04	28.867
4		剥片	瑪瑙	C 2 h0	5.15	-1.73	3.88	28.863
5		剥片	瑪瑙	C 2 h0	6.95	-1.94	3.15	28.855
6		剥片	瑪瑙	C 2 h0	11.40	-1.19	3.52	28.841
7		剥片	瑪瑙	C 2 h0	3.76	-0.41	3.64	28.821
8	Q36	剥片	瑪瑙	C 2 h0	21.40	-2.58	3.65	28.900
9	Q34	ナイフ形石器	瑪瑙	C 2 h0	3.34	-3.10	3.96	28.899
10		剥片	瑪瑙	C 2 h0	0.20	-3.79	3.66	28.901
11		剥片	瑪瑙	C 2 h0	3.70	-2.36	3.13	28.857
12		剥片	瑪瑙	C 2 h0	0.81	-2.97	3.73	28.882
13	Q40	剥片	瑪瑙	C 2 h0	3.92	-2.72	3.05	28.854
14	Q41	剥片	瑪瑙	C 2 h0	5.30	-3.00	2.92	28.865
15		剥片	瑪瑙	C 2 h0	1.72	-2.23	3.10	28.816
16		剥片	瑪瑙	C 2 h0	5.25	-2.05	3.02	28.770
17		剥片	瑪瑙	C 2 h0	1.42	-2.82	3.42	28.792
18	Q37	剥片	瑪瑙	C 2 h0	11.70	-3.48	2.38	28.745
19	Q38	剥片	瑪瑙	C 2 h0	4.19	-3.98	1.95	28.771
20		剥片	瑪瑙	C 2 h0	1.34	-3.05	1.28	28.771
21		剥片	瑪瑙	C 2 h0	4.84	-2.02	3.18	28.684
22		剥片	瑪瑙	C 2 h0	8.20	-0.39	3.61	28.761
23		剥片	瑪瑙	C 3 h1	1.18			
24		剥片	瑪瑙	C 3 h1	3.68			
25		剥片	瑪瑙	C 3 h1	0.37			
26		剥片	瑪瑙	C 3 h1	0.94			
27		剥片	瑪瑙	C 3 i1	0.76			
28	Q39	剥片	瑪瑙	C 3 i1	12.80			
29	Q42	剥片	瑪瑙	C 3 i1	5.60			
30	Q35	ナイフ形石器	瑪瑙	C 3 i1	4.02			
31	Q18	剥片	瑪瑙	C 2 h0	3.86			
32		剥片	瑪瑙	C 2 h0	3.48			
33		剥片	瑪瑙	C 2 h0	3.16			
34		剥片	瑪瑙	C 2 h0	4.62			
35		剥片	瑪瑙	C 2 h0	2.62			
36		剥片	瑪瑙	C 2 i0	9.45			

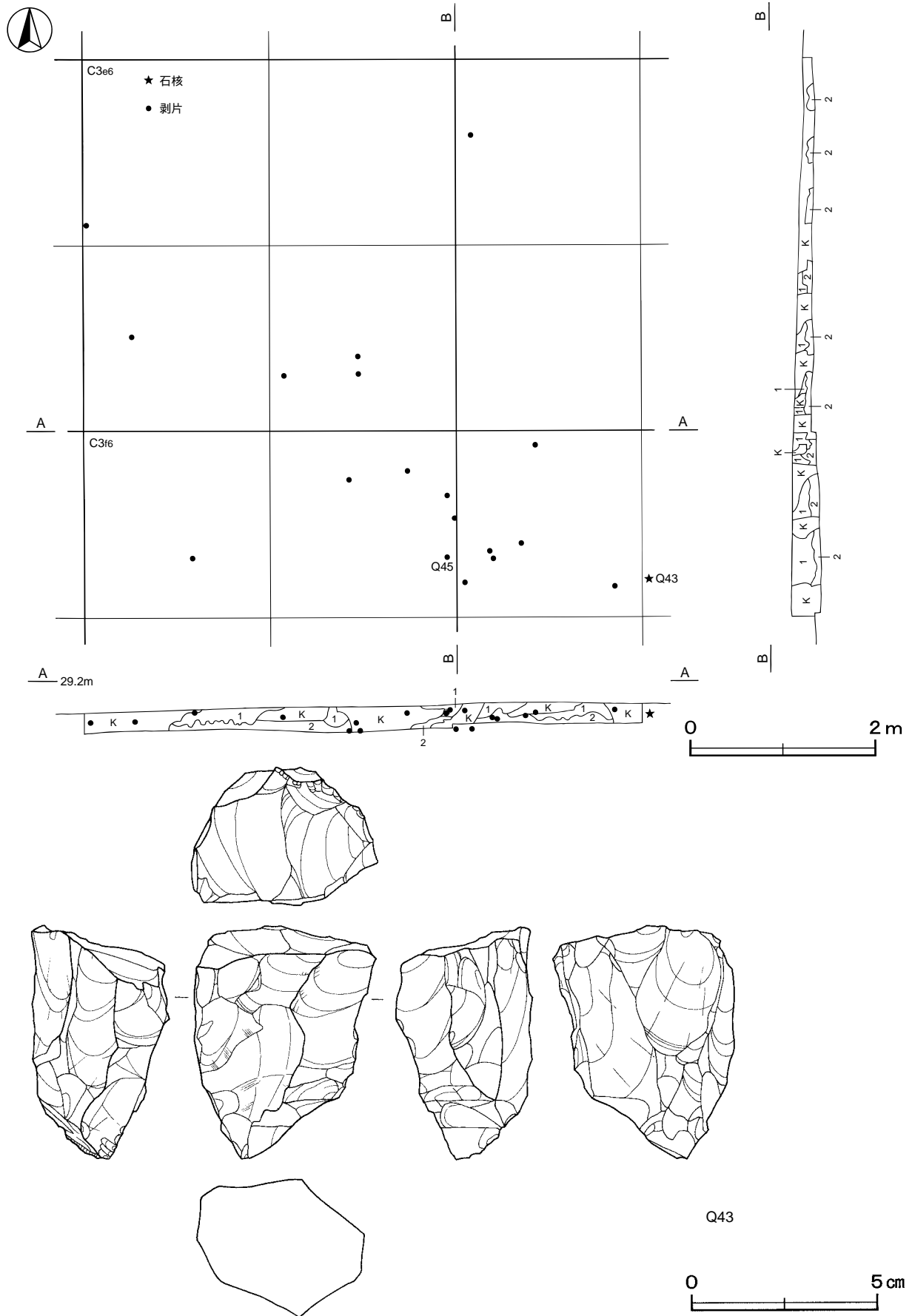
第4号石器集中地点（第11～13図）

位置 調査A区中央部，第1調査区のC 3 e6・C 3 e7・C 3 f6・C 3 f7区で，標高29mほどの台地平坦部に位置している。

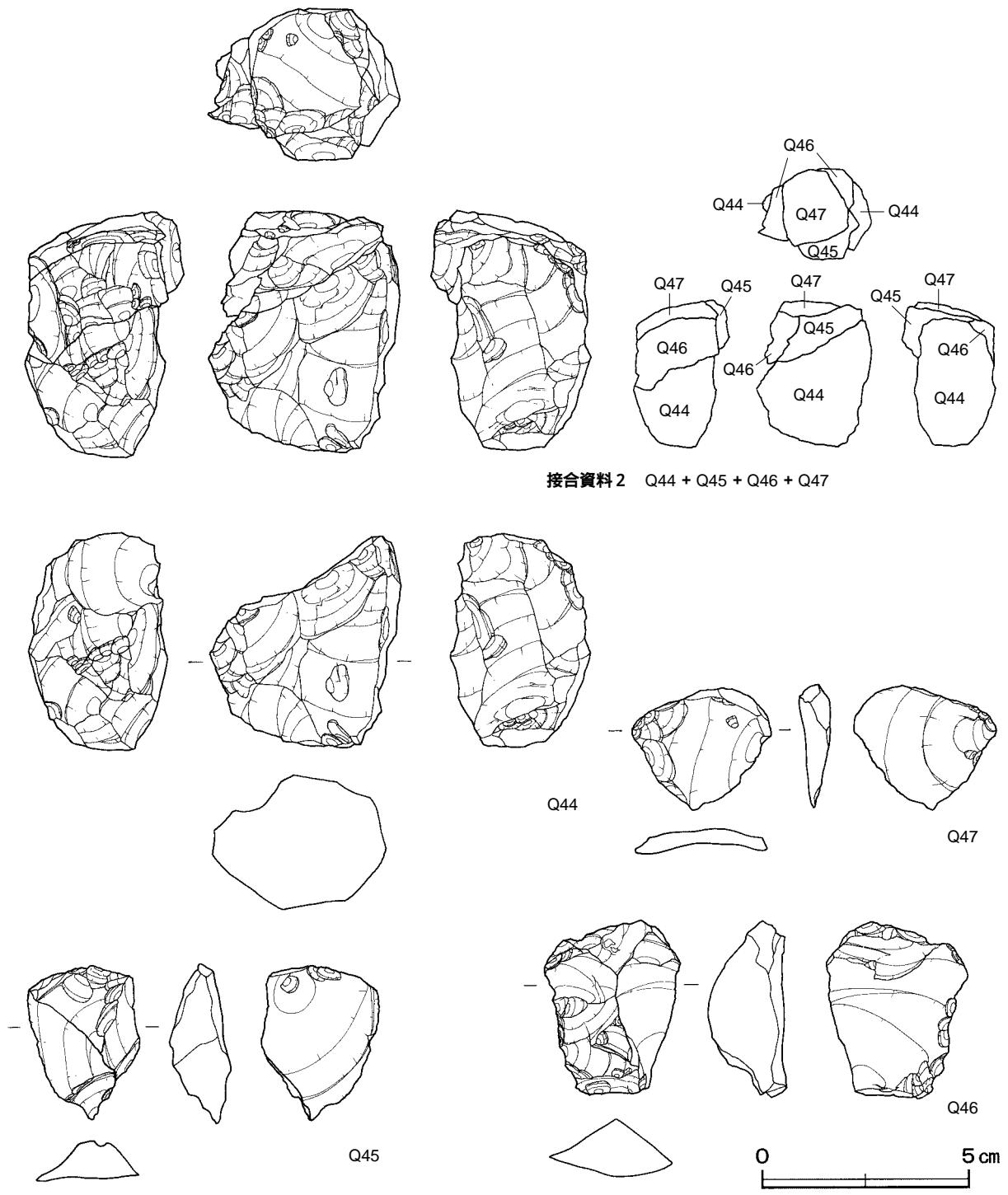
遺物出土状況 31点の石器が出土している。うち19点は原位置を保ったもの，12点は攪乱中から確認したものである。垂直分布は標高28.000～28.958mで，基本層序の第3層（土層断面図の第1層）から第4層上部（土層断面図の第2層）に相当する。

遺物 石核2点，剥片29点（いずれも瑪瑙）が出土している。Q44の石核には，Q45～Q47が上部打面に接合し，打面調整を繰り返した様子が見られる（接合資料2）。Q43は逆円錐形を呈し，全面で縦長剥片の剥離作業が行われていたことが分かる。Q48・Q49は，背面に前段階の剥離痕を残す縦長剥片である。

所見 石核2点が出土しているが，接合する縦長剥片は検出されなかった。剥離した縦長剥片から製品を作り出し，持ち出されたことが想定される。本集中地点も第1・3号石器集中地点と同様に石器製作の場であったと想定され，時期も同時期のII c期と考えられる。



第11图 第4号石器集中地点・出土遺物実測図

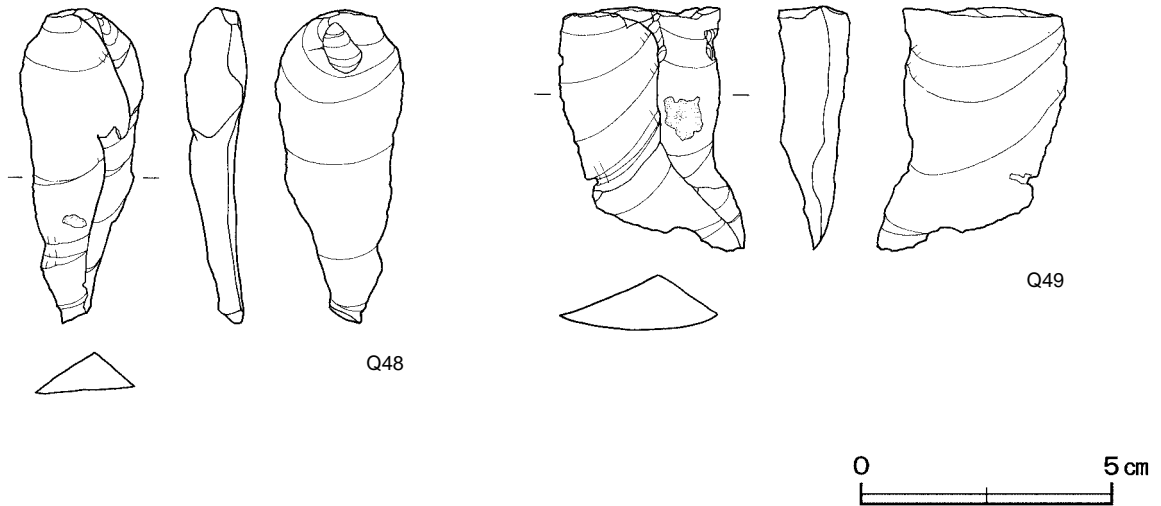


第12図 第4号石器集中地点出土遺物実測図(1)

第4号石器集中地点出土遺物観察表(第11~13図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q43	石核	6.25	4.90	3.70	112.60	瑪瑙	上部に設けた打面から縦長剥片を剥離 逆円錐形を呈し、全面に剥離痕を有する	C 3 f 7	PL21
Q44	石核	5.20	4.60	3.40	76.40	瑪瑙	逆円錐形を呈しており、上部を打面として多方向から縦長剥片を剥離する Q45・Q46と接合	C 3 e 6	接合資料2 PL21
Q45	剥片	3.70	2.70	1.50	11.10	瑪瑙	石核の打面調整剥片 Q44・Q46・Q47と接合	C 3 f 6	接合資料2 PL21
Q46	剥片	4.20	3.30	1.90	19.20	瑪瑙	石核の打面調整剥片 Q44・Q45・Q47と接合	C 3 e 7	接合資料2 PL21

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q47	剥片	3.00	3.40	0.80	4.80	瑪瑙	石核の打面調整剥片 Q45・Q46と接合	C 3 e6	接合資料2 PL21
Q48	剥片	6.20	2.60	1.30	13.50	瑪瑙	縦長剥片 背面に前段階の剥離痕を有する	C 3 e6	PL21
Q49	剥片	4.80	3.70	1.50	16.20	瑪瑙	縦長剥片 背面に前段階の剥離痕を有する	C 3 e6	PL21



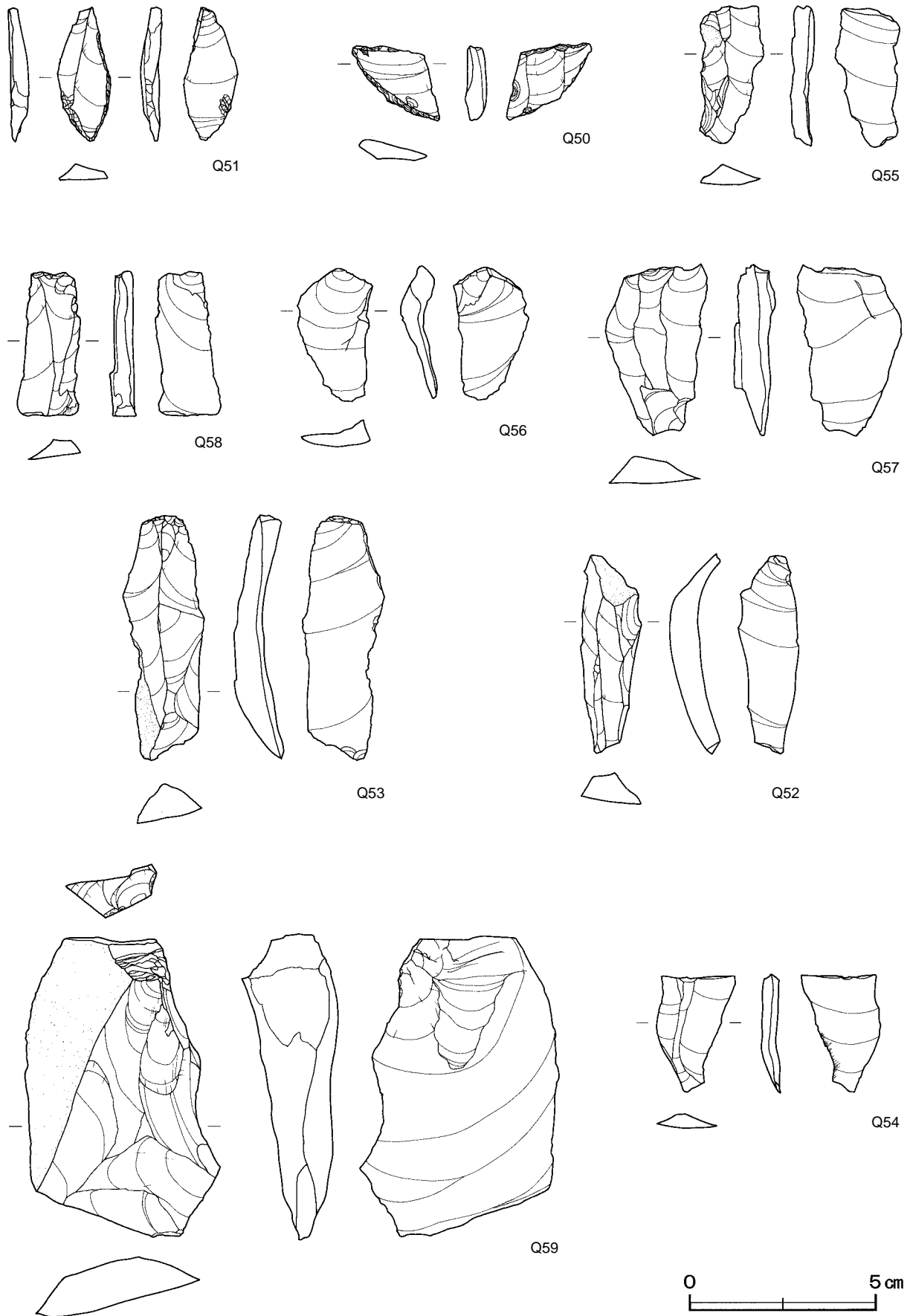
第13図 第4号石器集中地点出土遺物実測図(2)

表4 第4号石器集中地点における石器出土位置

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	重量(g)	X(m)	Y(m)	Z(m)
1		剥片	瑪瑙	C 3 e7	8.60	-0.82	0.17	28.764
2		剥片	瑪瑙	C 3 e6	7.65	-1.68	0.04	28.783
3		剥片	瑪瑙	C 3 e6	1.58	-2.87	0.52	28.792
4		剥片	瑪瑙	C 3 e6	1.08	-3.42	2.16	28.863
5		剥片	瑪瑙	C 3 e6	2.22	-3.19	2.94	28.870
6		剥片	瑪瑙	C 3 f7	0.53	-0.14	0.85	28.926
7		剥片	瑪瑙	C 3 f6	0.35	-0.42	3.46	28.920
8		剥片	瑪瑙	C 3 f6	0.49	-0.52	2.83	28.721
9		剥片	瑪瑙	C 3 f6	4.78	-0.64	3.90	28.905
10		剥片	瑪瑙	C 3 f6	0.41	-0.93	3.97	28.747
11	Q45	剥片	瑪瑙	C 3 f6	11.10	-1.33	3.88	28.945
12		剥片	瑪瑙	C 3 f7	1.30	-1.27	0.35	28.873
13		剥片	瑪瑙	C 3 f7	0.68	-1.19	0.70	28.887
14		剥片	瑪瑙	C 3 f7	0.57	-1.37	0.38	28.815
15		剥片	瑪瑙	C 3 f7	0.86	-1.63	0.08	28.958
16		剥片	瑪瑙	C 3 f6	11.20	-1.37	1.16	28.900
17		剥片	瑪瑙	C 3 f7	0.27	-1.67	1.69	28.949
18	Q43	石核	瑪瑙	C 3 f7	112.60	-1.48	2.05	28.898
19		剥片	瑪瑙	C 3 e6	0.19	-3.38	2.94	28.719
21		剥片	瑪瑙	C 3 e6	0.87			
31		剥片	瑪瑙	C 3 f7	0.51			
36	Q46	剥片	瑪瑙	C 3 e7	19.20			
38		剥片	瑪瑙	C 3 e6	1.26			
39	Q47	剥片	瑪瑙	C 3 e6	4.80			
40	Q48	剥片	瑪瑙	C 3 e6	13.50			
41	Q44	石核	瑪瑙	C 3 e6	76.40			
42		剥片	瑪瑙	C 3 e7	1.86			
43		剥片	瑪瑙	C 3 e7	2.62			
44		剥片	瑪瑙	C 3 e7	0.87			
45		剥片	瑪瑙	C 3 e7	0.43			
46	Q49	剥片	瑪瑙	C 3 e6	16.20			

(4) 調査区外出土石器(第14図)

表面採集, 試掘トレンチ, 遺構の覆土中等, 集中地点以外から確認された35点の旧石器について一括して観察表及び一覧表に記載する。



第14図 調査区外出土旧石器実測図

調査区外出土石器観察表 (第14図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q50	ナイフ形石器	2.05	2.35	0.55	1.82	黒曜石	基部に細かい押圧剥離痕 上部欠損	D 2 c9	PL22
Q51	ナイフ形石器	3.60	1.50	0.50	2.46	流紋岩	一側縁全体ともう一方の基部に調整を施す 刃部は斜行 先端部欠損	表採	PL22
Q52	剥片	5.30	1.70	1.40	6.65	瑪瑙	縦長剥片 背面に前段階の剥離痕 自然面を有する	C 3 i3	PL22
Q53	石刃	6.50	2.10	1.30	10.10	瑪瑙	背面に1本の稜線 背面には主要剥離面とは反対方向の剥離の他、横方向からの剥離も認められる	試掘トレンチ	PL22
Q54	剥片	3.10	2.10	0.50	2.20	硬質頁岩	縦長剥片 背面に前段階の剥離痕を有する	S I 12 覆土中	PL22
Q55	剥片	3.70	1.70	0.60	3.14	瑪瑙	縦長剥片 上部欠損 背面に主要剥離面と同方向の剥離が認められる	S I 19 覆土中	PL22
Q56	剥片	3.50	2.10	0.90	2.88	瑪瑙	縦長不整剥片 背面に主要剥離面と同方向の剥離が認められる	S I 7 覆土中	PL22
Q57	剥片	4.60	2.70	1.10	9.75	瑪瑙	縦長剥片 背面には主要剥離面と同方向の剥離が認められる	S I 19 覆土中	PL22
Q58	石刃	3.90	1.70	0.60	4.06	瑪瑙	背面に2本の稜線 側縁は鋭く微細な刃こぼれ状の使用痕が認められる	表採	PL22
Q59	剥片	8.00	5.20	2.60	77.40	珪質頁岩	大型礫からの剥離 背面には多方向からの剥離が認められる	D 3 c1	PL22

表5 旧石器調査区外における石器出土位置

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	重量 (g)	出土位置
1	Q56	剥片	瑪瑙	-	2.88	S I 7 覆土中
2		剥片	瑪瑙	-	1.56	S I 8 覆土中
3		剥片	瑪瑙	-	5.05	S I 8 覆土中
4		剥片	瑪瑙	-	5.45	S I 8 覆土中
5	Q54	剥片	硬質頁岩	-	2.20	S I 12 覆土中
6		剥片	トトロ石	-	1.76	S I 12 覆土中
7		剥片	安山岩	-	10.90	S I 12 P 1 覆土中
8		剥片	安山岩	-	2.40	S I 13 覆土中
9		剥片	安山岩	-	5.90	S I 13 覆土中
10		剥片	安山岩	-	6.05	S I 13 覆土中
11	Q57	剥片	瑪瑙	-	9.75	S I 19 覆土中
12	Q55	剥片	瑪瑙	-	3.14	S I 19 覆土中
13		剥片	瑪瑙	-	1.76	S I 20 覆土中
14		剥片	瑪瑙	-	5.05	S I 22 覆土中
15		剥片	瑪瑙	-	3.16	T P 1 覆土中
16		剥片	瑪瑙	-	6.90	T P 1 覆土中
17	Q50	ナイフ形石器	黒曜石	D 2 c9	1.82	表面採集
18		剥片	安山岩	D 2 c9	2.70	表面採集
19		剥片	瑪瑙	C 3 h5	2.64	表面採集
20		剥片	瑪瑙	C 3 h3	2.06	表面採集
21		剥片	瑪瑙	C 3 h3	0.52	表面採集
22		剥片	瑪瑙	C 3 h3	0.42	表面採集
23		剥片	瑪瑙	-	3.86	試掘トレンチ
24	Q53	石刃	瑪瑙	-	10.10	試掘トレンチ
25		剥片	安山岩	D 2 d6	79.00	表面採集
26	Q51	ナイフ形石器	流紋岩	-	2.46	表面採集
27	Q52	剥片	瑪瑙	C 3 i3	6.65	表面採集
28		剥片	瑪瑙	C 3 i3	4.92	表面採集
29		剥片	珪質頁岩	C 3 i3	3.28	表面採集
30		剥片	瑪瑙	C 3 j2	3.94	表面採集
31		剥片	瑪瑙	C 3 h6	0.78	表面採集
32		剥片	瑪瑙	D 3 h0	2.52	表面採集
33	Q59	剥片	珪質頁岩	D 3 c1	77.40	表面採集
34	Q58	石刃	瑪瑙	-	4.06	表面採集
35		剥片	安山岩	-	6.00	表面採集

2 縄文時代の遺構と遺物

竪穴住居跡1軒，土坑2基を確認した。土坑は深い掘り込みで，壁は直立しているが遺物がほとんど出土していない。そのため時期判断が困難であるが，遺構の形状から縄文時代の陥し穴と判断した。以下，遺構と遺物の特徴について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第24号住居跡 (第15図)

位置 調査A区のB 3 c8区，標高26.5mほどの台地斜面部に位置している。

確認状況 第1号埋没谷の調査の際に，谷津の底面から確認された。

規模と形状 北部・東部が調査区域外へ延びているため，確認された範囲は南北1.84m，東西2.42mである。平面形は楕円形又は円形と推定され，長径方向は不明である。壁高は24～27cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，全体的に硬化している。

ピット 3か所。P 1～P 3は深さ10～15cmで，柱穴と考えられる。

覆土 5層からなる。ロームブロックを中量含んだ褐色土で，周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から，自

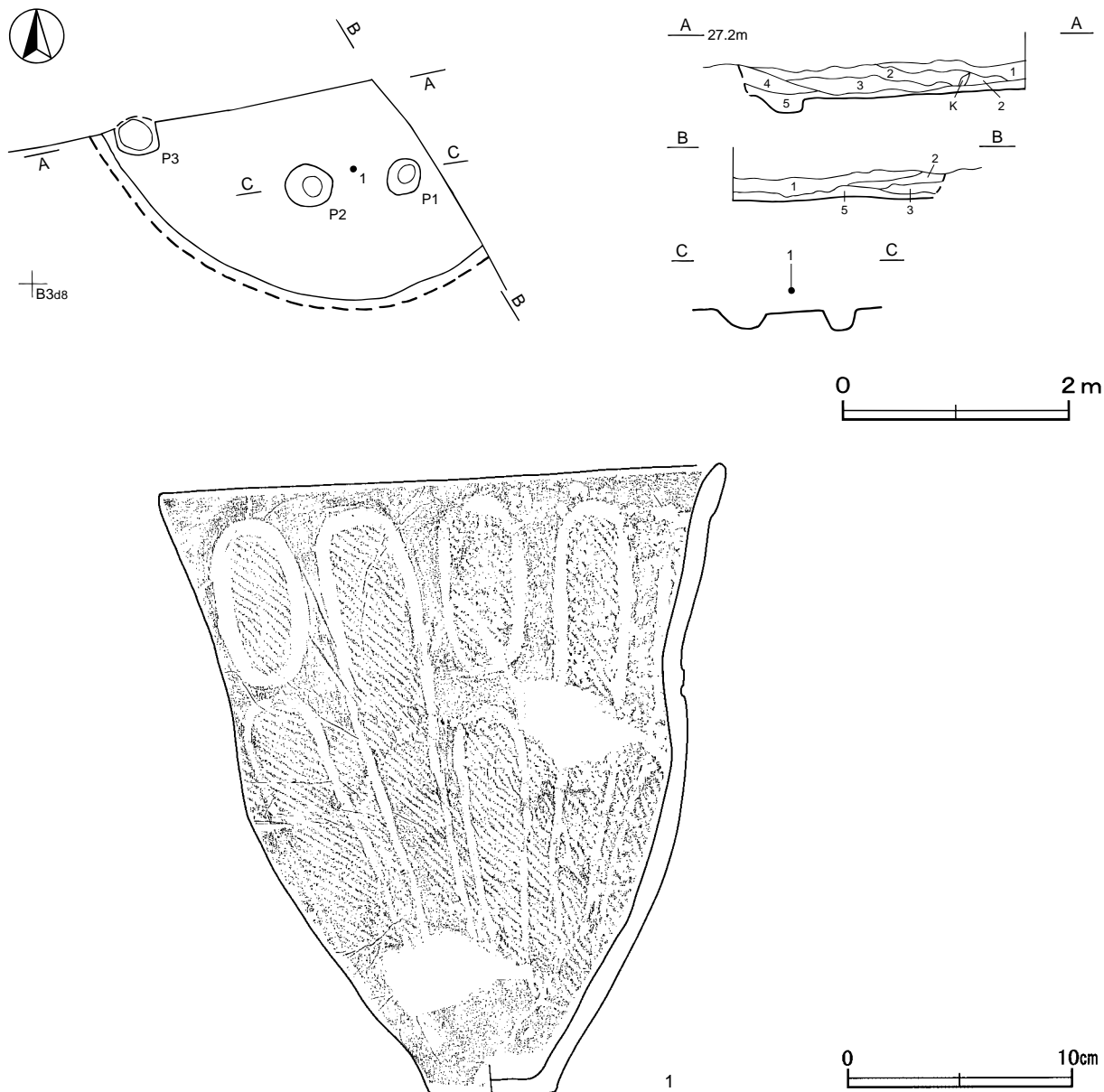
然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------------|
| 1 黒色 | ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片18点（深鉢）が出土している。1は南壁際の覆土上層から出土している。

所見 炉跡は確認できなかったが、形状及び柱穴の配置から住居跡と判断した。時期は、出土土器から縄文時代中期前葉と考えられる。



第15図 第24号住居跡・出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[24.5]	27.7	5.5	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	R L単節縄文 H状の沈線区画内磨り消し	覆土上層	40% PL18

(2) 陥し穴

第1号陥し穴 (第16図)

位置 調査A区のC 3 j1区, 標高28mほどの緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長径2.29m, 短径1.37mの楕円形で, 長径方向はN-35°-Wである。深さは115cmで, 東壁と西壁は外傾して立ち上がり, 南壁と北壁はほぼ直立している。底面は平坦で, 逆茂木の跡と想定されるくぼみが1か所確認されており, 断面はU字状を呈している。

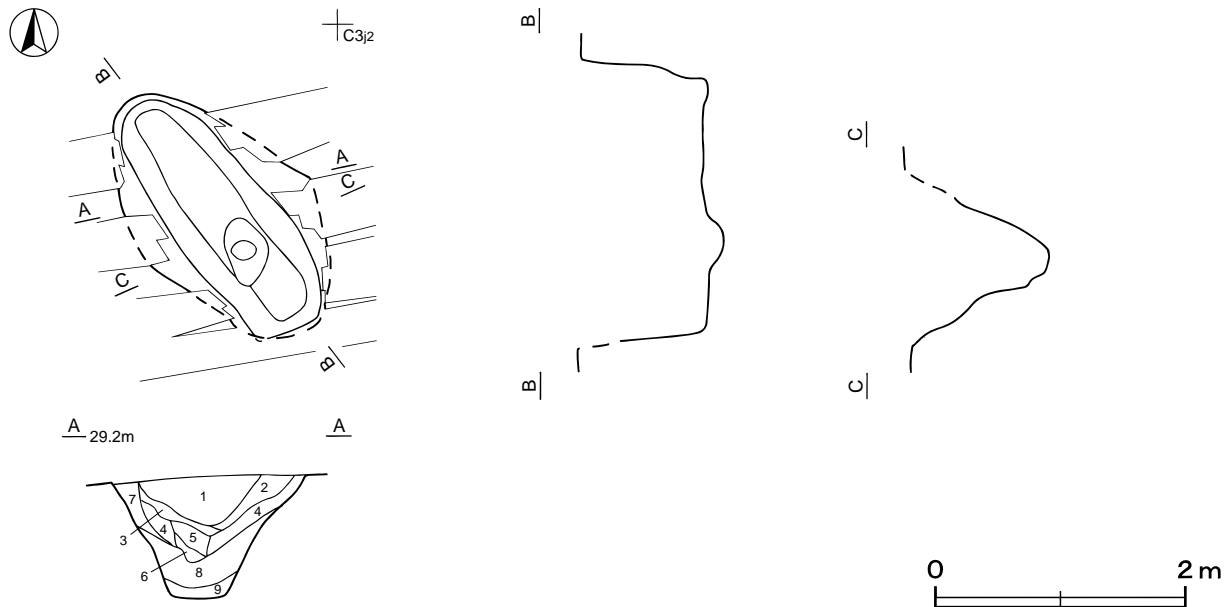
覆土 9層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から, 自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	6 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ローム粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量	8 暗褐色	ローム粒子・鹿沼パミス微量
4 褐色	ローム粒子多量	9 褐色	鹿沼パミス中量, ロームブロック微量
5 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片5点(甕), 須恵器片4点(甕3, 甑1)が出土している。いずれも流れ込んだものである。

所見 時期は, 出土土器がないため明確な判断は困難であるが, 規模や形状から縄文時代と考えられる。



第16図 第1号陥し穴実測図

第2号陥し穴 (第17図)

位置 調査A区のC 2 i0区, 標高28mほどの緩やかな斜面部に位置している。

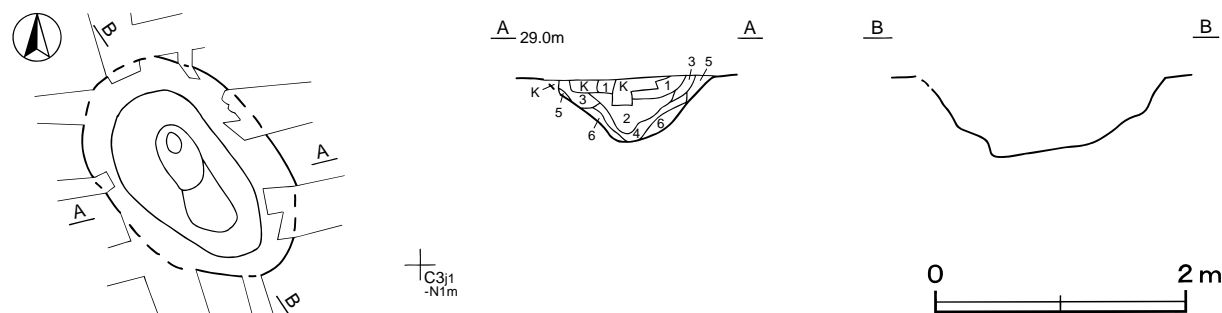
規模と形状 長径2.00m, 短径1.30mの楕円形で, 長径方向はN-37°-Wである。深さは63cmで, 東壁と西壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状で, 逆茂木の跡と想定されるくぼみが1か所確認されており, 断面はU字状を呈している。

覆土 6層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から, 自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック微量	5 褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	6 褐色	ロームブロック少量

所見 時期は、出土土器がないため明確な判断は困難であるが、規模や形状から縄文時代と考えられる。



第17図 第2号陥し穴実測図

表6 陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時代, 新旧関係)
				長径(軸) × 短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	C 3 j1	N-35°-W	楕円形	2.29 × 1.37	115	U字状	平坦	自然	-	縄文時代
2	C 2 i0	N-37°-W	楕円形	2.00 × 1.30	63	U字状	皿状	自然	-	縄文時代

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

住居跡30軒、掘立柱建物跡6棟、柵跡2列、溝跡1条が確認された。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第18・19図)

位置 調査A区のD 3 c8区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.40m、短軸3.29mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は6~18cmで、直立している。

床 中央部が踏み固められている。貼床は中央部を深く掘り込み、ロームブロックを含む褐色土及び暗褐色土を埋土して構築している。壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁中央部からやや東寄りに付設されている。耕作による攪乱のため規模は焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅が100cmと推定される。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火熱を受けて硬化している。煙道部は壁外に45cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化物少量 | 6 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| | | 9 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量 |

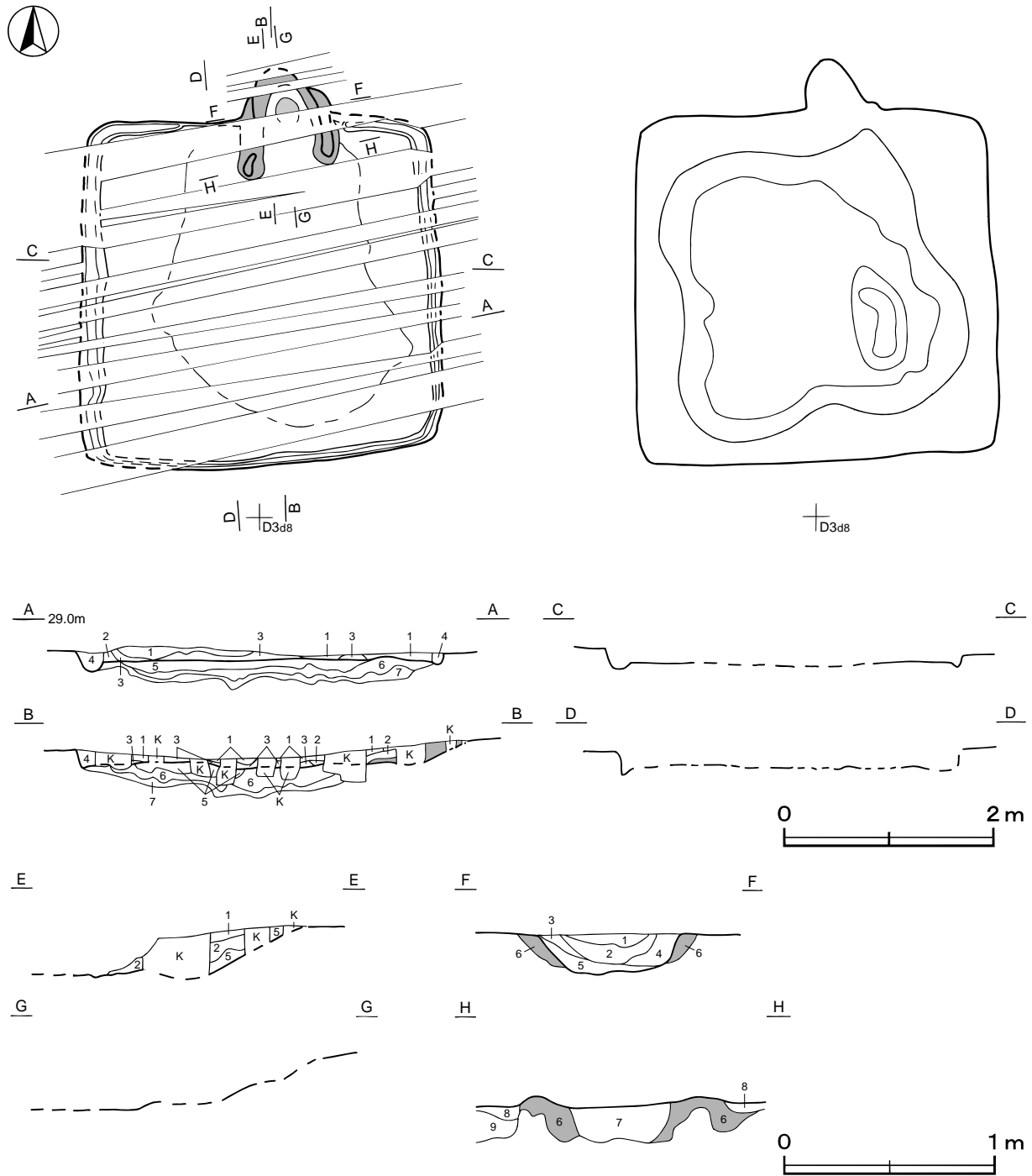
覆土 4層に分層される。層厚が薄いこと及び攪乱を受けているため堆積状況は判断しにくいだが、壁際から土砂が流入したような堆積状況から、自然堆積と考えられる。第5~7層は貼床の構築土である。

土層解説

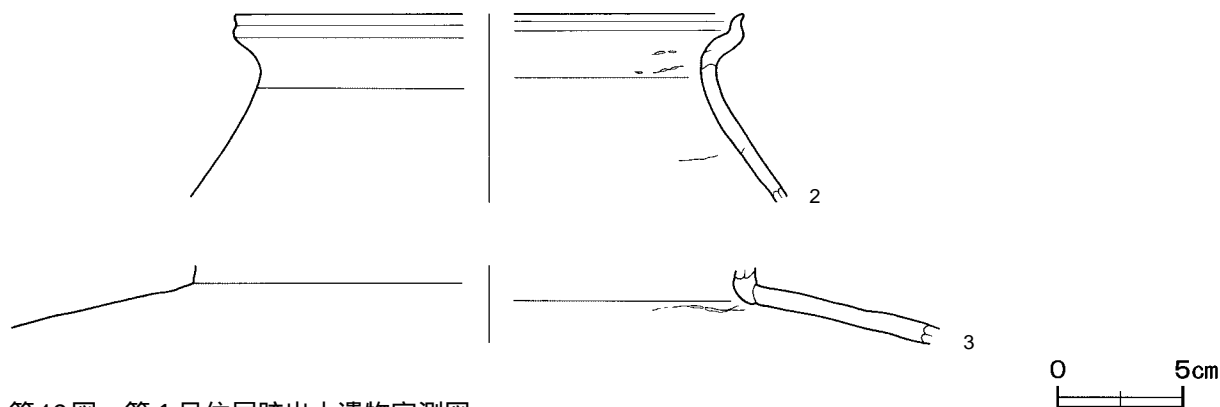
- | | | | |
|---------|-----------------|---------|---------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 褐 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | 炭化粒子・焼土粒子少量 | 6 暗 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 3 褐 色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 7 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗 褐 色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片77点（坏2，甕75），須恵器片33点（坏20，蓋2，甕11）が出土している。土器はいずれも細片で，全体的な出土状況は把握しにくい。2は竈の覆土中から，3は南部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 壁外柱穴の可能性も考えて調査したが，ピットは確認できなかった。時期は，出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。



第18図 第1号住居跡実測図



第19図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表 (第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2	土師器	甕	[20.2]	(7.5)		長石・石英・雲母	灰褐	良好	口縁部内・外面横ナデ	竈覆土中	5%
3	須恵器	甕		(3.1)		長石・雲母・小礫	黄灰	良好	頸部内面横ナデ 体部外面斜位の平行叩き	覆土中	5%

第2号住居跡 (第20～23図)

位置 調査A区のD3e8区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.60m、短軸4.31mの方形で、主軸方向はN-Oである。壁高は53～62cmで、直立している。

床 中央部が踏み固められている。貼床は中央部を掘り残し、四隅を深く掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が断続して周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで118cm、袖部幅が174cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめ、焼土を含むロームブロック主体の土を充填している。火床面は床面と同じ高さで、中央部から左寄りの火床部奥壁にかけて赤変硬化している。煙道部は壁外に64cm掘り込み、外傾して立ち上がっている。袖部の幅や、支脚と火床面の位置関係から三掛竈が想定される。

竈土層解説

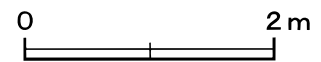
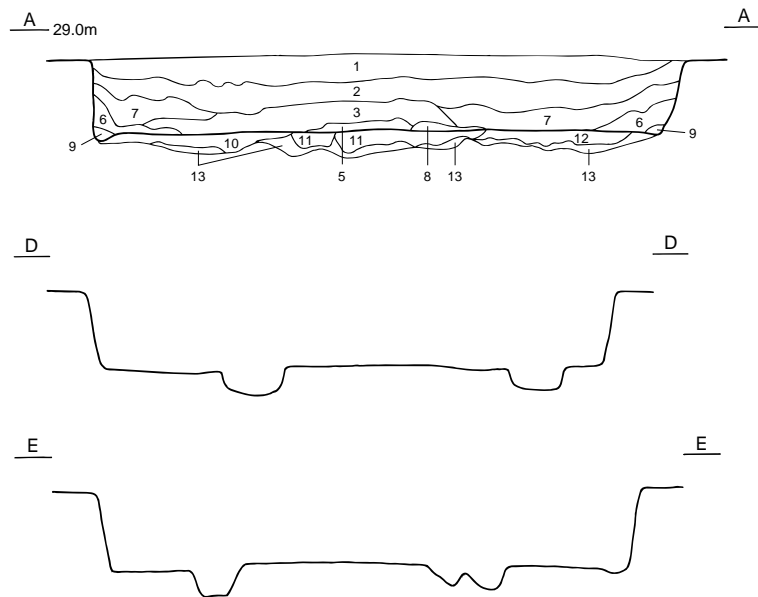
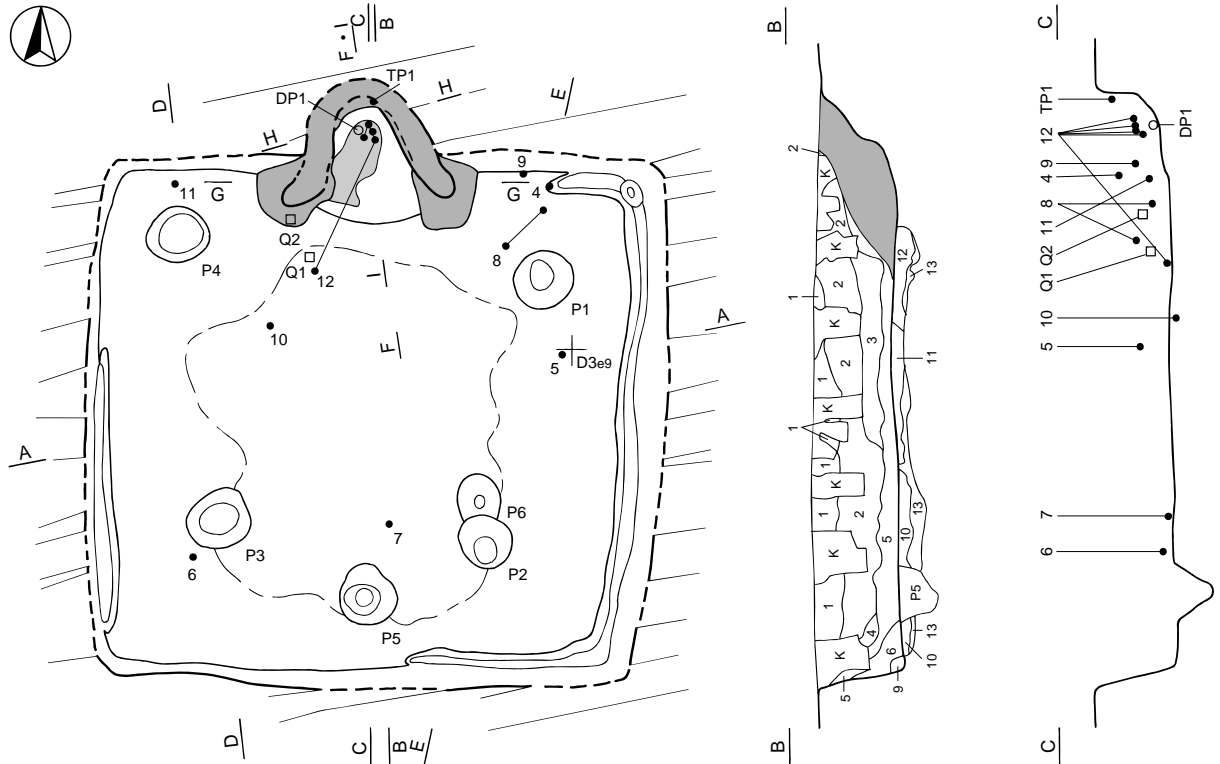
1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	9 暗褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量	10 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量	11 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量
4 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量
5 赤褐色	焼土ブロック多量, 砂質粘土粒子少量	13 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化物微量
6 極暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量	14 黒褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック微量
7 暗赤褐色	焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	15 極暗褐色	ロームブロック中量
8 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量	16 極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量

ピット 6か所。P1～P4は深さ20～22cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ33cmで、位置と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ18cmで、支柱穴と考えられる。

覆土 9層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第10～13層は貼床の構築土である。

土層解説

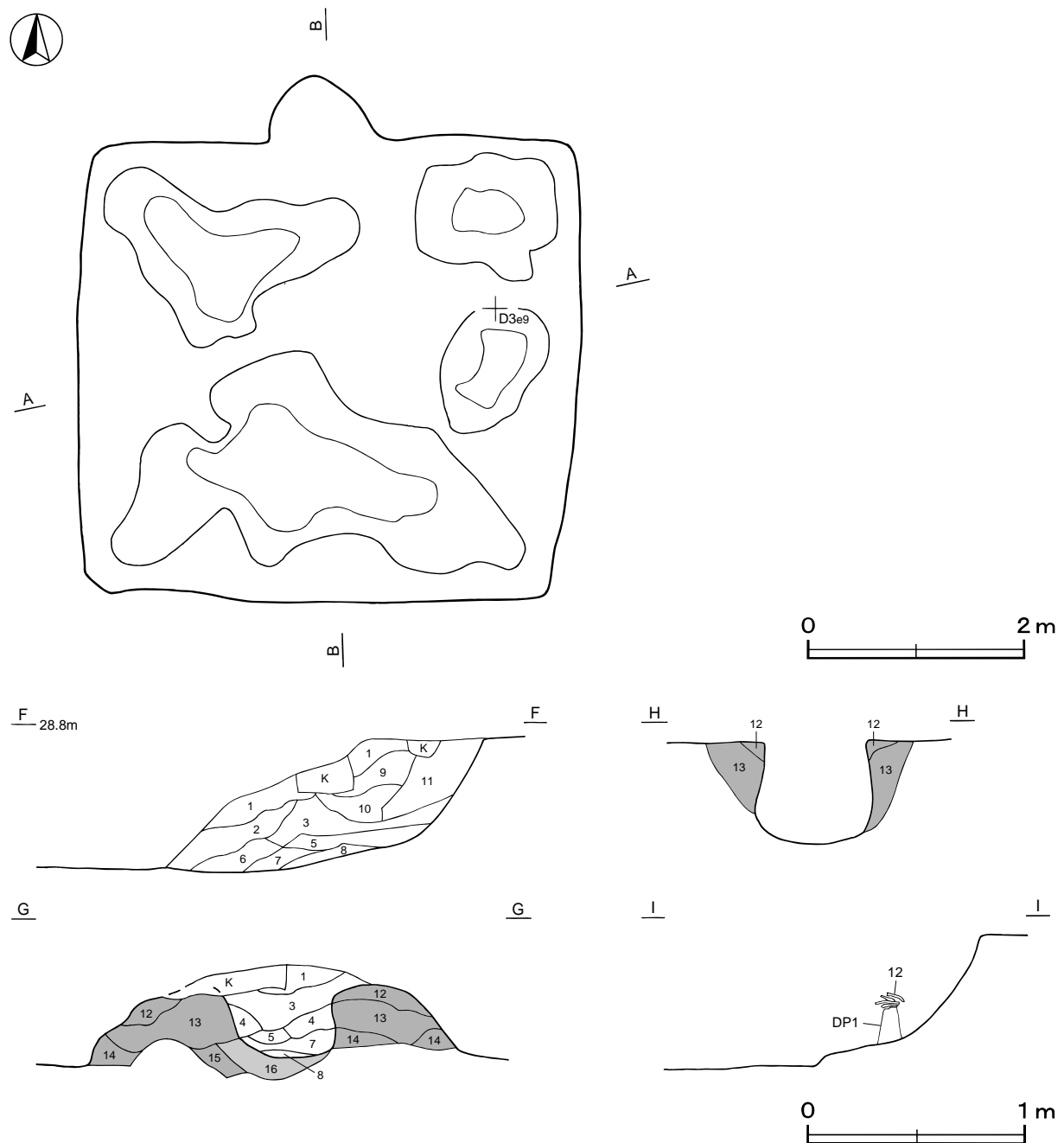
- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 8 灰褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 | 12 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量, 砂質粘土粒子少量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 13 明褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス少量 |
| 7 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 | | |



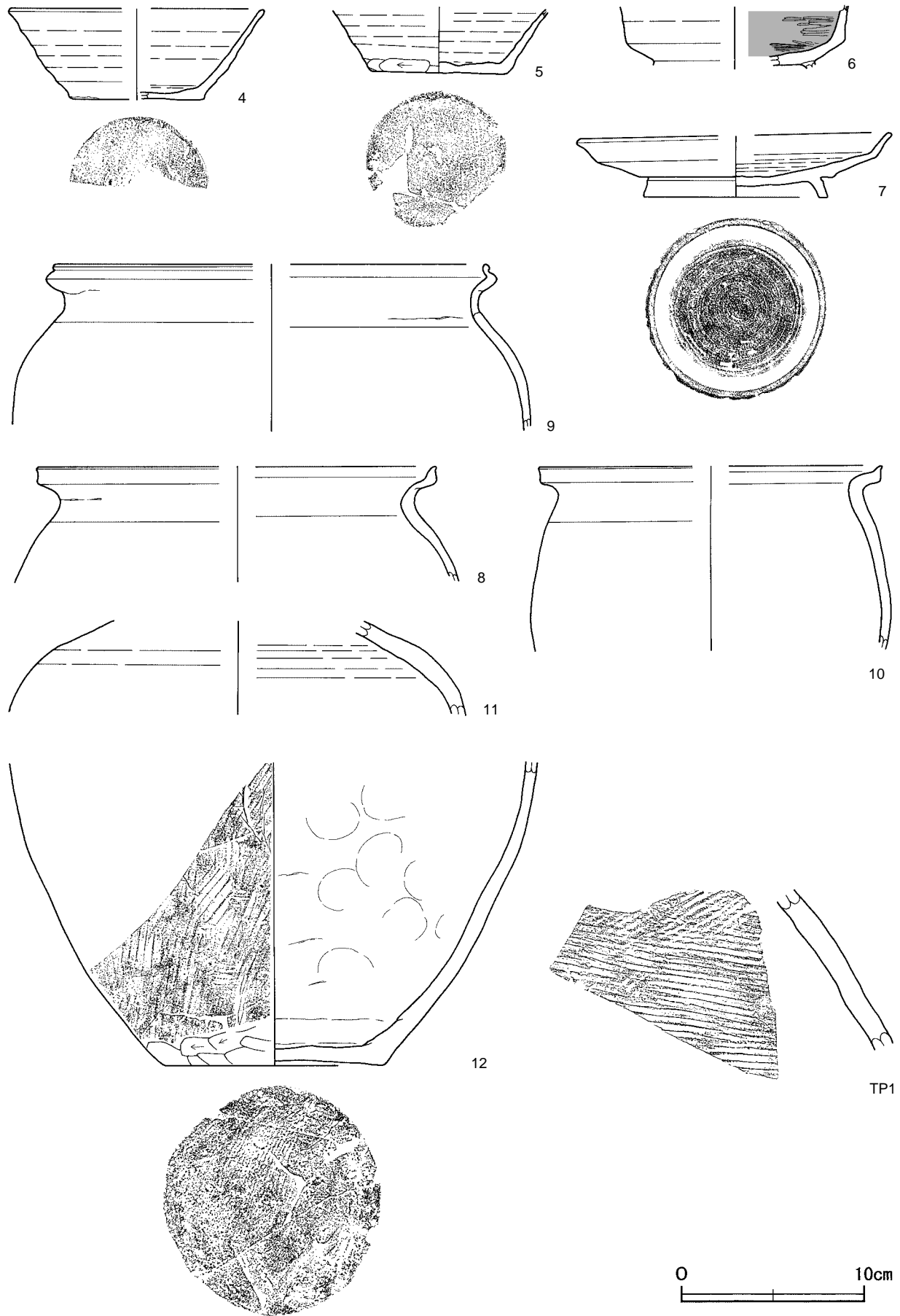
第20図 第2号住居跡実測図(1)

遺物出土状況 土師器片597点（坏11，高台付坏7，甕579），須恵器片156点（坏69，高台付坏6，皿5，盤2，蓋5，甕69），石器2点（砥石）が中央部から竈周辺にかけて多く出土している。また，流れ込んだ縄文土器片10点も出土している。6は南西部の床面，7は中央部から南寄りの床面からそれぞれ正位で出土している。12はDP1の支脚の上に正位で重ねてあった破片と，竈内，竈前面の床面から出土した破片が接合したものである。

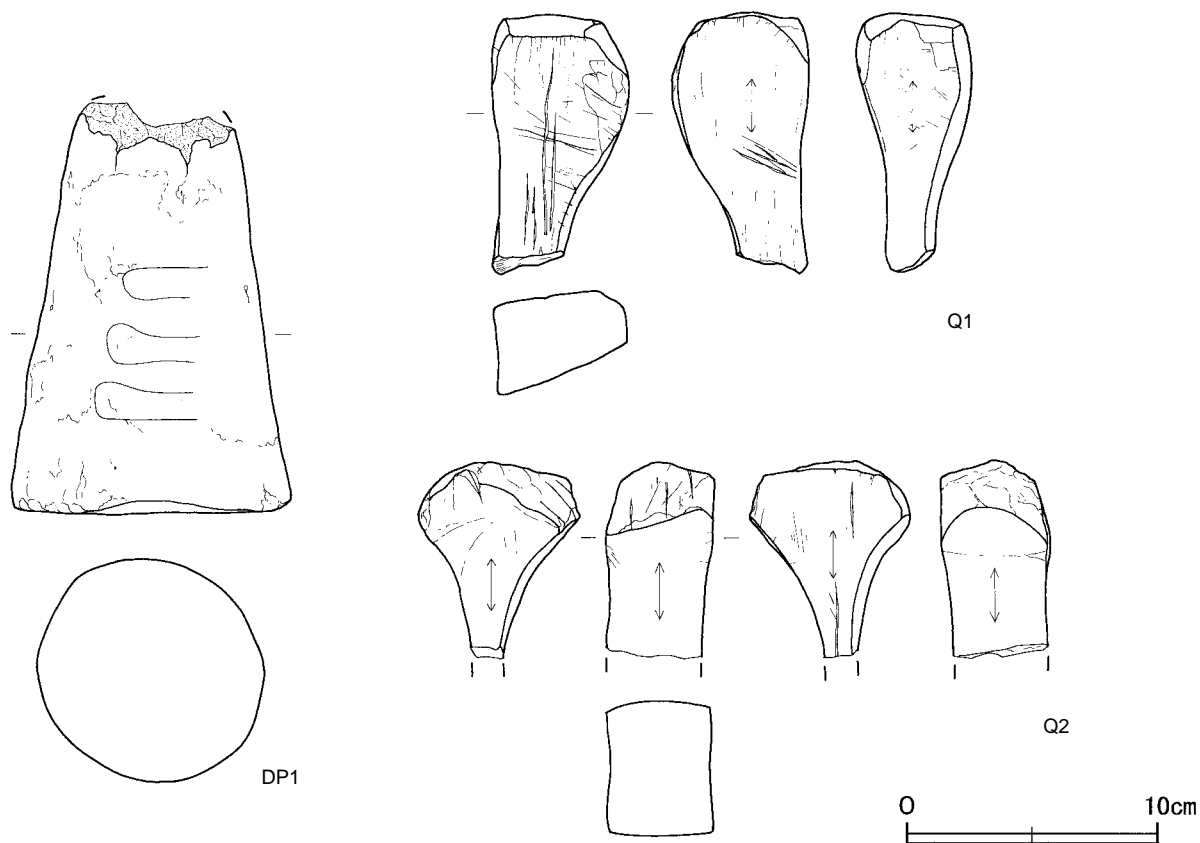
所見 支脚の上に重ねられた4枚の須恵器片は，火熱を受けていないことや，竈の天井部の崩落層が確認されなかったことなどから，住居廃絶時に竈を中心に，何らかの儀式的行為が行われたことが想定される。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第21図 第2号住居跡実測図（2）



第22图 第2号住居跡出土遺物実測図(1)



第23図 第2号住居跡出土遺物実測図(2)

第2号住居跡出土遺物観察表(第22・23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4	須恵器	坏	[13.6]	5.0	[7.4]	長石・石英・雲母	灰	良好	内・外面口クロナデ	覆土中層	30% PL15
5	須恵器	坏		(3.6)	7.4	長石・石英・雲母	灰	普通	内・外面口クロナデ 体部下端へラ削り	覆土下層	70%
6	土師器	高台付坏		(3.4)		長石・石英・小礫	橙	良好	内面へラ磨き 底部回転へラ削り後高台貼付	床面	20%
7	須恵器	盤	[16.5]	3.6	10.0	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	内・外面口クロナデ 底部高台削り出し	床面	50% PL16
8	土師器	甕	[21.6]	(6.3)		長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	5%
9	土師器	甕	[23.4]	(9.0)		長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	5%
10	土師器	甕	[18.6]	(10.1)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	5%
11	須恵器	壺		(5.1)		長石・雲母・小礫	灰	良好	内・外面口クロナデ	覆土下層	5%
12	須恵器	甕		(16.5)	11.8	長石・石英	灰	普通	外面斜位の平行叩き 体部下端へラ削り 内面指頭痕	竈支脚上床面	30% PL18

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP1	須恵器	甕		(8.8)		石英・雲母	灰	普通	外面斜位の平行叩き	竈覆土中	

番号	器種	長さ	径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	支脚	(16.3)	(5.6)~11.1	(1530.0)	粘土	指頭痕 火熱痕跡	竈火床面	PL23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	(10.3)	5.4	4.6	(240.0)	流紋岩	砥面4面 線刻状の削痕有り	覆土下層	PL23
Q2	砥石	(7.8)	4.3	6.2	(200.9)	花崗岩	砥面4面 端部に線刻状の削痕有り	竈袖部内	PL23

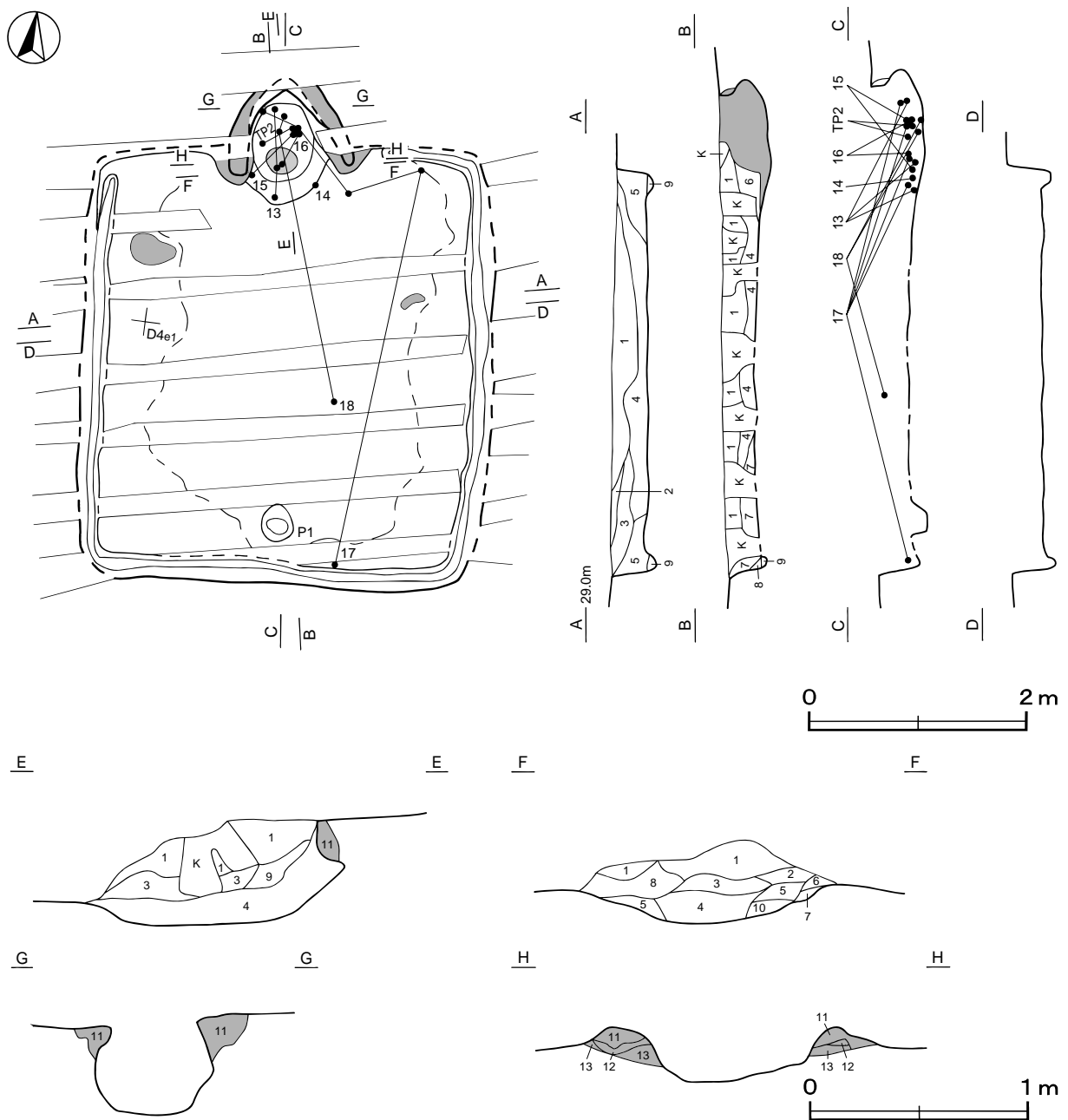
第3号住居跡 (第24~26図)

位置 調査A区のD4d1区、標高28mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.08m、短軸3.73mの長方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は24~30cmで、直立している。

床 中央部がやや高まっており、踏み固められている。壁溝が竈西側を除いて周回している。東壁と西壁付近に炭化材が確認された。

竈 北壁中央部に付設されている。耕作による攪乱を受けており、規模は焚口部から煙道部まで140cmと推定され、袖部幅が142cmである。袖部は地山に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど掘り込んでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外部にまで砂質粘土を貼っており、75cmほど掘り込み、直立している。



第24図 第3号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 7 灰 黄 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量 |
| 2 暗 赤 褐色 | 焼土粒子・炭化物少量, ロームブロック微量 | 8 灰 黄 褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 3 暗 赤 褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 | 9 暗 褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 4 極暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 10 灰 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 5 灰 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 6 灰 黄 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 12 暗 褐色 | ロームブロック微量 |
| | | 13 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |

ピット 深さ19cmで、位置と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

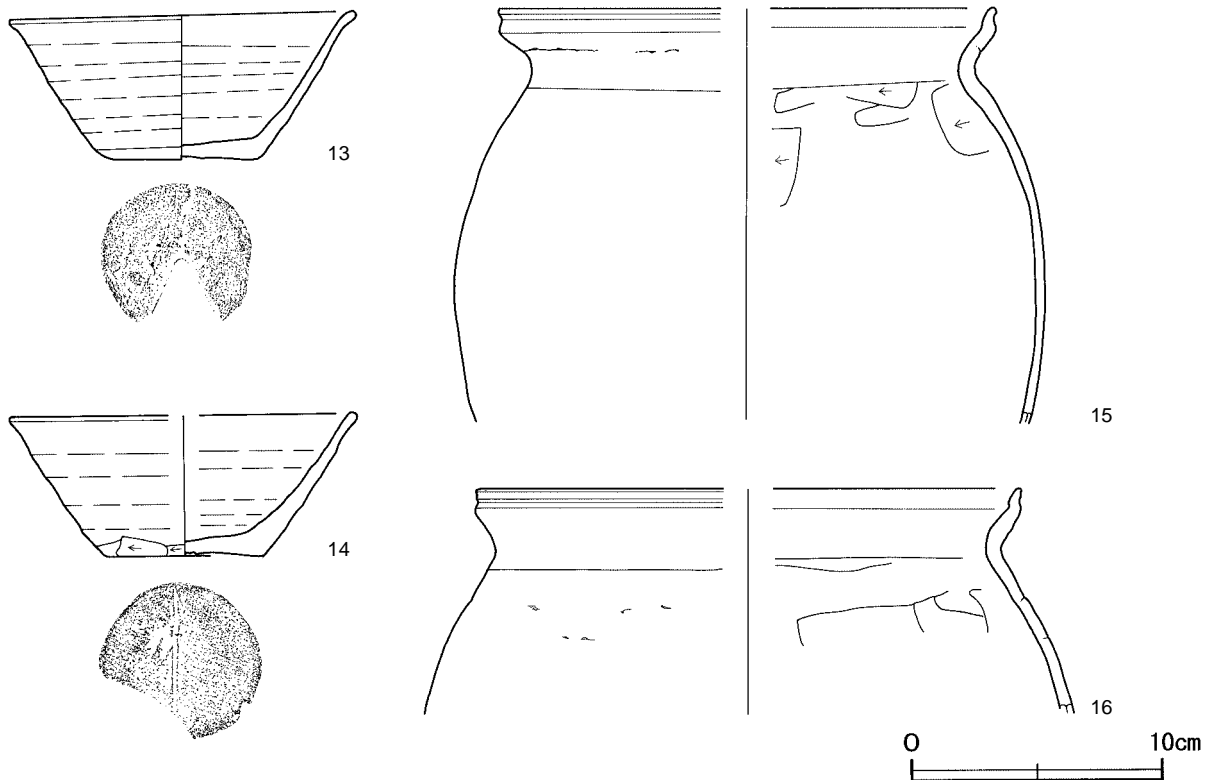
覆土 9層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

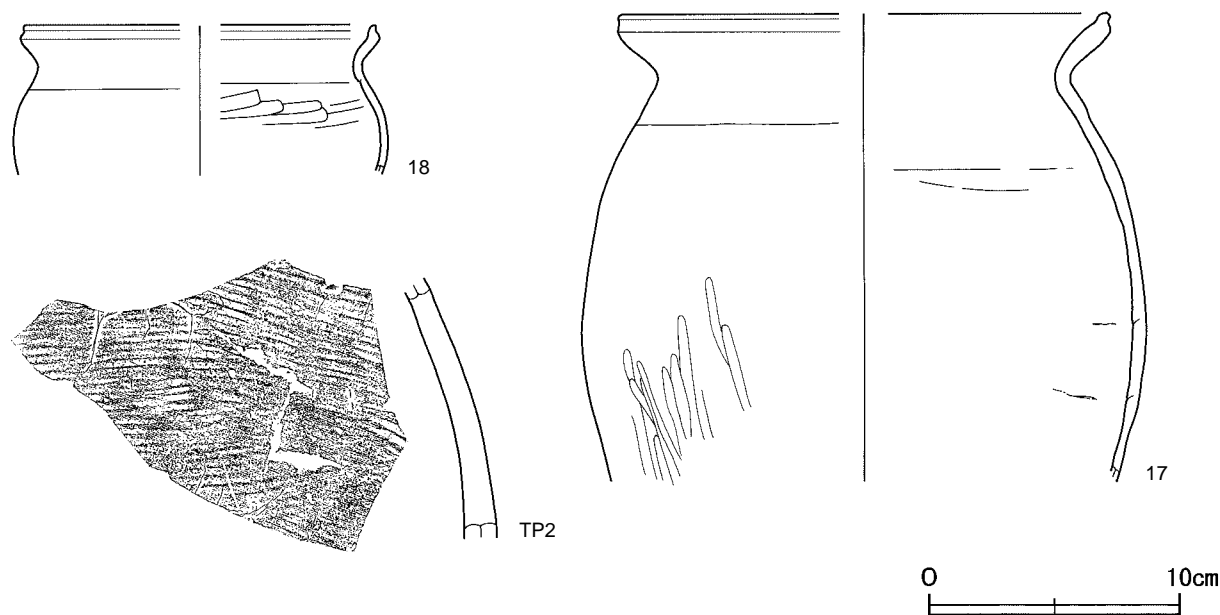
- | | | | |
|--------|------------------------|---------|-------------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| 3 暗 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片122点（坏30，甕92），須恵器片71点（坏59，甕12）が覆土下層から床面にかけて出土している。14は竈前面の床面から正位で出土している。13・15・16・18・TP2はいずれも竈内から出土した破片が接合したものである。17は竈内の破片や、竈の東側，南壁際の壁溝から出土した破片が接合したものである。いずれも住居廃絶時に竈に投棄された可能性が想定される。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第25図 第3号住居跡出土遺物実測図(1)



第26図 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

第3号住居跡出土遺物観察表(第25・26図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
13	須恵器	坏	13.6	5.9	5.8	長石・石英	灰黄	普通	内・外面口クロナデ	竈火床部	30% PL15 ヘラ記号「-」
14	須恵器	坏	[13.5]	5.6	6.2	長石・石英・小礫	にぶい橙	普通	内・外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り	竈火床部	50% PL15 ヘラ記号「-」
15	土師器	甕	[19.6]	(16.3)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラ削り	竈下層	20%
16	土師器	甕	[21.4]	(9.0)		長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ	竈下層	5%
17	土師器	甕	[19.2]	(18.6)		長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ 体部外面縦位のヘラ磨き	竈下層 床面	10%
18	土師器	甕	[13.9]	(5.9)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラ削り	竈火床面 覆土中層	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP2	須恵器	甕		(10.3)		長石・石英	灰	普通	外面斜位の平行叩き	竈火床部	

第4号住居跡(第27~29図)

位置 調査A区のD4a5区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

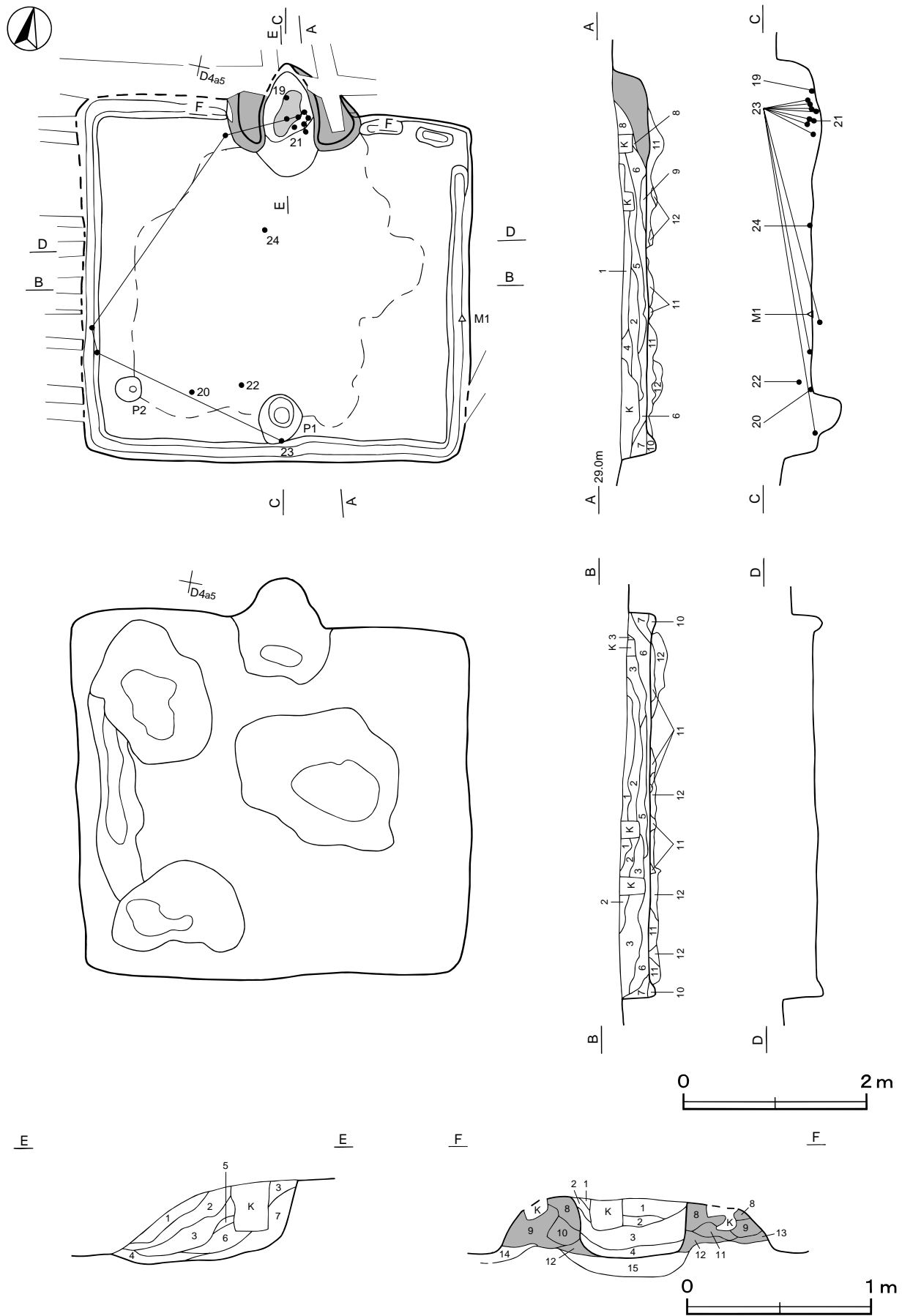
規模と形状 長軸4.20m、短軸3.75mの長方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は24~35cmで、直立している。

床 中央部が踏み固められている。貼床は西壁際を深く掘り込み、中央部は掘り残し、ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が北東コーナー部を除いて周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで126cm、袖部幅が143cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は掘り方を設け、焼土を含むロームブロック主体の土で埋め戻している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に42cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	3	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量、炭化物微量
2	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4	黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量



第27图 第4号住居跡実测图

- | | | | | | |
|----|--------|-----------------------------------|----|--------|---------------------------------|
| 5 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 | 11 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 6 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量 | 12 | 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 7 | 暗赤褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量 | 13 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, ロームブロック少量 |
| 8 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック微量 | 14 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 9 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子微量 | 15 | 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 10 | にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量 | | | |

ピット 2か所。P1は深さ34cmで、位置と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ22cmで、性格は不明である。

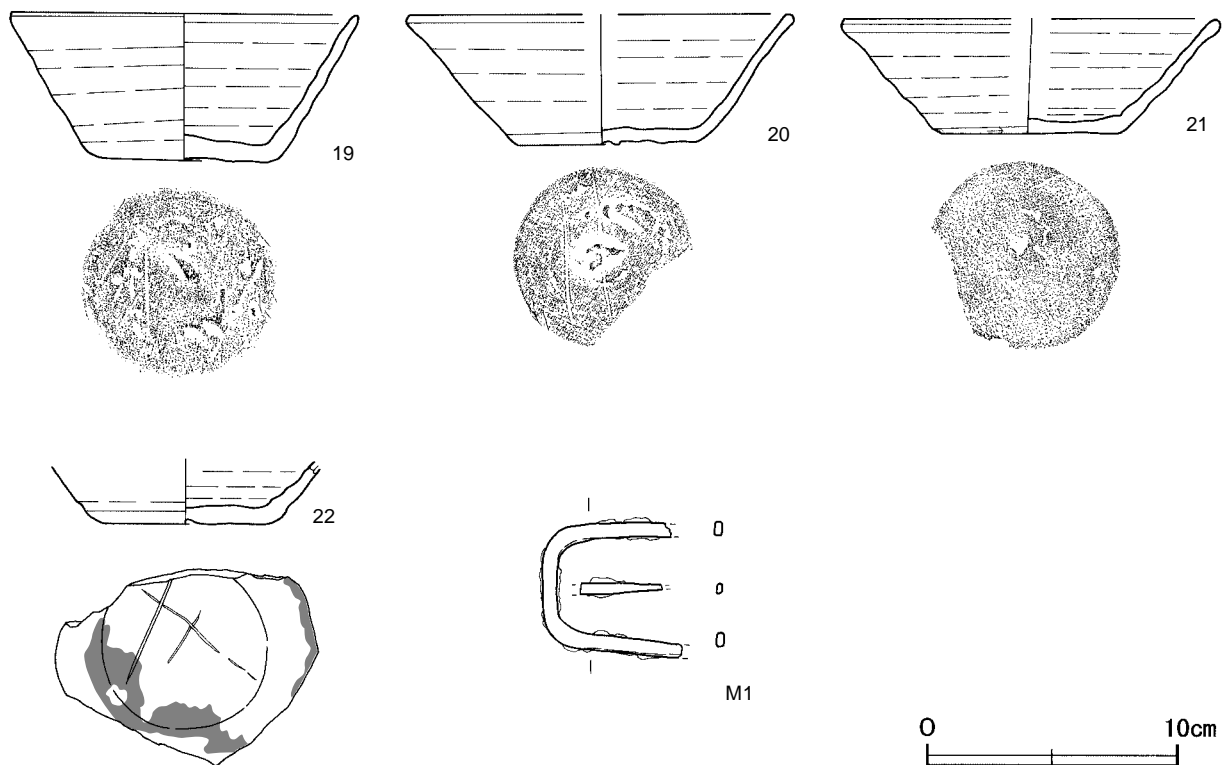
覆土 10層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第11・12層は貼床の構築土である。

土層解説

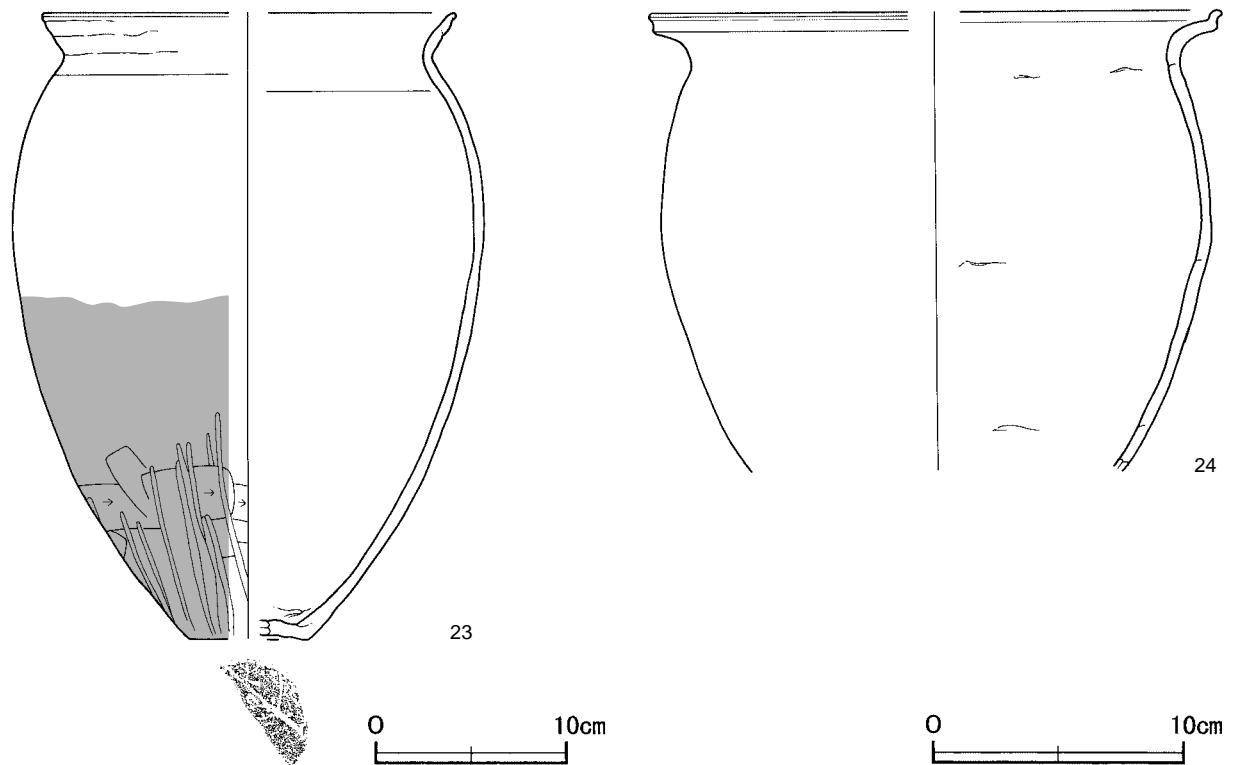
- | | | | | | |
|---|-----|---------------------------------|----|-----|------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | 8 | 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 9 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 | 10 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| | | | 11 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | | 12 | 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片205点(坏2, 甕203), 須恵器片17点(坏13, 蓋1, 甕3), 金属製品1点(鉸具)が覆土下層から床面にかけて出土している。19は竈奥壁の火床面から逆位で出土している。完形であり、二次焼成痕がなく、竈の奥壁に寄って出土していることから、住居廃絶に伴う儀式的行為に用いられた可能性が想定される。21は竈内の火床部から正位で出土している。23は竈内から土圧でつぶれた状態で出土した破片が、南壁際や西壁の壁溝内から出土した破片とそれぞれ接合したものである。M1は東壁際の壁溝から出土している。

所見 竈における儀礼的行為の想定や馬具と考えられる金属製品が出土していることなどから、本住居が集落の中心的な役割をもっていた可能性が考えられる。時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第28図 第4号住居跡出土遺物実測図(1)



第29図 第4号住居跡出土遺物実測図(2)

第4号住居跡出土遺物観察表(第28・29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
19	須恵器	坏	13.6	6.0	7.6	長石・石英・黒色 粒子	灰	良好	内・外面口クロナデ	竈火床面	100% PL15 ヘラ記号「N」
20	須恵器	坏	[15.0]	5.2	7.1	長石・石英	灰白	普通	内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り 後ナデ	床面	50% PL15 ヘラ記号「=」
21	須恵器	坏	[14.7]	4.6	7.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	内・外面口クロナデ 体部下端回転ヘラ 削り	竈下層	50% PL15
22	須恵器	坏		(2.6)	6.6	長石・石英	灰白	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層	30% ヘラ記号「キ」 外面油煙付着
23	土師器	甕	[21.6]	33.3	[6.2]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子 長石・石英・赤色 長石粒子	にぶい黄橙	良好	口縁部内・外面横ナデ 体部下端横位のヘラ削り 後縦位のヘラ磨き 底部木葉痕	竈火床面 床面	40% PL18 ヘラ記号「-」
24	土師器	甕	[22.4]	(18.2)			橙	普通	内面輪積痕	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	鉸具	5.5	(5.6)	0.4	(13.4)	鉄	馬具カ コの字状 断面方形	壁溝	PL24

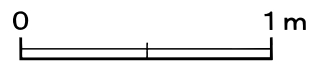
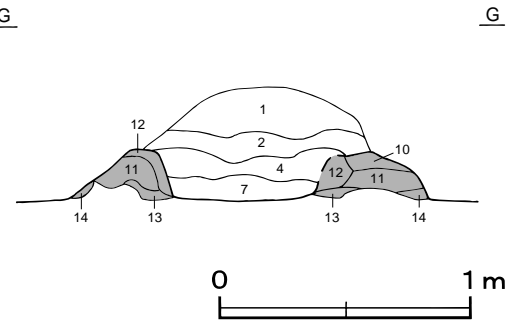
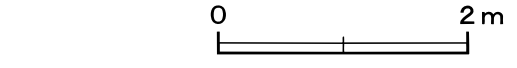
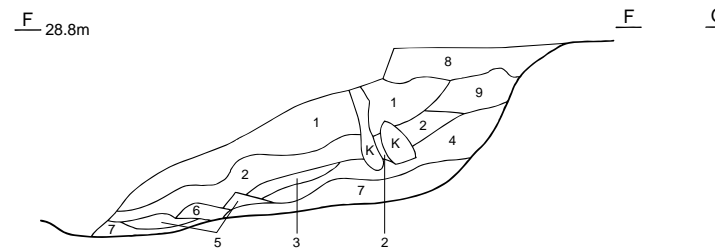
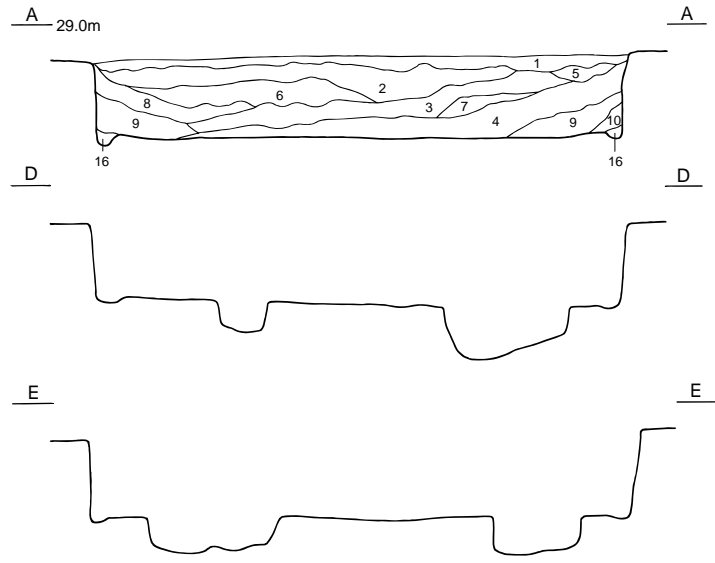
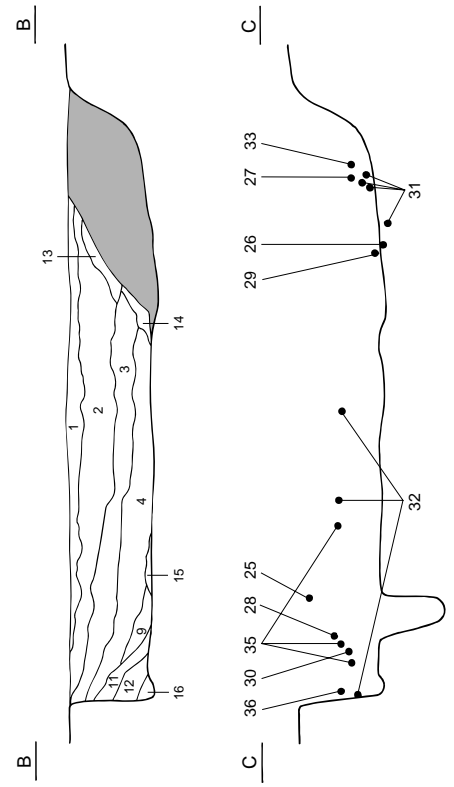
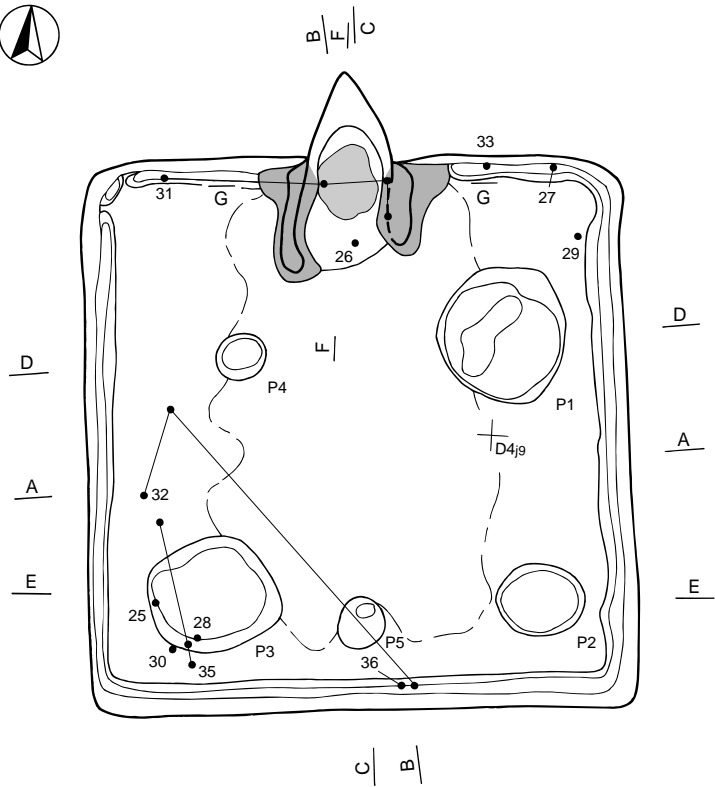
第5号住居跡(第30~32図)

位置 調査A区のD4i8区, 標高28.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.42m, 短軸4.36mの方形で, 主軸方向はN-4°-Wである。壁高は57~63cmで, 直立している。

床 ほぼ平坦で中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで156cm, 袖部幅が150cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし, 砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に65cmほど掘り込み, 外傾して立ち上がっている。



第30图 第5号住居跡実测图

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------------------|------------|--------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗 褐 色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗 褐 色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック微量 |
| 3 暗 赤 褐 色 | 炭化物・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量 | 11 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック微量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 12 暗 赤 褐 色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量 |
| 6 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化物微量 | 13 暗 褐 色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 7 褐 色 | 砂質粘土粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量 | 14 黒 褐 色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ24～39cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P 1・P 3は、柱の抜き取りが行われたと考えられる。P 5は深さ54cmで、位置と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

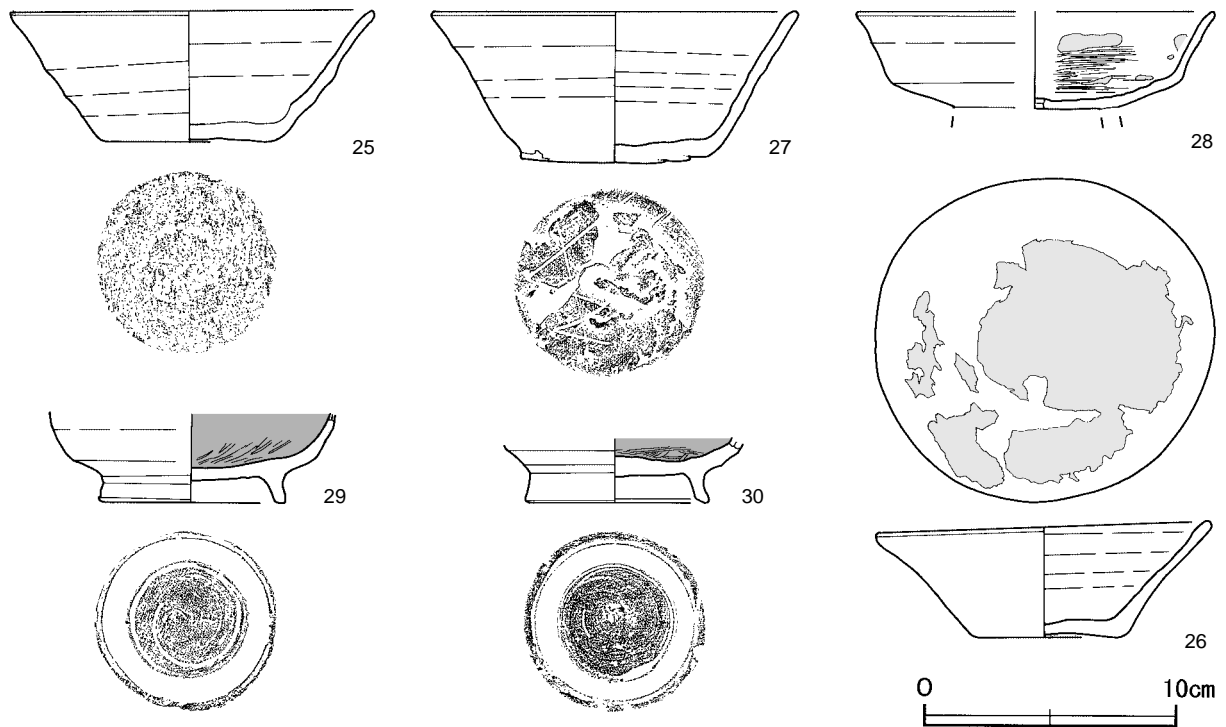
覆土 16層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

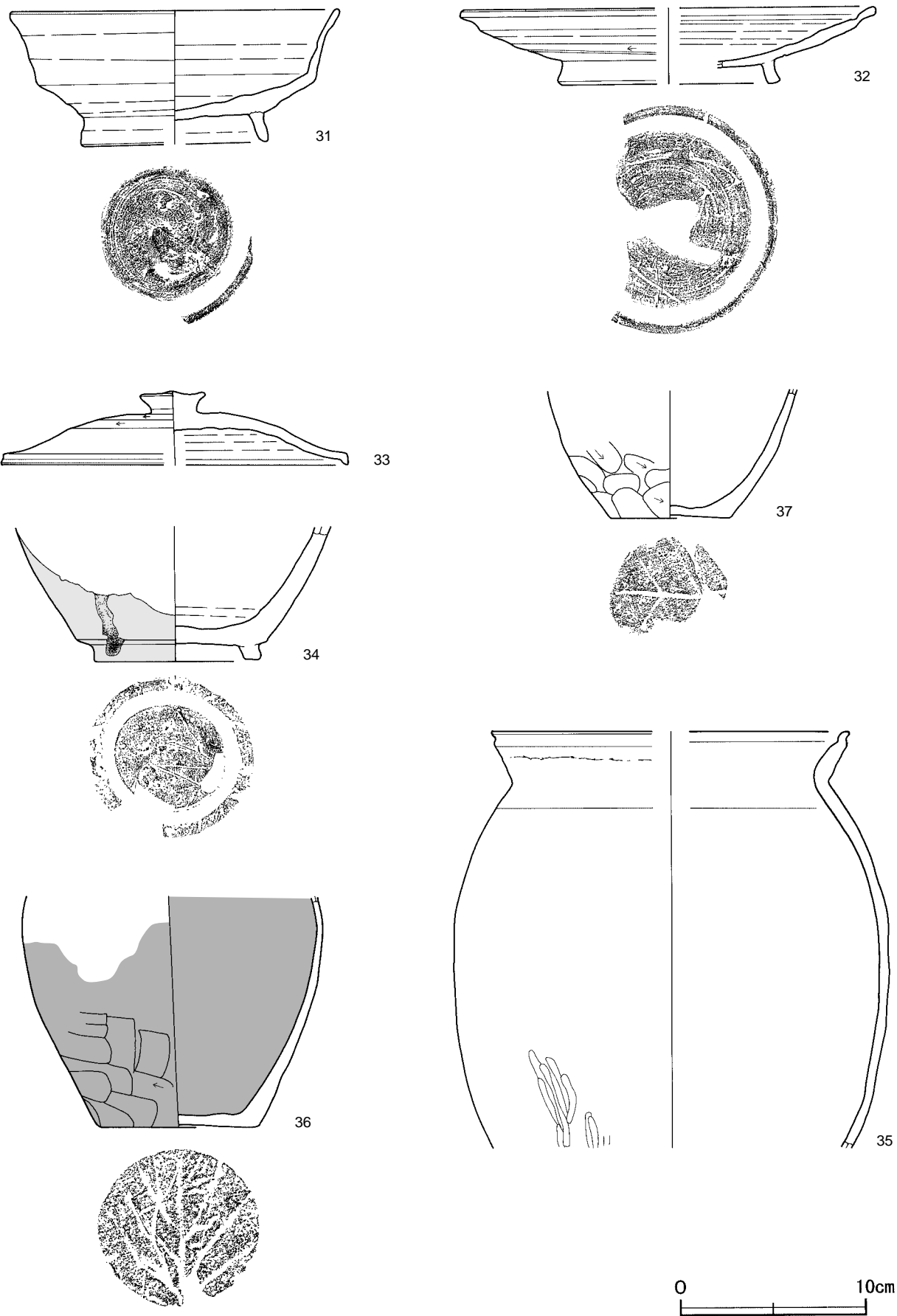
- | | | | |
|---------|----------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 暗 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗 褐 色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子中量 | 12 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化物微量 | 13 褐 色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 5 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 黒 褐 色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 15 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 7 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 16 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 8 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | | |
| 9 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片398点(坏50, 高台付坏9, 甕339), 須恵器片153点(坏91, 高台付坏19, 皿3, 盤13, 蓋7, 壺14, 甕6), 金属器2点(刀子), 鉄滓1点が出土している。遺物は南壁際の覆土中層から竈付近の床面にかけて多く出土し、いずれも大きな時期差は見られない。26は竈の焚口部から逆位で、28はP 3内の覆土中層から出土しており、それぞれ内面に漆が付着している。31は竈内の火床部と北壁際の壁溝から出土した破片が接合したものである。34・37はP 1内から出土した破片が接合したものである。遺物は住居廃絶に伴う投棄と考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第31図 第5号住居跡出土遺物実測図(1)



第32图 第5号住居跡出土遺物実測図(2)

第5号住居跡出土遺物観察表 (第31・32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
25	須恵器	坏	14.3	5.3	7.0	長石・石英・小礫	灰黄	不良	内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土上層	90% PL15
26	須恵器	坏	13.0	4.6	5.7	長石・石英	灰	普通	内・外面口クロナデ	竈焚口部	100% 内面漆付着
27	須恵器	坏	14.2	6.1	7.4	長石	灰	普通	内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り	覆土下層	70% PL15 ヘラ記号「W」
28	土師器	高台付坏	[14.1]	(3.9)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面黒色処理 ヘラ磨き	覆土中層	30% 内面漆付着
29	土師器	高台付坏		(3.6)	7.3	長石・石英・赤色 長石・石英・赤色 長石・小礫・黒色 長石・小礫・黒色	橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼付	床面	40%
30	土師器	高台付坏		(2.6)	7.1	長石・石英・赤色 長石・小礫・黒色 長石・小礫・黒色	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	30%
31	須恵器	高台付坏	17.5	7.4	[10.0]	長石・石英・赤色 長石・小礫・黒色 長石・小礫・黒色	灰黄	良好	内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼付	竈火床面	90% PL17
32	須恵器	盤	[21.8]	4.1	[11.2]	長石・石英	灰	良好	内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層 覆土中層	45% PL16
33	須恵器	蓋	[18.4]	4.0		長石	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	30% PL16
34	須恵器	壺		(7.3)	8.6	長石・石英	黄灰	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼付	P1覆土中	20% PL18 ヘラ記号「N」
35	土師器	甕	[19.2]	(22.4)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部下端縦位のヘラ磨き	覆土中層	10% PL17
36	土師器	小形甕		(12.6)	8.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端横位のヘラ削り	覆土中層	40% 内・外面煤付着
37	土師器	小形甕		(6.9)	6.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端横位のヘラ削り	P1覆土中	15%

第6A号住居跡 (第33・34図)

位置 調査A区のD3j0区, 谷津に下る標高27mの緩斜面部に位置している。

確認状況 当初は1軒の住居跡として調査を進めたが, 2回にわたり建て替えが行われていることが確認され, 新しい順から第6A・6B・6C号住居跡として調査した。

規模と形状 長軸4.33m, 短軸3.84mの長方形で, 主軸方向はN-19-Wである。壁高は30~42cmで, 直立している。

床 全体的に軟弱であるが, 中央部が若干硬化している。南部のみ貼床で第6B号住居跡の床面を浅く掘り込み, ロームブロックを主体とする褐色の埋土で構築している。北部は, 第6B号住居跡の床面上に直接床を貼っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで141cm, 袖部幅が125cmである。袖部は地山の上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を25cmほど掘り込み, 焼土粒子を含むローム土を埋め戻して構築している。火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に72cm掘り込み, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

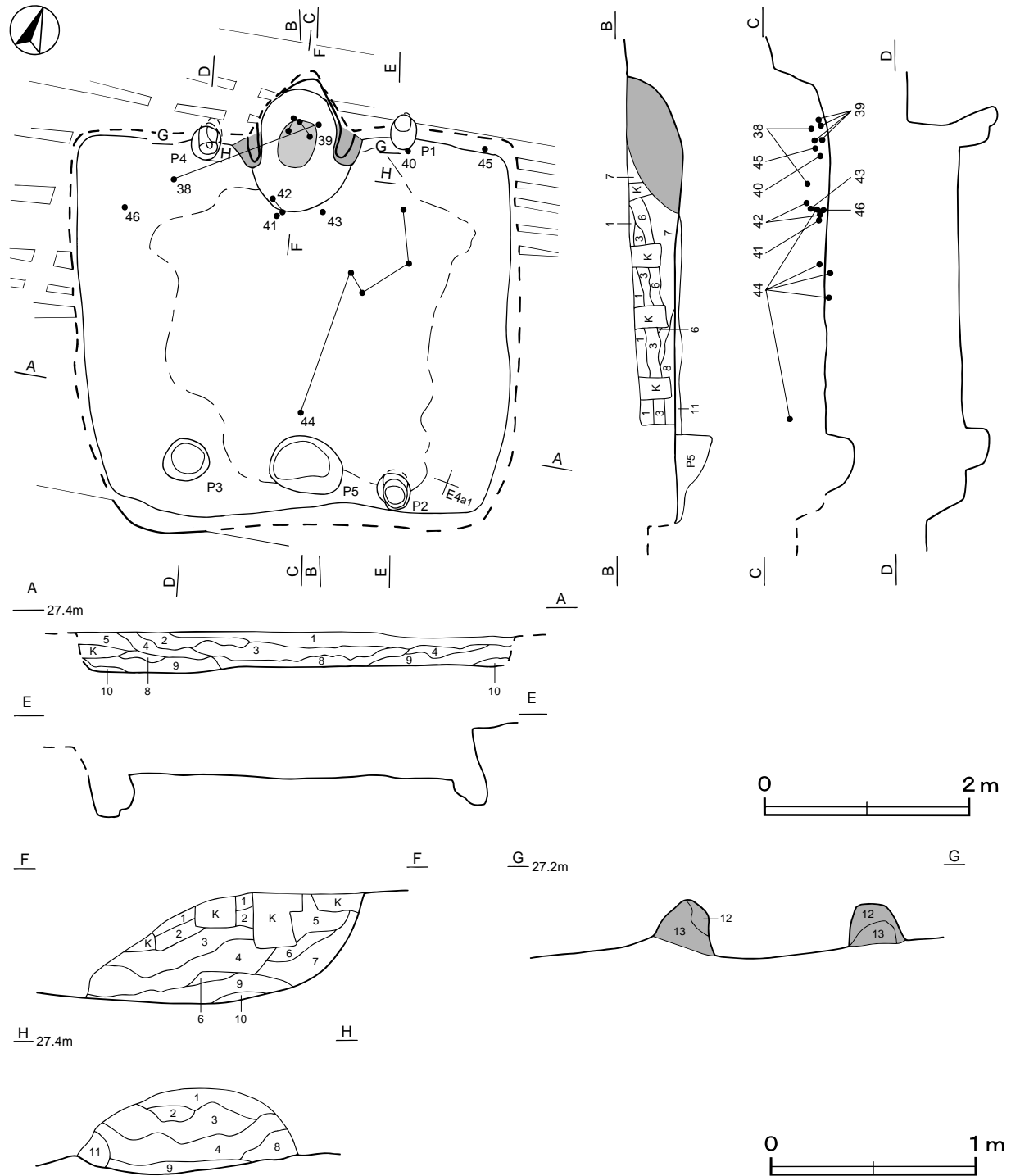
1	黒褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
2	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	7	暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量
3	暗褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量	8	にぶい黄褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	9	黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
5	黒色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	10	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量, 砂質粘土粒子微量
			11	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
			12	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量
			13	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1~P4は深さ28~42cmで, 位置と配置から支柱穴と考えられる。P1・P4は北壁際に位置し, 壁に向かって斜めに掘り込まれている。P5は深さ29cmで, 南壁際から斜めに掘り込まれていることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。いずれも第6B号住居跡の構築の際に掘り込まれており, 拡張後も引き続き機能していたと考えられる。

覆土 10層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第11層は貼床の構築土である。

土層解説

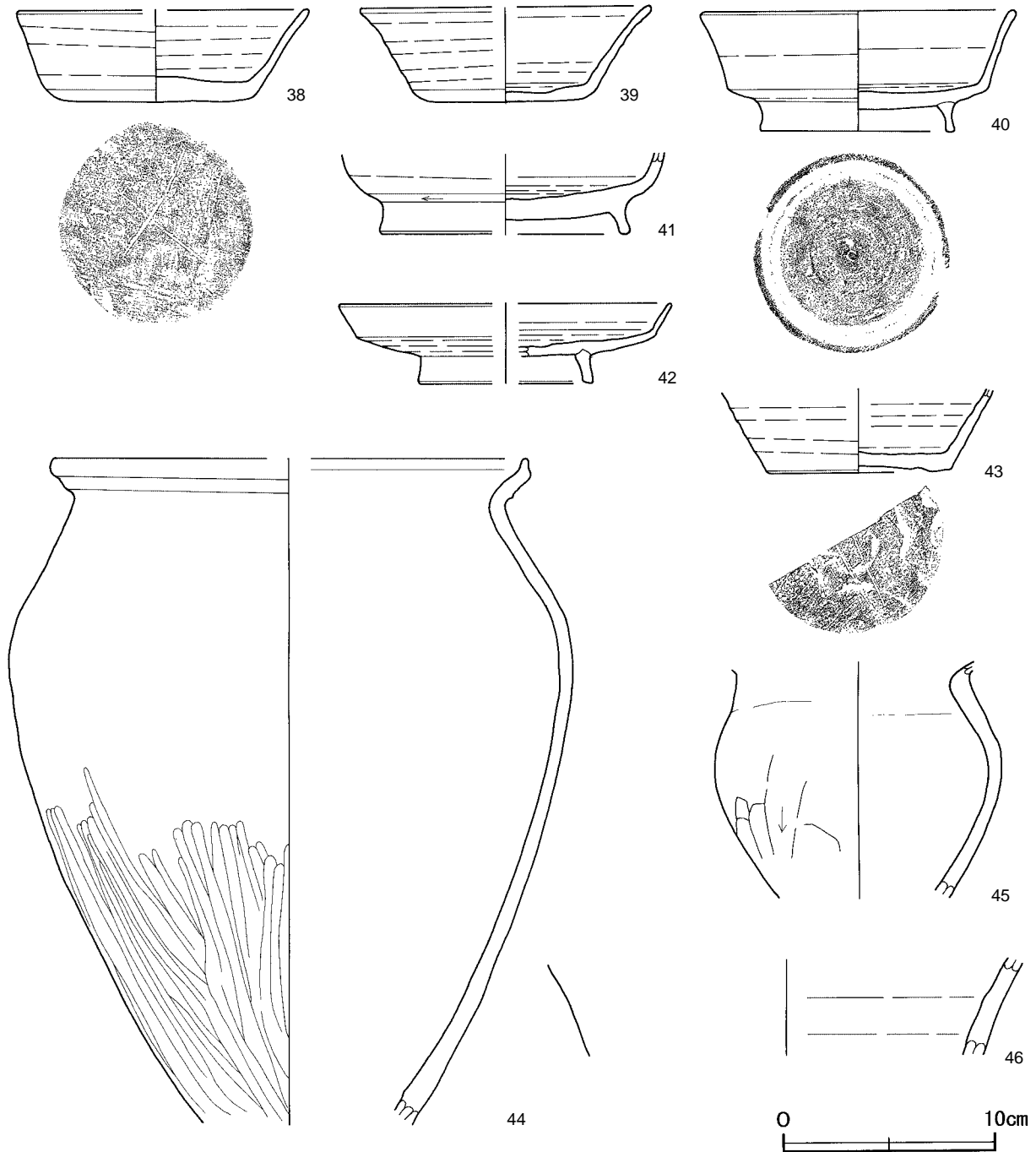
- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・鹿沼パミス微量 | 11 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子・ローム粒子微量 | | |



第33図 第6 A号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片292点（坏2，甕290），須恵器片84点（坏46，高台付坏19，盤4，蓋10，甕5），鉄滓1点が，竈付近を中心に出土している。39は火床面から出土した破片が接合したものである。38は右袖内側から斜位で，41・42は焚口部手前の床面から逆位で，43は覆土中層からそれぞれ出土している。44は中央部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡は第6 B号住居跡を東西に拡張している。谷津の斜面部に立地している状況から，土砂の流れ込みによって廃絶され，建て替えを繰り返したものと想定される。3軒の住居の時期差はほとんどないと考えられる。時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第34図 第6 A号住居跡出土遺物実測図

第6 A号住居跡出土遺物観察表 (第34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
38	須恵器	坏	[13.5]	4.4	9.0	長石・石英・赤色 粒子	灰	普通	底部ヘラ削り	覆土下層	80% PL14 ヘラ記号「+」
39	須恵器	坏	[13.5]	4.5	7.3	長石・石英・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り	竈火床面	50% PL14
40	須恵器	高台付坏	14.4	5.8	9.1	長石・石英・小礫	灰白	不良	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	80% PL17
41	須恵器	高台付坏		(3.7)	[11.8]	長石・石英・雲母	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付	竈焚口部	30%
42	須恵器	盤	[15.4]	3.8	[8.0]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	竈焚口部	10%
43	須恵器	長頸瓶		(4.0)	8.8	長石・黒色粒子	灰	良好	底部回転ヘラ切り後一方向のナデ	覆土下層	20% 自然積付着 ヘラ記号「=」
44	土師器	甕	[22.1]	(31.4)		長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端縦位のヘラ磨き	床面	70% PL18
45	土師器	小形甕		(11.1)		長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部縦位のヘラ削り	覆土下層	60%
46	須恵器	甌		(4.6)		長石・石英	黒褐	普通	体部内面口クロナデ	床面	5%

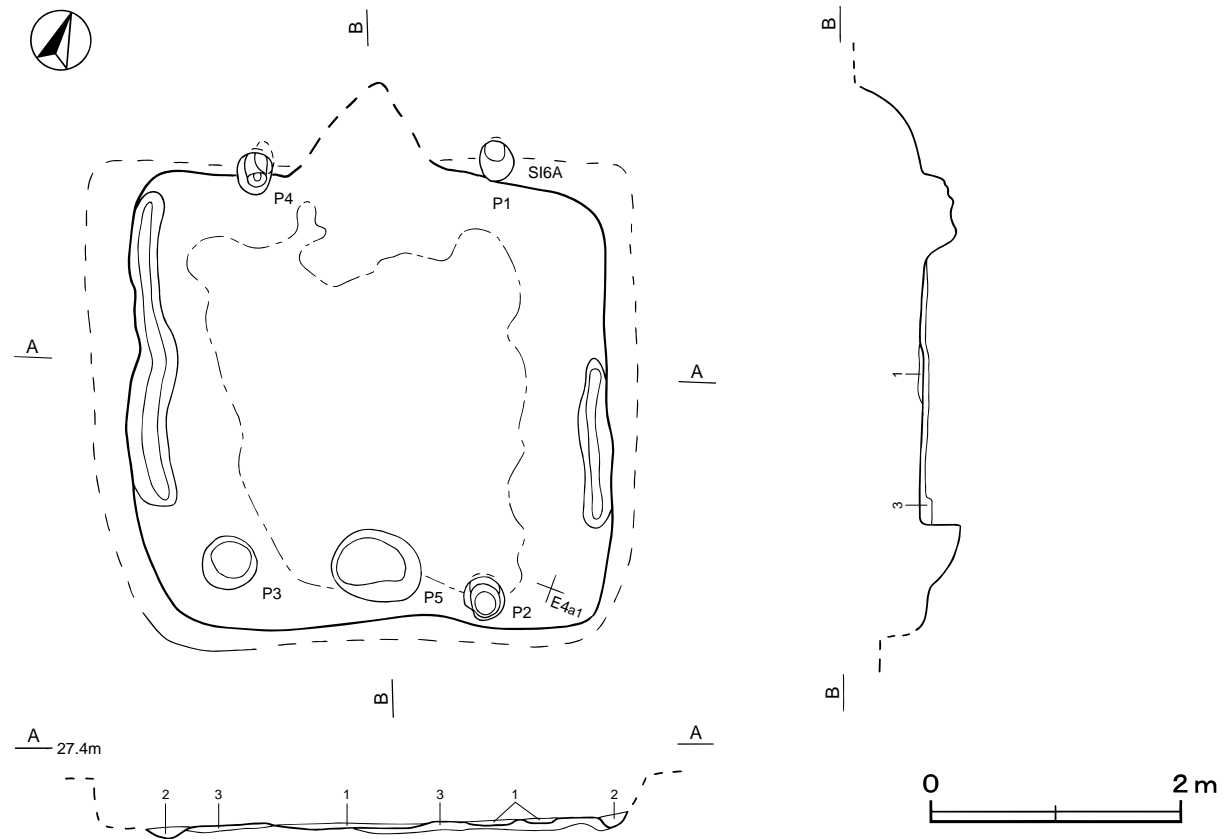
第6 B号住居跡 (第35図)

位置 調査A区のD 3 j0区，谷津に下る標高27mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第6 C号住居跡の南部を拡張して構築しており，本跡を東西に拡張して第6 A号住居が構築されている。

規模と形状 長軸3.90m，短軸3.61mの方形で，主軸方向はN-17°-Wである。

床 中央部が若干硬化している。北部の貼床は，第6 C号住居跡の床上に，ローム土を主体とする褐色の埋土で構築している。南部の貼床は第6 C号住居跡の床を掘り込み，同様の埋土で構築している。壁溝が東西の壁際に確認された。



第35図 第6 B号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されていたと考えられる。

ピット 5か所。P1～P4は深さ28～42cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ29cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。いずれも第6C号住居跡の拡張後に掘り込まれている。

覆土 2層に分層される。第2層は壁溝の覆土、第3層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | | |

所見 第6C号住居跡の床面に見られる黒褐色の層は、住居内に流れ込んだ谷津の土と色調、含有物等が一致する。これらのことから、土砂の流入によって廃絶した第6C号住居跡を拡張し、新たに床を貼って本住居を再建した可能性が想定される。時期差はほとんどなく、8世紀後葉と考えられる。

第6C号住居跡 (第36図)

位置 調査A区のD3j0区、谷津に下る標高27mの緩斜面部に位置している。

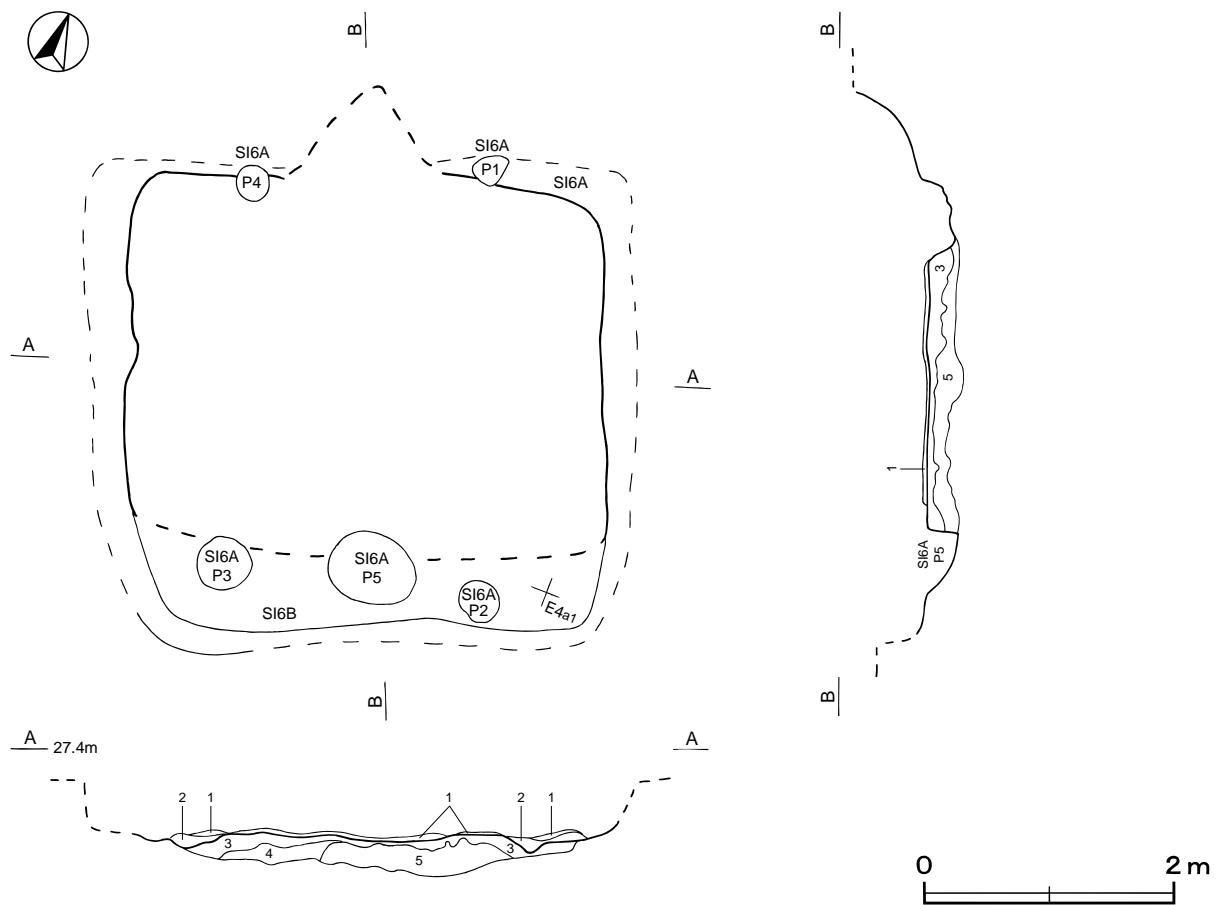
重複関係 本跡を南北に拡張して第6B号住居が構築されている。

規模と形状 南北軸推定3.12m、東西軸3.90mの長方形で、主軸方向はN-17-Wである。

床 全体的に軟弱な貼床である。貼床は全体的に25cmほど掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。南部の床面は第6B号住居の建て替えの際に一部掘り込まれている。

竈 北壁中央部に付設されていたと考えられる。

覆土 2層に分層される。第1層は流れ込んだ黒色土、第3～5層は貼床の構築土である



第36図 第6C号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|--------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗 褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 暗 褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量 |
| 3 明 褐色 | ローム粒子中量, 鹿沼パミス少量 | | |

所見 本跡に伴う柱穴は存在しなかったと想定される。床面が軟弱であることや、床面に谷津と同様の黒褐色土が堆積していることから、比較的早い段階で第6 B号住居への拡張が行われたと考えられ、時期差はほとんどなく、8世紀後葉と考えられる。

第7号住居跡（第37・38図）

位置 調査A区のC 3 f5区、標高28mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.02m、短軸3.51mの長方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は16~31cmで、外傾して立ち上がっている。

床 中央部が広い範囲で踏み固められている。貼床は四隅を浅く、中央部を深く掘り込み、ローム土を主体とする暗褐色土を埋土して構築している。壁溝が北壁と南東コーナー部を除いて周回している。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cm、袖部幅が130cmである。袖部は床面を掘り込み、ローム土主体の埋土を充填し、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を15cm掘りくぼめてローム土を埋め戻して構築されている。火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|---------|------------------------------------|
| 1 暗 褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化物微量 | 8 黒 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 暗 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗 赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 11 暗 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 暗 褐色 | 炭化粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗 褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化物微量 | | |

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ33~49cmで、規模と位置から支柱穴と考えられ、それぞれ壁から中央部に向かって斜めに掘り込まれている。P 5は深さ26cmで、南壁中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

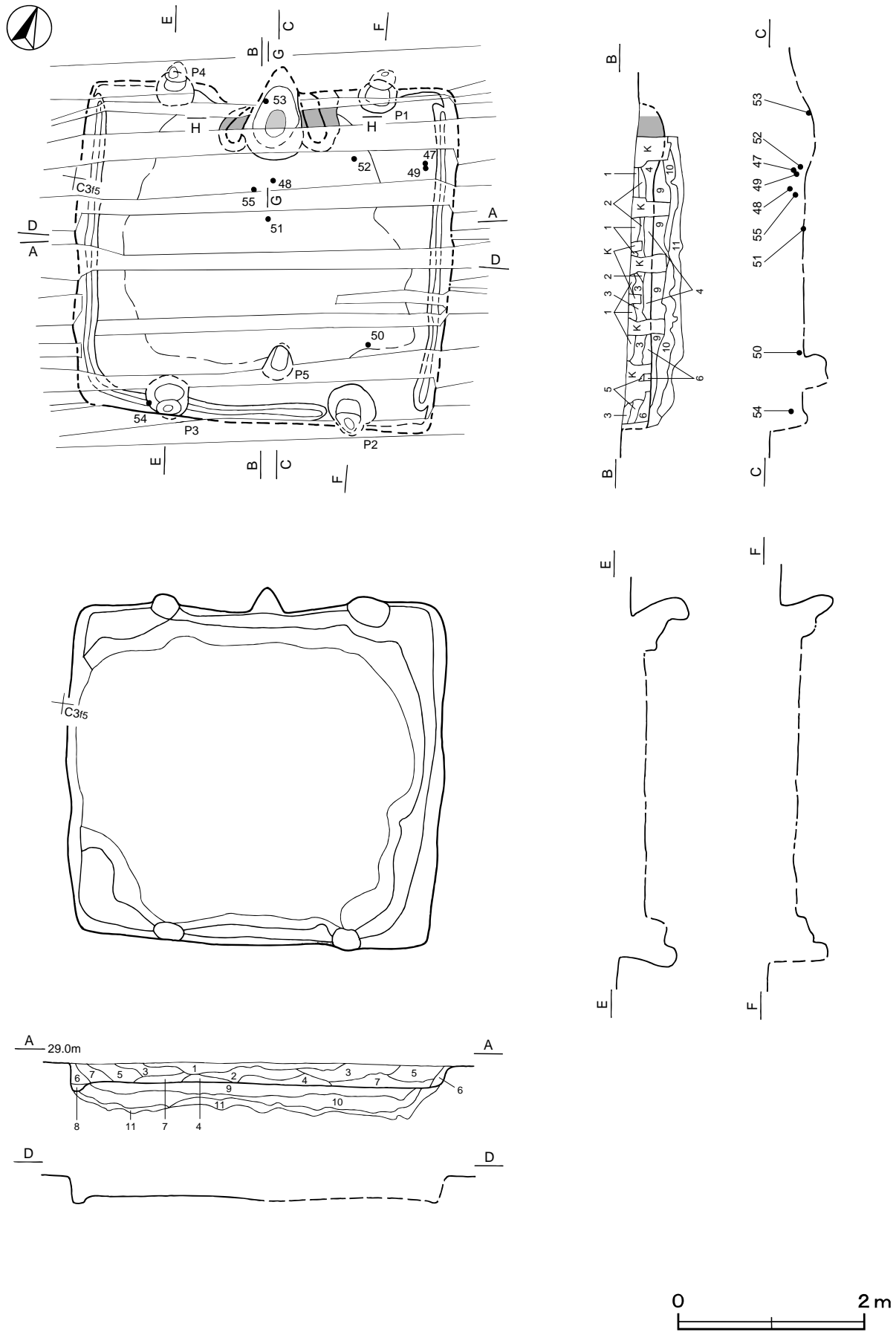
覆土 8層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。第9~11層は貼床の構築土である。

土層解説

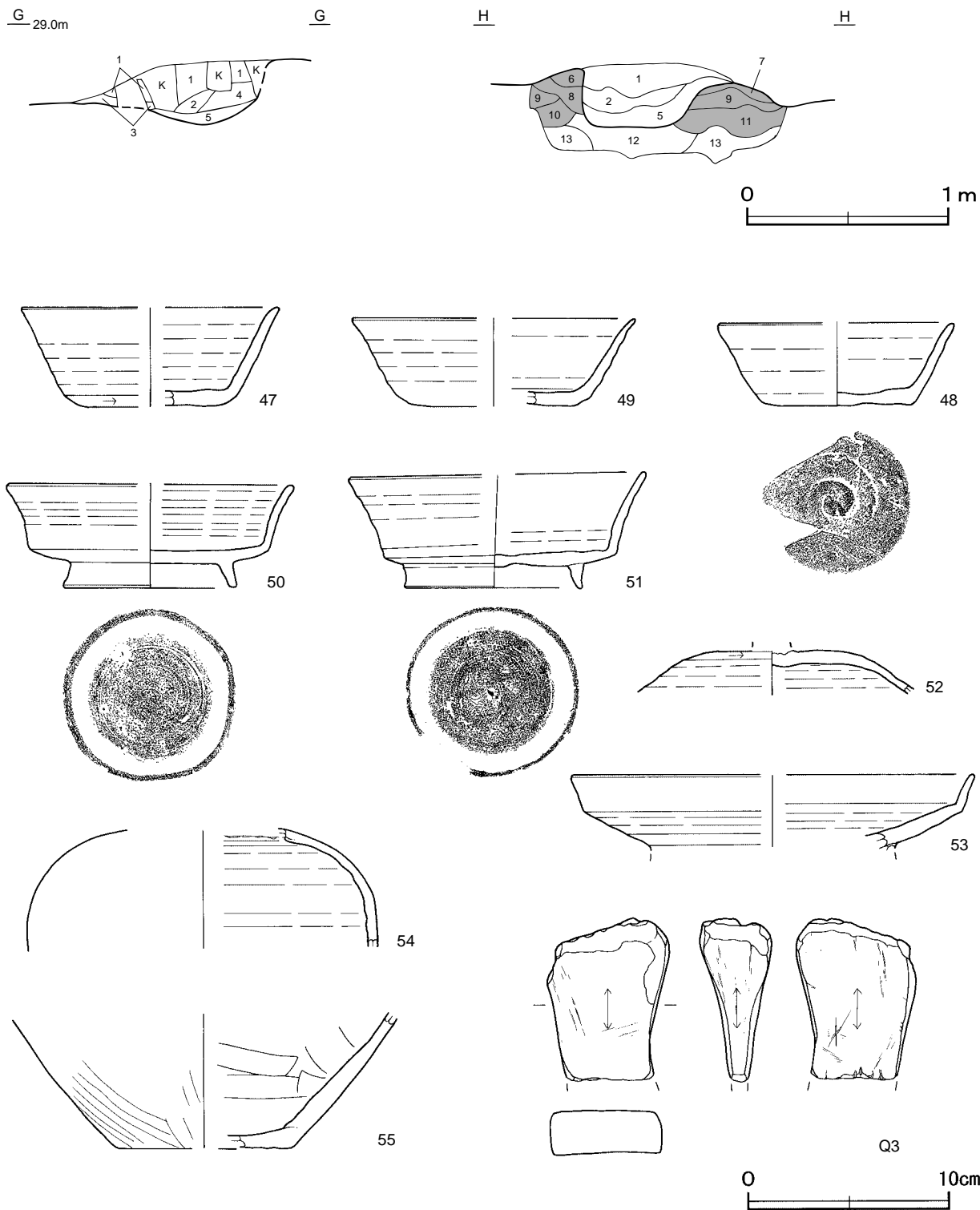
- | | | | |
|--------|---------------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 7 暗 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 9 暗 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 黒 褐色 | ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 10 暗 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗 褐色 | ローム粒子中量 | 11 褐色 | ローム粒子多量 |
| 6 暗 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片33点（甕）、須恵器片64点（坏44、高台付坏6、盤1、蓋8、壺4、甕1）、石器1点（砥石）の他に、流れ込んだ縄文土器片6点も出土している。50は東壁際の床面から正位で、53は竈の火床部奥から逆位で出土している。51は掘り方の埋土から出土している。

所見 支柱穴の位置と形状から、上屋構造の違いが考えられる。時期は出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第37图 第7号住居跡実测图



第38図 第7号住居跡・出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表 (第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
47	須恵器	坏	[12.5]	4.9	[7.1]	長石	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 内・外面口クロナデ	床面	45% PL14
48	須恵器	坏	[11.4]	4.1	7.4	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土下層	30%
49	須恵器	坏	[13.8]	4.4	[8.4]	長石・石英	灰白	不良	内・外面口クロナデ	覆土下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
50	須恵器	高台付杯	[13.9]	5.1	8.4	長石	黄灰	普通	内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付	床面	55% PL17
51	須恵器	高台付杯	[14.5]	5.8	8.7	長石・石英	灰	普通	内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付	掘り方	50% PL17
52	須恵器	蓋		(2.2)		長石	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	60%
53	須恵器	盤	[19.8]	(3.6)		長石・石英・雲母	灰	普通	体部回転ヘラ削り	竈火床面	10%
54	須恵器	壺		(5.9)		長石・黒色粒子	赤灰	良好	内面口クロナデ	覆土下層	20%
55	土師器	甕		(6.7)	[8.5]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端縦位のヘラ磨き 内面ヘラ削り	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	砥石	(8.1)	6.1	3.6	(154.0)	花崗岩	砥面4面	覆土中	PL23

第8号住居跡 (第39～42図)

位置 調査A区のD3j3区, 標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸5.29m, 短軸4.98mの方形で, 主軸方向はN-4°-Wである。壁高は29～53cmで, 直立している。

床 中央部が踏み固められている。中央部は地山を掘り残して床面としているが, 外周部は, 壁際を幅50cmほど掘り込み, 鹿沼パミスを含む暗褐色土を埋土して構築している。壁溝が, 北東コーナー部を除いて周回している。

竈 北壁中央部から東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで138cm, 袖部幅が127cmである。袖部は10cmほど掘り込み, ロームブロック主体の土を基部とし, 灰白色の粘土で構築されている。右袖部はさらに灰白色の粘土の上に砂質粘土を重ねている。火床部は床面を20cmほど掘りくぼめて, ローム土を充填している。火床面は中央部からやや左に寄っており, 火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込み, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

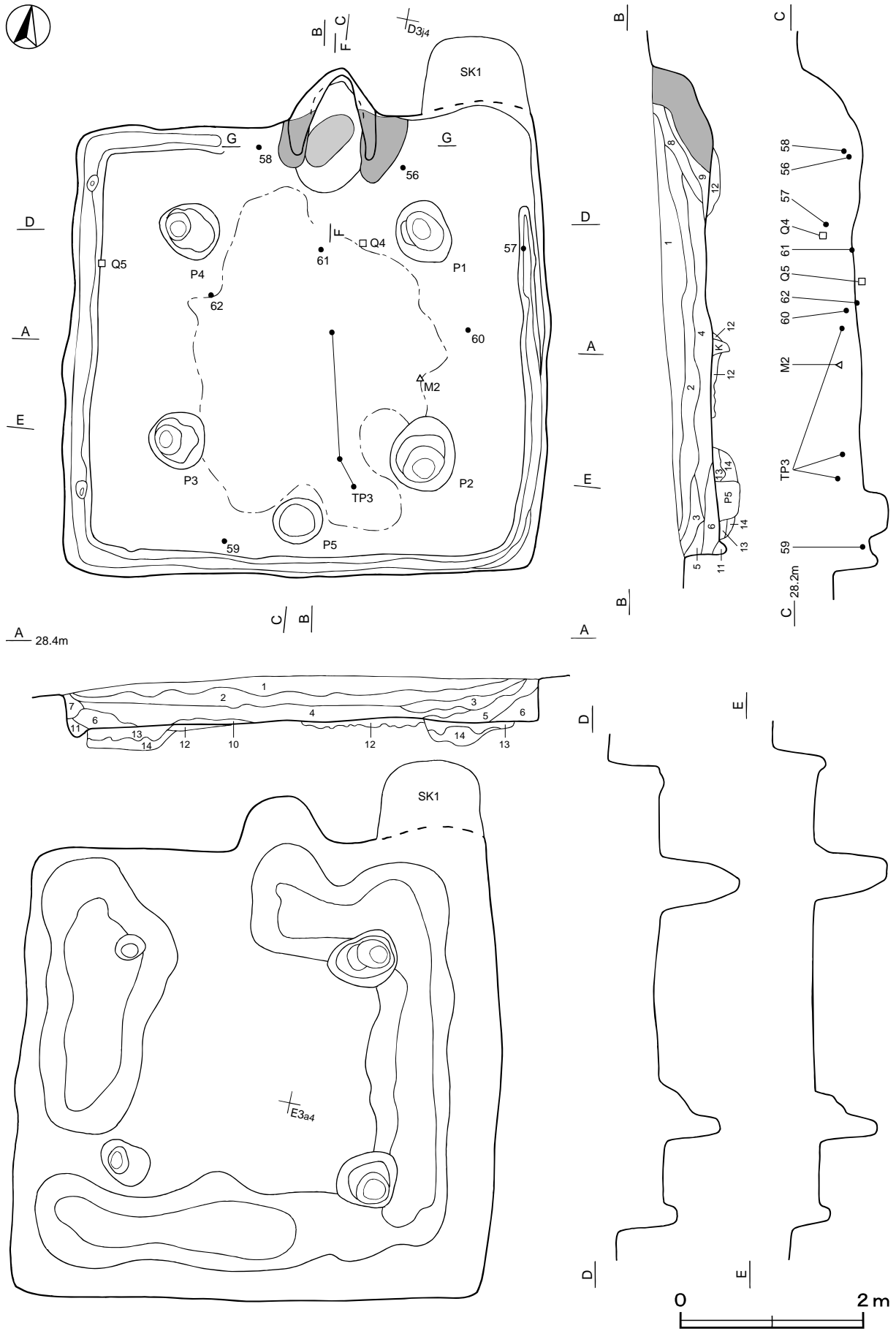
1 暗褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 黄褐色	砂質粘土粒子多量
2 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量	9 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量
3 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量	10 暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量	11 暗赤褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量
5 褐色	砂質粘土粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量	12 暗褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量
6 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量	13 褐色	ロームブロック中量
7 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量	14 暗赤褐色	焼土粒子多量, ロームブロック少量
		15 暗褐色	ロームブロック中量

ピット 5か所。P1～P4は深さ62～87cmで, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ28cmで, 位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

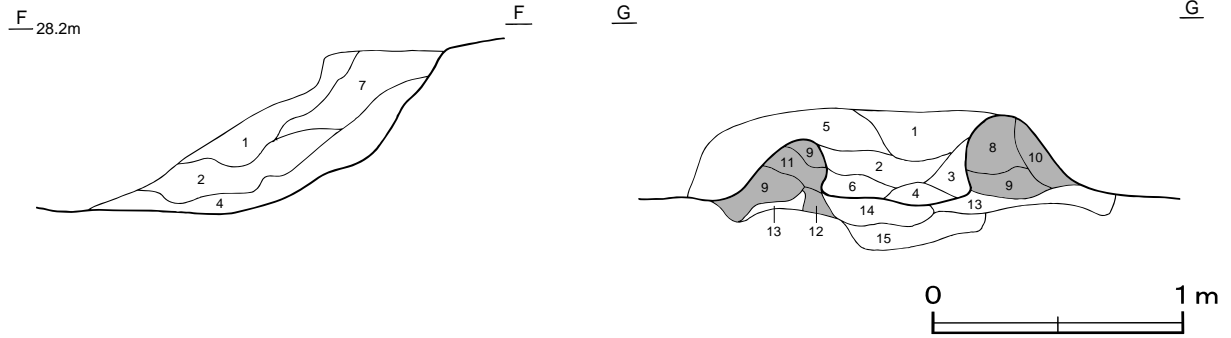
覆土 11層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第12～14層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	9 暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ローム粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
6 褐色	ロームブロック中量	14 暗褐色	ローム粒子・鹿沼パミス中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
7 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量		
8 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量		



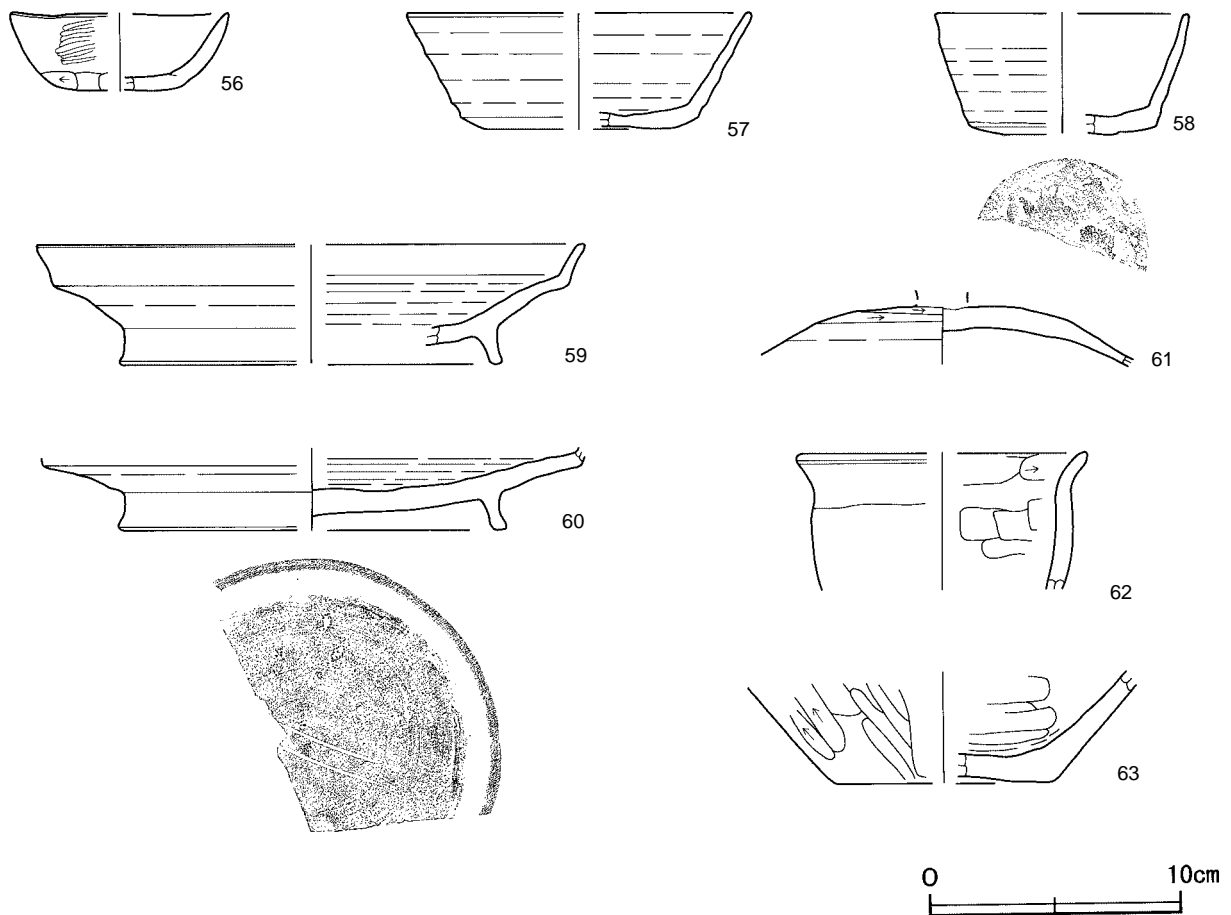
第39图 第8号住居跡実测图(1)



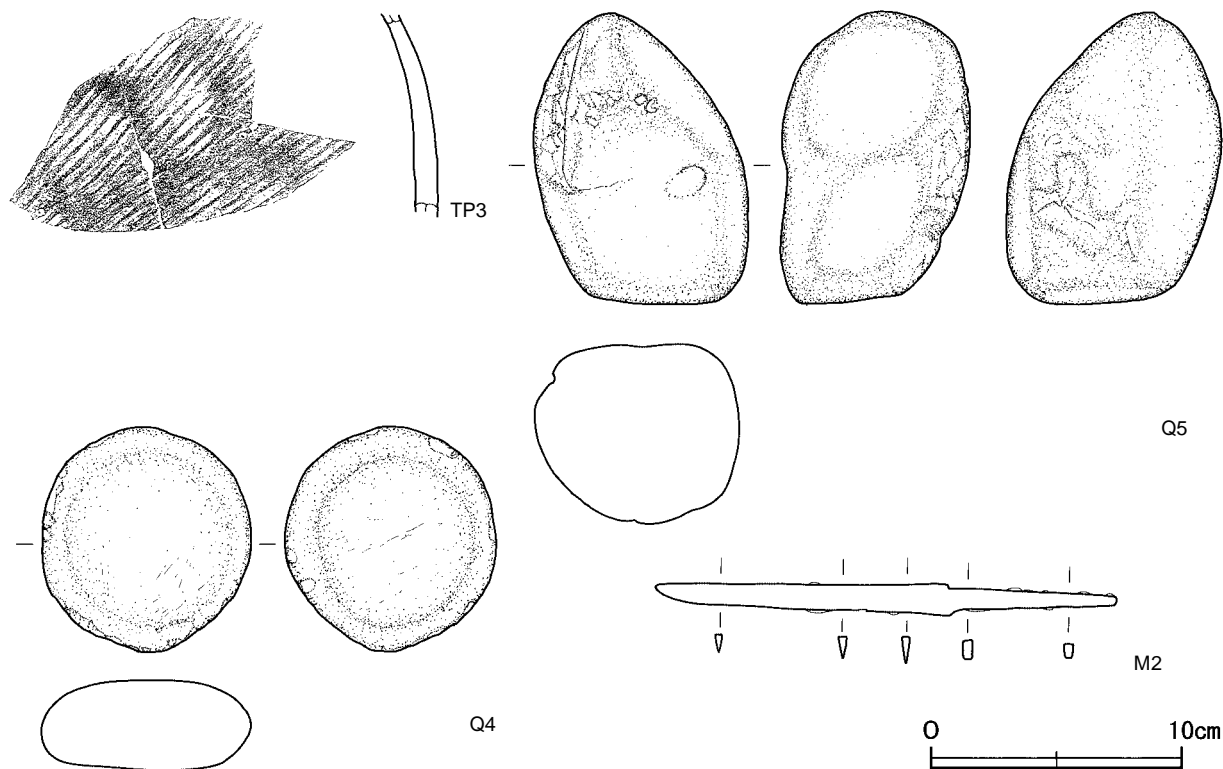
第40図 第8号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片281点(坏10, 甕271), 須恵器片109点(坏71, 高台付坏1, 盤7, 蓋17, 甕13), 石器4点(磨石3, 敲石1), 金属器1点(刀子)が出土している。土器のほとんどは破片で全域から出土しており, 覆土の第2層に集中していることから, 住居廃絶後のくぼみに廃棄されたものが多いと考えられる。61は竈前面の床面から逆位で, 62は西部の床面から正位でそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第41図 第8号住居跡出土遺物実測図(1)



第42図 第8号住居跡出土遺物実測図(2)

第8号住居跡出土遺物観察表(第41・42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
56	土師質土器	坏	[8.5]	3.1	[4.9]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 体部横位のヘラ磨き	覆土下層	20%
57	須恵器	坏	[13.5]	4.6	[7.8]	長石・石英	灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土中層	40% PL14
58	須恵器	坏	[9.8]	4.8	[7.3]	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り	覆土下層	35%
59	須恵器	盤	[21.4]	4.8	[14.8]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付	覆土下層	10%
60	須恵器	盤		(3.3)	[15.0]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	25% ヘラ記号「=」
61	須恵器	蓋		(2.3)		長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	40%
62	土師器	小形甗	[11.2]	(5.5)		長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面横位のヘラ削り	床面	10%
63	土師器	甗		(4.4)	[8.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端縦位のヘラ磨き 内面横位のヘラ削り	覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP3	須恵器	甗		(8.0)		石英	黄灰	普通	外面斜位の平行叩き	覆土中層	

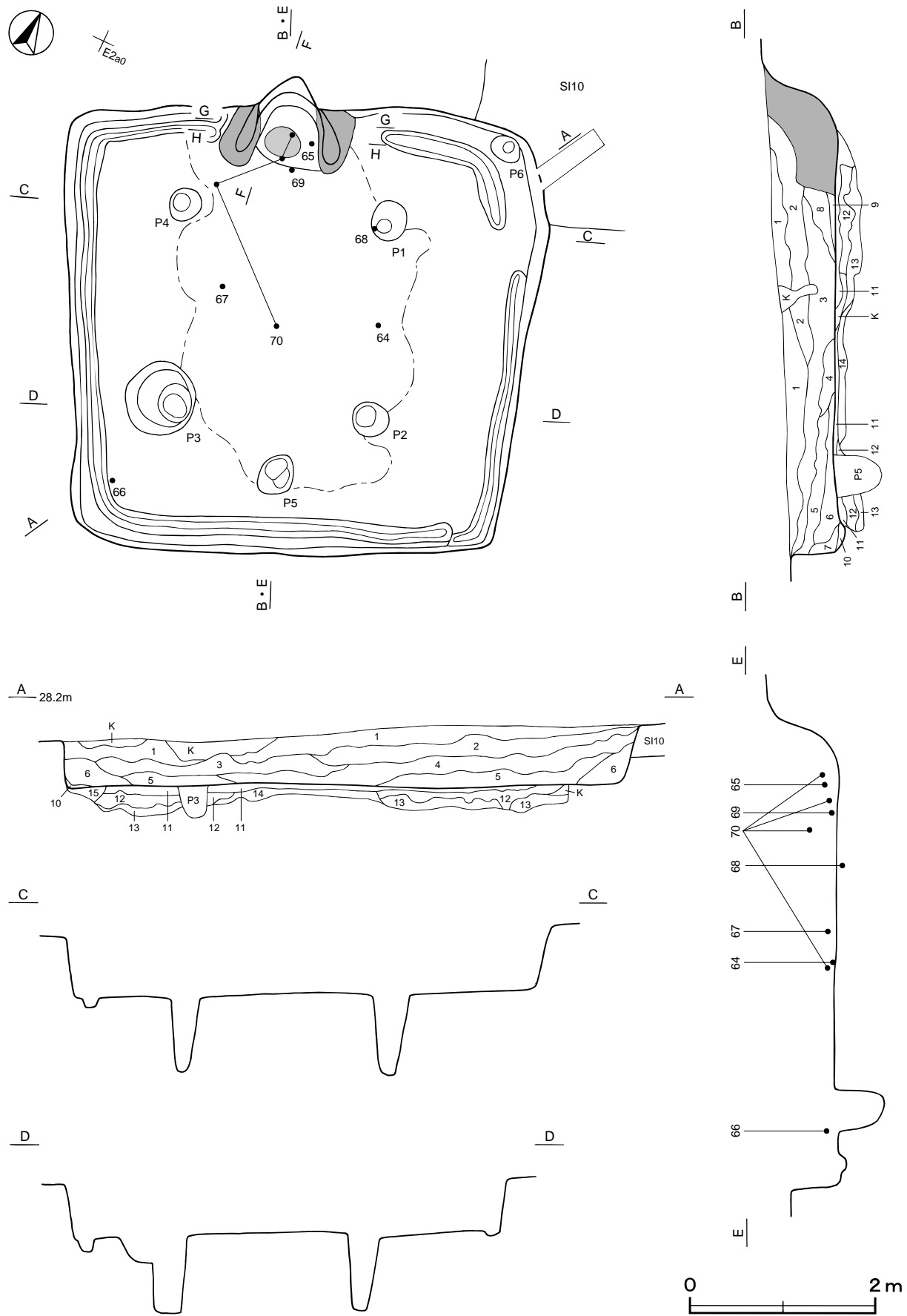
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	磨石	9.1	8.3	3.5	376.0	砂岩	全面研磨痕 側面に敲打痕	覆土中層	
Q5	磨石	11.6	8.5	7.5	1010.0	砂岩	使用面3面	壁溝	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	刀子	18.3	1.3	0.4	12.1	鉄	断面三角形	覆土中層	PL24

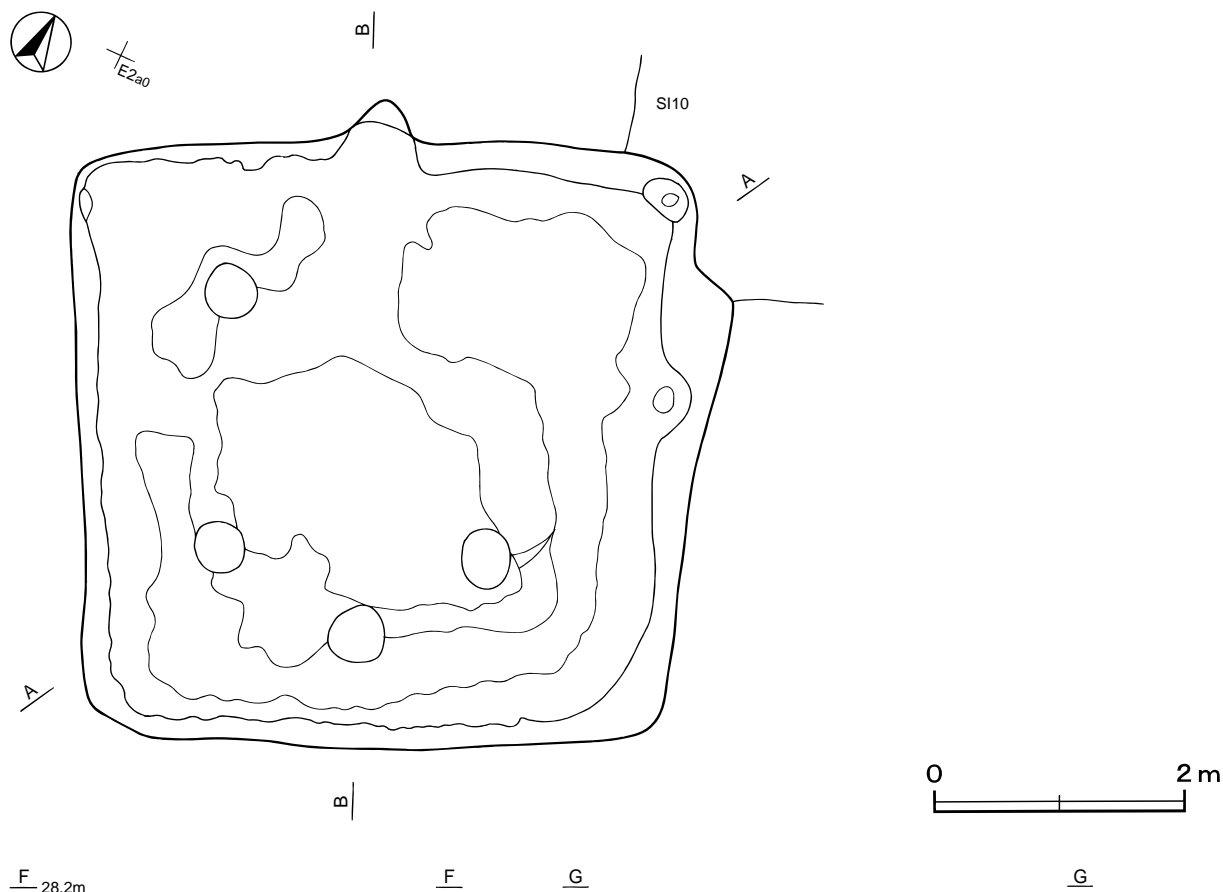
第9号住居跡(第43~46図)

位置 調査A区のE2a0区, 標高28mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第10号住居跡の南西コーナー部を掘り込んでいます。



第43图 第9号住居跡実测图(1)

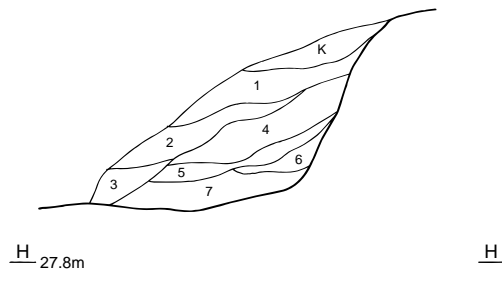


F 28.2m

F

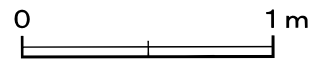
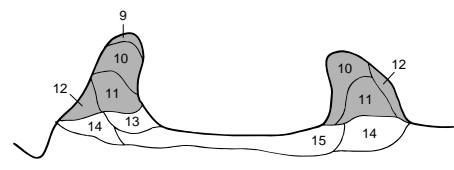
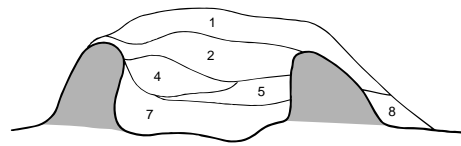
G

G



H 27.8m

H



第44図 第9号住居跡実測図(2)

規模と形状 長軸5.10m, 短軸4.80mの方形で, 主軸方向はN-24°-Wである。壁高は46~70cmで, 直立している。

床 竈の前面から中央部が踏み固められている。貼床は中央部を島状に掘り残し, 壁周辺を一段深く掘り込み, ローム土を主体とする黒褐色土を埋め土して構築している。壁溝が東壁の一部を除いて周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cm, 袖部幅が137cmである。袖部は15cmほど掘り込み, ローム土を充填して基部とし, 粘性の高い灰白色粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど掘り込み, 暗褐色のローム土を充填している。火床面は火熱を受けて硬化している。煙道部は壁外に45cmほど掘り込み, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 暗 褐 色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 暗 褐 色	粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量
3 黒 褐 色	焼土粒子・炭化粒子微量	10 にぶい黄褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子少量
4 暗 褐 色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	11 にぶい黄褐色	粘土粒子多量
5 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗 褐 色	粘土粒子少量, ロームブロック微量
6 黒 褐 色	炭化粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	13 暗 赤 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量
7 極 暗 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	14 褐 色	ロームブロック中量
		15 暗 褐 色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ61～67cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ51cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ21cmで、北東壁際に位置しているが、性格は不明である。

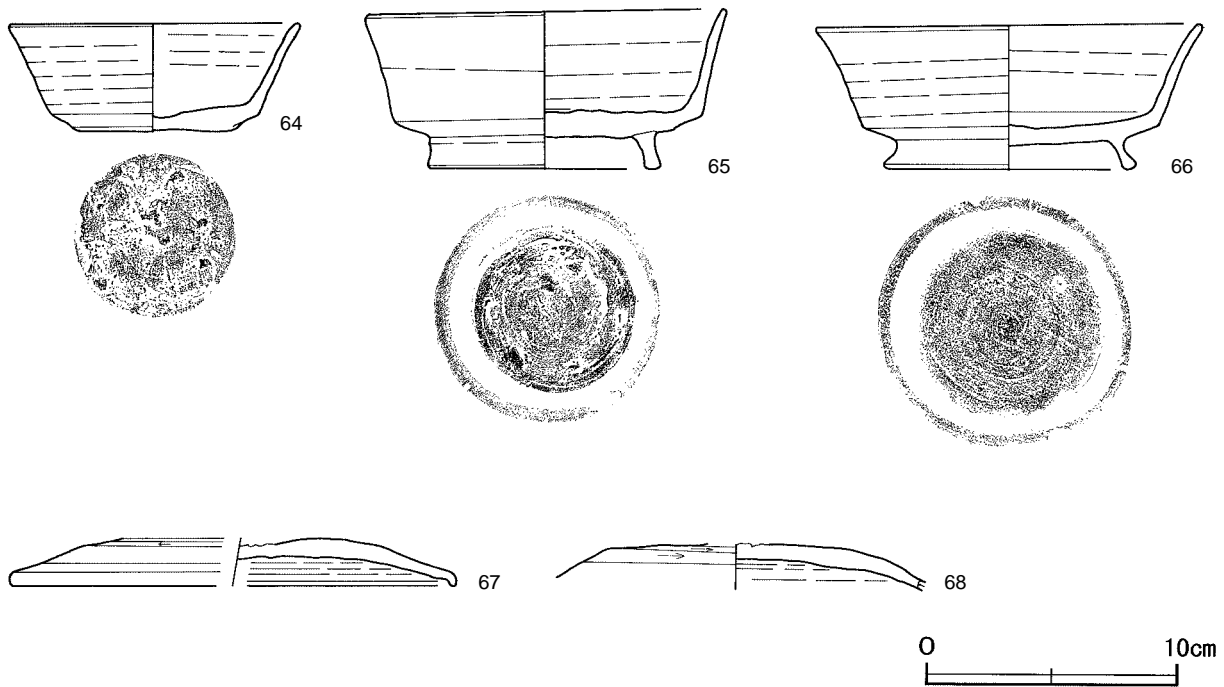
覆土 10層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第11～15層は貼床の構築土である。

土層解説

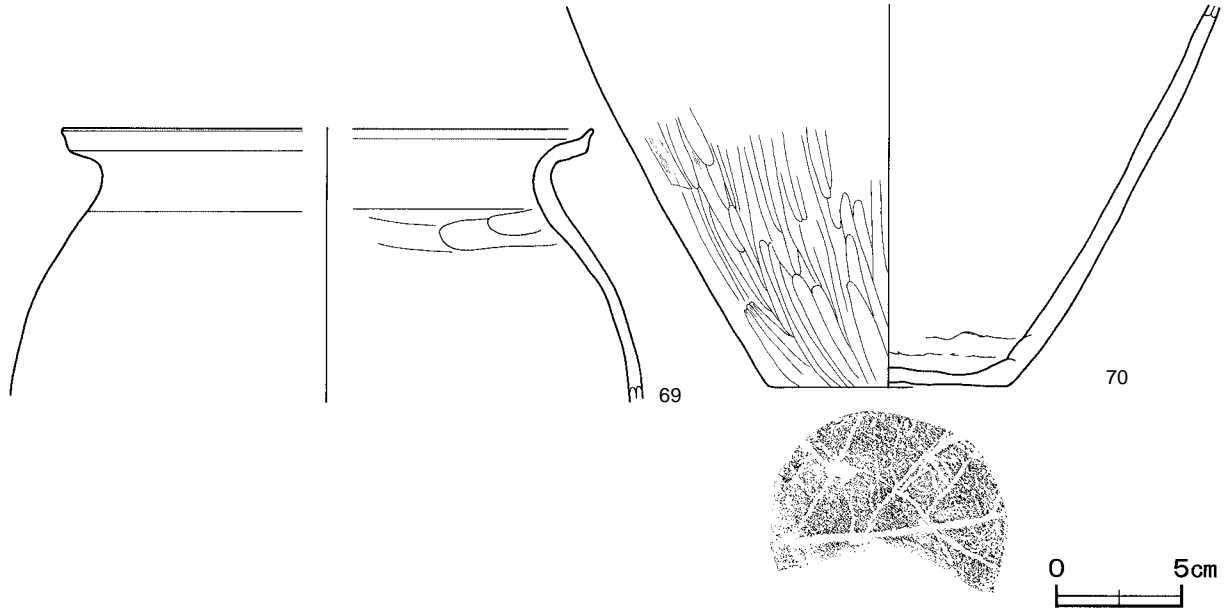
1 暗 褐 色	ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量	9 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量
2 暗 褐 色	ローム粒子中量, 焼土ブロック微量	10 暗 褐 色	ロームブロック中量
3 黒 褐 色	ロームブロック少量	11 黒 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	12 黒 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
5 黒 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量	13 褐 色	鹿沼パミス中量, ロームブロック少量
6 黒 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	14 黒 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
7 黒 褐 色	ロームブロック少量	15 暗 褐 色	ロームブロック少量
8 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片250点（高台付坏1, 甕249）, 須恵器片94点（坏48, 高台付坏15, 盤7, 蓋23, 甕1）, 石器2点（磨石）の他、流れ込んだ縄文土器片11点も出土している。65は竈内の底面から正位で出土している。64は中央部の床面から正位で、67は逆位で、68は斜位でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第45図 第9号住居跡出土遺物実測図(1)



第46図 第9号住居跡出土遺物実測図(2)

第9号住居跡出土遺物観察表(第45・46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
64	須恵器	坏	11.4	4.4	6.4	長石・石英	灰黄	普通	底部ヘラ切り	床面	60%
65	須恵器	高台付坏	13.9	6.4	9.2	長石・石英・小礫	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付	竈火床面	80% PL17
66	須恵器	高台付坏	15.0	5.9	9.6	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	75% PL17
67	須恵器	蓋	[17.6]	(1.9)		長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	30%
68	須恵器	蓋		(1.8)		長石・石英	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	40%
69	土師器	甕	[21.0]	(10.9)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面横位のヘラ削り	床面	15%
70	土師器	甕		(15.2)	9.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端八ヶ目後縦位のヘラ磨き 内面輪種痕	竈下層	25% 内面煤付着

第10号住居跡(第47~49図)

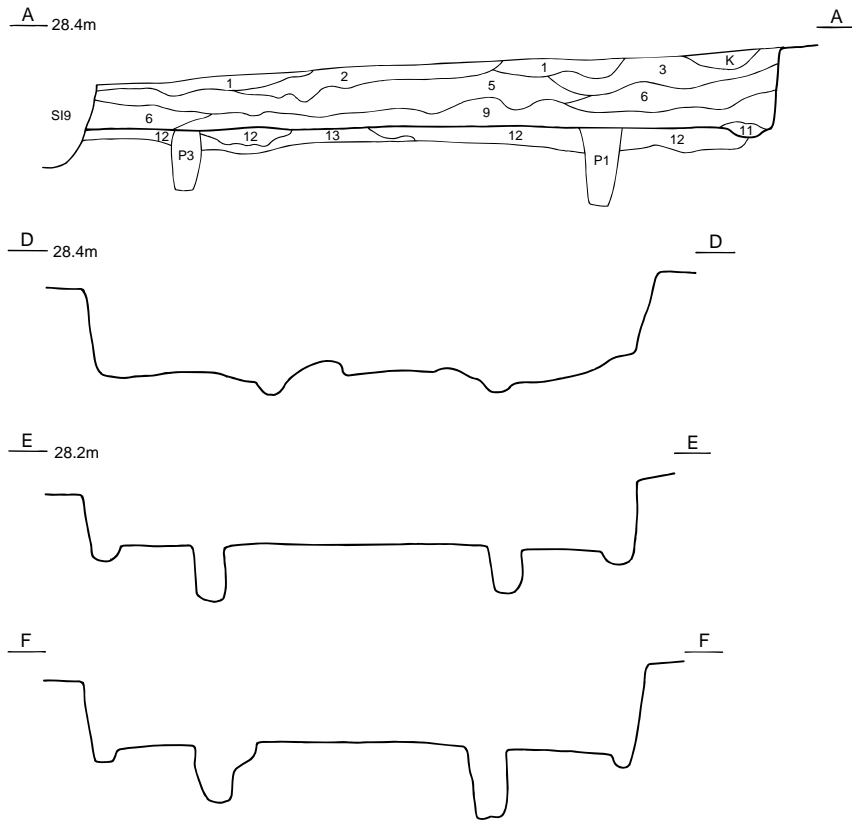
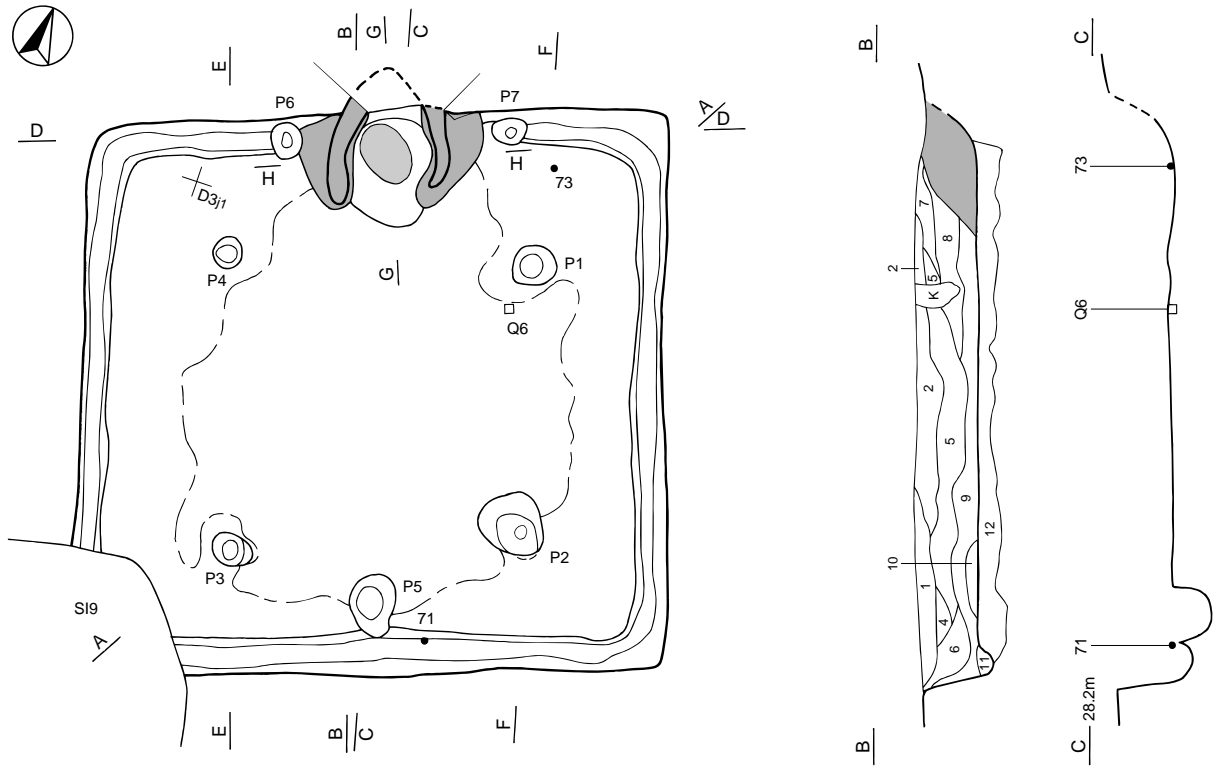
位置 調査A区のD3j1区、標高28mの緩斜面部に位置している。

重複関係 南西コーナー部を第9号住居に掘り込まれている。

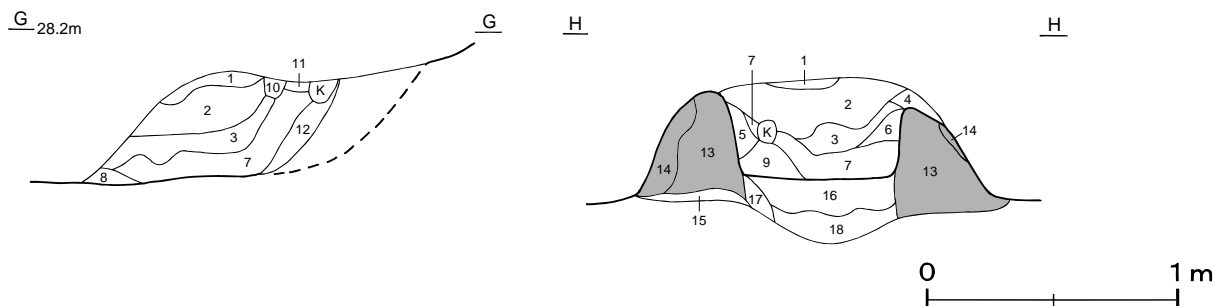
規模と形状 長軸4.66m、短軸4.40mの方形で、主軸方向はN-16-Wである。壁高は41~59cmで、直立している。

床 竈前面から中央部が踏み固められている。貼床は全体的に15cmほど掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は攪乱のため不明瞭である。焚口部から煙道部まで120cmと推定され、袖部幅は145cmである。左袖部は床面にローム土で基部を作り、砂質粘土で構築されている。右袖部は床面に直接砂質粘土で構築されている。火床部は床面を18cm掘り込み、焼土を含むローム土で充填している。火床面及び左袖部内壁は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に掘り込まれているが、攪乱により不明瞭である。



第47图 第10号住居跡実測图(1)



第48図 第10号住居跡実測図(2)

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量 | 10 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量 | 12 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量 | 14 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量 | 16 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| | | 17 褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック微量 |
| | | 18 暗褐色 | ロームブロック中量 |

ピット 7か所。P1～P4は深さ40～61cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ34cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7はともに深さ15cmで、竈の両脇に位置しているが、性格は不明である。

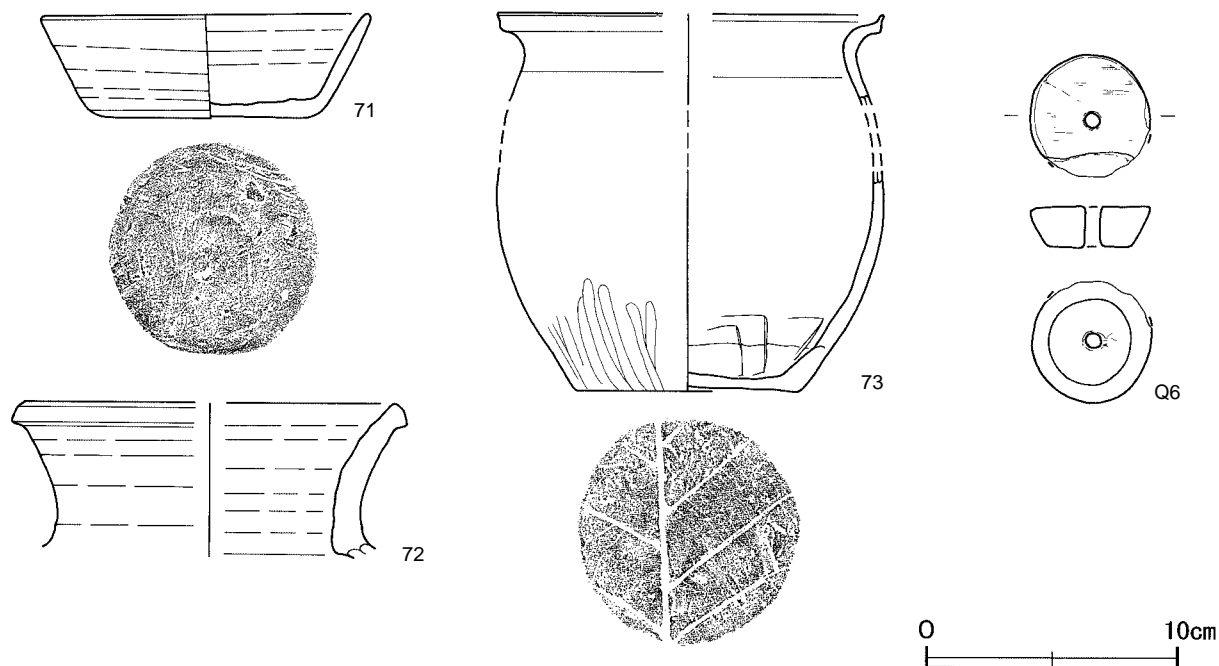
覆土 11層に分層される。北東方向からの土砂の流入が目立つが、ブロック状の堆積状況も確認されるため人為堆積と考えられる。第12・13層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | | |
| 7 褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量 | | |
| 8 明褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片66点(甕), 須恵器片17点(坏15, 甕2), 石製品1点(紡錘車)の他, 流れ込んだ縄文土器片11点も出土している。71は南壁際の壁溝から正位で, 73は竈東側の床面からつぶれた状態で, Q6は中央部東寄りの床面から2つに割れた状態で出土している。72は竈の覆土中から出土しており, 混入したものと考えられる。

所見 竈脇にピットがある住居は当遺跡において複数確認されており, 竈に付随する施設の可能性も想定される。時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第49図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表 (第49図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
71	須恵器	坏	12.8	4.2	7.9	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	壁溝	90% PL14
72	須恵器	長頸瓶	[14.6]	(6.1)		長石	黄灰	普通	内・外面口クロナデ	竈覆土中	5%
73	土師器	小形甕	[15.2]	[15.0]	8.9	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部下端縦位のヘラ磨き	床面	50%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	紡錘車	4.8	0.6	1.5	(50.8)	滑石	両方向からの穿孔 研磨痕を残す	床面	PL23

第11号住居跡 (第50～53図)

位置 調査A区のD 3h2区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

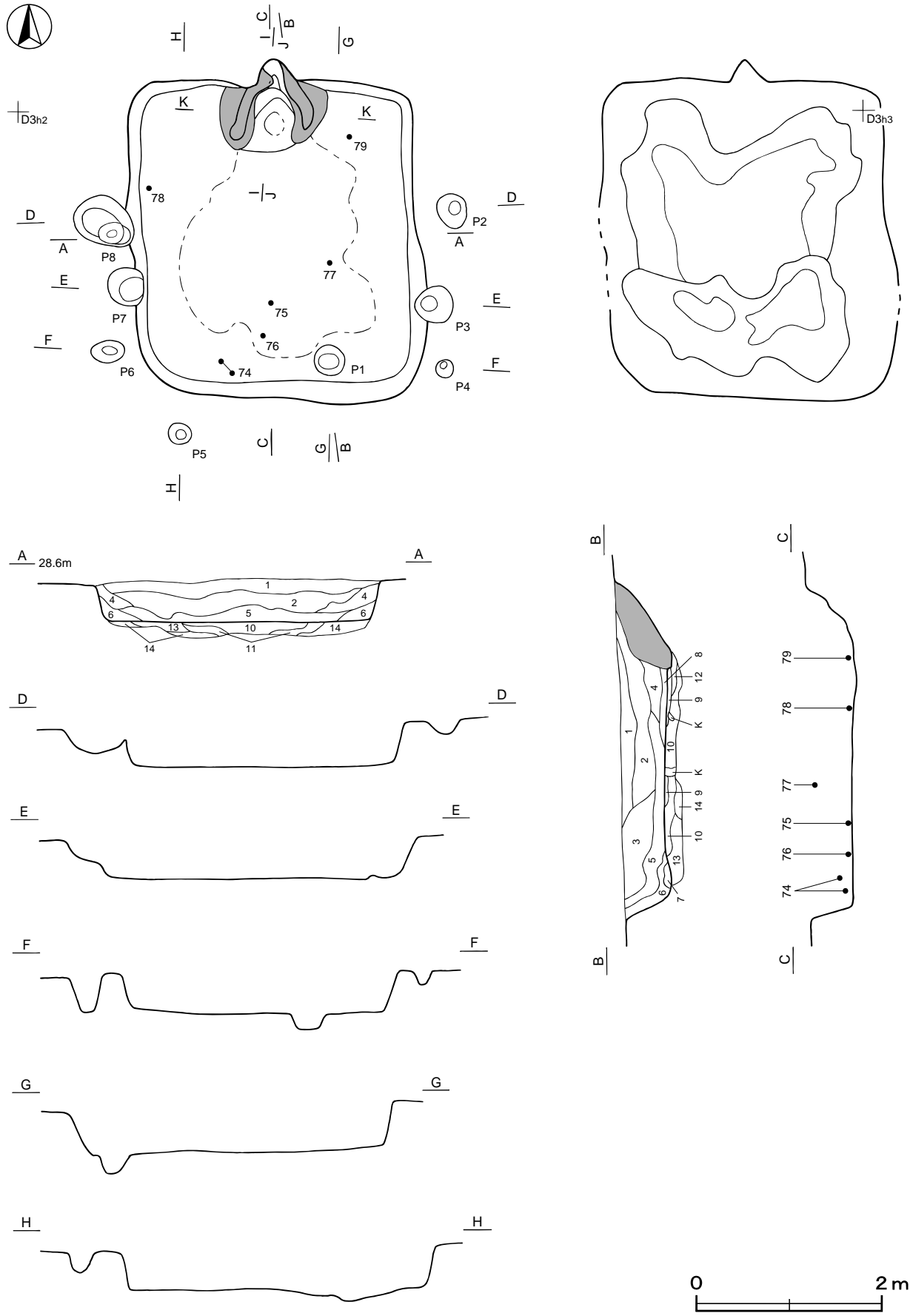
規模と形状 長軸3.50m、短軸3.09mの長方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は41～49cmで、外傾して立ち上がっている。

床 竈から出入り口ピットにかけて踏み固められている。貼床は中央部を10cm、南部を20cmほど二段階に掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。

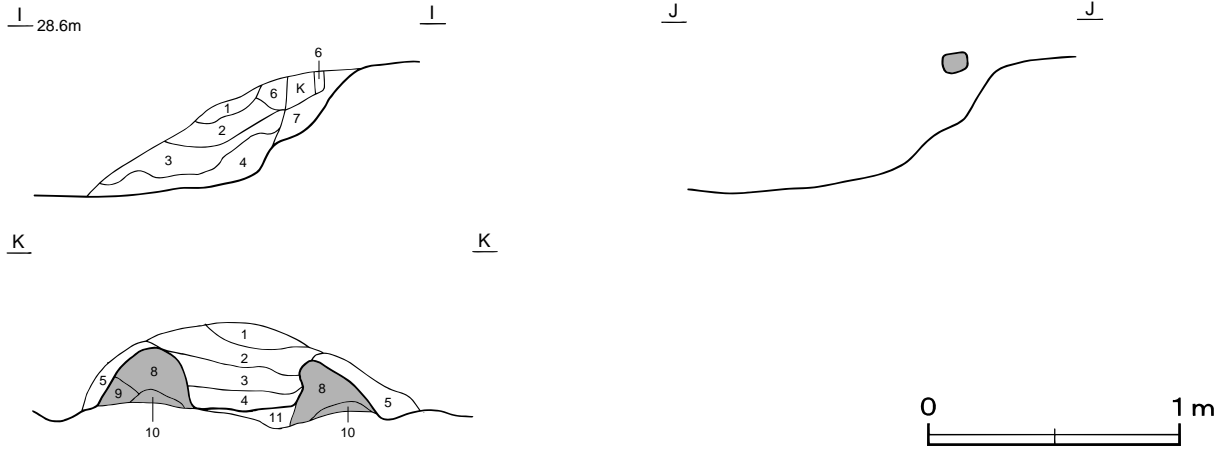
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅が115cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は地山を若干掘り込み、焼土混じりのローム土を充填している。火床面は被熱により硬化しているが、赤変は見られない。煙道部は壁外に25cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量	5	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	6	褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量, ロームブロック微量	7	黒褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量	8	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子微量



第50图 第11号住居跡実測図(1)



第51図 第11号住居跡実測図(2)

- | | | | |
|-------|---------------------|---------|------------------------|
| 9 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量 | 11 暗赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 褐色 | ロームブロック多量, 砂質粘土粒子少量 | | |

ピット 8か所。P2～P8は深さ17～50cmで、住居内に主柱穴が確認されなかったことや、東西壁外に3か所ずつ対になるように配されていることから壁外柱穴と考えられる。P1は深さ18cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

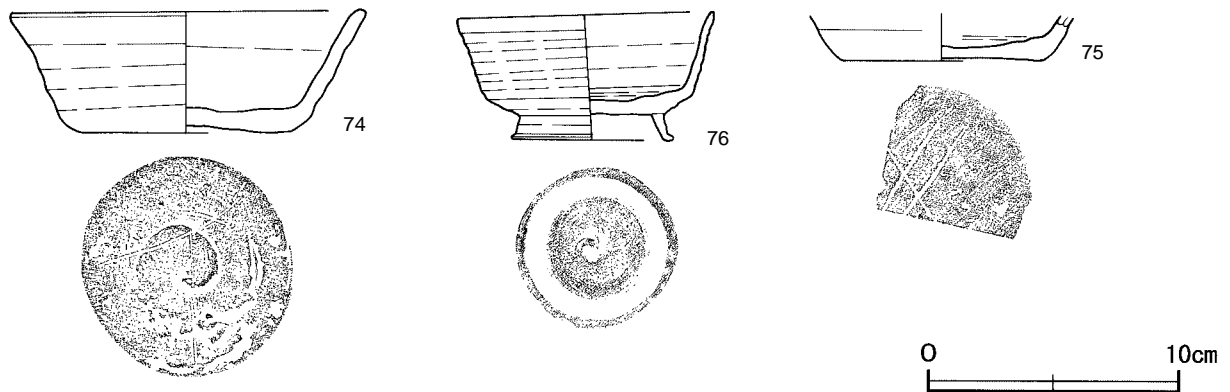
覆土 8層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。第9～14層は貼床の構築土である。

土層解説

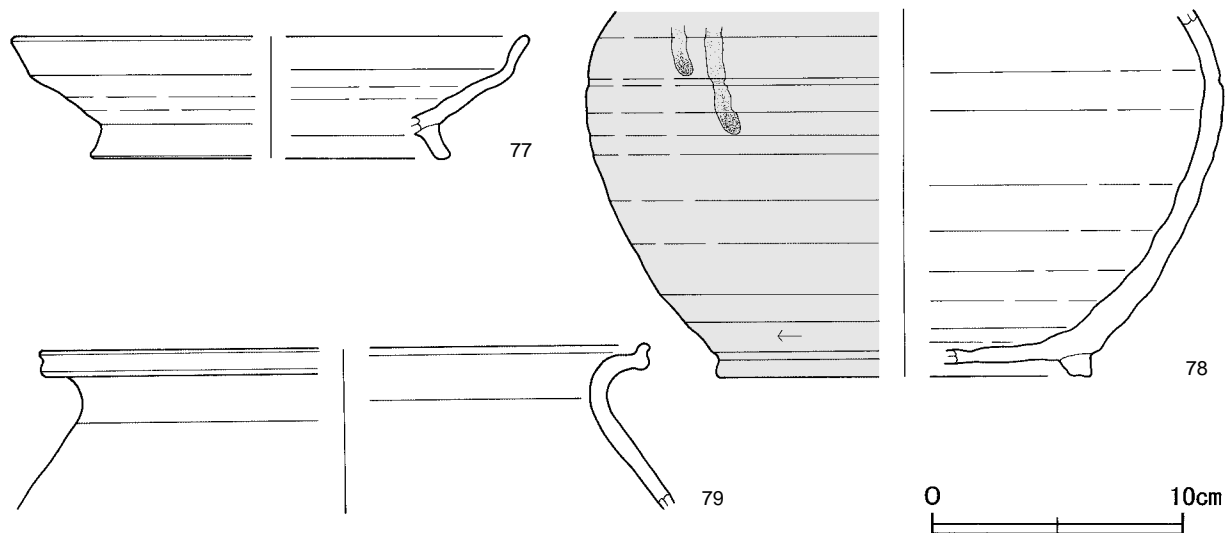
- | | | | |
|----------|--------------------------------|--------|--------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 にぶい褐色 | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子多量, 砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 6 にぶい褐色 | ローム粒子多量 | 13 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量 | 14 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片129点(坏2, 甕127), 須恵器片51点(坏34, 高台付坏4, 盤9, 壺2, 甕2), 土製品1点(支脚)の他、流れ込んだ縄文土器片7点も出土している。76は南壁際の床面から逆位で、78は西壁際の床面から正位で、79は竈東側の床面からつぶれた状態でそれぞれ出土している。74は南壁際の覆土下層、77は中央部の覆土上層から出土している。

所見 当遺跡において、壁外に柱穴を確認できた住居は2軒のみである。時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第52図 第11号住居跡出土遺物実測図(1)



第53図 第11号住居跡出土遺物実測図(2)

第11号住居跡出土遺物観察表(第52・53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
74	須恵器	坏	13.7	4.9	8.5	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	覆土下層	95% PL14 ヘラ記号「大」
75	須恵器	坏		(1.9)	[8.0]	長石・石英・ 小礫・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のナデ	床面	20% ヘラ記号「キ」
76	須恵器	高台付坏	10.1	5.1	6.4	長石・石英・黒色 粒子	灰	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼付	床面	15% PL17
77	須恵器	盤	[20.1]	4.9	[13.9]	長石・石英	灰黄	普通	内・外面口クロナデ	覆土上層	15%
78	須恵器	壺		(14.6)	[14.8]	長石・黒色粒子	灰黄	良好	体部下端回転ヘラ削り 口クロナデ	床面	10% 内面自然釉 外面施釉 PL18
79	土師器	甕	[23.8]	(6.6)		長石・石英・雲母	橙	良好	口縁部内・外面横ナデ	床面	5%

第12号住居跡(第54図)

位置 調査A区のD3d1区, 標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第13号住居跡の北西コーナーを掘り込んでいます。

規模と形状 長軸3.22m, 短軸2.85mの長方形で, 東・西壁はやや弧状に張っている。主軸方向はN-22°-Eである。壁高は29~30cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 中央部が踏み固められている。貼床は中央部を深く掘り込み, ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁中央部に付設されているが, 攪乱のため規模, 形状は確認できなかった。煙道部は壁外に41cmほど掘り込まれている。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量	4	褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量	5	暗褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子微量			

ピット 深さ26cmで, 位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

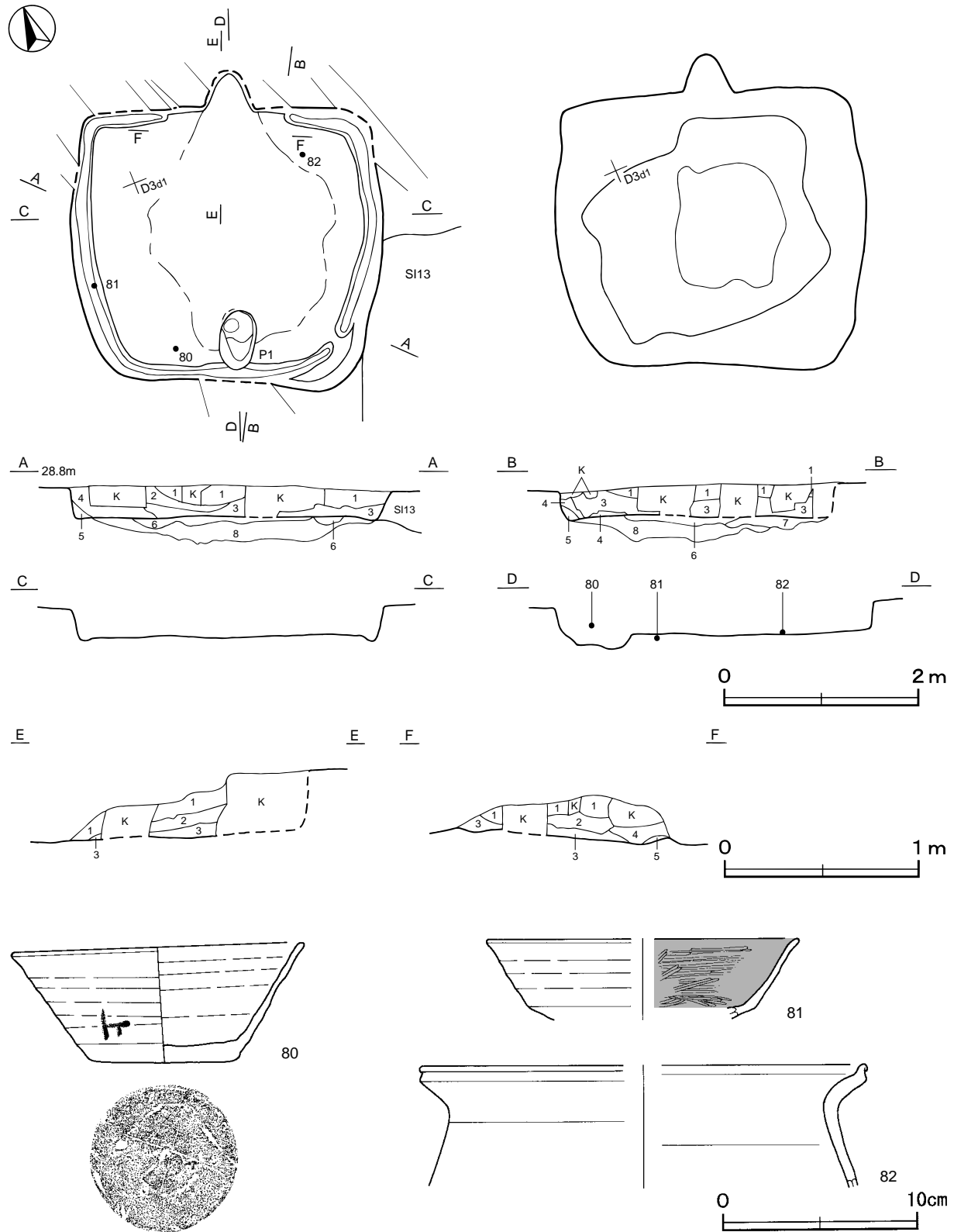
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第6~8層は貼床の構築土である。

土層解説

1	褐色	ローム粒子中量	5	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量	6	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子中量, 炭化物微量	7	黄褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量	8	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片89点（坏6，甕83），須恵器片21点（坏16，高台付坏1，甑4）が出土している。81は西壁下の壁溝から逆位で、82は北壁際の床面から正位で出土している。80は南部の覆土中層から斜位で出土しており、体部に「上」と墨書されている。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。



第54図 第12号住居跡・出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表 (第54図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
80	須恵器	坏	14.6	6.2	7.4	長石・石英・黒色 粒子	灰白	不良	内・外面口クロナデ	床面	80% 墨書「上」 ヘラ記号「+」 PL15
81	土師器	高台付坏	[15.9]	(4.1)		長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き	壁溝	20%
82	土師器	甕	[22.6]	(6.3)		長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	5%

第13号住居跡 (第55～58図)

位置 調査A区のD 3 e2区、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.00m、短軸4.58mの長方形で、主軸方向はN-29°-Eである。壁高は48～60cmで、直立している。

床 竈から出入り口にかけて踏み固められている。貼床は中央部を島状に掘り残して、その周りを掘り込み、ローム土を主体とした埋土で構築している。壁溝が東・南壁の一部に確認できた。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで132cm、袖部幅は116cmである。袖部は床面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめており、火床面は火熱によって赤変硬化している。

煙道部は壁外に48cmほど掘り込まれ、直立している。

竈土層解説

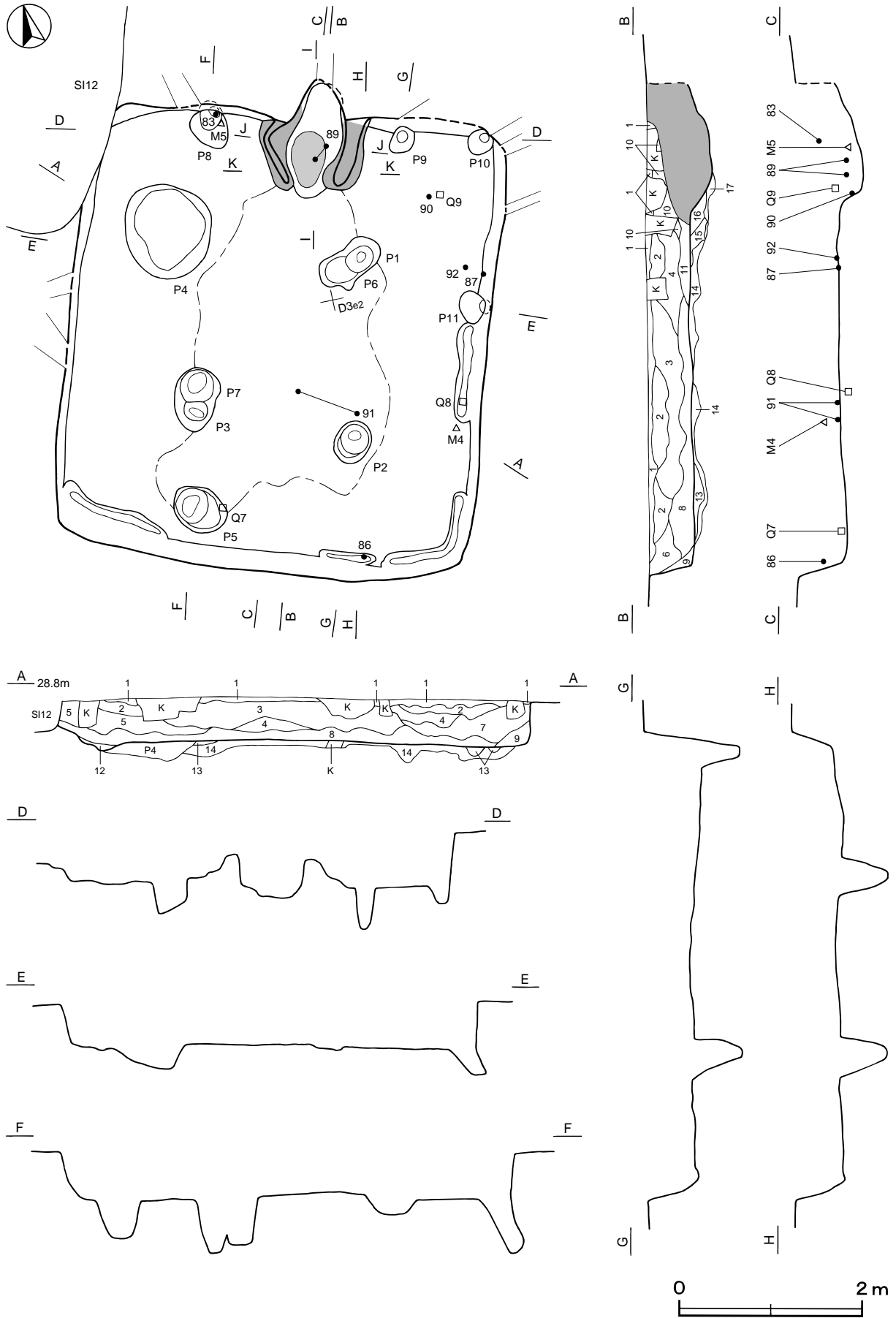
1 黒 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量	8 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量
2 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量	9 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・ローム粒子微量
3 暗 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
4 暗 褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	11 暗 褐色	砂質粘土粒子中量
5 黒 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量	12 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
6 暗 褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子微量	13 黒 褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量
7 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック微量		

ピット 17か所。P 1～P 4は深さ25～65cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P 4は柱の抜き取りが行われたと考えられる。P 5は深さ44cmで、南壁際から斜めに掘り込まれていることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7は深さ23cm・57cmで支柱穴と考えられる。P 8・P 9は深さ48cm・60cmで竈の両脇に、P 10・P 11は深さ22cm・28cmで、東壁に位置しているが、それぞれ性格は不明である。P 12～P 17は貼床下から確認されているが、性格は不明である。

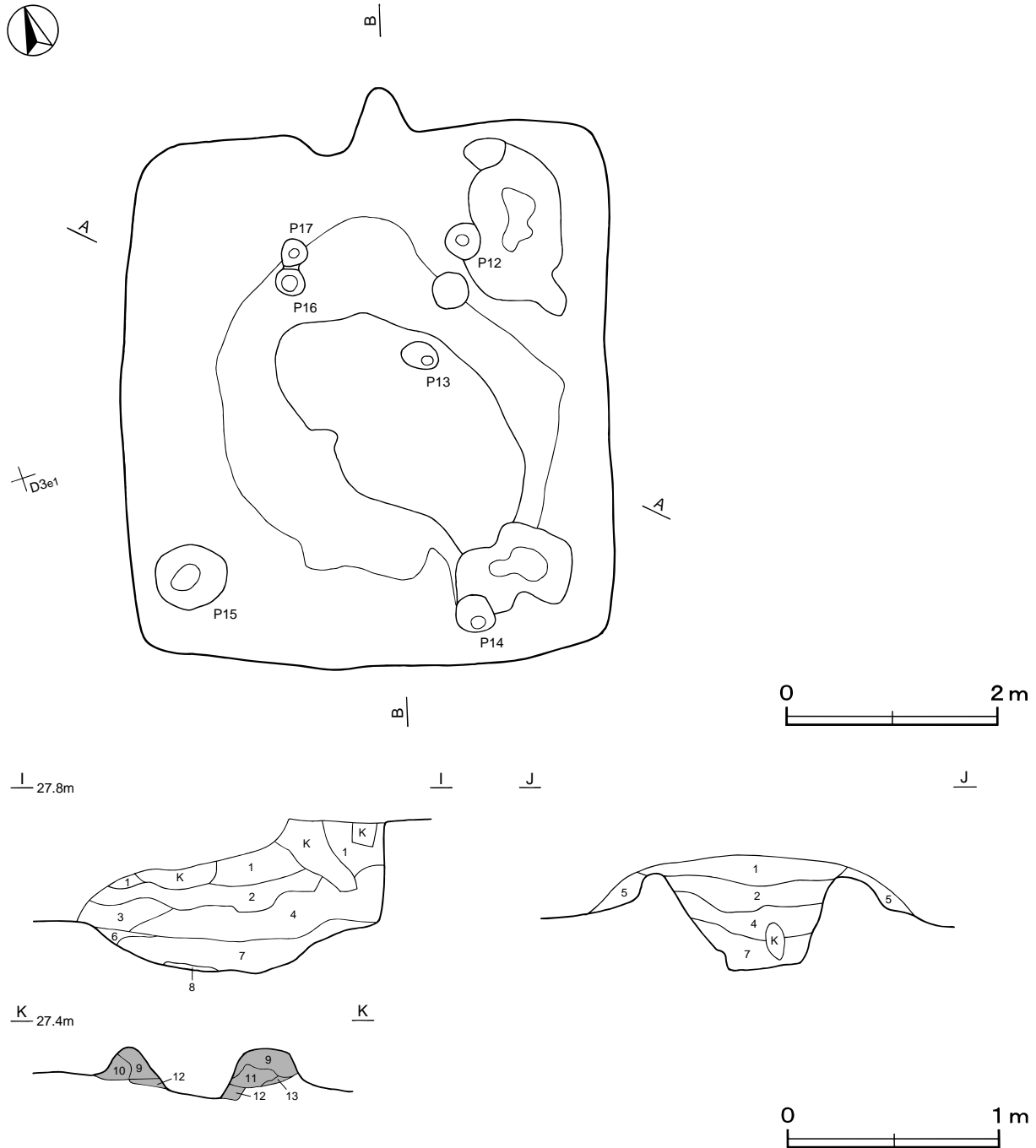
覆土 12層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。第13～17層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	10 黒 褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	11 暗 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐色	ロームブロック少量・炭化物・焼土粒子微量	12 暗 褐色	ロームブロック少量
4 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	13 暗 褐色	ロームブロック中量
5 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	14 褐色	ローム粒子多量
6 極暗褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	15 暗 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
7 暗 褐色	ロームブロック少量	16 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
8 褐色	ロームブロック中量・炭化粒子微量	17 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量
9 褐色	ロームブロック中量		



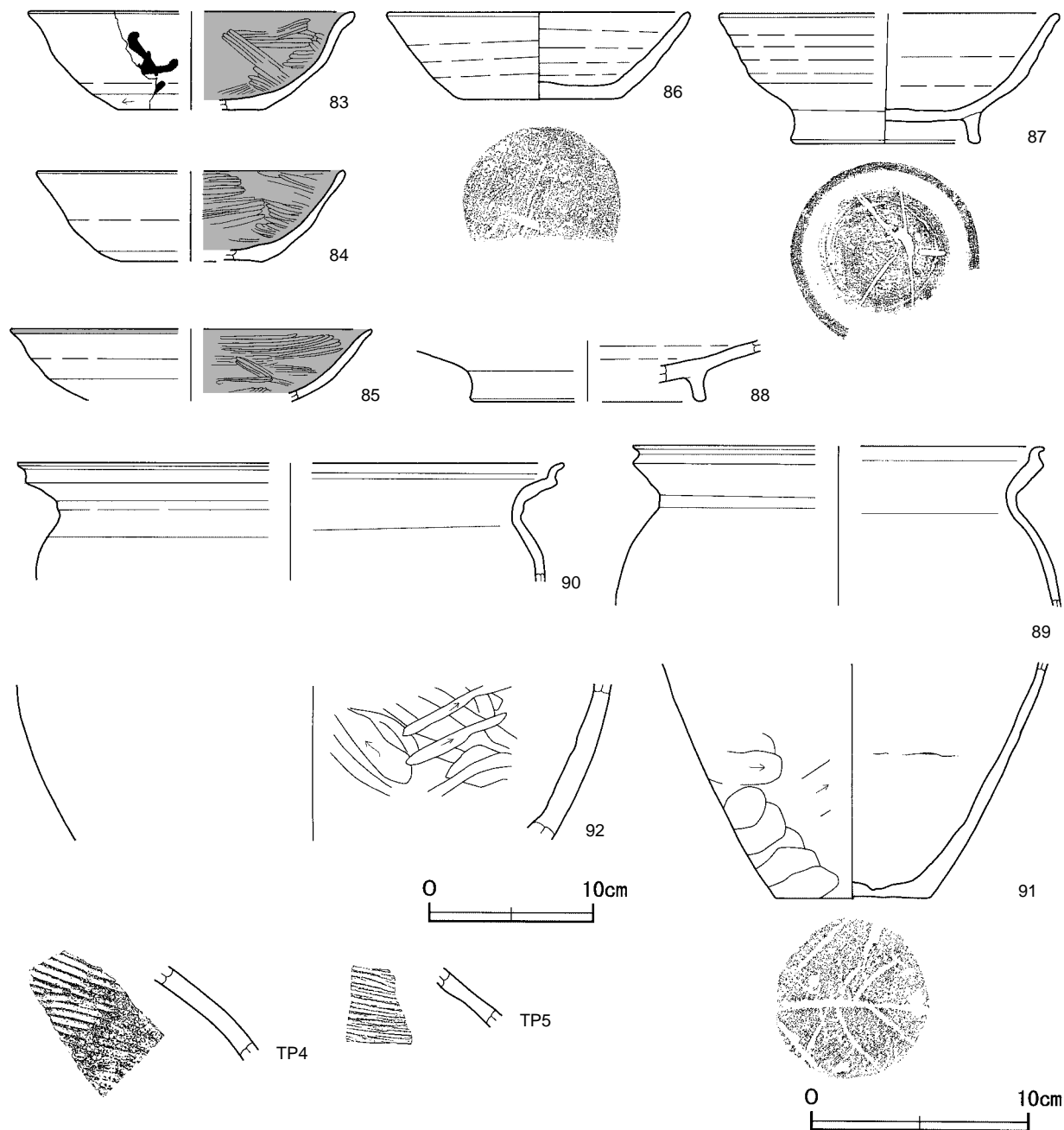
第55图 第13号住居跡実測图(1)



第56図 第13号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片873点(坏29, 高台付坏2, 甕842), 須恵器片139点(坏70, 高台付坏7, 盤7, 蓋1, 甕44, 甗10), 石器・石製品3点(敲石, 砥石, 紡錘車), 金属器・金属製品3点(鎌, 刀子, 不明)が出土している。南側の床面及び, 中央部の覆土中層から破片が多く確認されており, 住居の埋め戻しの際に一括して投棄されたものと想定される。83はP 8, 84は中央部, 85は東部のそれぞれ覆土中から出土した破片が接合したものである。なお, 83は墨書土器で「丈」カと書かれている。91は中央部の床面から出土した破片が接合したものである。88は掘り方の埋土から出土している。

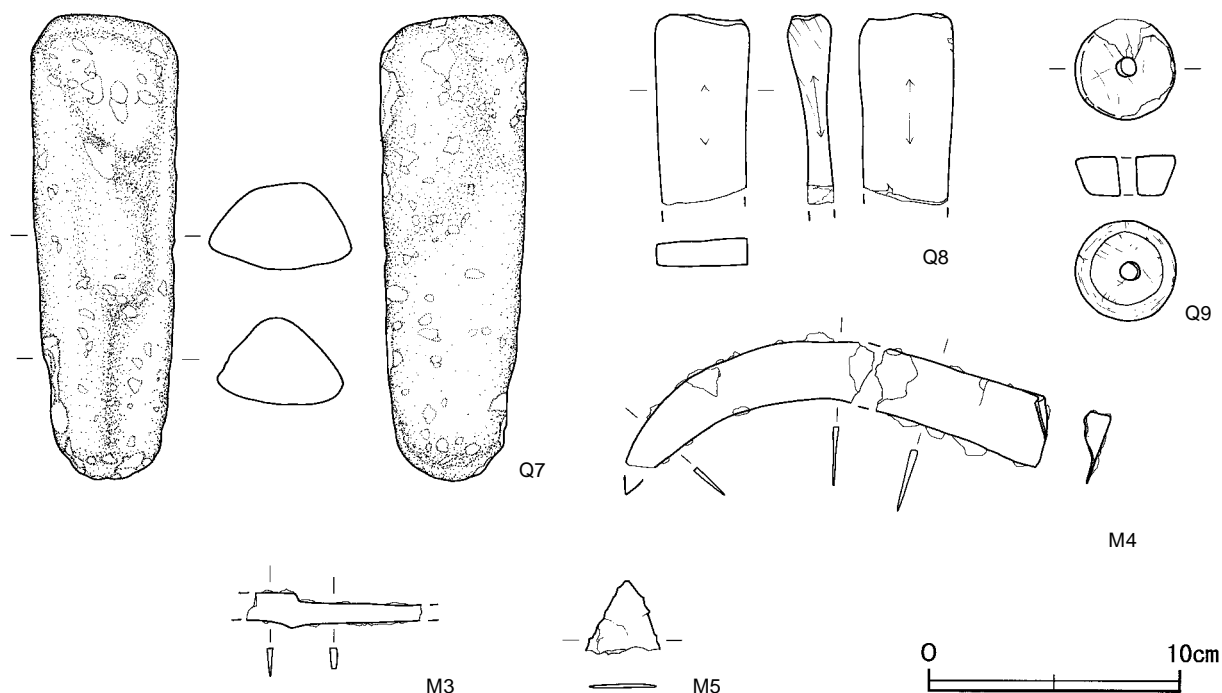
所見 規模が大きく, 金属製品等が出土していることから該期の集落の中において中心的な役割を果たしていたことが想定される。時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第57図 第13号住居跡出土遺物実測図(1)

第13号住居跡出土遺物観察表(第57・58図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
83	土師器	坏	[14.5]	4.5	[6.7]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	P8覆土中	25% 墨書「丈」カ
84	土師器	坏	[14.0]	4.2	[6.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	30%
85	土師器	坏	[16.4]	(3.3)		長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	20%
86	須恵器	坏	13.5	4.1	7.3	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のナデ	壁溝	60% PL14
87	須恵器	高台付坏	[15.2]	6.0	8.7	長石・小礫・黒色 粒子	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	床面	60% PL17 ヘラ記号「六」
88	須恵器	盤		(2.8)	[10.4]	石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	掘り方	5%
89	土師器	甕	[18.4]	(7.4)		長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈火床面	5%
90	土師器	甕	[25.0]	(5.4)		長石・石英・雲母	にぶい赤褐	良好	口縁部内・外面横ナデ	床面	5%
91	土師器	小形甕		(10.8)	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部ヘラ削り 内面輪積痕	床面	15%
92	須恵器	甕		(9.5)		石英	黄灰	普通	内面ヘラ削り	床面	5%



第58図 第13号住居跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP4	須恵器	甕		(4.3)		長石・石英・黒色粒子	灰黄	良好	外面斜位の平行叩き	覆土中	
TP5	須恵器	甕		(2.7)		長石・黒色粒子	灰	良好	外面横位の平行叩き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q7	敲石	18.5	5.9	3.5	587.0	安山岩	端部に敲打痕 全面被熱痕	P5覆土中	
Q8	砥石	(7.6)	3.7	1.8	(57.2)	花崗岩	砥面3面	壁溝	

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	紡錘車	4.0	0.8	1.6	(39.5)	凝灰岩	両方向からの穿孔 研磨痕を残す	覆土下層	PL23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	刀子	(6.9)	1.4	0.3	(4.6)	鉄	先端・基部欠損 刀身部断面三角形	覆土中	PL24
M4	鎌	(16.6)	5.0	0.9	(35.9)	鉄	曲刃 基部全面折り曲げ 断面三角形	覆土下層	PL24
M5	鎌カ	(3.0)	2.9	0.1	(3.1)	鉄	鎌身部先端カ	P8覆土中	

第14号住居跡 (第59~61図)

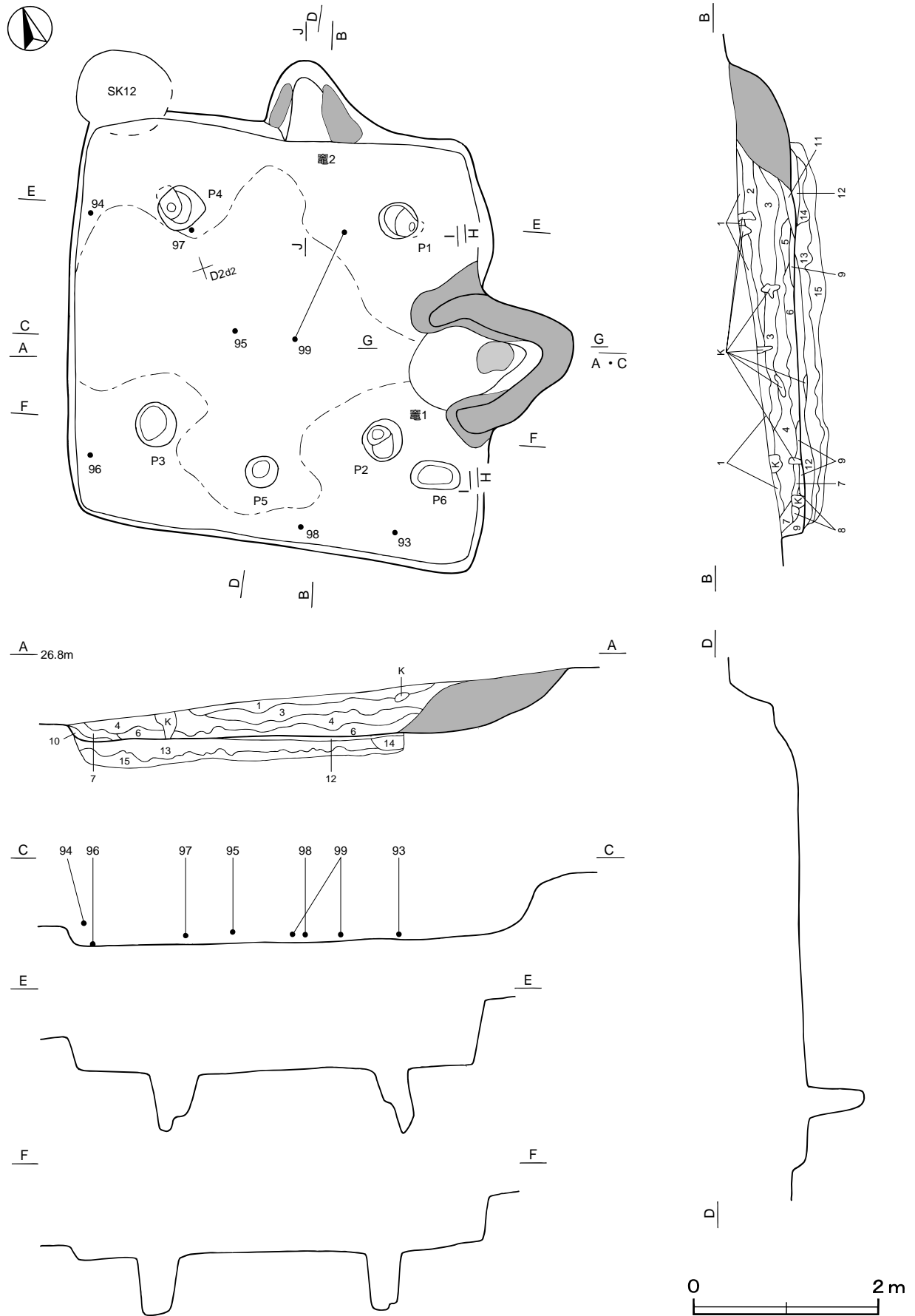
位置 調査A区のD 2 d2区, 標高26mの斜面部に位置している。

重複関係 北西コーナー部を第12号土坑に掘り込まれている。

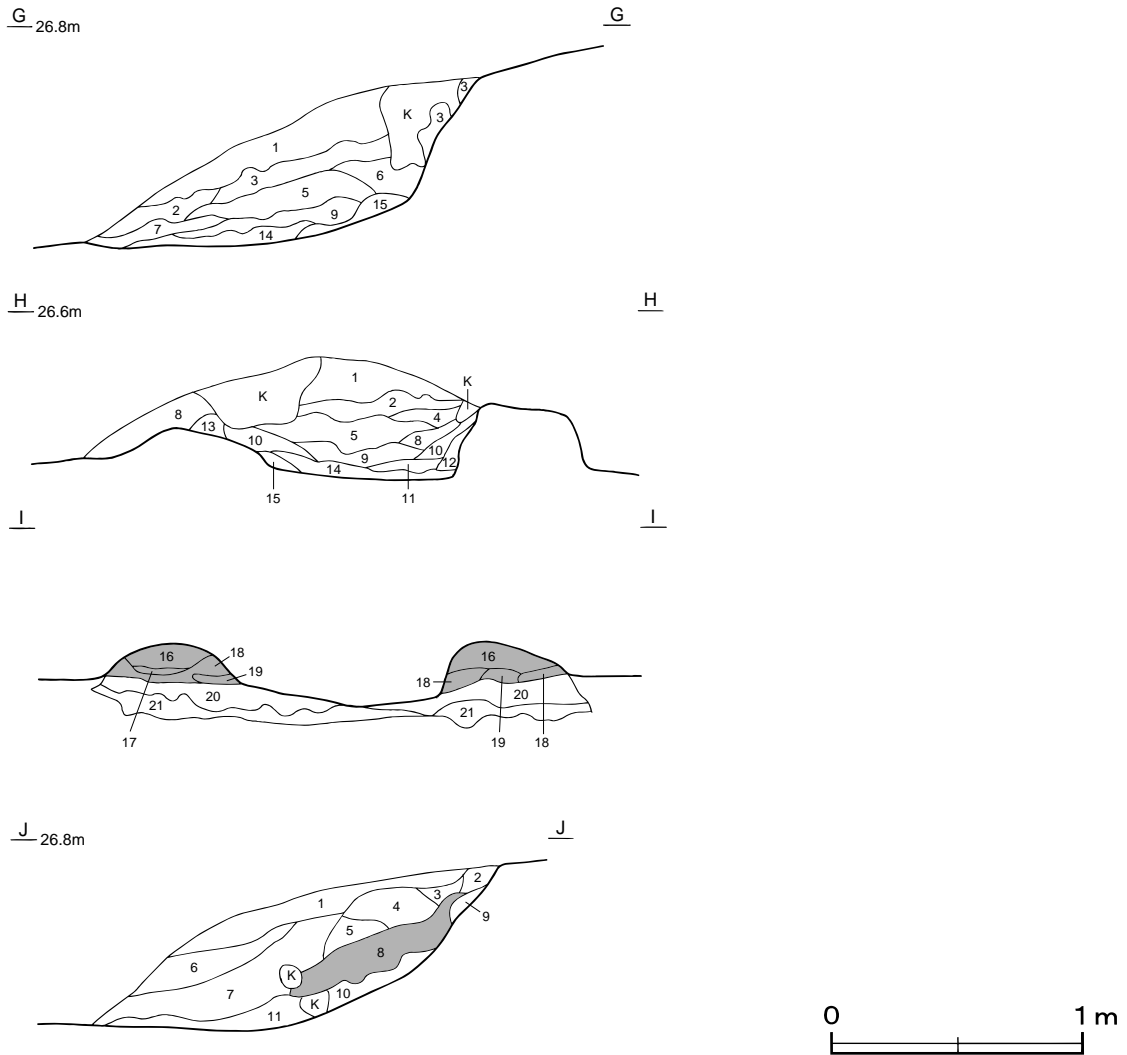
規模と形状 一辺4.54mの方形で, 主軸方向はN-113°-Eである。壁高は12~70cmで, 直立している。

床 竈1の手前から西壁際まで踏み固められている。貼床は全体的に20~25cm掘り込み, 鹿沼パミスを含んだローム土を主体とする埋土で構築している。

竈 2か所。竈1は東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで179cm, 袖部幅が175cmである。袖部は15cmほど掘り込み, 鹿沼パミスを含むローム土を充填し, 焼土粒子を含む砂質粘土で構築している。作り替えの際に, 竈2の構築材を転用したことが想定される。火床部は床面と同じ高さを皿状に掘りくぼめてお



第59图 第14号住居跡実測图(1)



第60図 第14号住居跡実測図(2)

り、火床面は若干の赤変硬化が見られた。煙道部は壁外に90cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。竈2は北壁中央部からやや東寄りに付設されている。壁内には袖部や火床部は残されていないが、壁外には竈の構築材が残っていることから、竈1への作り替えの際に壁内の構築材は取り払われたと考えられる。煙道部は壁外に70cmほど掘り込まれており、外傾して立ち上がっている。

竈1土層解説

1	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	11	にぶい黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	12	褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	灰褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	13	黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス微量
4	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量	14	暗褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量, 鹿沼パミス微量
5	褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	15	褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
6	黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	16	灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量
7	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量	17	黒色	ローム粒子・炭化粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18	褐色	焼土ブロック少量・炭化粒子微量
9	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	19	褐色	ローム粒子中量・鹿沼パミス少量
10	にぶい黄褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	20	褐色	炭化物微量
			21	黄褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量

竈2土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物中量、砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、炭化粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| | | 11 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |

ピット 6か所。P1～P4は深さ41～62cmで、規模と位置から支柱穴と考えられる。P5は深さ59cmで、竈2と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ8cmで、性格は不明である。

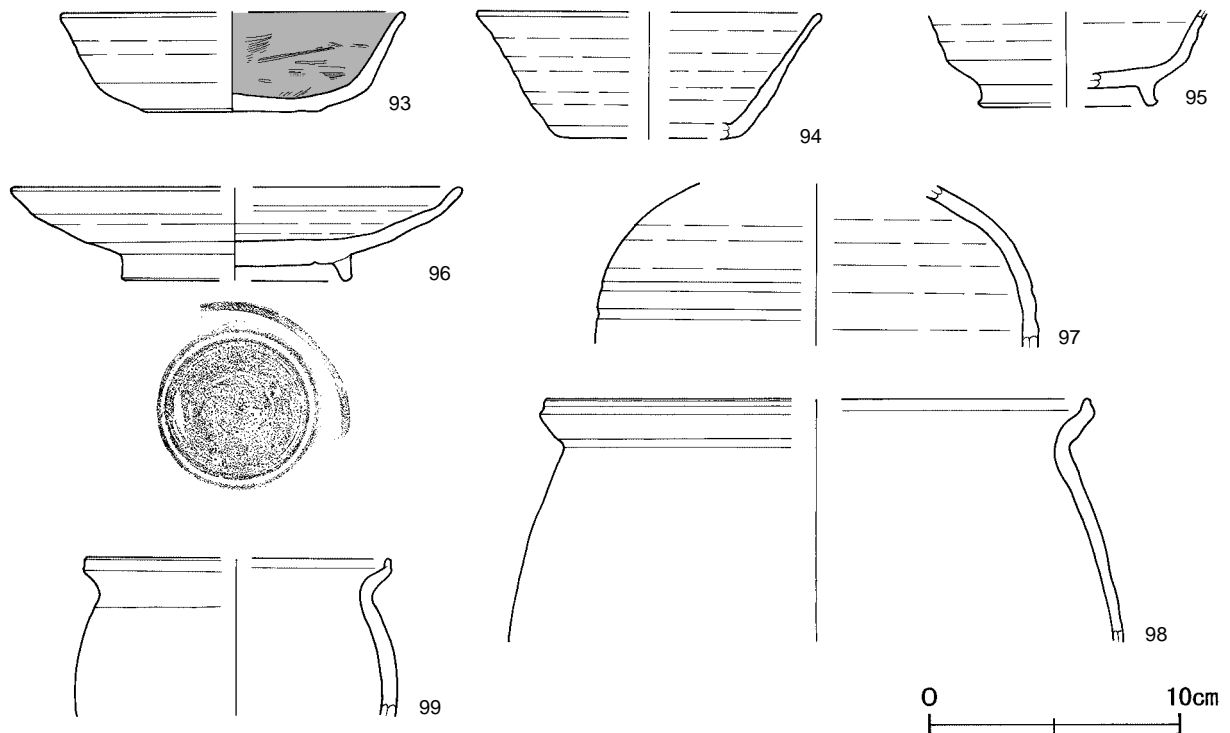
覆土 11層に分層される。斜面部に位置しており、北東から土砂の流れ込みが確認できることから自然堆積と考えられる。第12～15層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 9 黄褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化物微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・鹿沼パミス微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・鹿沼パミス微量 |
| 5 にぶい褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量 | 13 褐色 | ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス少量、砂質粘土粒子微量 |
| 6 にぶい褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 14 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック・鹿沼パミス少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 15 褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス少量 |
| 8 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片518点（坏4，高台付坏1，甕513），須恵器片108点（坏67，高台付坏16，盤8，蓋5，瓶1，甕11），石器2点（砥石）が出土している。93は南東コーナー部の床面から、96は南西壁際の床面からそれぞれ正位で出土している。

所見 東壁に竈が付設された住居は、本跡と第16号住居跡の2軒で、いずれも斜面部に位置していることから、立地条件が竈の位置に影響を与えたことも想定される。時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第61図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表 (第61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
93	土師器	坏	[13.4]	4.0	6.8	長石・石英・赤色 長石 長石	にぶい橙	普通	外面口クロナデ 内面ヘラ磨き	床面	40% PL16
94	須恵器	坏	[13.6]	5.1	[7.2]	長石・石英・黒色 長石 長石	灰黄	普通	内・外面口クロナデ	覆土上層	20%
95	須恵器	高台付坏		(3.8)	[6.6]	石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	15%
96	須恵器	盤	[17.6]	3.8	[8.8]	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	床面	60%
97	須恵器	瓶		(6.4)		長石	にぶい赤褐	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層	5% 外面 自然釉付着
98	土師器	甕	[21.4]	(9.7)		長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	5%
99	土師器	小形甕	[12.0]	(6.3)		長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	10%

第15号住居跡 (第62～65図)

位置 調査A区のD 2 c1区, 標高26mの斜面部に位置している。

重複関係 北東コーナー一部を第13号土抗に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.90m, 短軸3.88mの長方形で, 主軸方向はN-29°-Eである。壁高は26～65cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 中央部から東壁際にかけて踏み固められている。貼床は全体的に10cmほど掘り込んでいるが, 東壁際のみ20cmほど掘り込み, ローム土を主体とする暗褐色の埋土で構築している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで123cm, 袖部幅が138cmである。袖部は20cmほど掘り込み, ローム土を充填した上に砂質粘土で構築されている。火床部は10cmほどの掘り方に, ローム土を充填している。火床面はやや左袖側に寄っており, 火熱を受けて赤変硬化している。火床面の奥には砂質粘土を10cmほど盛った上に, 土製の支脚が据えられている。さらに, 砂質粘土の部分には体部中央で切断され, 底部を抜いた土師器の甕が逆位でかぶせてあった。支脚, 甕, 盛った砂質粘土はいずれも火床面側に火熱を受けた痕跡があることから, 支脚の高さ調節のために使用されたものと考えられる。煙道部は壁外に45cmほど掘り込み, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

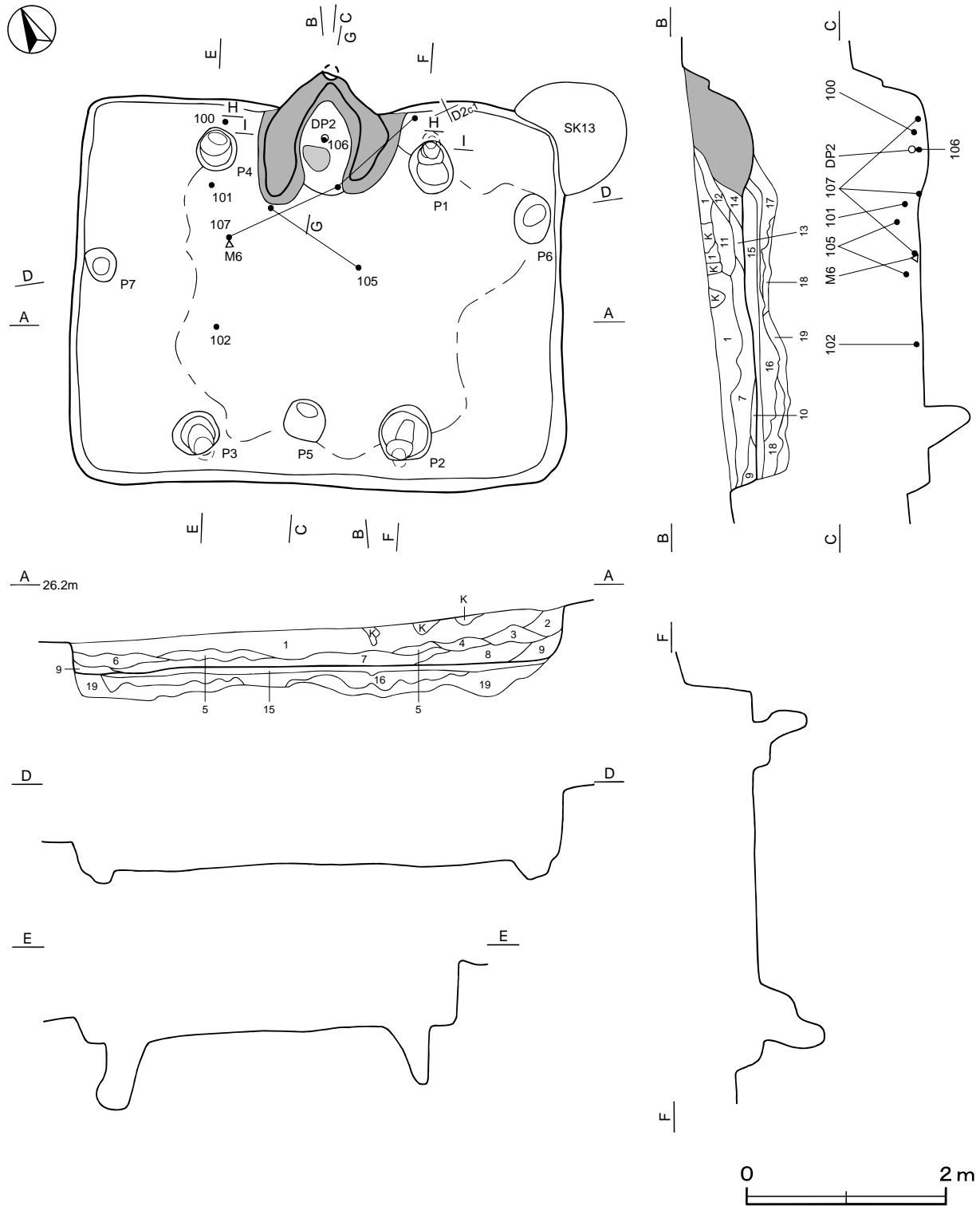
1	暗褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	8	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量	9	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量
3	黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	10	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量
4	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子多量	11	褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量
5	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子多量, 炭化粒子少量	12	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
6	黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	13	褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子微量
7	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	14	褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ56～68cmで, それぞれ南北の壁に向かって掘り込まれており, 規模と位置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ45cmで, 中央部寄りに掘り込まれており, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7はともに深さ15cmで, 東・西壁際に位置しており, 東西に長い住居であることから, 支柱穴の可能性が想定される。

覆土 14層に分層される。ブロック状の堆積状況を示しており, 人為堆積と考えられる。第15～19層は貼床の構築土である。

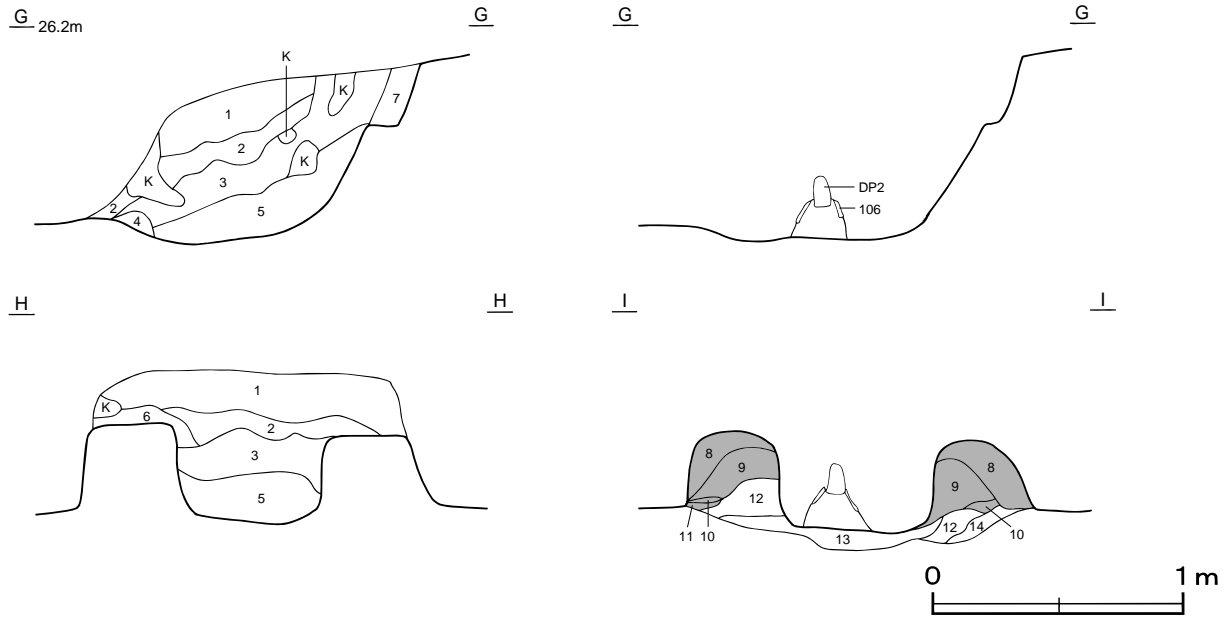
土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量	3	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック少量	4	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量



第62図 第15号住居跡実測図(1)

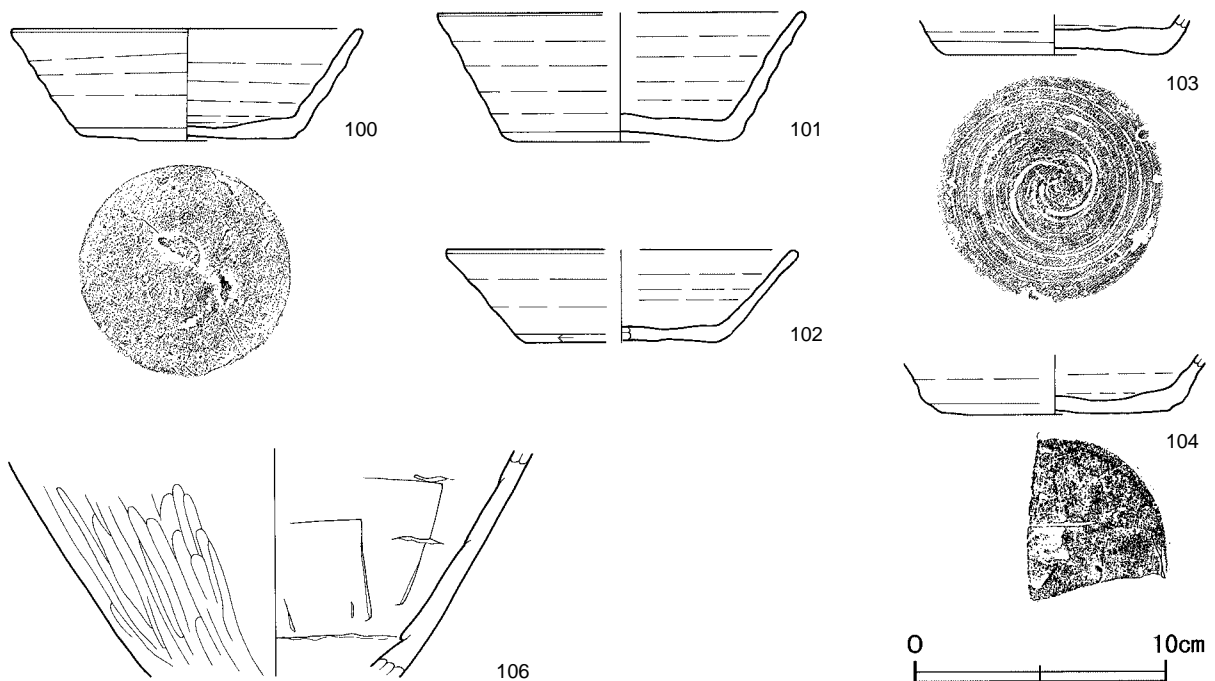
5	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子中量	14	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
7	褐色	ロームブロック中量, 砂質粘土粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック少量, 赤色粒子微量	16	褐色	ローム粒子多量, 炭化物・焼土粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	17	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	18	褐色	ローム粒子中量, 鹿沼バミス少量, 焼土ブロック・炭化物微量
11	暗褐色	ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量	19	明褐色	ローム粒子多量, 鹿沼バミス少量
12	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量			



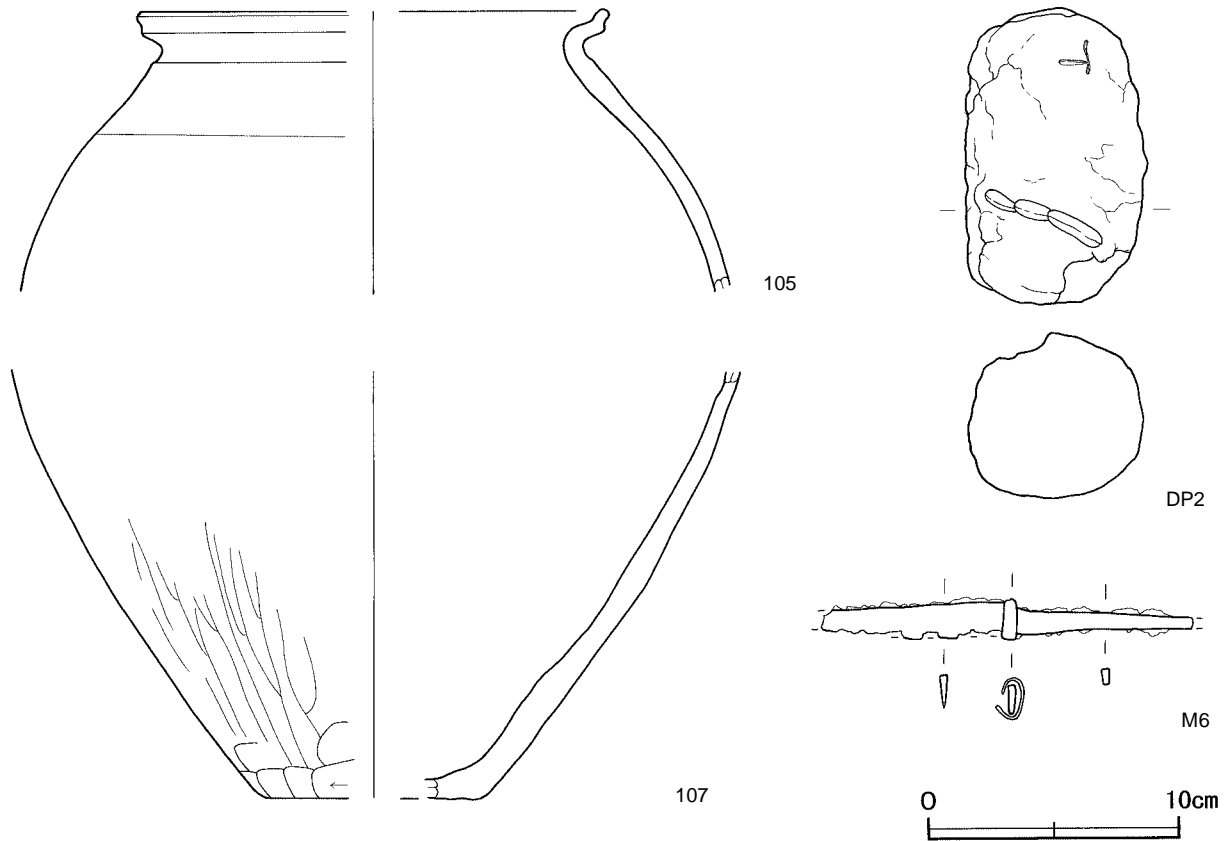
第63図 第15号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片141点(甕), 須恵器片27点(坏26, 甕1), 土製品1点(支脚), 金属器1点(刀子)が出土している。106は竈の支脚に逆位でかぶせられた状態で出土している。105・107は竈周辺から出土した破片がそれぞれ接合したものである。100は竈西側の床面正位で, 104は南壁際の掘り方の埋土から逆位で出土している。M6は竈前の床面から出土している。

所見 東西に長い住居で, 支柱穴が斜めに掘り込まれており, 東・西壁際にピットがあることから, 他とは異なる上屋構造と考えられる。時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第64図 第15号住居跡出土遺物実測図(1)



第65図 第15号住居跡出土遺物実測図(2)

第15号住居跡出土遺物観察表(第64・65図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
100	須恵器	坏	13.7	4.5	8.4	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り	床面	95% PL14
101	須恵器	坏	[14.4]	5.2	8.6	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後多方向のナデ	覆土下層	30% PL16
102	須恵器	坏	[13.5]	3.7	[7.6]	石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り 体部下端回転ヘラ削り	床面	25%
103	須恵器	坏		(1.6)	8.6	長石・小礫	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	30%
104	須恵器	坏		(2.4)	9.2	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後多方向のナデ	掘り方	10% ヘラ記号「-」
105	土師器	甕	[18.4]	(11.1)		長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	5%
106	土師器	甕		(9.1)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積痕	竈火床面	30% 支脚転用 PL23
107	土師器	甕		(17.0)	[8.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削りおよび縦位のヘラ磨き	床面	20%

番号	器種	長さ	径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	支脚	11.7	7.1	569.0	粘土	円柱状 火熱痕跡	竈火床面	PL23

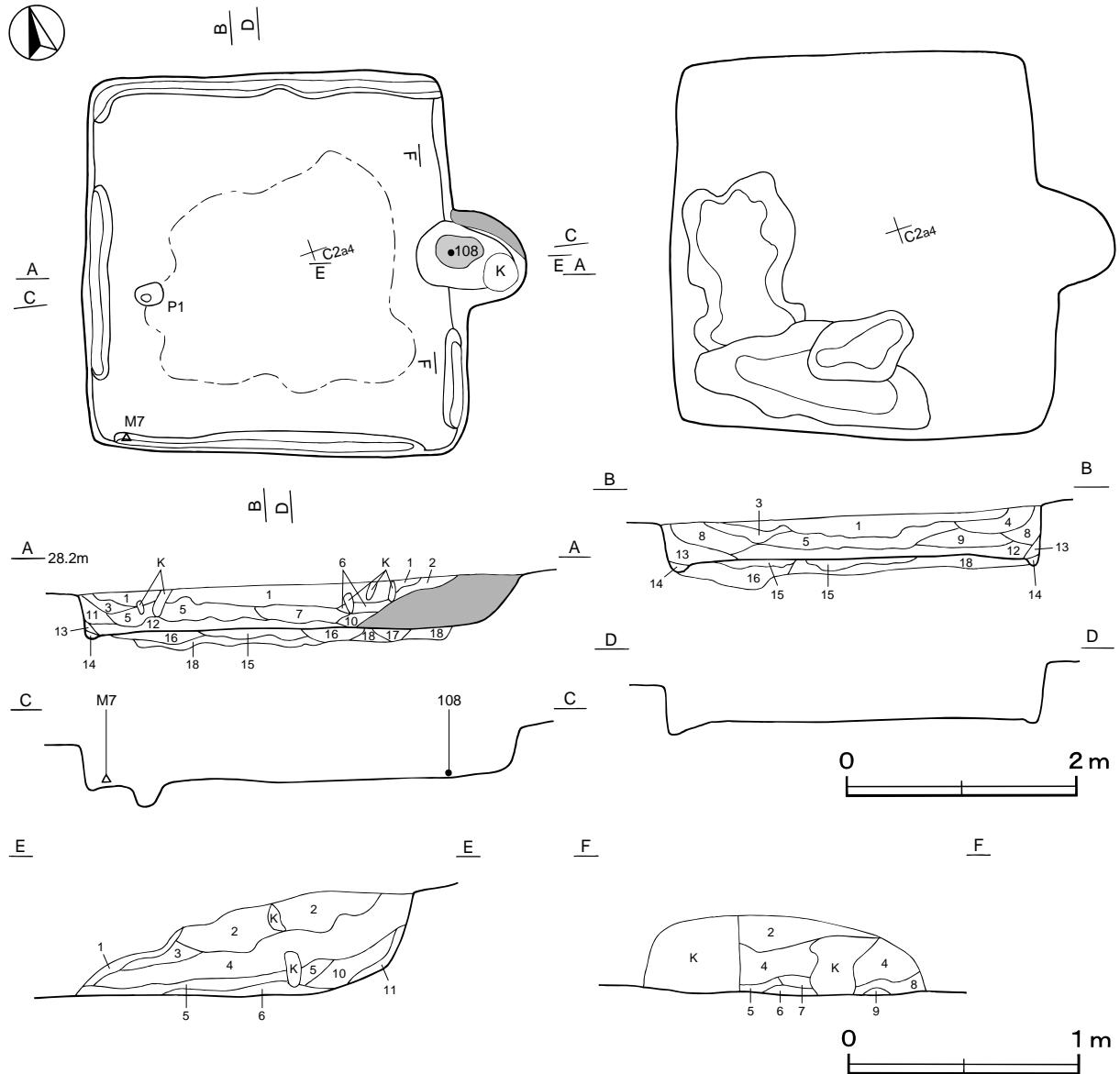
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M6	刀子	(14.7)	1.6	0.3	(16.6)	鉄	先端・基部欠損 刀身断面三角形 縁金具遺存	床面	PL24

第16号住居跡(第66・67図)

位置 調査A区のC 2 a3区, 標高28mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.32m, 短軸3.31mの方形で, 主軸方向はN-104°-Eである。壁高は33~48cmで, 直立している。

床 中央部が踏み固められている。貼床は南西コーナー部を深く掘り込み, ローム土を主体とする埋土で構築



第66図 第16号住居跡実測図

している。壁溝が断続して周回している。

竈 東壁中央部に付設されている。攪乱のため規模は不明瞭であるが、焚口部から煙道部まで98cmである。袖部は、床面にローム土で基部を作り、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を皿状に掘りくぼめており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外まで粘土を貼って構築されており、50cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|----------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 7 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 深さ18cmで、竈と向かいあう位置にあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

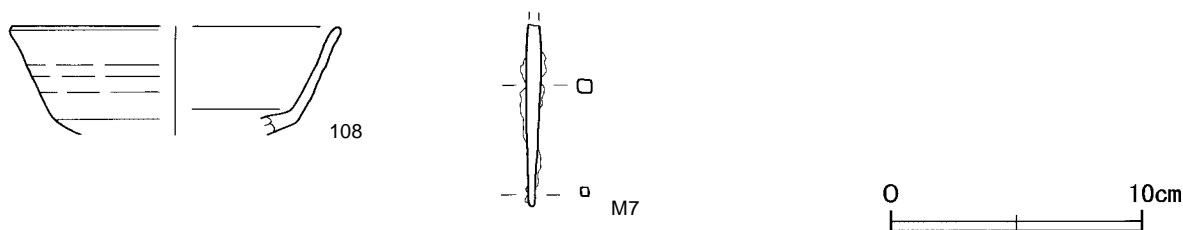
覆土 14層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。第15～18層は貼床の構築土である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	11 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	12 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
3 褐色	ロームブロック中量	13 暗褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	14 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	15 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
6 暗褐色	ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量	16 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量	17 にぶい褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	18 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
9 褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量		
10 にぶい黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量		

遺物出土状況 土師器片9点(甕), 須恵器片19点(坏17, 高台付坏2), 金属製品1点(釘)のほか, 流れ込んだ縄文土器片3点も出土している。108は竈の火床面から斜位で, M7は南壁際の壁溝からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器が少なく明確ではないが, 9世紀前葉から中葉と考えられる。



第67図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表 (第67図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
108	須恵器	坏	[12.9]	(4.3)		石英・雲母	灰白	普通	外面口クロナデ	竈火床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	釘	(7.2)	0.6	0.5	(5.6)	鉄	頭部欠損 断面は方形の棒状	壁溝	

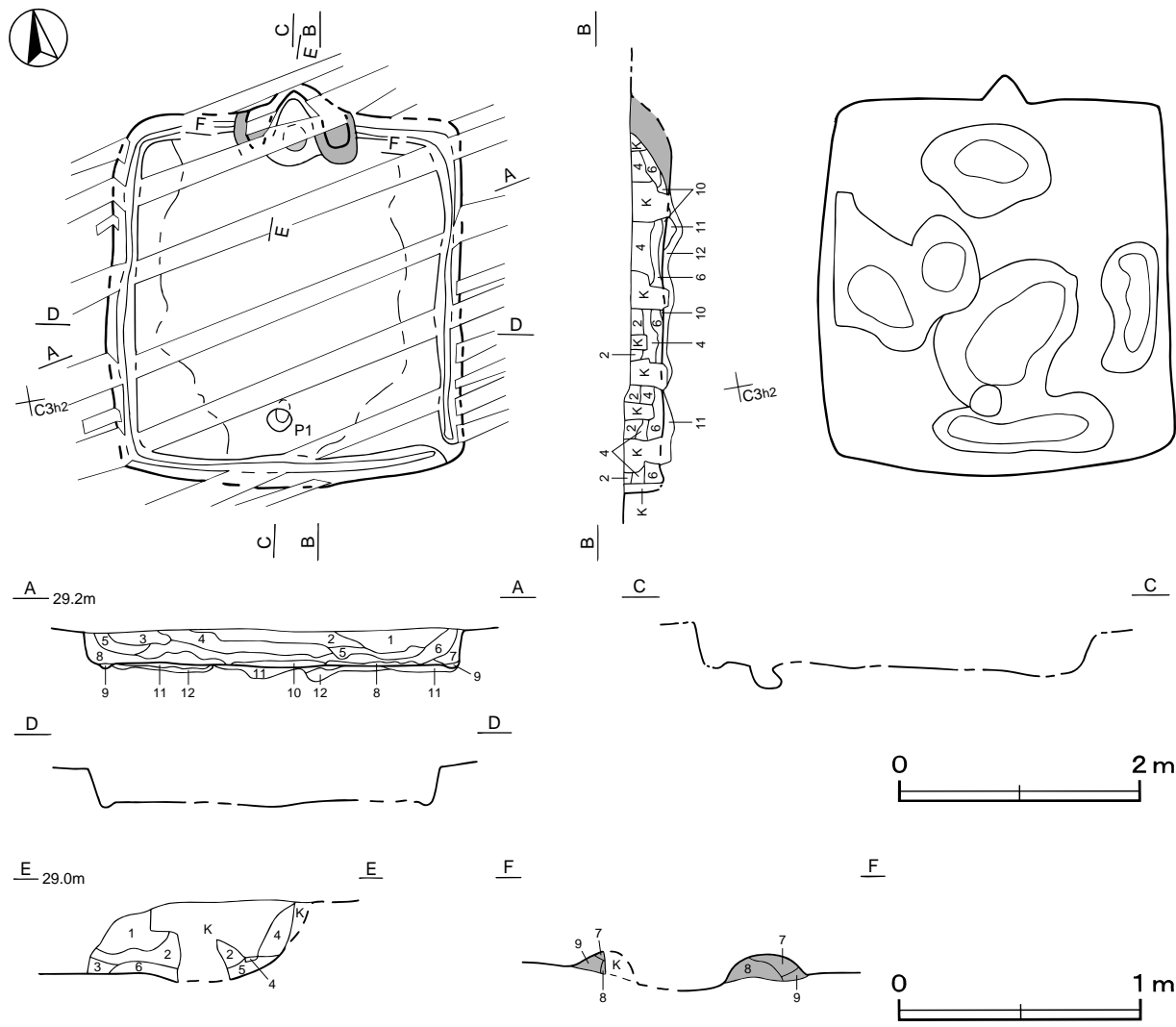
第17号住居跡 (第68図)

位置 調査A区のC 3g2区, 標高29mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.01m, 短軸2.88mの方形で, 主軸方向はN-12-Eである。壁高は28~32cmで, 直立している。

床 中央部が踏み固められている。貼床は竈前から中央部を深く掘り込み, ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が南東コーナー部を除いて周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで76cm, 袖部幅が104cmである。袖部は地山の上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を皿状に7cm掘りくぼめており, 火床面は火熱を受けて硬化している。煙道部は壁外に32cmほど掘り込み, 外傾して立ち上がっている。



第68図 第17号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗灰黄色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 6 暗赤灰色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 灰赤色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 7 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量 | 9 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 にぶい赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | | |

ピット 深さ20cmで、南壁際から中央部に向けて斜位に掘り込まれていることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第11・12層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 明褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 明褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 10 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 明褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 12 褐色 | ローム粒子多量 |
| 6 褐色 | ローム粒子中量 | | |
| 7 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片17点(甕), 須恵器片4点(坏)のほか、流れ込んだ縄文土器片4点も出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、第18号住居跡と規模・形状が類似していることから、9世紀中葉と考えられる。

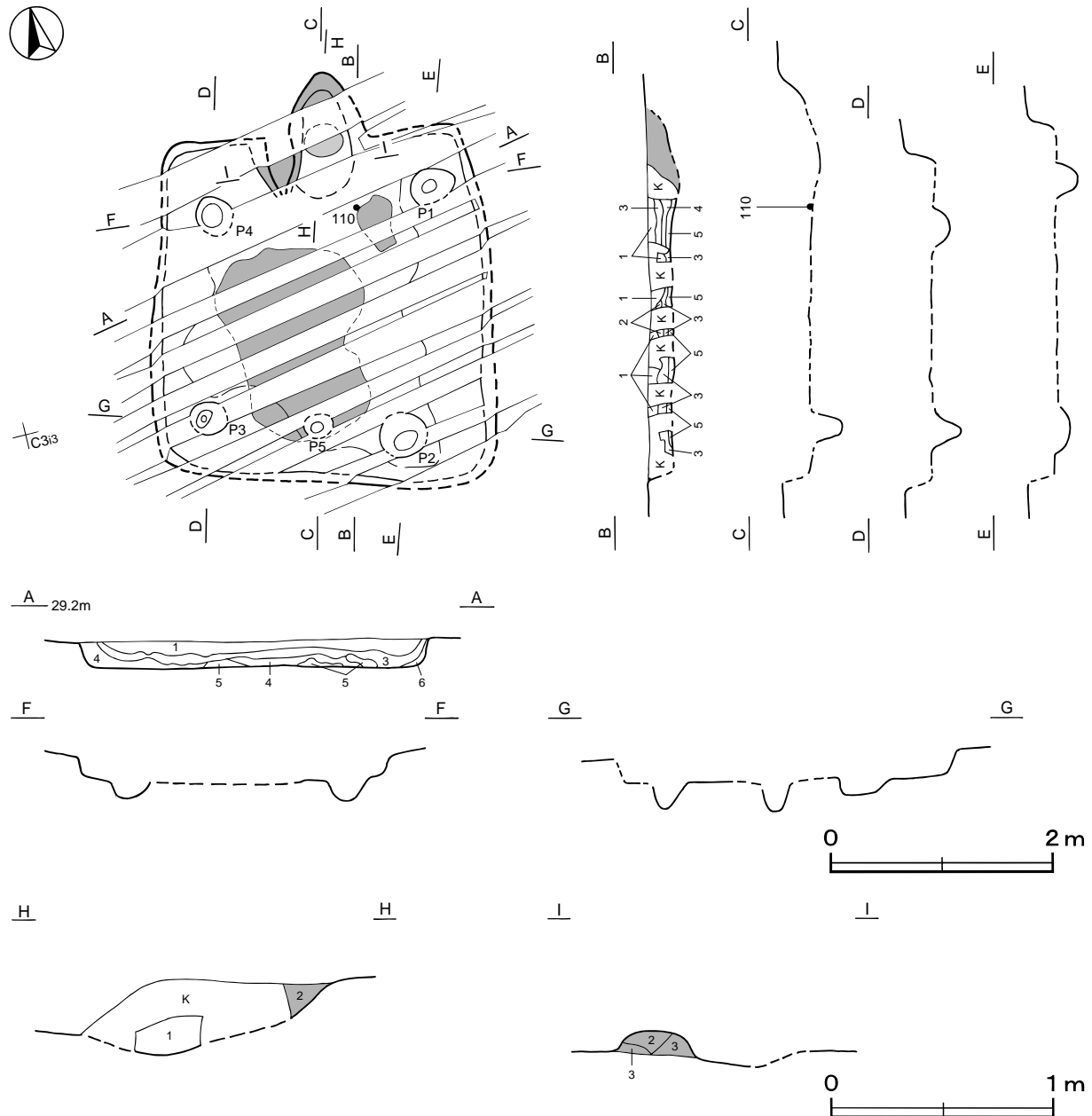
第18号住居跡 (第69・70図)

位置 調査A区のC3h3区、標高29mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.00m、短軸2.85mの方形で、主軸方向はN-14-Eである。壁高は19~28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 地山を平坦に掘り込んで構築されており、中央部が踏み固められている。中央部には広い範囲で粘土が検出されている。

竈 北壁中央部に付設されている。耕作による攪乱を受けており、規模は焚口部から煙道部まで110cm、袖部幅は100cmと推定される。袖部は地山の上にローム土で基部を作り、砂質粘土で構築されている。火床部は地山を皿状に8cmほど掘り込んでおり、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に45cmほど掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。



第69図 第18号住居跡実測図

竈土層解説

- 1 黄褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック微量
- 2 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量

ピット 5か所。P1～P4は深さ13～24cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ29cmで、竈と向かいあう位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

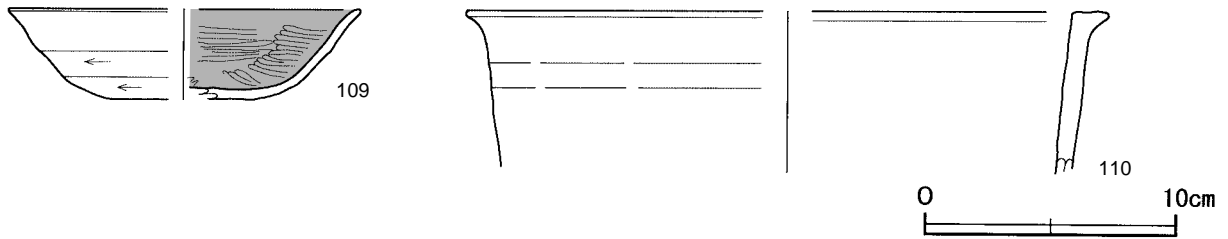
覆土 6層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第5層は床面で確認された粘土の層である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 4 灰褐色 ローム粒子中量
- 5 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 明褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片53点(坏17, 甕36), 須恵器片15点(坏8, 蓋1, 甕5, 甑1)のほか、流れ込んだ縄文土器片13点, 古銭1点も出土している。床面まで攪乱を受けているため、遺物はすべて細片である。109はP1の覆土中と東側の覆土中から出土した破片が接合したものである。110は竈前の床面から斜位で出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第70図 第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表 (第70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
109	土師器	坏	[13.8]	3.6	[5.6]	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	底部から体部回転ヘラ削り 内面ヘラ 磨き	P1覆土中	40% PL16
110	須恵器	甕	[25.3]	(6.4)		長石・石英	灰	普通	外面口クロナデ	床面	5%

第19号住居跡 (第71・72図)

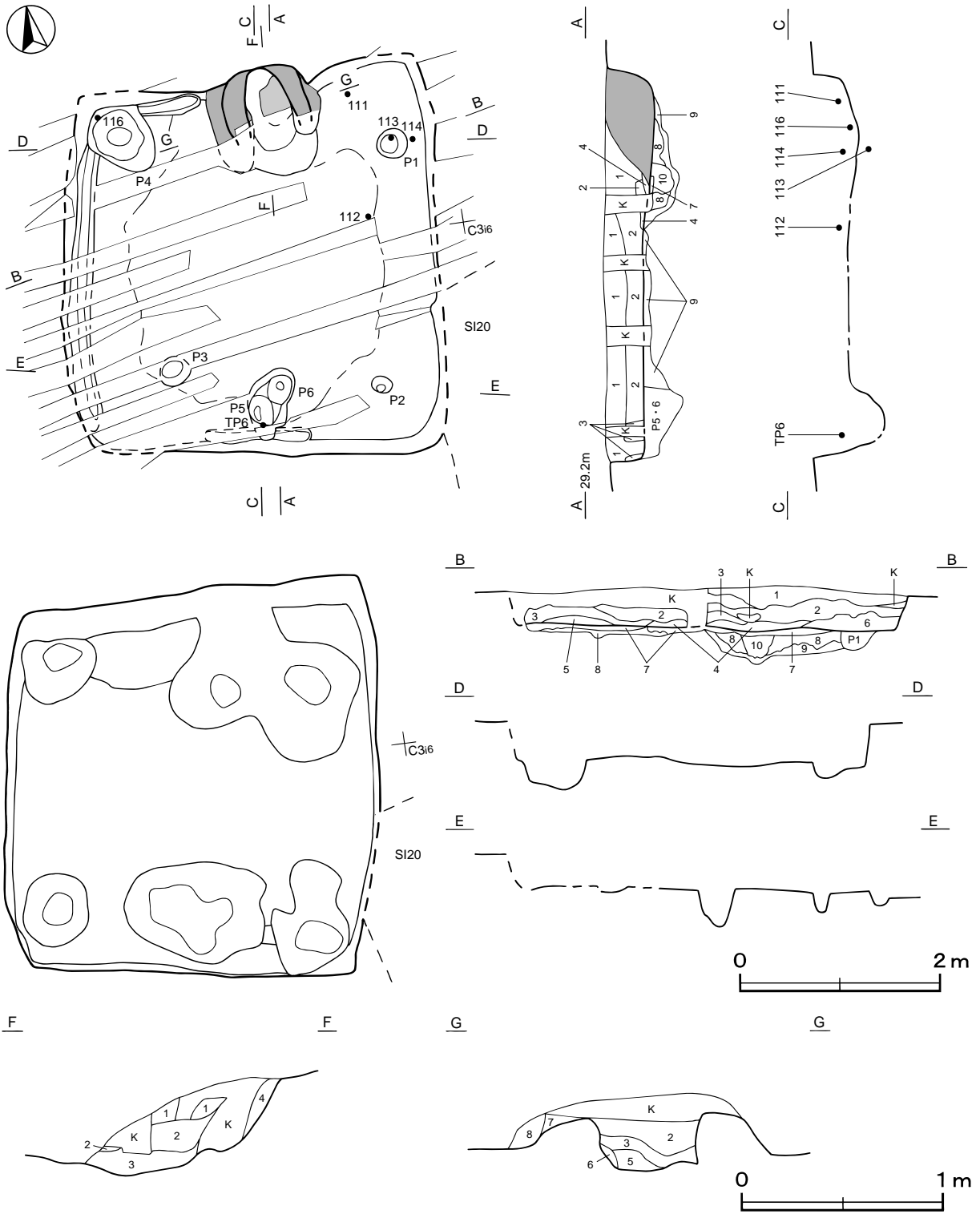
位置 調査A区のC3h5区で、標高29mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第20号住居跡の北西部を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.90m, 短軸3.70mの方形で、主軸方向はN-7-Eである。壁高は30～40cmで、直立している。

床 竈前から出入口ピットにかけて踏み固められている。貼床は竈周辺と南壁際を深く、中央部は極めて浅く掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が西壁際に確認できた。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで111cm, 袖部幅が113cmである。袖部は床面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を皿状に5cmほど掘りくぼめており、火床面は火熱によって赤変硬化している。煙道部は壁外に35cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。



第71図 第19号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 |

ピット 6か所。P 1～P 3は深さ7～20cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P 5・P 6はそれぞれ深さ40cmで、南壁際に位置しており出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 4は深さ30cmで支柱穴の可能性も考えられるが、他の支柱穴と位置が異なっており、性格は不明である。

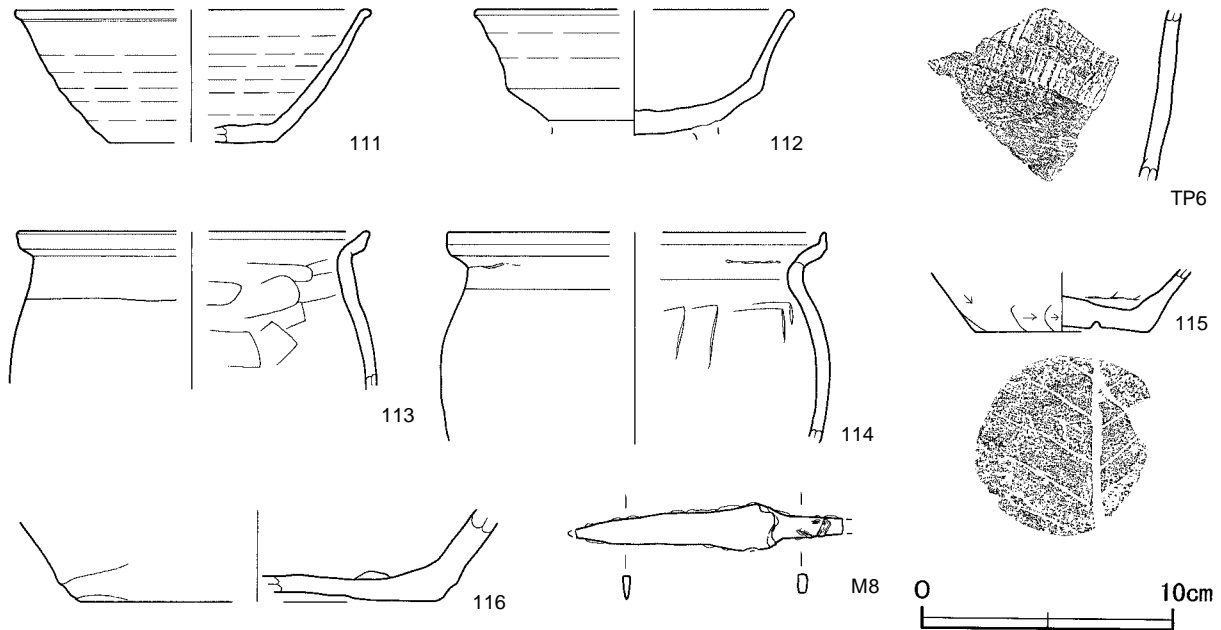
覆土 6層に分層される。攪乱によって、堆積状況は判断しがたいが、ブロック状に堆積している層が多いため人為堆積と推測される。第7～10層は貼床の構築土である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
			9	黒褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量
			10	褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片423点(坏9, 蓋5, 甕409), 須恵器片70点(坏54, 高台付坏5, 蓋3, 甕1, 甌7), 金属器1点(刀子)のほか, 流れ込んだ縄文土器片10点も出土している。111は竈東側の床面からつぶれた状態で, 116は北西コーナー部の壁際から斜位で出土している。113は貼床の埋土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第72図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表 (第72図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
111	須恵器	坏	[13.8]	5.3	[6.6]	長石・石英・小礫	橙	普通	底部一方向のヘラ削り	床面	30% PL15
112	須恵器	高台付坏	[12.4]	(5.0)		長石・石英・小礫	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付痕	床面	25%
113	土師器	小形甕	[13.8]	(6.3)		長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ	掘り方	5%
114	土師器	小形甕	[15.0]	(8.4)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラナデ 体部内・外面横ナデ 輪積痕	覆土下層	15%
115	土師器	甕		(2.4)	7.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	5%
116	須恵器	甕		(3.7)	[14.2]	長石・石英・小礫	灰白	普通	体部下端ヘラナデ 底部内面ヘラ削り	床面	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP6	須恵器	甌		(6.8)		長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面格子状の叩き及び横位のヘラ削り	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	刀子	(10.5)	1.9	0.3	(16.4)	鉄	茎部端部欠損 茎部木質付着 刀身部断面三角形	覆土中	PL 24

第20号住居跡（第73・74図）

位置 調査A区のC 3 i6区，標高29mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第19号住居に北西部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.70m，短軸3.52mの方形で，主軸方向はN-10 -Wである。壁高は39～44cmで，直立している。

床 中央部が踏み固められている。貼床は竈の前，北東及び北西コーナー部を深く掘り込み，ローム土を主体とする暗褐色の埋土で構築している。壁溝が，東壁，南壁，西壁を断続的に周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで108cm，袖部幅が120cmである。袖部は床面に砂質粘土で構築されている。火床部は床面を皿状に10cmほど掘りくぼめており，火床面はやや左側に位置し，奥壁の上がり際まで火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に30cmほど掘り込み，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量	8	褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量
2	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量	9	暗褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	10	黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量
4	黒褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	11	褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5	赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量，炭化物微量	12	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
6	暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子・砂質粘土粒子少量	13	褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
7	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量	14	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

ピット 深さ24cmで，南壁中央に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

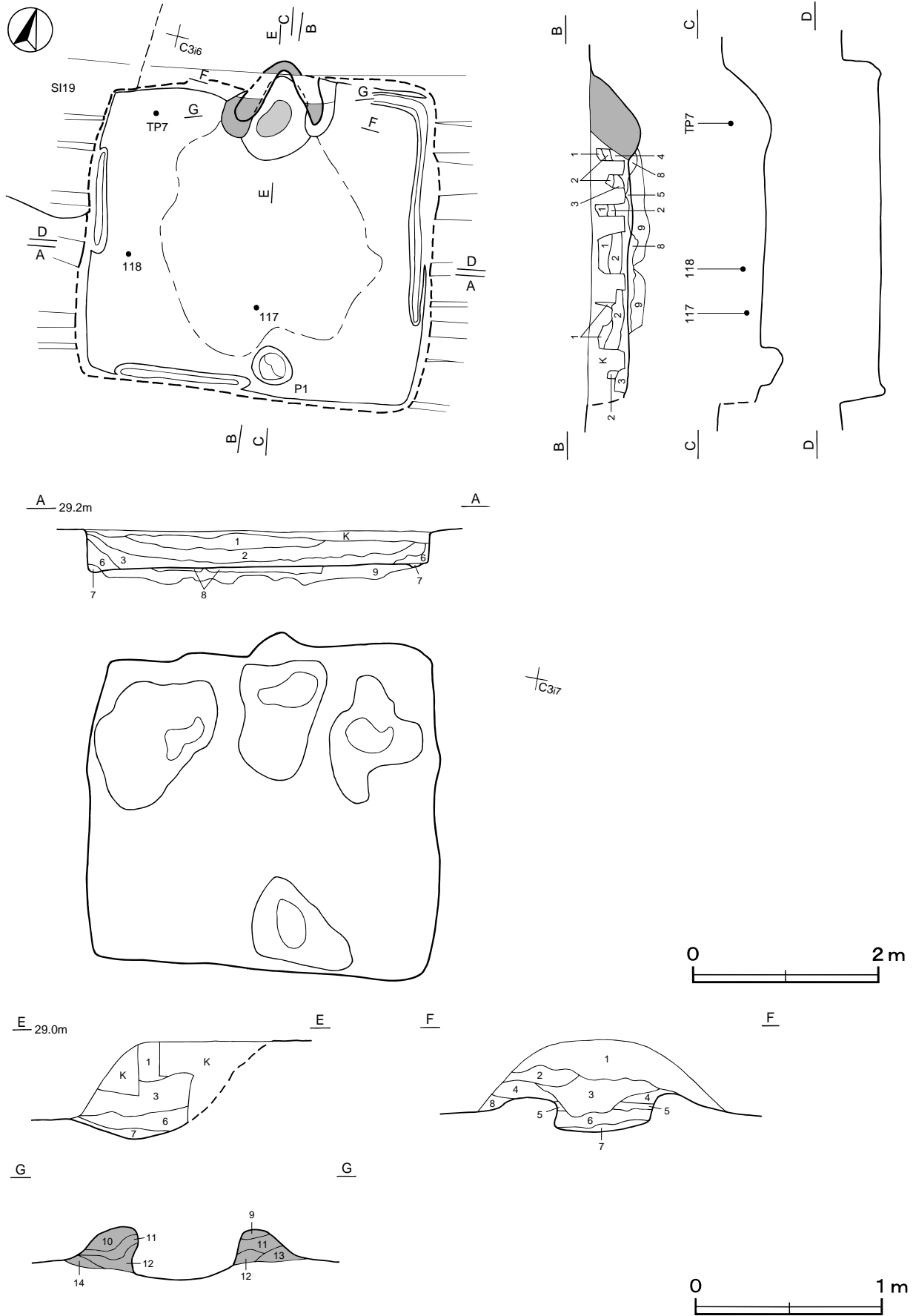
覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第8・9層は貼床の構築土である。

土層解説

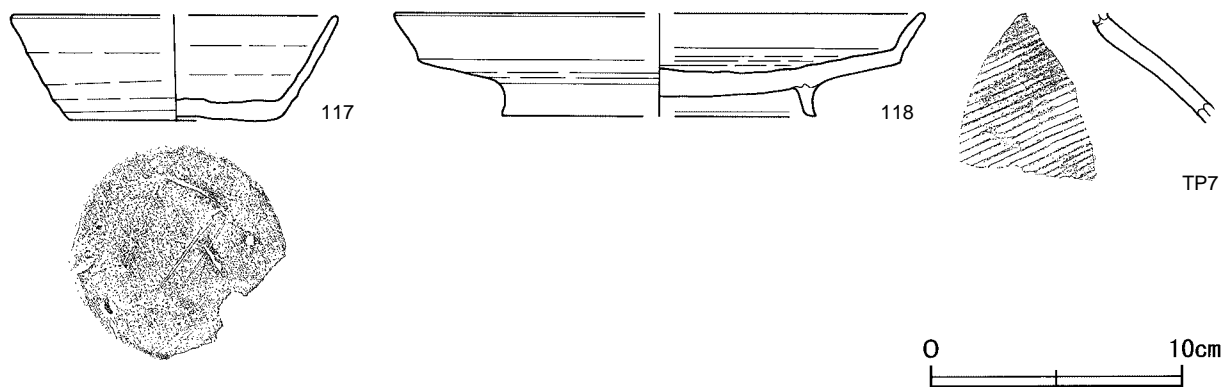
1	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	5	褐色	ロームブロック中量，砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	6	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック微量	7	暗褐色	ローム粒子中量
4	暗褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量	8	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
			9	明褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片89点（甕），須恵器片35点（坏27，高台付坏1，盤6，甕1），石器1点（砥石）が覆土上層を中心に出土している。117は中央部から南寄りから斜位で，118は西壁際から正位で，TP 7は竈袖部の西側のいずれも覆土中層から出土している。第3層の上部からの出土であり，廃絶の過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器及び第19号住居に掘り込まれていることから8世紀後葉と考えられる。



第73图 第20号住居跡実測图



第74図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表 (第74図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
117	須恵器	坏	[12.6]	4.2	8.2	長石・石英・黒色 粒子	灰	良好	底部回転ヘラ切り後一方向のナデ	覆土中層	50% ヘラ記号「=」
118	須恵器	盤	[20.8]	4.1	[12.3]	長石・石英・小礫	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土中層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP7	須恵器	甕		(4.6)		長石・石英	灰	良好	外面斜位の平行叩き	覆土中層	

第21号住居跡 (第75・76図)

位置 調査A区のD3b6区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.55m、短軸3.28mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は30~41cmで、直立している。

床 竈前から出入り口ピットにかけて踏み固められている。貼床は中央部と竈周辺を深く掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。

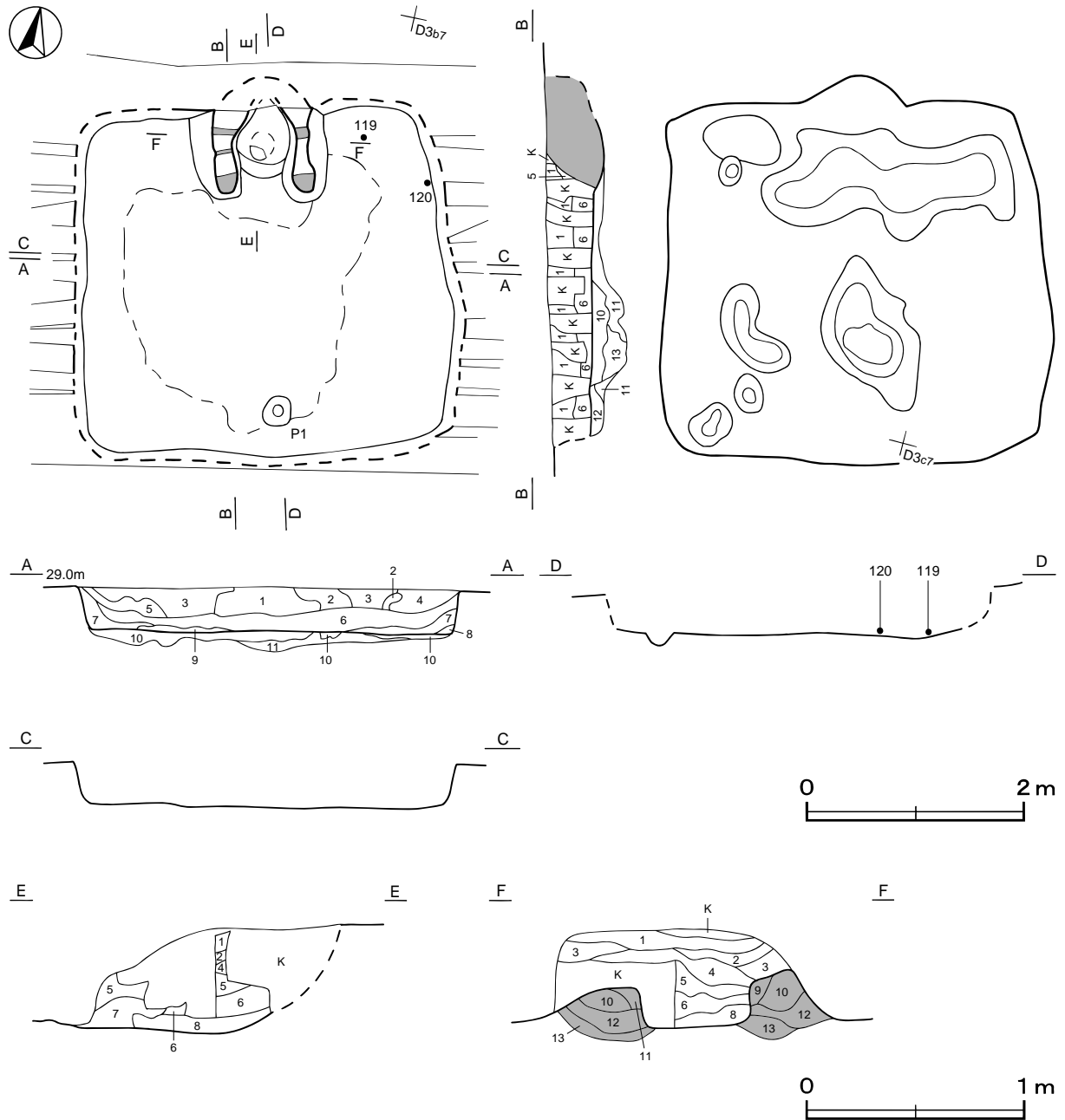
竈 北壁中央部に付設されている。耕作による攪乱のため規模は不明瞭である。確認できた範囲で、袖部幅が120cmほどである。袖部は地山を10cmほど掘り込み、ロームブロックを含む黒褐色土と砂質粘土を含む暗褐色土を版築状に積み重ねて基部とし、その上に砂質粘土を貼って構築されている。火床部は地山面を皿状に掘りくぼめている。火床面は不明瞭である。

竈土層解説

1	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子微量	7	褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
3	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9	暗赤褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック中量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量	10	黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5	にぶい褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	11	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化物少量
6	灰褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	12	暗褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
			13	黒褐色	ロームブロック中量

ピット 深さ12cmで、竈と向かいあう位置にあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分層される。ブロック状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第10~13層は貼床の構築土である。



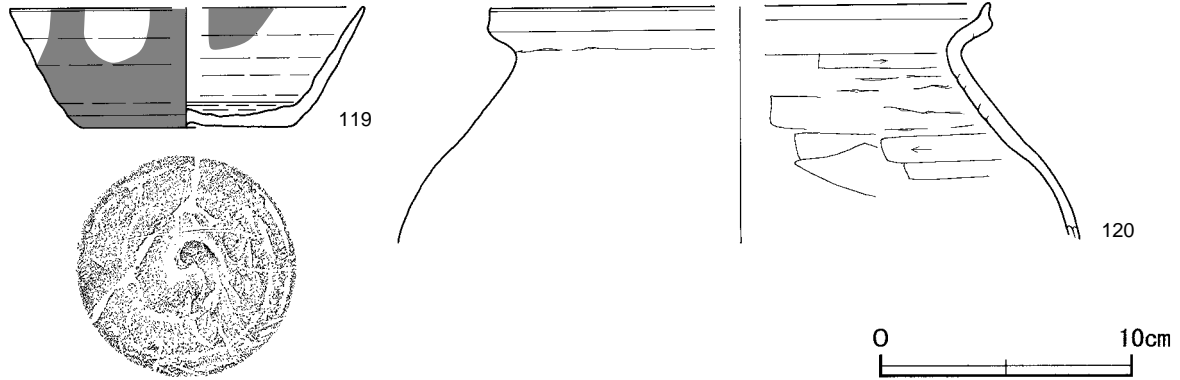
第75図 第21号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | 焼土ブロック中量 | 8 褐色 | ロームブロック多量, 砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | 9 褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量 | 12 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| | | 13 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片56点（坏2，甕54），須恵器片15点（坏11，高台付坏1，壺1，甕2）が，出土している。119は竈東側の床面から逆位で，120は東壁際の床面からつぶれた状態でそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第76図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表 (第76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
119	須恵器	坏	[14.0]	4.8	8.5	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のナデ	床面	50% ヘラ記号 PL16 内・外面係付着
120	土師器	甕	[19.6]	(9.4)		長石・石英・黒色 粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面横位のヘ ラ削り 輪積痕	床面	10%

第22号住居跡 (第77～80図)

位置 調査A区のD 3 a9区, 標高29mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.08m, 短軸4.76mの方形で, 主軸方向はN-2°-Wである。壁高は57～65cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 支柱穴の外側まで広い範囲で踏み固められている。貼床は中央部を25cm, 外周部を20cmほど掘り込み, ローム土を主体とする暗褐色の埋土で構築している。壁溝が全周している。

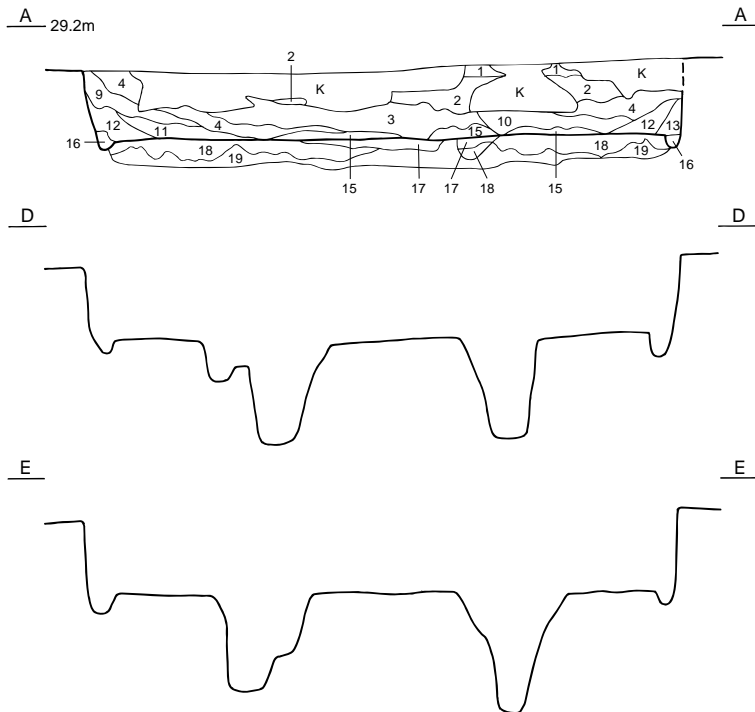
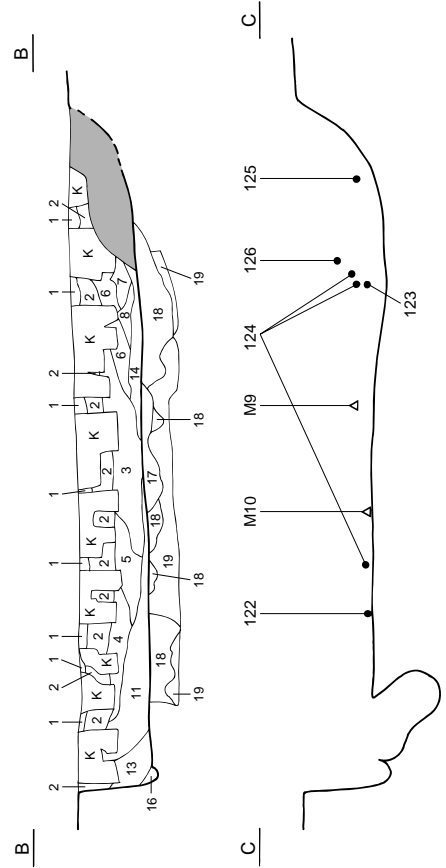
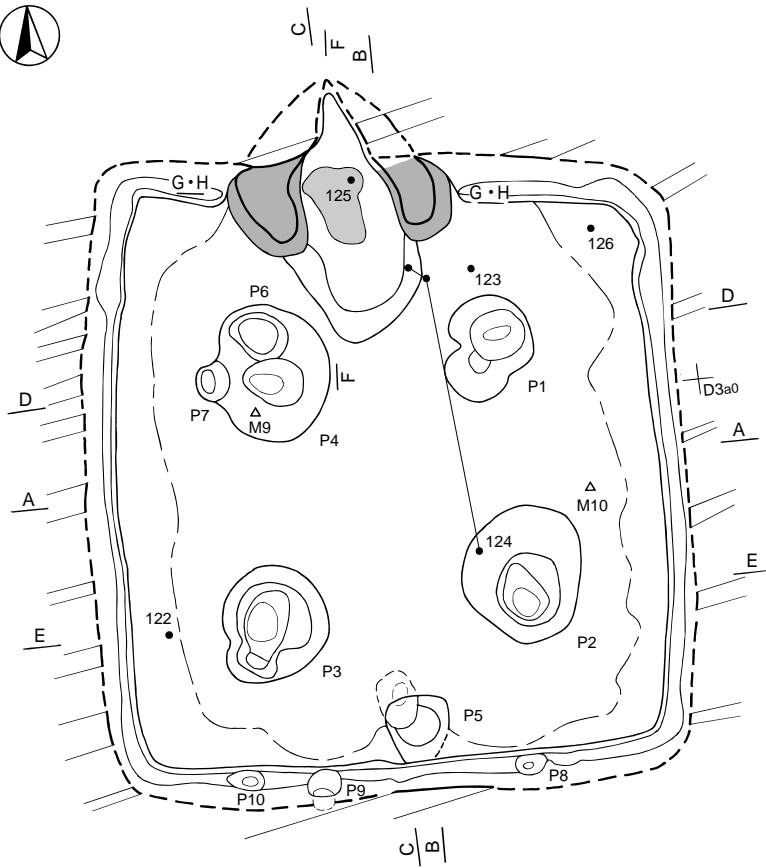
竈 北壁のやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで195cm, 袖部幅が175cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし, 砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は火熱により赤変硬化している。特に左側の硬化が著しい。規模からすると, 二掛竈と想定される。煙道部は壁外に65cmほど掘り込み, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

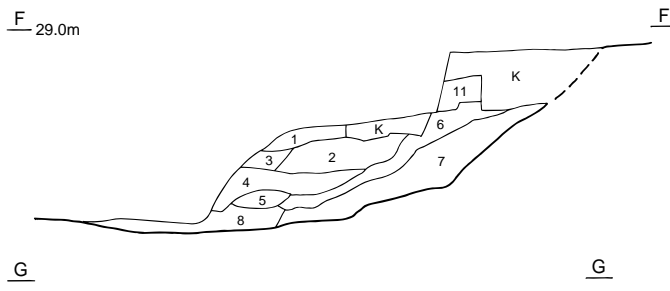
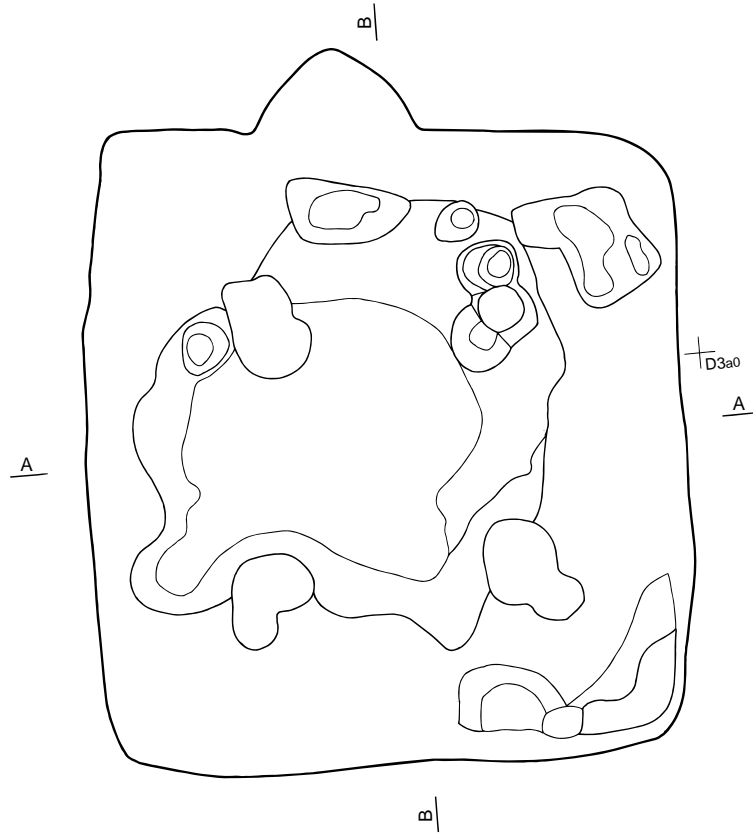
1 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック 微量	9 黄褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量	10 黄褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量	11 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒 子・炭化粒子微量
4 褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒 子微量	12 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量
5 褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量	13 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子微量
6 にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微 量	14 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
7 暗赤褐色	焼土粒子多量, 砂質粘土粒子少量	15 褐色	ロームブロック中量
8 黒色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック・ 砂質粘土粒子微量	16 黒褐色	炭化物・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・ 焼土ブロック微量

ピット 10か所。P 1～P 4は深さ77～96cmで, 位置と配置から支柱穴で, いずれも抜き取りが行われたと考えられる。P 5は深さ55cmで, 南壁から中央部寄りに掘り込まれており, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7は深さ80cm・37cmで支柱穴と考えられる。P 8～P 10は南壁際に位置し, 壁に向かって掘り込まれているが, 性格は不明である。

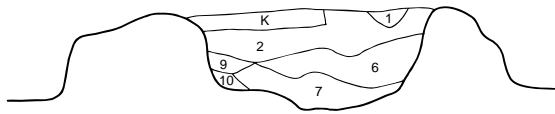
覆土 16層に分層される。一部ブロック状の堆積状況を示しているが, 壁外からの土砂の流入を示す堆積状況から, 自然堆積と考えられる。第17～19層は貼床の構築土である。



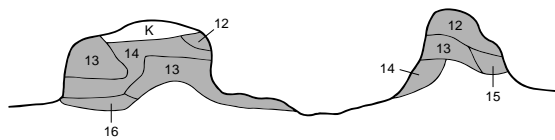
第77图 第22号住居跡実測图(1)



G G



H H



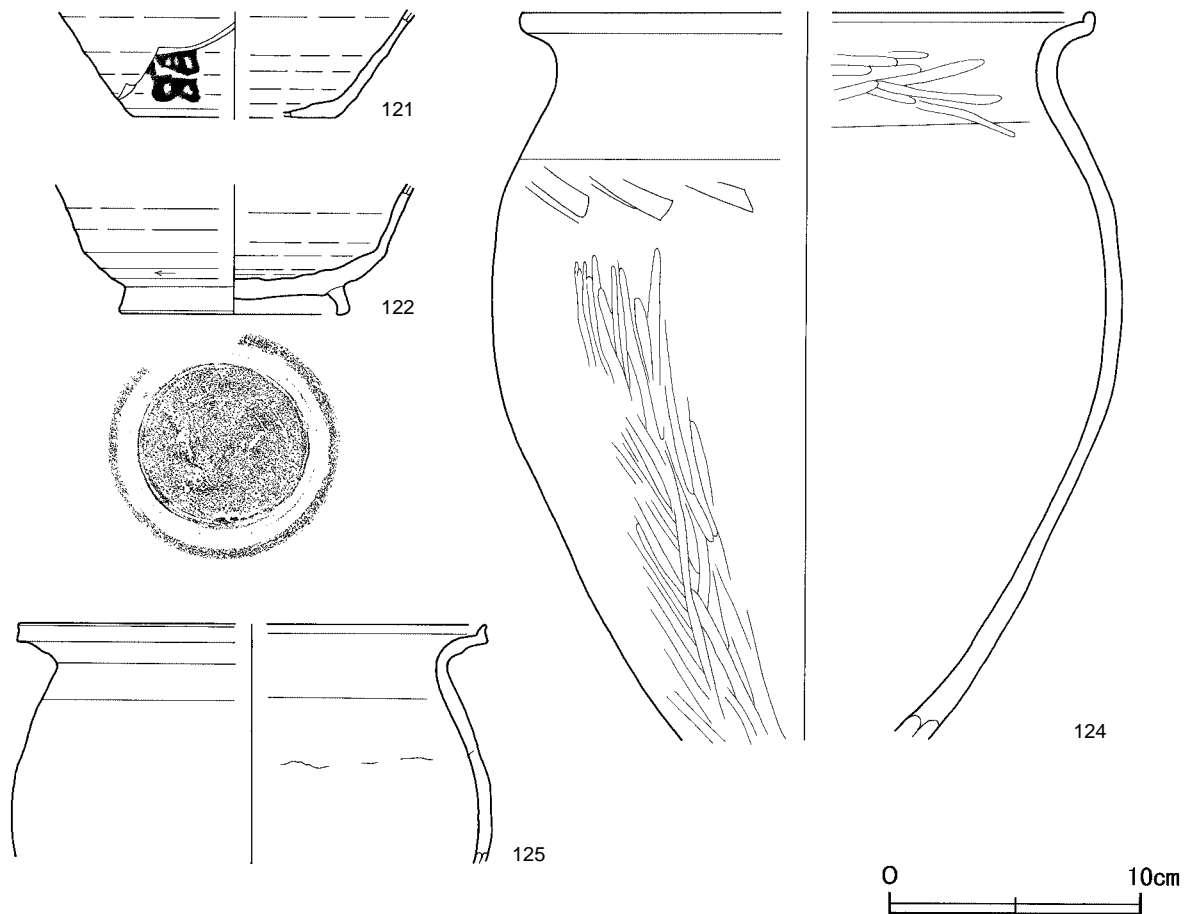
第78图 第22号住居跡実測图(2)

土層解説

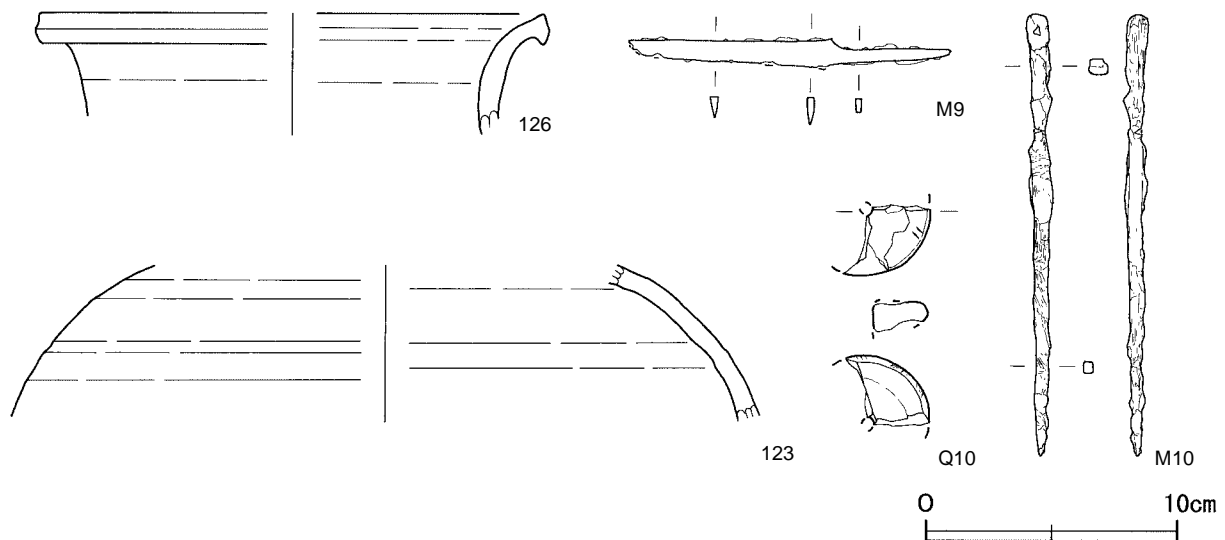
1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物・鹿沼パミス微量	11	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・鹿沼パミス微量	12	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	13	黒褐色	ローム粒子少量
5	黒褐色	ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量	14	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量	15	褐色	ロームブロック中量
7	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量	16	暗褐色	ロームブロック少量
8	黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量	17	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子少量
9	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック微量	18	暗褐色	ロームブロック・炭化物中量, 焼土粒子・鹿沼パミス少量
			19	褐色	ロームブロック多量, 鹿沼パミス少量

遺物出土状況 土師器片422点（坏6，甕412，甑4），須恵器片97点（坏63，高台付坏9，盤9，蓋2，壺4，甕10），石製品1点（紡錘車），金属器・金属製品2点（刀子，釘）が出土している。121は中央部の攪乱内から出土した墨書土器で「郷」と書かれている。122は西壁際の床面から逆位で，123は竈東側の覆土下層から斜位でそれぞれ出土している。125は竈内からつぶれた状態で出土しており，廃絶時に竈に掛けられていたものと想定される。124は南東部の床面と竈の焚口部から出土した破片が接合したものである。

所見 当遺跡の中でも大形の住居である。墨書土器や金属器・金属製品が出土していることから，集落の中心的な機能を果たしていたことも想定される。時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第79図 第22号住居跡出土遺物実測図（1）



第80図 第22号住居跡出土遺物実測図(2)

第22号住居跡出土遺物観察表(第79・80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
121	須恵器	坏		(4.3)	[8.0]	長石・石英・小礫	褐灰	普通	内・外面口クロナデ	攪乱中	10% 墨書「郷」 PL23
122	須恵器	高台付坏		(5.2)	9.1	長石・石英・雲母	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付	床面	60%
123	須恵器	壺		(6.2)		長石・石英・黒色 長石 粒子	灰	良好	内・外面口クロナデ	覆土下層	5%
124	土師器	甕	[22.4]	(28.9)		長石・石英・雲母・赤色 長石 赤色 粒子	橙	普通	体部縦位のヘラ磨き 口縁部内面横ナ デ後横位のヘラ磨き	床面	10%
125	土師器	甕	[18.4]	(9.5)		長石・石英・赤色 長石 粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 輪積痕	竈覆土中	5%
126	須恵器	甕	[19.9]	(4.8)		長石・石英	黄褐	普通	内・外面口クロナデ	覆土中層	5%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	紡錘車	(3.3)	[0.5]	(1.2)	(9.3)	ホルンフェルス	両方向からの穿孔の痕跡有り 研磨痕を残す	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M9	刀子	12.8	1.1	0.3	(7.9)	鉄	刀身部 断面三角形	覆土下層	PL24
M10	釘	17.5	1.0	0.7	(12.8)	鉄	断面方形 木質付着	床面	PL24

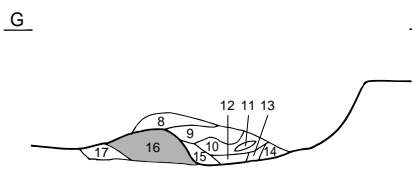
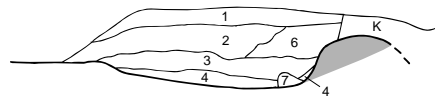
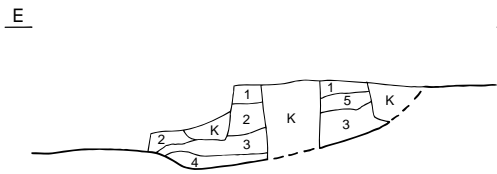
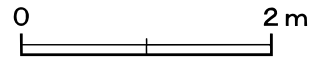
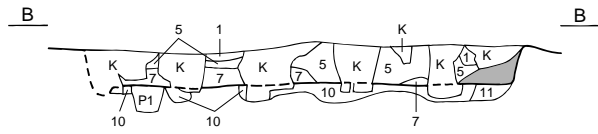
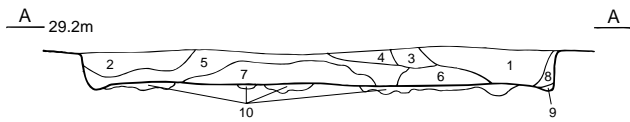
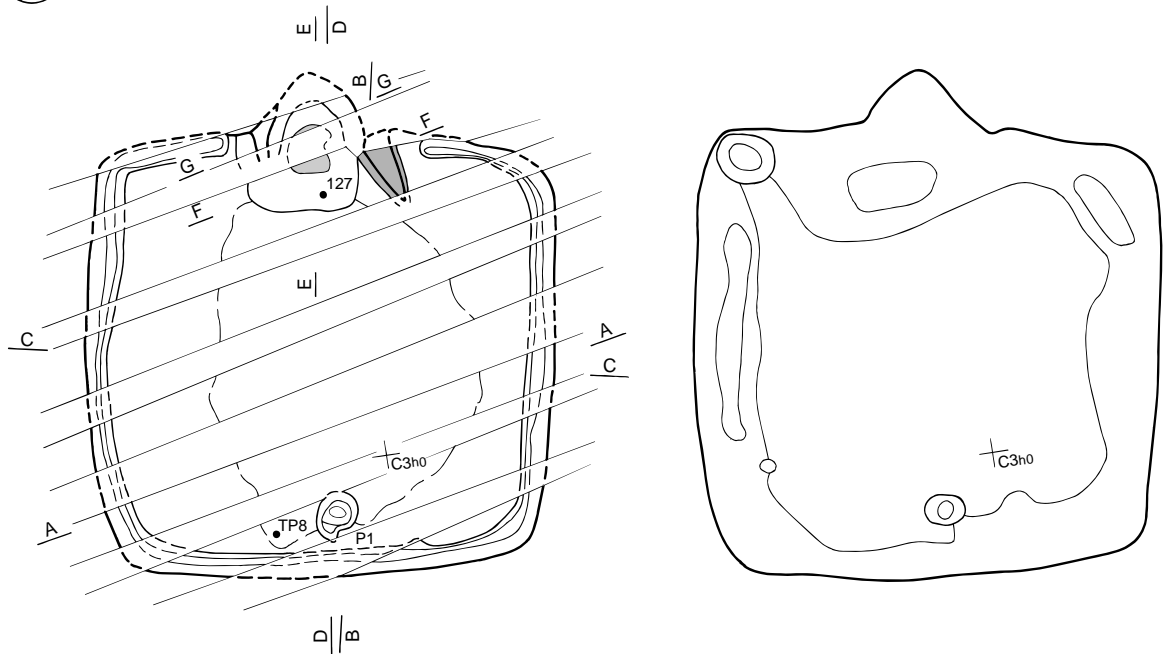
第23号住居跡(第81・82図)

位置 調査A区のC3g9区、標高29mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.69m、短軸3.52mの方形で、主軸方向はN-8°-Eである。壁高は27cmで、外傾して立ち上がっている。

床 中央部が踏み固められている。貼床は、竈から中央部を若干深めに掘り込み、ローム土を主体とする褐色の埋土で構築している。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。耕作による攪乱を受けており、遺存状態が悪い。規模は焚口部から煙道部まで110cmと推定される。袖部は右袖部のみ確認され、地山の上に砂質粘土で構築されている。火床部は地山を5cmほど掘り込んでいる。火床面は火熱を受けているが、さほど赤変していない。崩落土層中には焼土ブロックが多量に含まれていることから、本来かなりの熱を受けていたことが想定される。煙道部は壁外に30cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。



第81图 第23号住居跡実测图

竈土層解説

1 暗 褐 色	ローム粒子多量, 砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	10 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量, ローム粒子中量
2 黒 褐 色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量	11 明 赤 褐 色	焼土ブロック多量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量	12 灰 黄 褐 色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子中量
4 暗 赤 褐 色	焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量	13 灰 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
5 暗 灰 黄 色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	14 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
6 灰 黄 褐 色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量	15 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量
7 黒 褐 色	炭化粒子多量, 焼土粒子中量	16 黄 褐 色	砂質粘土粒子多量, 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量
8 灰 黄 褐 色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	17 暗 灰 黄 色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量
9 にぶい赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量		

ピット 深さ22cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

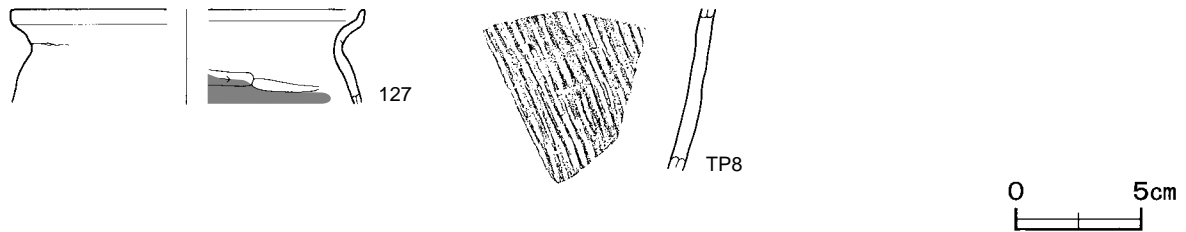
覆土 9層に分層される。南側から埋められた様相が見られることから、人為堆積と考えられる。第10・11層は貼床の構築土である。

土層解説

1 暗 褐 色	炭化粒子中量, ローム粒子少量	7 暗 褐 色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
2 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	8 褐 色	ロームブロック中量
3 黒 褐 色	炭化粒子中量, ロームブロック少量	9 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐 色	ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量	10 にぶい褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
5 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量	11 褐 色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
6 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片16点（坏6，高台付坏4，甕2，甌4），須恵器片26点（坏19，甕7），金属器・金属製品1点（不明）が出土している。127は竈の崩落土層中から斜位で、TP8は南壁際の床面から逆位でそれぞれ出土している。

所見 壁外柱穴の可能性も考慮して調査したが、主柱穴は確認できなかった。時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第82図 第23号住居跡出土遺物実測図

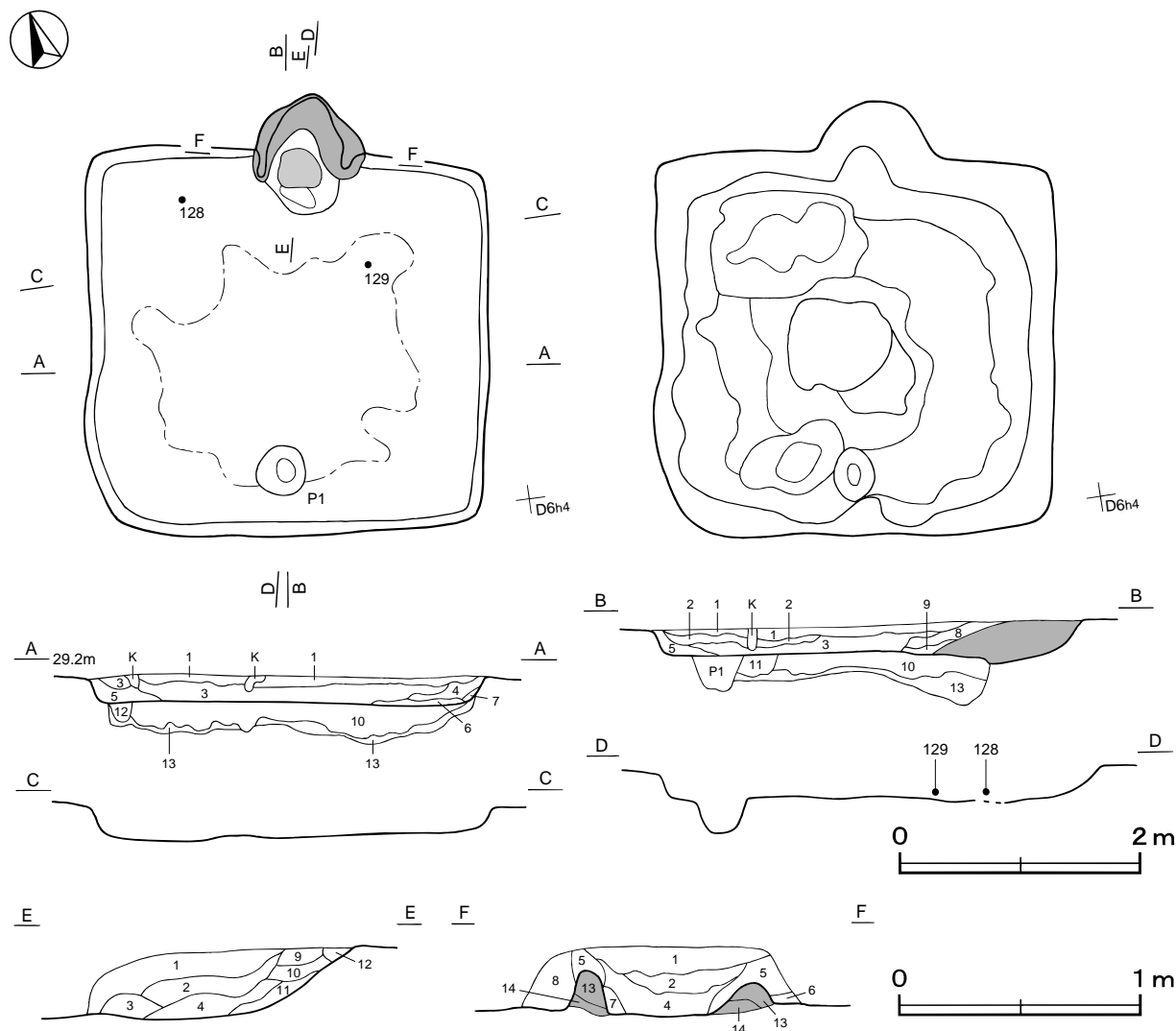
第23号住居跡出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
127	土師器	小形甕	[14.0]	(3.8)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面横位のヘラナデ	竈下層	10% 内面煤付着
TP8	須恵器	甕		(6.4)		長石・石英・雲母	浅黄	不良	外面斜位の平行叩き	床面	

第25号住居跡（第83・84図）

位置 調査B区のD6g3区、標高29mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.31m，短軸3.20mの方形で、主軸方向はN-11 - Eである。壁高は19~28cmで、外傾して立ち上がっている。



第83図 第25号住居跡実測図

床 中央部が踏み固められている。貼床は中央部を島状に掘り残し、外周部を深く掘り込み、ローム土を主体とする黒褐色の埋土で構築している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cm、袖部幅が91cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は地山を5cmほど掘りくぼめ、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。奥壁から煙道部にかけて砂質粘土が貼られている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|-----------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子・焼土ブロック少量 |
| 5 黄褐色 | 砂質粘土粒子中量 | 11 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量 | 12 黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量 |
| | | 13 黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック微量 |
| | | 14 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック微量 |

ピット 深さ26cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

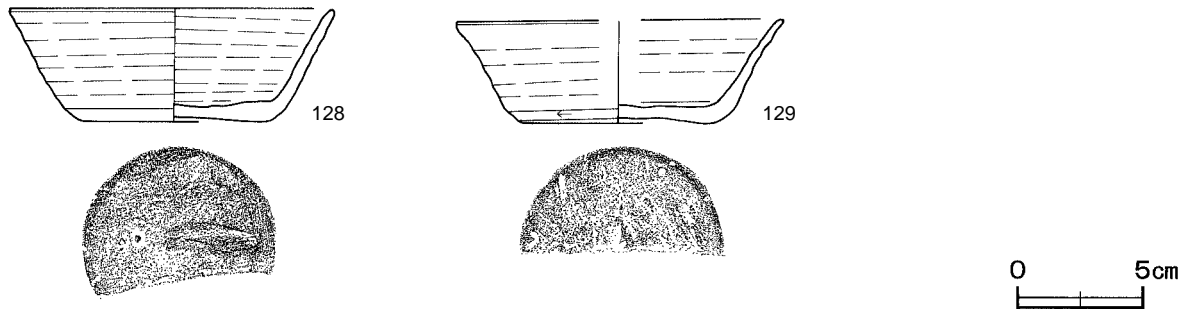
覆土 9層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第10～13層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|---------|--------------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子微量 | 9 黒 褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 10 暗 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 | 11 暗 褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 12 暗 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 6 黒 褐色 | ロームブロック微量 | 13 明 褐色 | ローム粒子多量 |
| 7 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片75点(甕), 須恵器片30点(坏29, 蓋1), 金属器・金属製品1点(不明)が出土している。128は北部, 129は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第84図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表 (第84図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
128	須恵器	坏	12.7	4.5	7.4	長石・石英・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ削り後一方向のナデ	覆土下層	60% PL14
129	須恵器	坏	[12.8]	4.2	8.0	長石・石英・小礫	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土下層	40% PL14

第26号住居跡 (第85~87図)

位置 調査B区のD6j2区, 標高29mの台地平坦部に位置している。

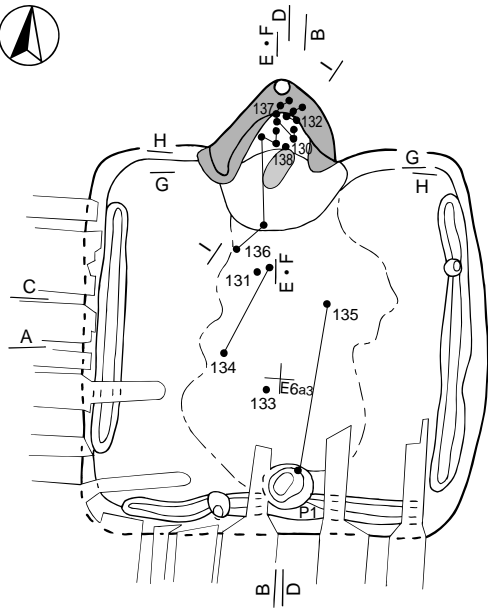
規模と形状 長軸3.21m, 短軸3.10mの方形で, 主軸方向はN-Oである。壁高は40~46cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 竈前から出入り口ピットにかけて踏み固められている。貼床は全体的にほぼ均一に掘り込み, ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が各コーナー部を除いて周回している。

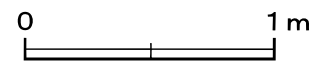
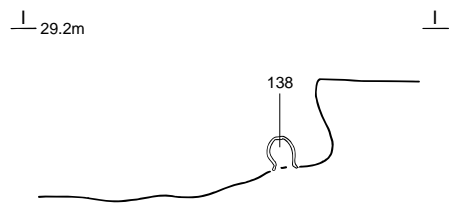
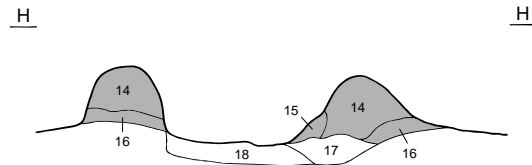
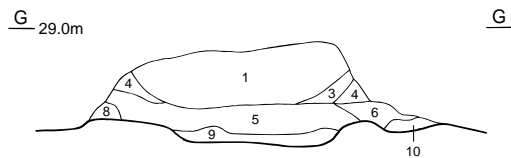
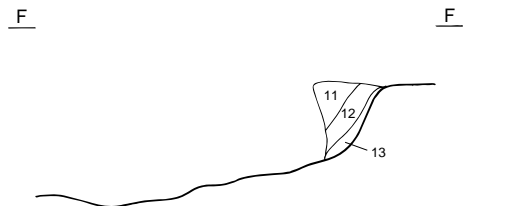
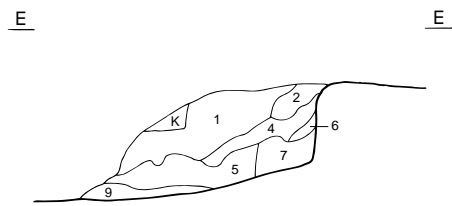
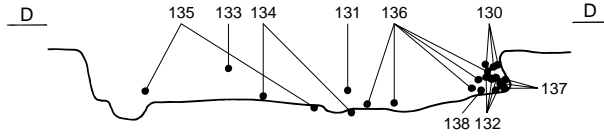
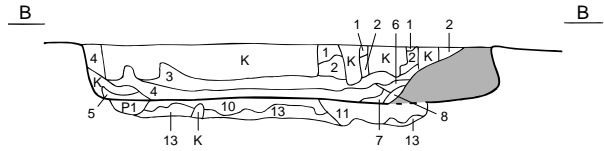
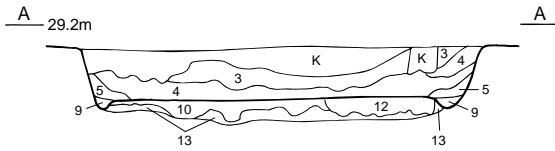
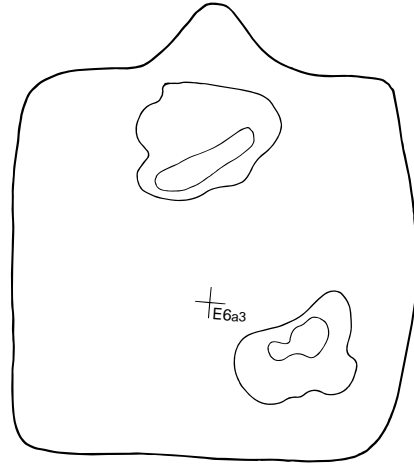
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmである。袖部は攪乱を受けており, 規模は不明である。左袖部は地山を掘り残して基部とし, 右袖部は地山を15cm掘り込み, 暗褐色土を充填して基部としている。それぞれ砂質粘土で構築されている。火床部は床面を5cmほど掘り込み, ローム土を充填している。火床面は火熱によりわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込み, 直立している。第11~13層は煙道部の土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 黄 褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 黒 褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 黒 褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量, 砂質粘土粒子微量 |
| | | 9 黒 褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |



C
A



第85图 第26号住居跡実测图

10 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	14 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量
11 褐色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	15 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量
12 暗赤褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量	16 褐色	ロームブロック中量
13 褐色	ローム粒子多量	17 暗褐色	ロームブロック中量
		18 暗褐色	ロームブロック少量

ピット 深さ14cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

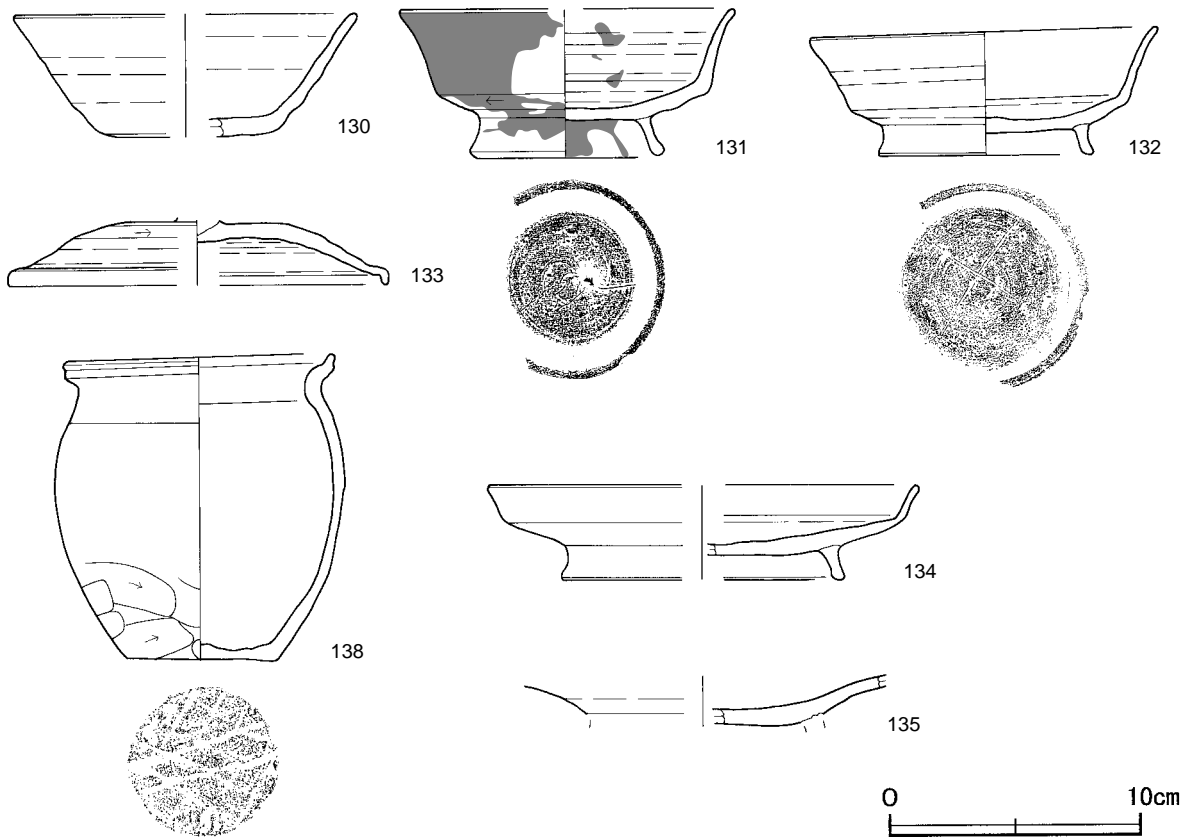
覆土 9層に分層される。上層は攪乱のため堆積状況が不明であるが、下層はレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第10～13層は貼床の構築土である。

土層解説

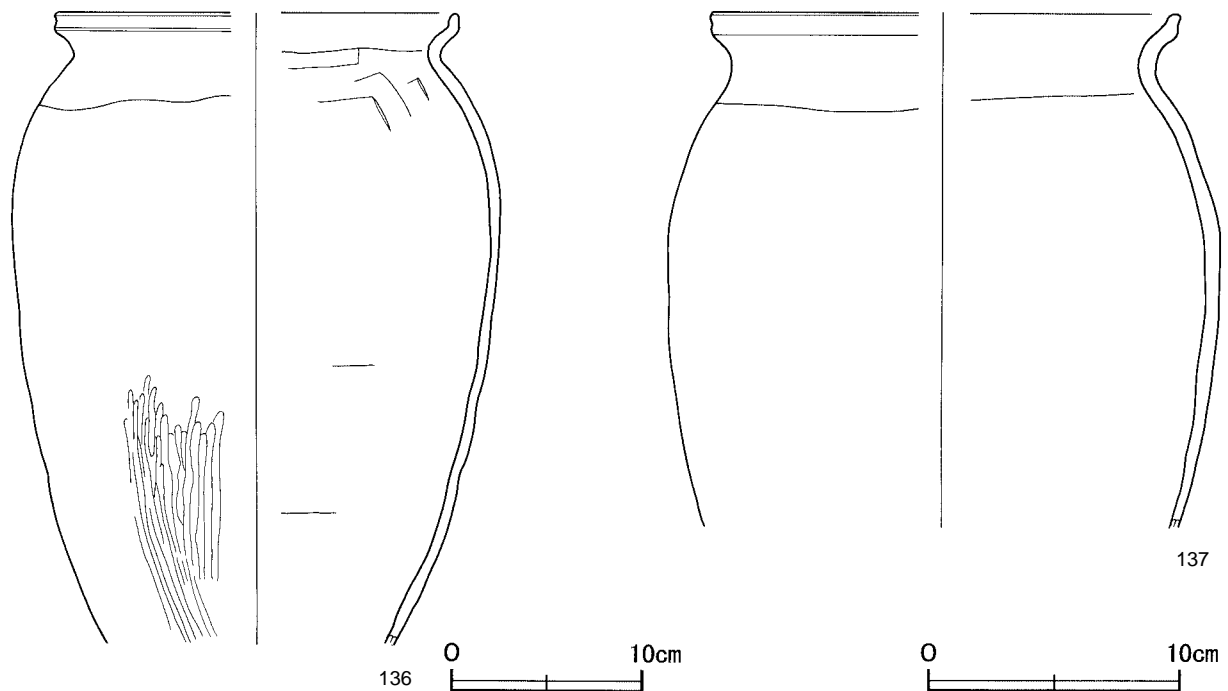
1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量	8 暗褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	10 褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
6 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	12 黒褐色	ロームブロック中量
		13 褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片55点（甕），須恵器片72点（坏40，高台付坏15，盤7，蓋5，甕5），鉄滓1点が出土している。竈内から多量の土器片が出土している。138は火床面の奥から逆位で完形で出土している。132は138の上に重なっていた破片が接合したものである。二次焼成痕がないことから、支脚への転用とは考えがたい。内部には焼土混じりの締まりの弱い土が入っていた。130・137は火床面の奥から出土した破片がそれぞれ接合したものである。竈内の多くの土器片が、天井部の崩落した層から出土していることから、竈を廃絶する際に、投棄されたものと想定される。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第86図 第26号住居跡出土遺物実測図（1）



第87図 第26号住居跡出土遺物実測図(2)

第26号住居跡出土遺物観察表(第86・87図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
130	須恵器	坏	[13.2]	4.9	[6.8]	石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	竈中層	30%
131	須恵器	高台付坏	[13.1]	5.9	7.1	長石・小礫	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 高台部貼付後ナデ	覆土下層	80% PL17 内・外面油煙付着
132	須恵器	高台付坏	13.7	5.1	8.4	長石・石英・小礫	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付	竈下層	80% ヘラ記号「+」 内面自然粘付着 PL17
133	須恵器	蓋	[15.0]	(2.6)		長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	45% PL16
134	須恵器	盤	[16.8]	3.8	[11.2]	長石・石英・黒色 粒子	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼付	床面	25% 外面自然粘付着
135	須恵器	盤		(2.0)		石英	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付痕	床面 覆土中層	20%
136	土師器	甕	[21.1]	(33.4)		長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面横位のヘラ削り 体部下端縦位のヘラ磨き	竈下層 床面	25%
137	土師器	甕	[18.4]	(20.4)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈下層	10%
138	土師器	小形甕	10.6	12.2	5.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラナデ	竈火床面	100% PL18

第27号住居跡(第88・89図)

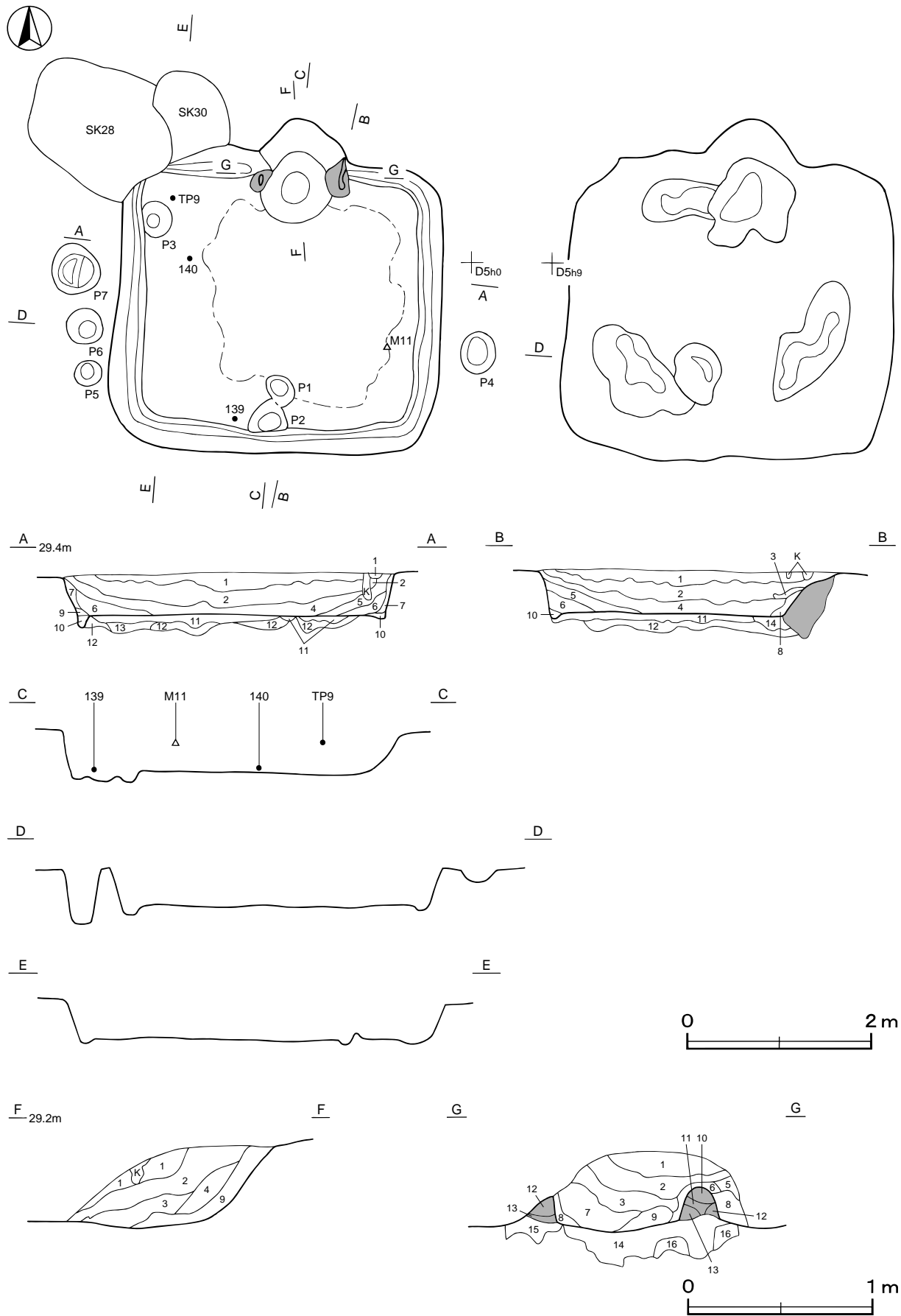
位置 調査B区のD 5h9区、標高29mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第28・30号土坑に北西コーナー部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.54m、短軸3.24mの方形で、主軸方向はN-6°-Eである。壁高は38~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 中央部から東壁際にかけて踏み固められている。貼床は全体的に10~15cm、南西・南東のコーナー部はさらに深く掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで112cm、袖部幅が108cmである。袖部は地山を10~20cm掘り込み、ローム土を充填して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど掘り込み、ローム土を充填している。火床面は火熱によりやや硬化している。煙道部は壁外に30cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。



第88图 第27号住居跡実測图

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	11 褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	12 褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量
4 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐色	ローム粒子中量	14 褐色	ロームブロック中量
6 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量	15 褐色	ローム粒子多量, 砂質粘土粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量	16 褐色	ローム粒子多量
8 褐色	ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量		
9 褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量		

ピット 7か所。P1・P2は深さ14cm・10cmで、南壁際に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4～P7は深さ29～58cmで、床面に支柱穴が確認できないことから壁外柱穴と考えられる。いずれも柱痕跡が確認された。P3は深さ12cmで、性格は不明である。

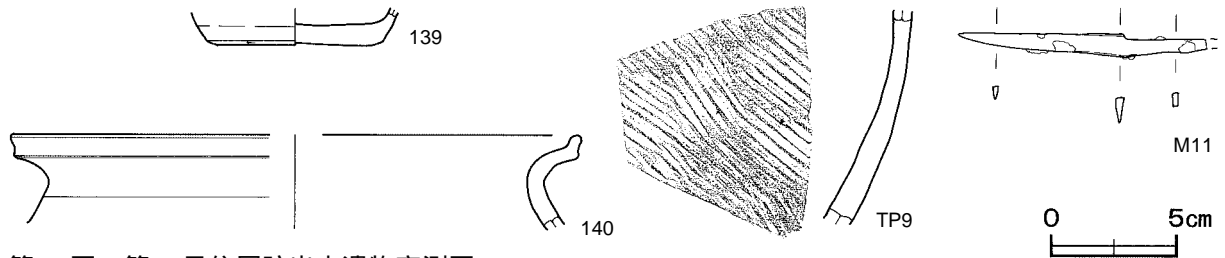
覆土 10層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第11～14層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック微量	9 褐色	ロームブロック・炭化物微量
3 暗褐色	ロームブロック微量	10 褐色	ローム粒子多量
4 暗褐色	ローム粒子中量	11 褐色	ロームブロック多量
5 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	12 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量	13 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子少量
7 明褐色	ローム粒子多量	14 褐色	ロームブロック多量, 砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片60点(甕), 須恵器片45点(坏44, 甕1), 金属器1点(刀子)が出土している。140は北西コーナー部の床面から斜位で、139は出入り口ピット西側の覆土下層から逆位でそれぞれ出土している。M11は東部の覆土中層から出土しており、土砂とともに流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土土器が細片のため判断が困難であるが、8世紀中葉から後葉と考えられる。



第89図 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表 (第89図)

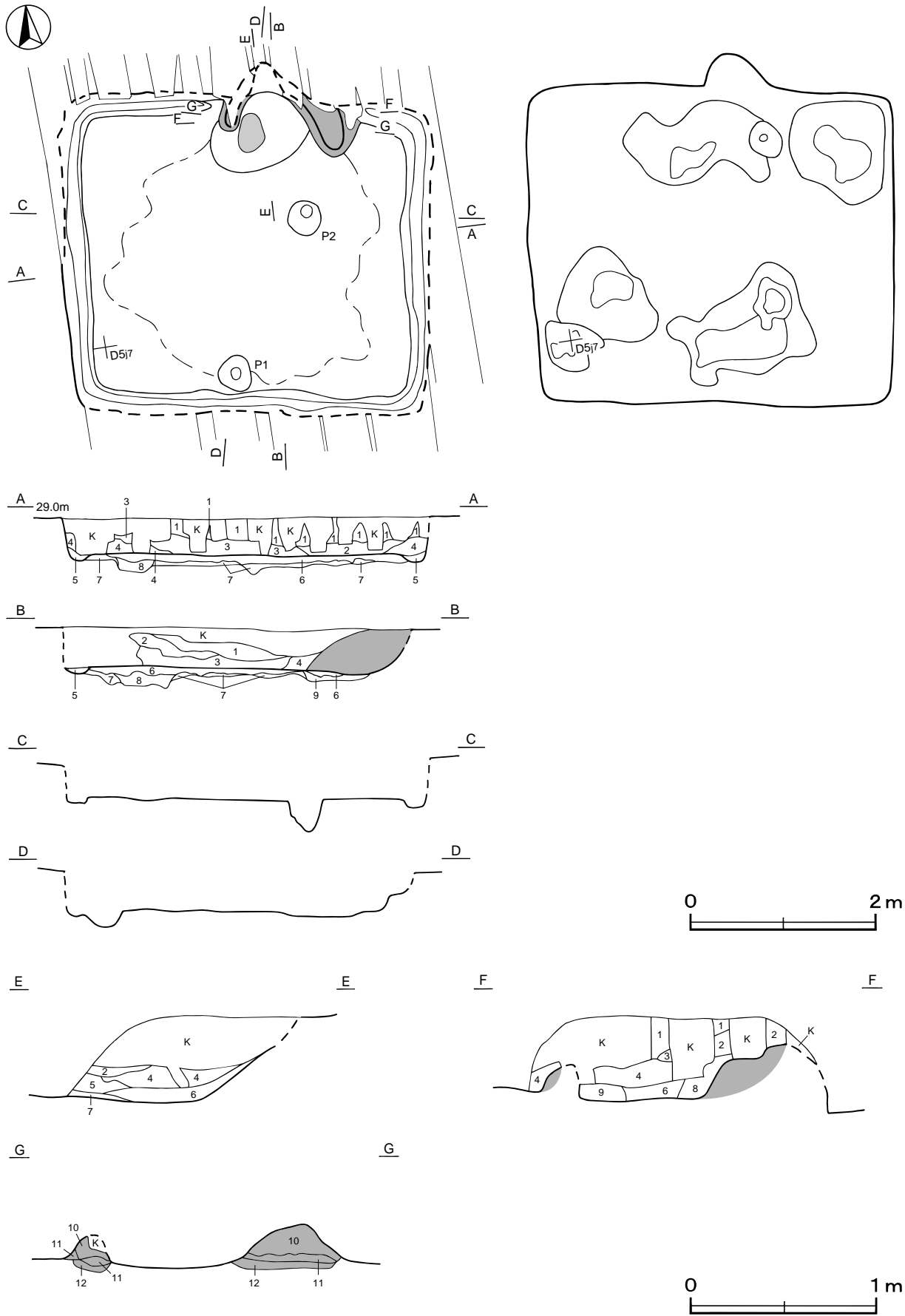
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
139	須恵器	坏		(1.5)	6.0	長石・石英	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土下層	15%
140	土師器	甕	[22.3]	(3.7)		長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP9	須恵器	甕		(8.7)		長石・黒色粒子	灰白	良好	外面斜位の平行叩き	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M11	刀子	(9.9)	0.9	0.3	(4.8)	鉄	茎部端部欠損 断面三角形	覆土中層	PL24

第28号住居跡 (第90・91図)

位置 調査B区のD5i7区, 標高28.5mの台地平坦部に位置している。



第90图 第28号住居跡実測图

規模と形状 長軸3.95m、短軸3.47mの長方形で、主軸方向はN-14-Eである。壁高は33~44cmで、直立している。

床 中央部の広い範囲が踏み固められている。貼床は全体的に10cmほど掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cm、袖部幅が150cmである。袖部は地山を10cmほど掘り込み、ローム土を充填して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は地山を皿状に5cmほど掘りくぼめており、火床面は火熱により赤変硬化している。袖部幅が広く、火床面がやや西側に位置していることから二掛竈と想定される。煙道部は壁外に30cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 9 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量 | 10 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 12 褐色 | ロームブロック多量、砂質粘土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 | | |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、砂質粘土粒子微量 | | |

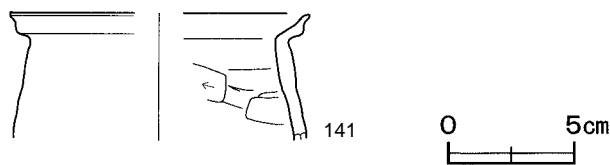
ピット 2か所。P1は深さ21cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ35cmで、支柱穴の可能性も考えられるが、対応するピットが確認できないことから性格は不明である。

覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第6~9層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量、砂質粘土粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 9 暗褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片37点（坏2、甕35）、須恵器片14点（坏13、壺1）、石器1点（砥石）が出土している。



耕作による攪乱のため、出土遺物はいずれも細片である。141は竈内の覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。

第91図 第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表 (第91図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
141	土師器	小形甕	[11.7]	(5.0)		長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面横位のヘラ削り	竈覆土中	10%

第29号住居跡 (第92~95図)

位置 調査B区のD5j5区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南西コーナー部が調査区域外へ延びている。長軸5.52m、短軸4.75mの長方形で、主軸方向はN-0である。壁高は28~46cmで、直立している。

床 中央部が踏み固められている。貼床は全体的に25cmほど掘り込み、ローム主体の暗褐色土を埋土して構築している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140cmほどと推定される。天井部の崩落層や袖部が確認できないことから、廃絶時に破壊されたものと考えられる。火床部は地山を15cmほど掘りくぼめており、火床面は焚口部寄りと奥に2か所の硬化面が見られる。煙道部は壁外に40cmほど掘り込み、外傾して立ち上がっていたと想定される。

竈土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	4 暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5 黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3 黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	6 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量

炉 中央部に位置し、長径78cm、短径54cmの楕円形である。床面を20cmほど掘り込み、ローム土を充填した地床炉で、炉床面は火熱により赤変硬化している。

炉土層解説

1 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量	3 暗 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子微量		

ピット 9か所。P 1～P 4は深さ57～85cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P 5・P 6は深さ56cm・61cmで、支柱穴と考えられる。P 7は深さ65cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 8・P 9は深さ37cm・48cmで竈の両脇に位置しており、北壁際に向かって斜めに掘り込まれており、支柱穴の可能性が想定される。

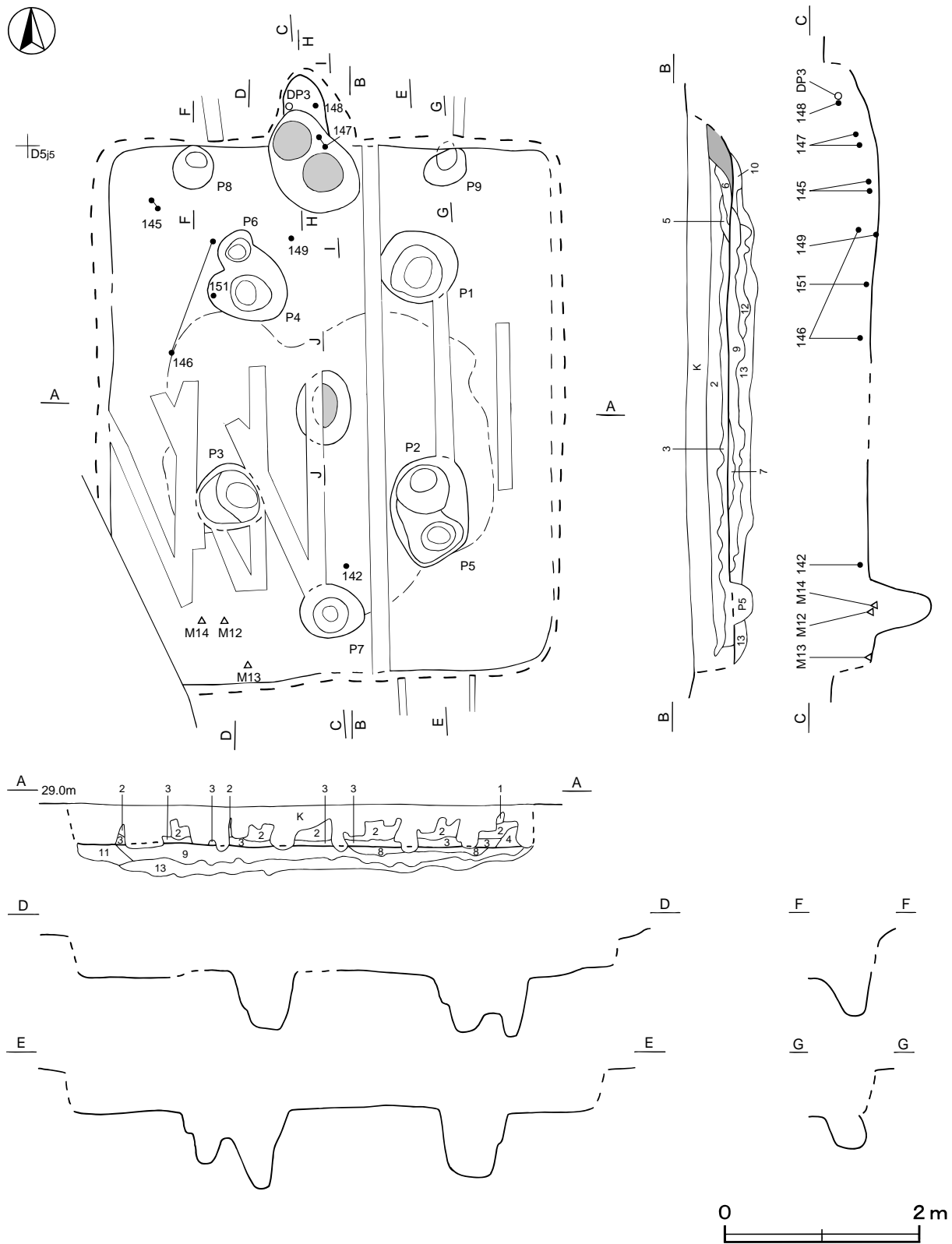
覆土 6層に分層される。上層は攪乱により堆積状況は不明であるが、水平に堆積していることから自然堆積と考えられる。第7～13層は貼床の構築土である。

土層解説

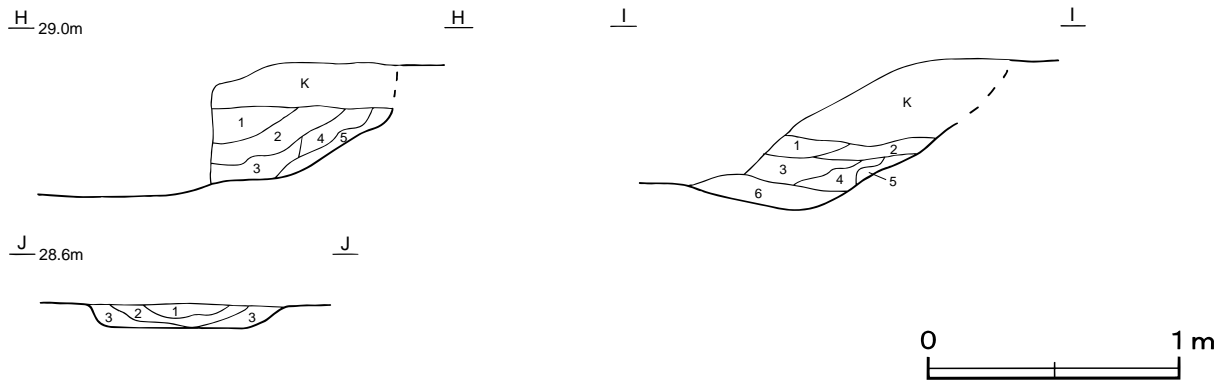
1 黒 褐 色	ローム粒子少量	8 褐 色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 褐 色	ロームブロック中量
3 暗 褐 色	ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	10 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 暗 褐 色	ロームブロック少量	11 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
5 黒 褐 色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	12 褐 色	ローム粒子多量
6 黒 褐 色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	13 黒 褐 色	ロームブロック少量
7 暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量		

遺物出土状況 土師器片1032点（坏192，高台付坏5，蓋1，甕834），須恵器片255点（坏180，高台付坏2，盤9，蓋8，壺1，甕55），土製品1点（支脚），石器・石製品4点（砥石3，紡錘車1），金属器・金属製品7点（鎌1，鏃1，刀子3，釘1，不明1）が出土している。142は南部の床面から、144は竈の覆土中から出土しており、それぞれ「十万」，「在カ」と墨書されている。なお、細片で図示できない土器の中にも墨書が数点みられる。145は北西コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したもので、内面に漆が付着している。M12～M14の鉄製品は南壁際の床面から、143・DP 4は貼床の埋土中からそれぞれ出土している。DP 3の支脚は竈内から出土しているが、覆土中層から確認され、原位置を保っていない。攪乱により大半が細片であるが、調査した中では、遺物の出土量が多い住居跡である。

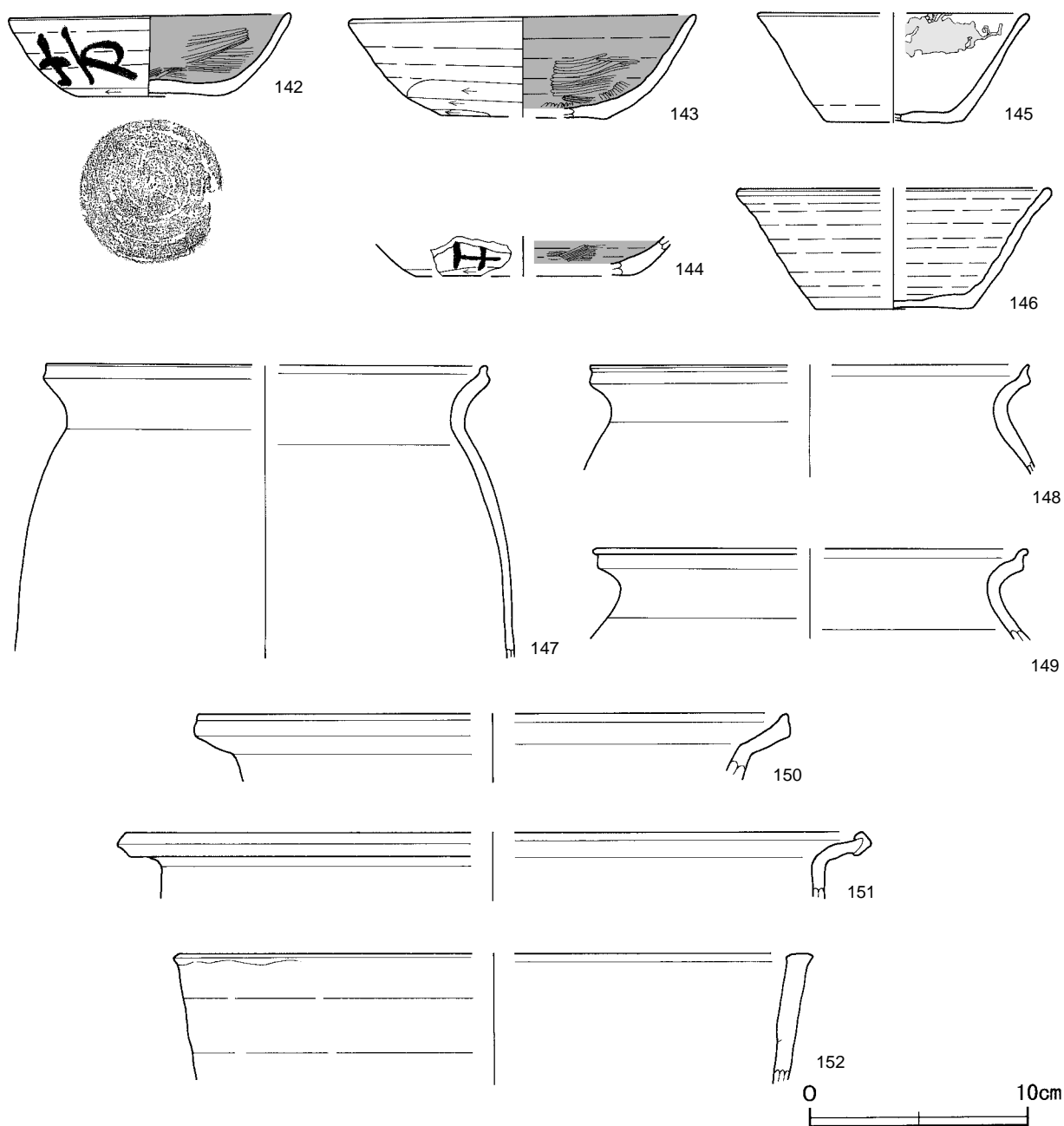
所見 縦長の住居で、竈脇にピットを有していることから、他とは異なる上屋構造であったと考えられる。竈と炉を併設していることや、漆の付着した土器や鉄製品が出土していることから、何らかの生産活動に従事していたことも想定される。また、西側20mに位置する同時期の第5号住居跡からも、漆付着土器や鉄製品が出土しており、関連が想定される。時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



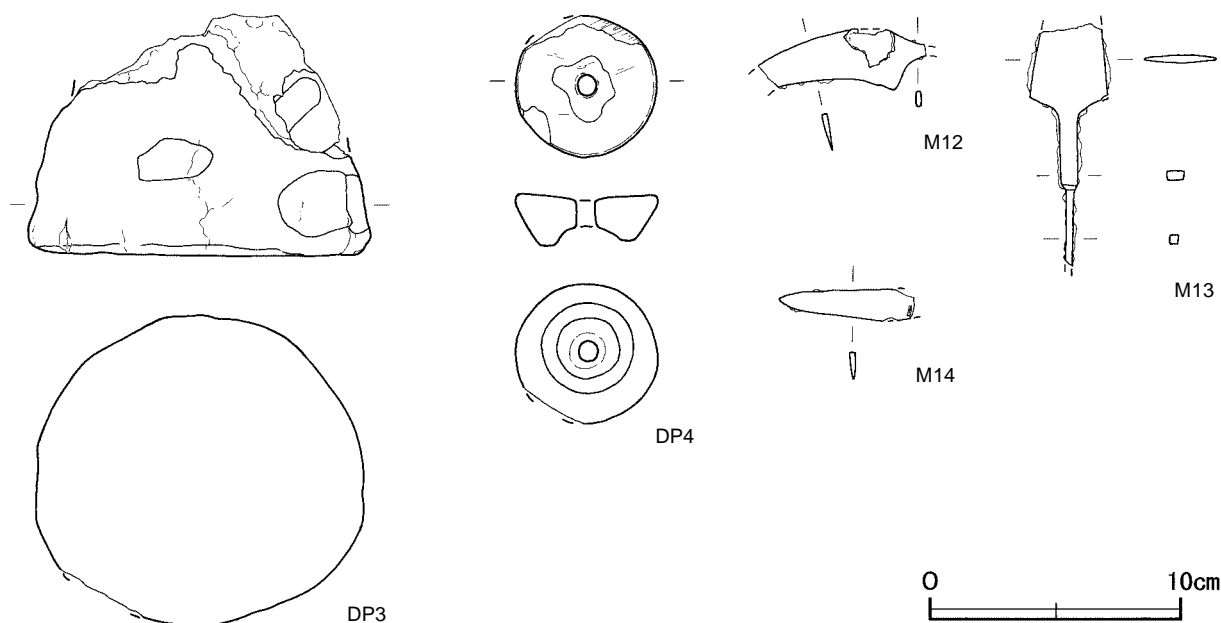
第92图 第29号住居迹实测图(1)



第93图 第29号住居跡実測図(2)



第94图 第29号住居跡出土遺物実測図(1)



第95図 第29号住居跡出土遺物実測図(2)

第29号住居跡出土遺物観察表(第94・95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
142	土師器	坏	12.7	3.8	6.5	長石・石英・雲母・小礫	浅黄橙	普通	体部下端から底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	70% PL16・23 墨書「十万」
143	土師器	坏	15.6	4.9	7.4	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	掘り方	50% PL16
144	土師器	坏		(1.8)	[10.0]	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	竈覆土中	5% 墨書「在」カ PL23
145	須恵器	坏	[12.1]	5.0	[6.3]	長石・石英	黄褐	普通	外面口クロナデ 底部多方向のヘラ削り	覆土下層	25% 内面漆附着ヘラ記号「+」
146	須恵器	坏	[14.0]	5.5	7.2	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ切り	覆土下層	30%
147	土師器	甕	[20.0]	(13.4)		長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈覆土中	5%
148	土師器	甕	[20.0]	(5.1)		長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈覆土中	5%
149	土師器	甕	[19.6]	(4.1)		長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	5%
150	須恵器	甕	[26.8]	(3.1)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5%
151	須恵器	甌	[33.6]	(3.1)		長石・石英・雲母	灰黄	不良	体部外面格子状の平行叩き	床面	5%
152	須恵器	甌	[28.9]	(6.0)		石英・雲母・小礫	灰黄	不良	内・外面口クロナデ 輪積痕	覆土中	10%

番号	器種	長さ	径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP3	支脚	(9.5)	13.7	(12600)	粘土	体部下端手持ちヘラ削り	竈覆土中層	PL23

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP4	紡錘車	5.6	0.8	2.2	(59.8)	粘土	片側からの穿孔	掘り方	PL23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M12	鎌	(6.7)	2.5	0.3	(6.5)	鉄	茎付鎌 先端部欠損 断面三角形	床面	PL24
M13	鎌	(9.7)	3.1	0.4	(13.5)	鉄	鎌身部から篋被部 鎌身部三角形	床面	PL24
M14	刀子	(5.4)	1.3	0.2	(5.4)	鉄	刀身部 断面三角形	床面	PL24

表7 奈良・平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	出土遺物	時代	備考 (新旧関係)
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈				
1	D 3c8	N-5°-W	方形	3.40×3.29	6~18	貼床	全周	-	-	-	竈	自然	土師器, 須恵器	8世紀中葉~後葉	
2	D 3e8	N-0°	方形	4.60×4.31	53~62	貼床	ほぼ全周	4	1	1	竈	自然	土師器, 須恵器, 石器	9世紀前葉	
3	D 4d1	N-7°-W	長方形	4.08×3.73	24~30	-	一部欠	-	1	-	竈	自然	土師器, 須恵器	9世紀中葉	
4	D 4a5	N-10°-W	長方形	4.20×3.75	24~35	貼床	一部欠	-	1	1	竈	自然	土師器, 須恵器, 土師器製品	8世紀後葉	
5	D 4i8	N-4°-W	方形	4.42×4.36	57~63	-	全周	4	1	-	竈	自然	土師器, 須恵器, 土師器製品	9世紀中葉	
6A	D 3j0	N-19°-W	方形	4.33×3.84	30~42	貼床	-	4	1	-	竈	自然	土師器, 須恵器, 土師器製品	8世紀後葉	
6B	D 3j0	N-17°-W	方形	3.90×3.61	-	貼床	一部	-	-	-	竈	自然	-	8世紀後葉	
6C	D 3j0	N-17°-W	長方形	3.90×[3.12]	-	貼床	-	-	-	-	竈	自然	-	8世紀後葉	
7	C 3f5	N-10°-W	長方形	4.02×3.51	16~31	貼床	一部欠	4	1	-	竈	人為	土師器, 須恵器, 石器	8世紀後葉	
8	D 3j3	N-4°-W	方形	5.29×4.98	29~53	貼床	一部欠	4	1	-	竈	自然	土師器, 須恵器, 土師器製品, 金属器	8世紀後葉	SK1 新旧不明
9	E 2a0	N-24°-W	方形	5.10×4.80	46~70	貼床	一部欠	4	1	1	竈	自然	土師器, 須恵器, 土師器製品	8世紀後葉	SI10 本跡
10	D 3j1	N-16°-W	方形	4.66×4.40	41~59	貼床	全周	4	1	2	竈	人為	土師器, 須恵器, 土師器製品	8世紀中葉	本跡 SI9
11	D 3h2	N-10°-W	長方形	3.50×3.09	41~49	貼床	-	7	1	-	竈	人為	土師器, 須恵器, 土師器製品	8世紀後葉	
12	D 3d1	N-22°-E	長方形	3.22×2.85	29~30	貼床	全周	-	1	-	竈	自然	土師器, 須恵器	9世紀中葉~後葉	SI13 本跡
13	D 3e2	N-29°-E	長方形	5.00×4.58	48~60	貼床	一部	4	1	6	竈	人為	土師器, 須恵器, 石器, 金属器, 金属製品	9世紀中葉	本跡 SI12
14	D 2d2	N-113°-E	方形	4.54×4.54	12~70	貼床	-	4	1	1	竈2	自然	土師器, 須恵器, 土師器製品	9世紀中葉	本跡 SK12
15	D 2c1	N-29°-E	長方形	4.90×3.88	26~65	貼床	-	4	1	2	竈	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属器	8世紀後葉	本跡 SK13
16	C 2a3	N-104°-E	方形	3.32×3.31	33~48	貼床	一部欠	-	1	-	竈	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀前葉~中葉	
17	C 3g2	N-12°-E	方形	3.01×2.88	28~32	貼床	一部欠	-	1	-	竈	自然	土師器, 須恵器	9世紀中葉	
18	C 3h3	N-14°-E	方形	3.00×2.85	19~28	-	-	4	1	-	竈	自然	土師器, 須恵器, 古銭	9世紀中葉	
19	C 3h5	N-7°-E	方形	3.90×3.70	30~40	貼床	一部	3	2	1	竈	人為	土師器, 須恵器, 土師器製品, 金属器	9世紀前葉	SI20 本跡
20	C 3i6	N-10°-W	方形	3.70×3.52	39~44	貼床	一部欠	-	1	-	竈	自然	土師器, 須恵器, 土師器製品	8世紀後葉	本跡 SI19
21	D 3b6	N-15°-W	方形	3.55×3.28	30~41	貼床	-	-	1	-	竈	自然	土師器, 須恵器	8世紀後葉	
22	D 3a9	N-2°-W	方形	5.08×4.76	57~65	貼床	全周	4	1	5	竈	自然	土師器, 須恵器, 石器, 土製品, 金属器, 金属製品	9世紀前葉	
23	C 3g9	N-8°-E	方形	3.69×3.52	27	貼床	全周	-	1	-	竈	人為	土師器, 須恵器, 土師器製品, 金属器, 金属製品	9世紀前葉	
25	D 6g3	N-11°-E	方形	3.31×3.20	19~28	貼床	-	-	1	-	竈	自然	土師器, 須恵器, 土師器製品, 金属器, 金属製品	8世紀中葉	
26	D 6j2	N-0°	方形	3.21×3.10	40~46	貼床	一部欠	-	1	-	竈	自然	土師器, 須恵器, 土師器製品, 金属器	9世紀前葉	
27	D 5h9	N-6°-E	方形	3.54×3.24	38~40	貼床	全周	4	2	1	竈	自然	土師器, 須恵器, 土師器製品, 金属器	8世紀中葉~後葉	本跡 SK28・30
28	D 5i7	N-14°-E	長方形	3.95×3.47	33~44	貼床	全周	-	1	1	竈	自然	土師器, 須恵器, 土師器製品, 金属器	8世紀後葉~9世紀前葉	
29	D 5j5	N-0°	長方形	5.52×4.75	28~46	貼床	-	4	1	4	炉・竈	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 金属器, 金属製品, 石器	9世紀中葉	

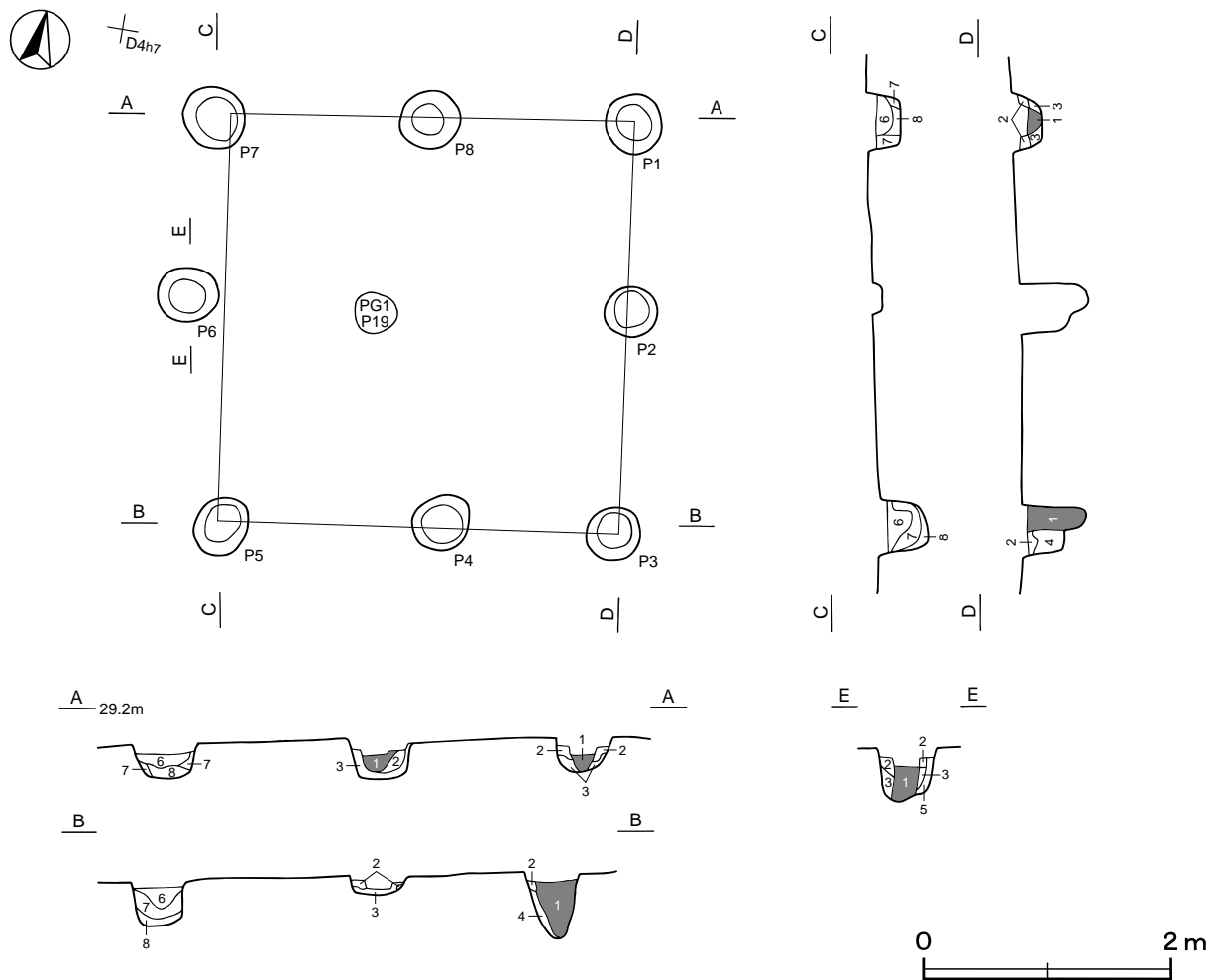
(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第96図)

位置 調査A区のD 4h7区, 標高28.5mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向をN-9-Wとする南北棟である。桁行3.30m, 梁行3.20mで, 面積は10.56㎡である。柱間寸法は桁行が1.5m (5尺)と1.8m (6尺), 梁行が1.5m (5尺)で, 柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形を基調とし, 深さは18~51cmである。第1層が柱痕跡に相当し, 締まりの弱い黒褐色土である。第2~5層は埋土で, ローム土を含んだ暗褐色・黒褐色土で, 強く突き固めた痕跡は認められない。第6~8層は柱抜き取り後の覆土である。



第96図 第1号掘立柱建物跡実測図

土層解説

- | | | | | | |
|-------|---|-----------|-------|---|-------------------|
| 1 黒褐色 | 色 | ローム粒子微量 | 5 褐色 | 色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | 色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | 色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | 色 | ロームブロック中量 | 8 褐色 | 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |

所見 時期は、出土土器が無いので明確ではないが、第5・29号住居跡と軸線が同じで、関連が想定されることから9世紀前葉と推測される。

第2号掘立柱建物跡 (第97図)

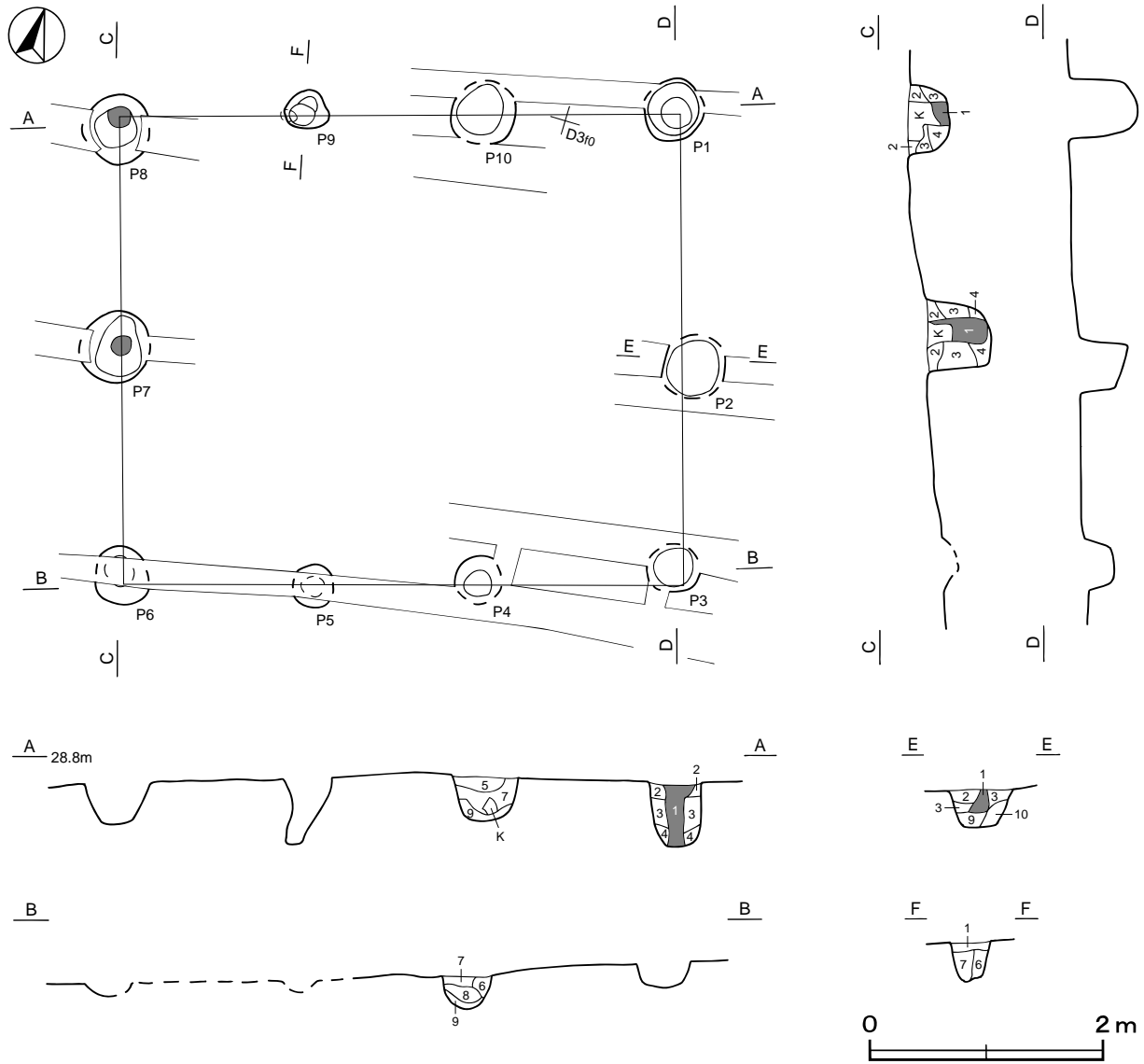
位置 調査A区のD3f9区、南へ下る標高28.5mの緩斜面部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向をN-74-Eとする東西棟である。桁行4.80m、梁行3.90mで、面積は18.72㎡である。柱間寸法は桁行が1.6m、梁行が1.9mを基調としている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは18~58cmである。第1層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。第2~4層は掘り方の埋土で、ローム土を含んだ褐色・暗褐色土で、強く突き固めた痕跡は認められない。第5層以下は柱抜き取り後の覆土である。P7・P8の底面は硬化しており、柱が据えられた痕跡とみられる。

土層解説

- | | | | | | |
|-------|---|-----------|-------|---|-------------------|
| 1 黒褐色 | 色 | ロームブロック微量 | 3 暗褐色 | 色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | 色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | 色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |



第97図 第2号掘立柱建物跡実測図

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 5 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック微量 | 10 褐色 | ロームブロック多量 |

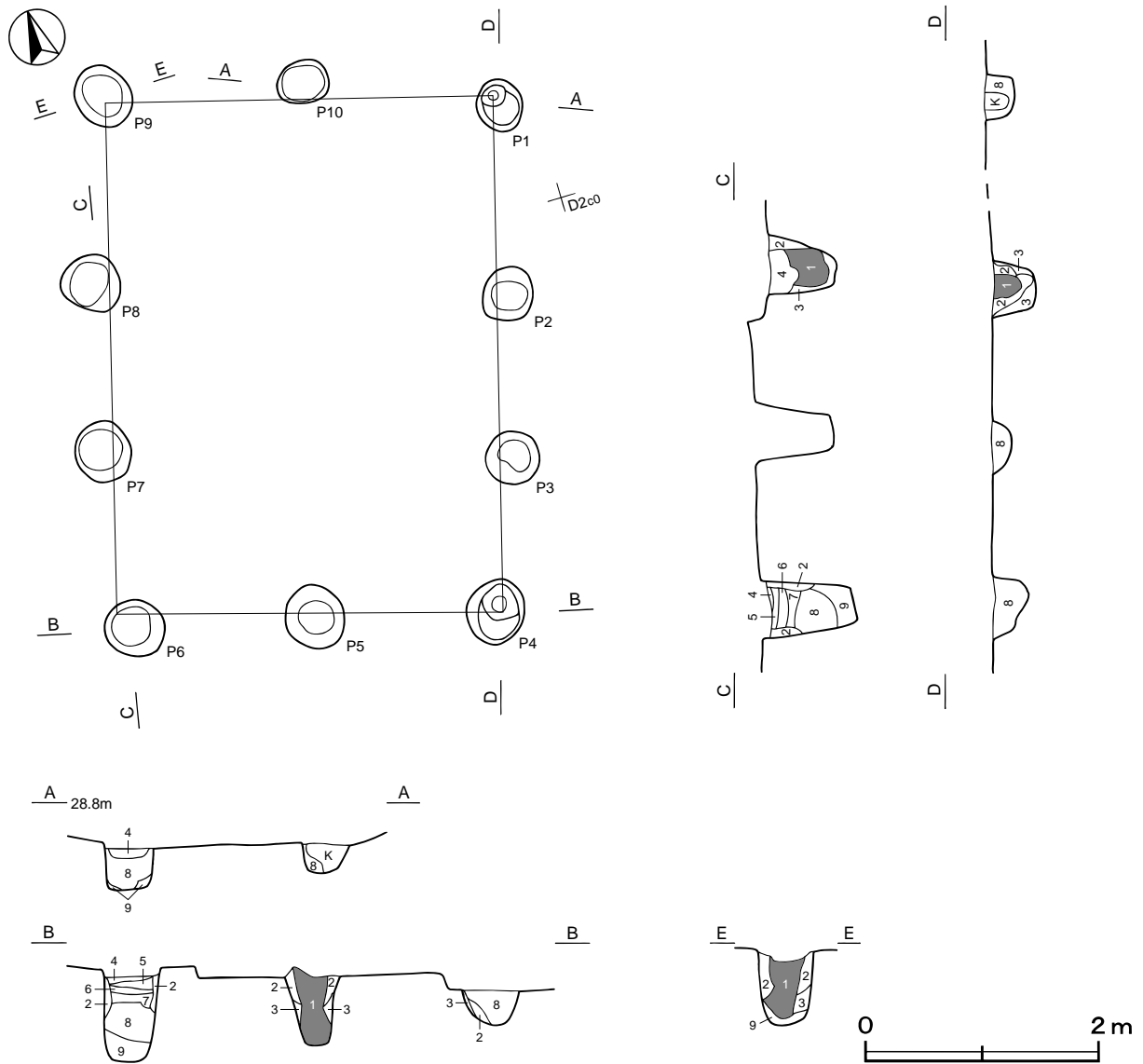
所見 時期は、出土土器が無いので明確ではないが、第6・8・9・11号住居跡と軸線が同じで、関連が想定されることから、同時期の8世紀後葉と考えられる。

第3号掘立柱建物跡 (第98図)

位置 調査A区のD 2 b9区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向をN-15-Eとする南北棟である。桁行4.50m、梁行3.40mで、面積は15.30㎡である。柱間寸法は桁行が1.5m (5尺)、梁行が1.7mを基調としている。柱筋は揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは16~78cmである。第1層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。第2・3層は掘り方の埋土で、ローム土を含んだ褐色・暗褐色土で、強く突き固めた痕跡は認められない。第4層以下は柱抜き取り後の覆土で、第9層は固く締まっており、柱の高さ調整のために充填さ



第98図 第3号掘立柱建物跡実測図

れたものと考えられる。

土層解説

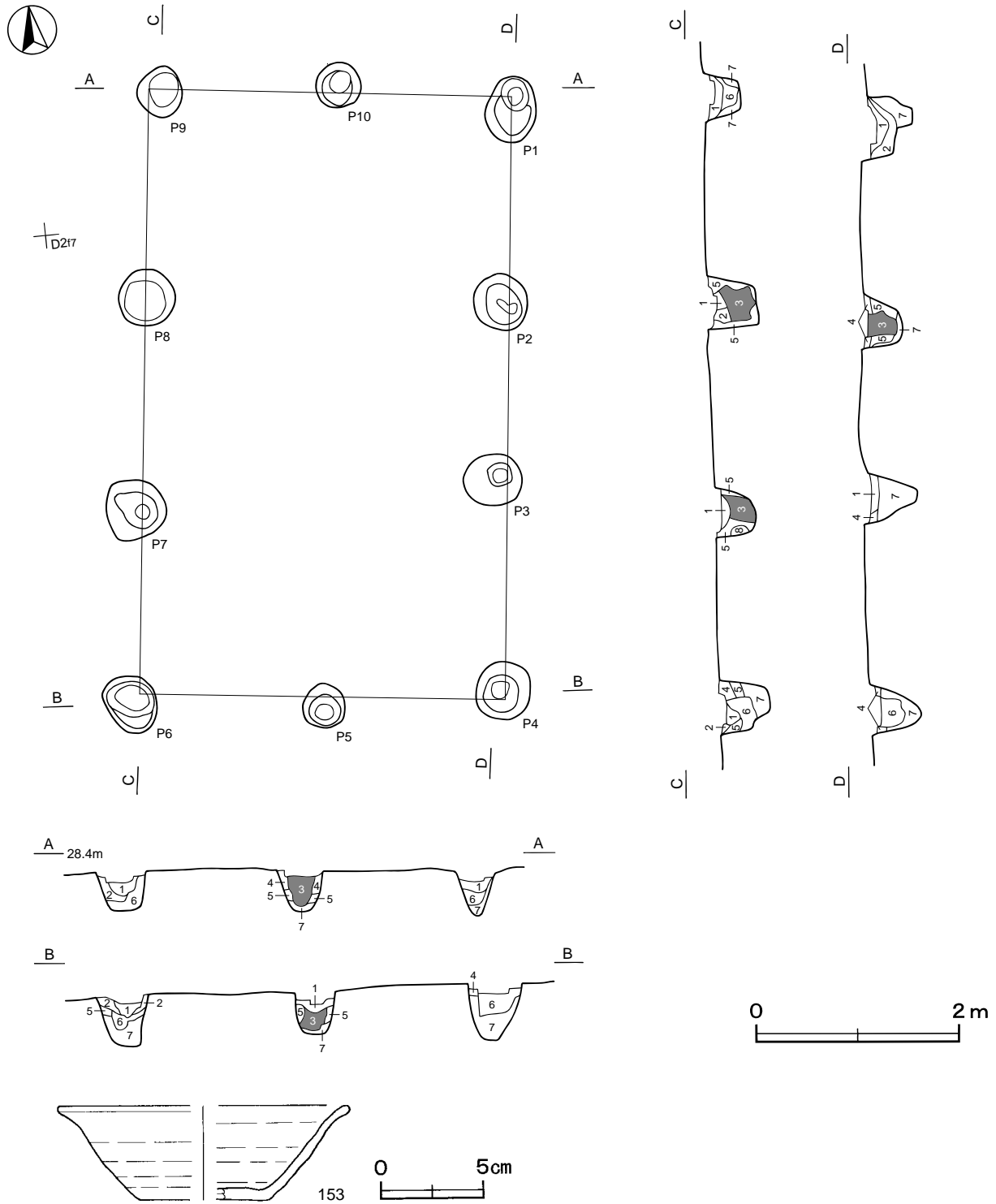
- | | | | |
|-------|----------------------|---------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・黒色粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量, 黒色粒子微量 | 9 にぶい褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量 | | |

所見 時期は、出土土器がないため判断は困難であるが、東側に位置する第13・17・18号住居跡と軸線が同じことから、9世紀中葉に機能していたと想定される。

第4号掘立柱建物跡 (第99図)

位置 調査A区のD2f7区、西に下る標高28mほどの緩斜面部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向をN-7-Eとする南北棟である。桁行5.70m、梁行3.60mで、面積は20.52㎡である。柱間寸法は桁行が1.9mを基調としているが、東平側が北から1.9m、1.7m、2.1mで、西平側が2.0m、2.0m、1.8mと不規則である。梁行は1.8m(6尺)で、柱筋は揃っている。



第99図 第4号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは40～56cmである。第3層が柱痕跡に相当し、縮まりの弱い暗褐色土である。第4・5・7層は掘り方の埋土で、ローム土を含んだ褐色・黄褐色土で、強く突き固めた痕跡は認められない。第1・2・6層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量 | 7 黄褐色 | ローム粒子多量，鹿沼パミス微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片3点（坏2，甕1），須恵器1点（坏）が抜き取り後の覆土から出土している。153はP5の抜き取り後の覆土から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉以前と考えられる。

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第99図）

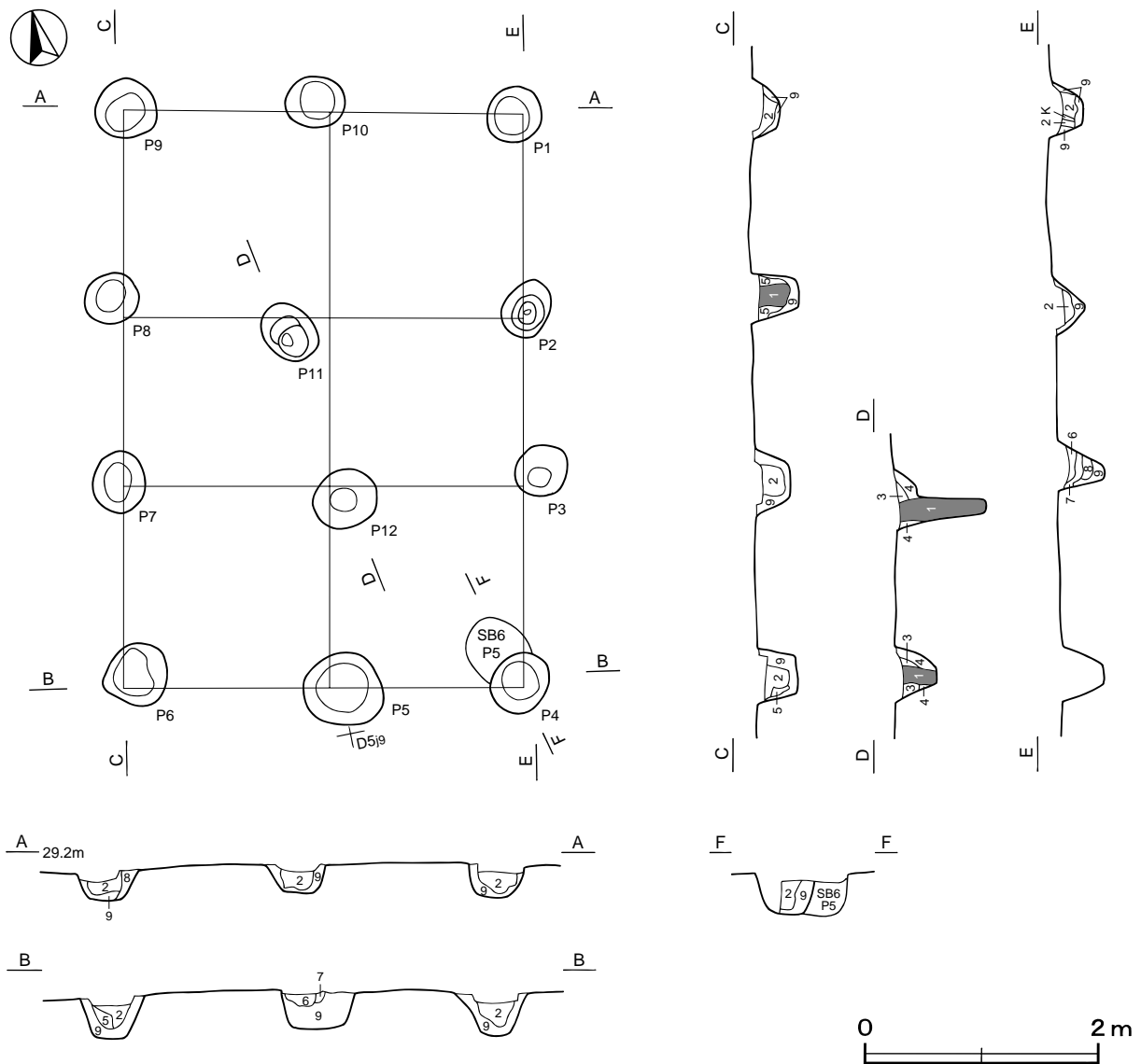
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
153	須恵器	坏	[13.9]	4.6	[6.4]	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後多方向のナデ	P5覆土中	20%ヘラ記号「-」

第5号掘立柱建物跡（第100図）

位置 調査B区のD5i8区，標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号掘立柱建物跡のP5を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の総柱建物跡で，桁行方向をN-10-Eとする南北棟である。桁行4.80m，梁行3.30mで，面積は15.84㎡である。柱間寸法は桁行が1.6mを基調とし，梁行が北妻側が1.8m（6尺），



第100図 第5号掘立柱建物跡実測図

1.5m（5尺），南妻側が1.5m（5尺），1.8m（6尺）である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 12か所。平面形は円形を基調とし，深さは25～77cmである。第1層が柱痕跡に相当し，締まりの弱い黒褐色土である。第3・4・9層は掘り方の埋土で，ローム土を含んだ暗褐色・褐色土で，強く突き固めた痕跡は認められない。第2・5～8層は柱抜き取り後の覆土である。P11・P12は他の柱穴より径がやや小さく，位置から束柱穴と想定される。

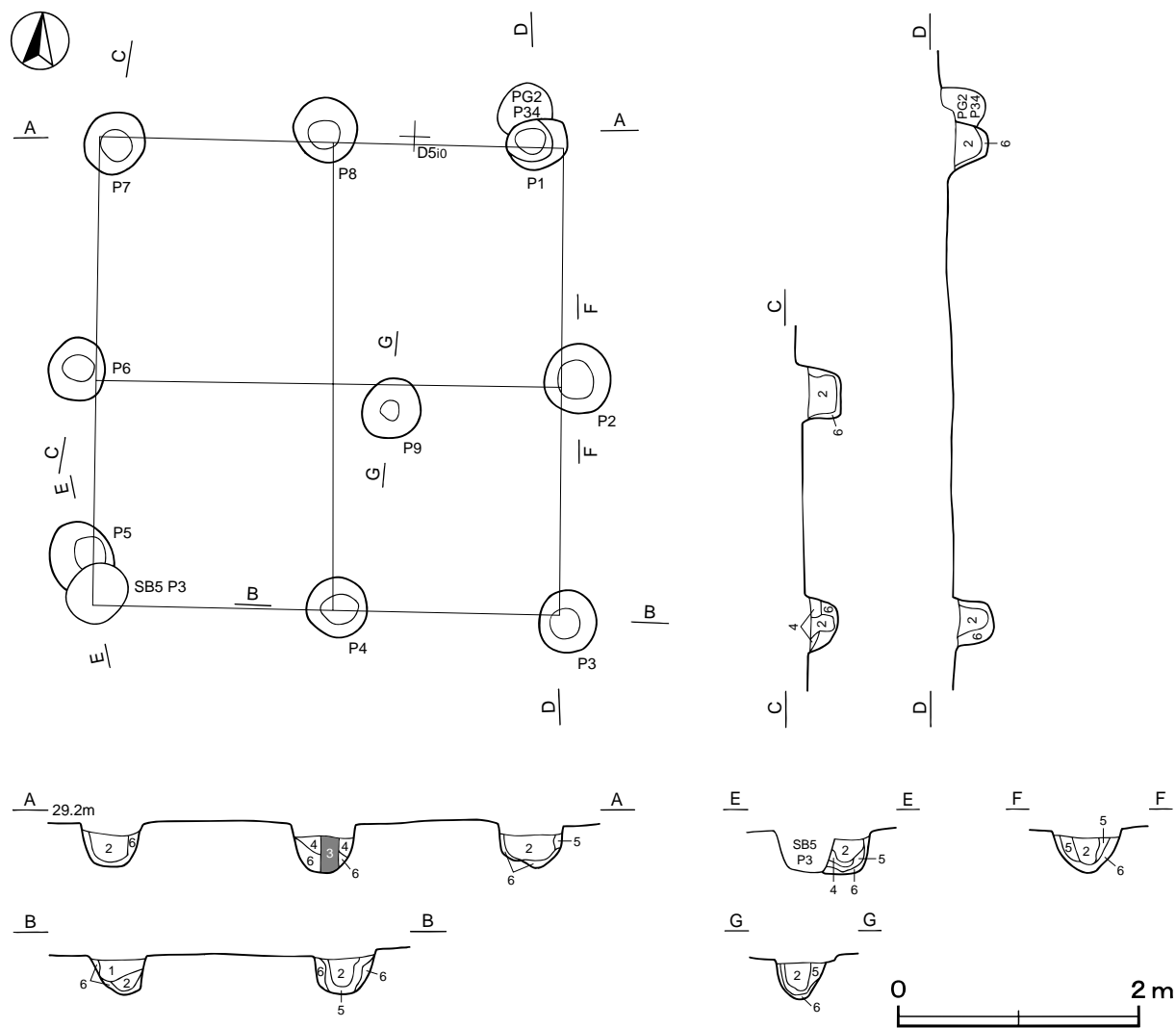
土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	7 黒褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子少量	8 黒褐色	ロームブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子中量
5 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片3点（坏1，甕2）が，抜き取り後の覆土から出土しているが，いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は，南西に位置する第6号掘立柱建物跡との重複関係から，9世紀中葉以降と考えられる。規模や形状から，倉庫的な機能を有していたと想定される。

第6号掘立柱建物跡（第101図）



第101図 第6号掘立柱建物跡実測図

位置 調査B区のD 5 i9区、標高29mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号ピット群のP34を掘り込み、第5号掘立柱建物のP3に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向をN-1-Eとする南北棟である。桁行3.90m、梁行3.70mで、面積は14.43㎡である。柱間寸法は桁行が西平側で1.8m、1.6m、東平側で1.7m、1.8m、梁行が北妻側で1.7m、1.8m、南妻側で2.0m、1.8mと不規則である。四隅の柱が若干内側にずれており、柱筋はやや不揃いである。

柱穴 9か所。平面形は円形を基調とし、深さは28～44cmである。第3層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。第4・6層は掘り方の埋土で、ローム土を含んだ褐色・黒褐色土で、強く突き固めた痕跡は認められない。第1・2・5層は柱抜き取り後の覆土である。P9は位置から東柱穴と想定される。

土層解説

1	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	4	黒褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	5	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子中量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片4点（坏1、甕3）が、P2・P3の抜き取り後の覆土から出土しているが、細片のためいずれも図示できない。

所見 時期は第29号住居跡と軸線が同じであることから9世紀中葉と考えられる。規模と構造から倉庫として機能していたことが想定される。

表8 掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱穴				主な出土遺物	重複関係 (旧 新)
								構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)		
1	D 4 h7	N-9°-W	2×2	3.30×3.20	10.56	1.5~1.8	1.5	側柱	8	円形	18~51	-	
2	D 2 f9	N-74°-E	3×2	4.80×3.90	18.72	1.6	1.9	側柱	10	円形	18~58	-	
3	D 2 b9	N-15°-E	3×2	4.50×3.40	15.30	1.5	1.7	側柱	10	円形	16~78	-	
4	D 2 f7	N-7°-E	3×2	5.70×3.60	20.52	1.7~2.1	1.8	側柱	10	円形	40~56	土師器, 須恵器	9世紀前葉
5	D 5 i8	N-10°-E	3×2	4.80×3.30	15.84	1.6	1.5~1.8	総柱	12	円形	25~77	土師器	SB6 本跡
6	D 5 i9	N-1°-E	2×2	3.90×3.80	14.82	1.6~1.8	1.7~2.0	総柱	9	円形	28~44	土師器	8世紀後葉~9世紀前葉 PG2 本跡 SB5

(3) 柵跡

第1号柵跡 (第102図)

位置 調査A区のC 3 f9区、標高29mの台地平坦部に位置している。

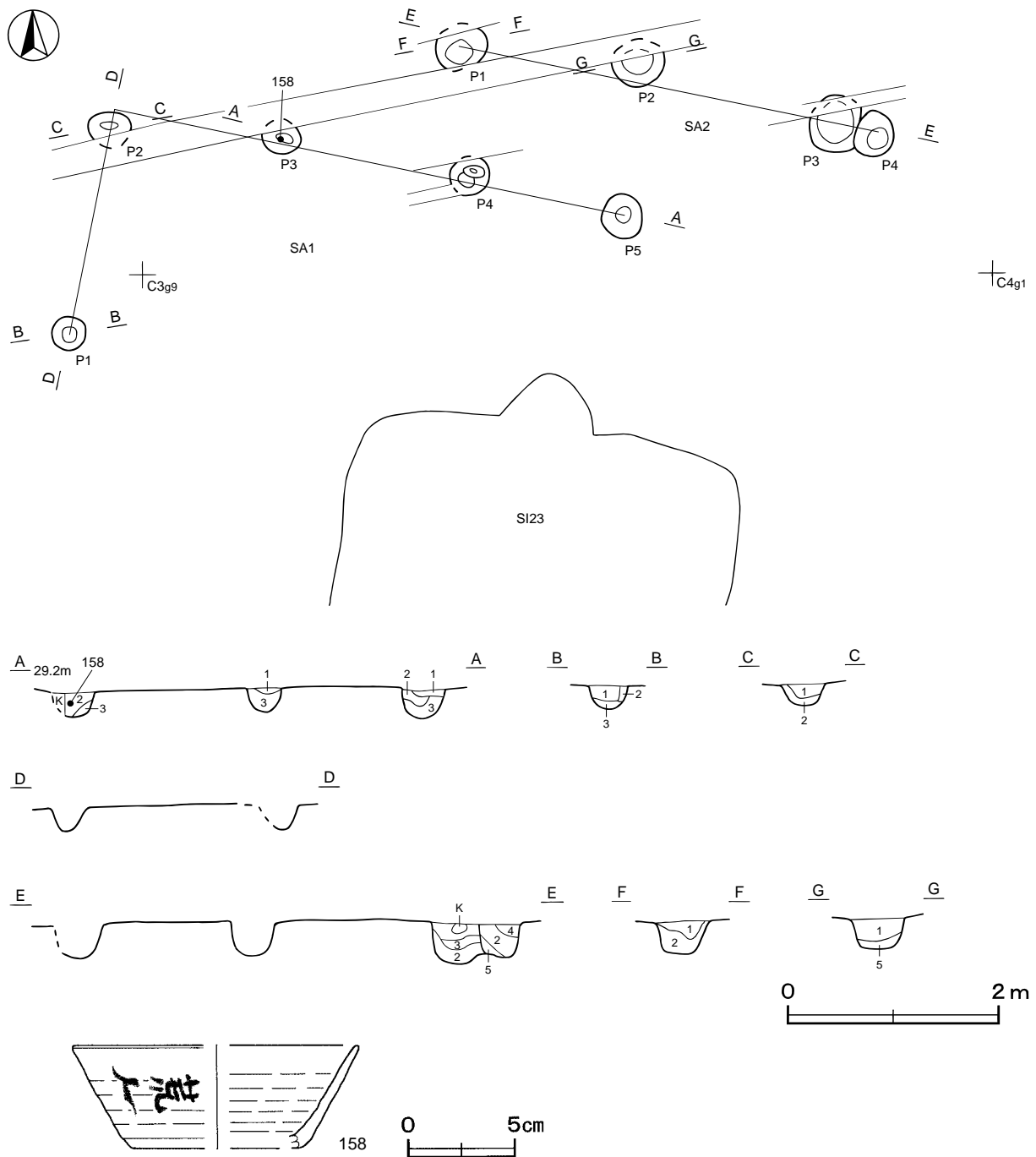
規模と形状 第23号住居跡の北西コーナーをL字状に柱穴が囲むように配置されている。東西軸はN-82-Wである。柱間寸法は1.6~1.8mで、不規則である。

柱穴 5か所。平面形は径26~42cmの円形又は不整楕円形で、深さは21~27cmである。土層はいずれも柱抜き取り痕に相当する。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量			

遺物出土状況 土師器片2点（甕）、須恵器片2点（坏）が、覆土中から出土している。158は、P3の柱抜き取り痕から出土しており、「荒人」と墨書されている。



第102図 第1・2号柵跡，第1号柵跡出土遺物実測図

所見 南に位置する第23号住居跡と軸線が同じであることから住居に付随する施設で，同時期に機能していたと想定される。時期は，出土土器及び住居跡との関係から9世紀前葉と考えられる。

第1号柵跡出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
158	須恵器	坏	[13.3]	4.8	[8.0]	長石・石英・黒色 粒子	灰黄	普通	内・外面口クロナデ	P3中層	20% 墨書「荒人」

第2号柵跡（第102図）

位置 調査A区のC 3 f9区，標高29mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東西方向に柱穴が直線状に並び、方向はN-82°-Wである。柱間寸法は1.7~1.8mと不規則である。

柱穴 4か所。平面形は径42~54cmの円形または楕円形で、深さは30~36cmである。土層はいずれも柱抜き取り痕に相当する。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

所見 本跡の南に位置する第23号住居跡と軸線が同じであるとともに、第1号柵跡とも平行していることから住居に付随するものと想定される。時期は、第23号住居跡との関連から9世紀前葉と考えられる。

表9 柵跡一覧表

番号	位置	方向	長さ (m)	柱間 (m)	柱穴				主な出土遺物	備考 (時代, 新旧関係)
					柱穴本数	平面形	径 (cm)	深さ (cm)		
1	C 3 f9	N-82°-W	4.10	1.6~1.8	5	円形・楕円形	26~42	21~27	土師器片, 須恵器片	9世紀前葉
2	C 3 f9	N-82°-W	7.20	1.7~1.8	4	円形・楕円形	42~54	30~36	-	9世紀前葉

(4) 溝跡

第1号溝跡 (第103・120図)

位置 調査B区のE 5 h8~E 6 g2区, 標高28.5mの平坦部に位置している。

重複関係 第32号土坑に掘り込まれている。

確認状況 東部と西部が調査区域外に延びている。

規模と形状 南西方向 (N-10°-W) へ直線的に延び、確認された長さは17.50mである。規模は上幅1.45~1.92m, 下幅0.48~0.85mで、深さは68~75cmである。断面形はV字状であるが、底面は平坦で一段深く垂直に掘り込まれている。壁は外傾して立ち上がっている。

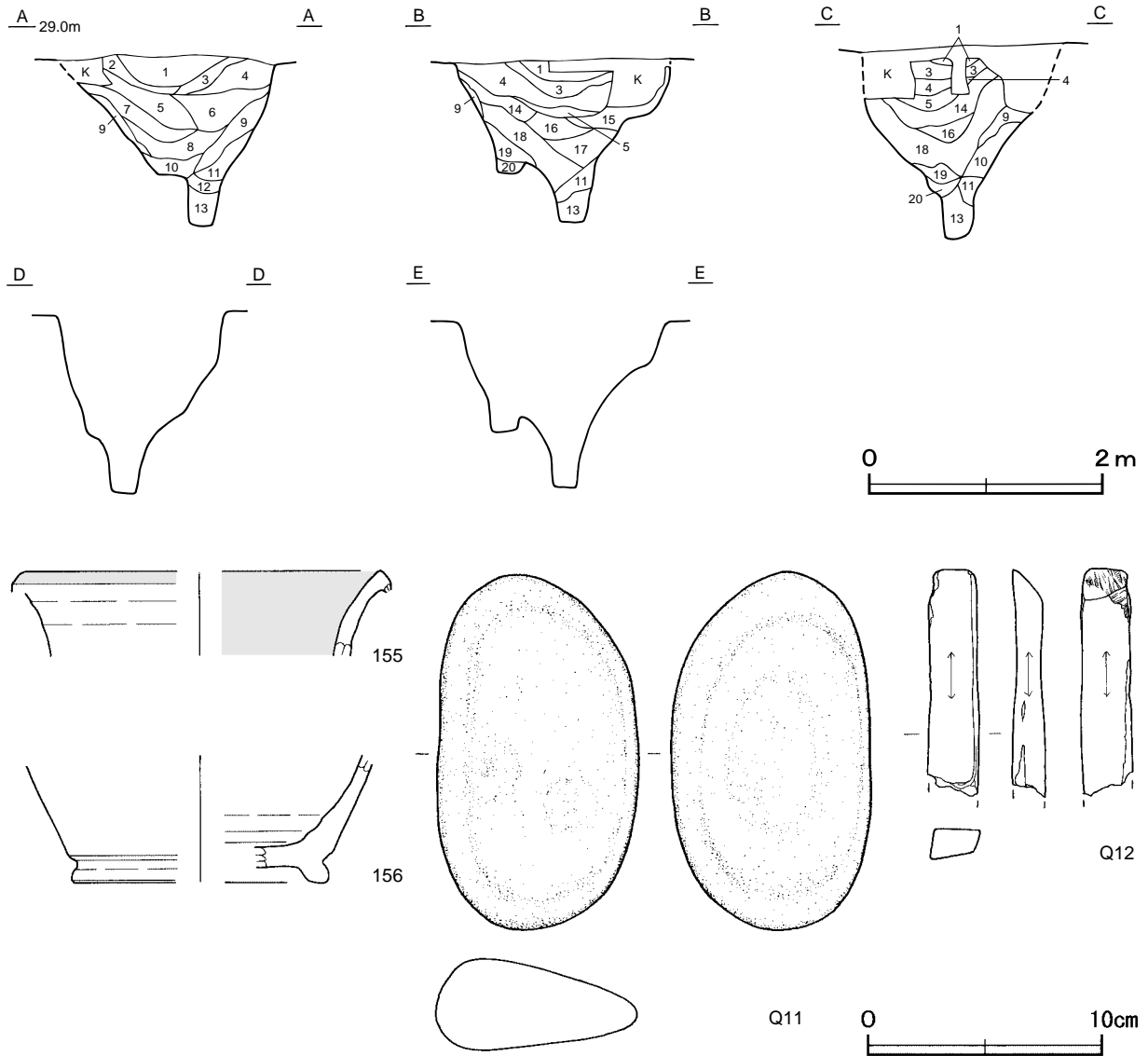
覆土 20層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 13 極暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 15 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 16 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・鹿沼パミス微量 |
| 7 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 17 黒色 | 鹿沼パミス少量, ロームブロック微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック中量 | 18 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス微量 |
| 9 褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量 | 19 褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス少量 |
| 10 黒褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量 | 20 暗褐色 | ローム粒子多量, 鹿沼パミス少量 |

遺物出土状況 土師器片30点 (甕), 須恵器片46点 (坏24, 高台付坏4, 盤4, 蓋1, 甕13), 陶器片3点, 縄文土器片5点, 古銭1点が出土している。155・156は覆土下層, Q11・Q12は覆土上層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土した155・156から9世紀中葉と考えられる。



第103図 第1号溝跡・出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表 (第103図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
155	須恵器	長頸瓶	[15.1]	(3.6)		長石・石英	灰黄	普通	口縁部内・外面口クロナデ	覆土下層	5%
156	須恵器	壺		(5.5)	[10.8]	長石・石英・黒色 粒子	灰	良好	内・外面口クロナデ	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	磨石	15.4	8.6	4.3	859.0	砂岩	使用面3面	覆土上層	
Q12	砥石	(9.7)	2.2	1.4	(42.1)	粘板岩	砥面3面 端部に線刻状の削痕	覆土上層	

6 その他の遺構と遺物

時期が明確でない炭焼窯跡5基，土坑43基，ピット群2か所を確認した。以下，遺構と遺物について記述する。

(1) 炭焼窯跡

第1号炭焼窯跡 (第104図)

位置 調査A区のD3i9区、標高27.5mほどの南に下る緩斜面部に位置している。

規模と形状 攪乱を受けて遺存状況は不良である。確認できた範囲は、長径2.90m、短径1.80mで、楕円形と推定され、長径方向はN-6-Wである。

炭化室 長径2.48m、短径1.80mの楕円形を呈し、遺存する壁高は22cmである。壁面及び窯底は全体的に火熱により赤変硬化している。

煙道部 奥壁中央部に位置している。灰白色の砂質粘土で構築されている。

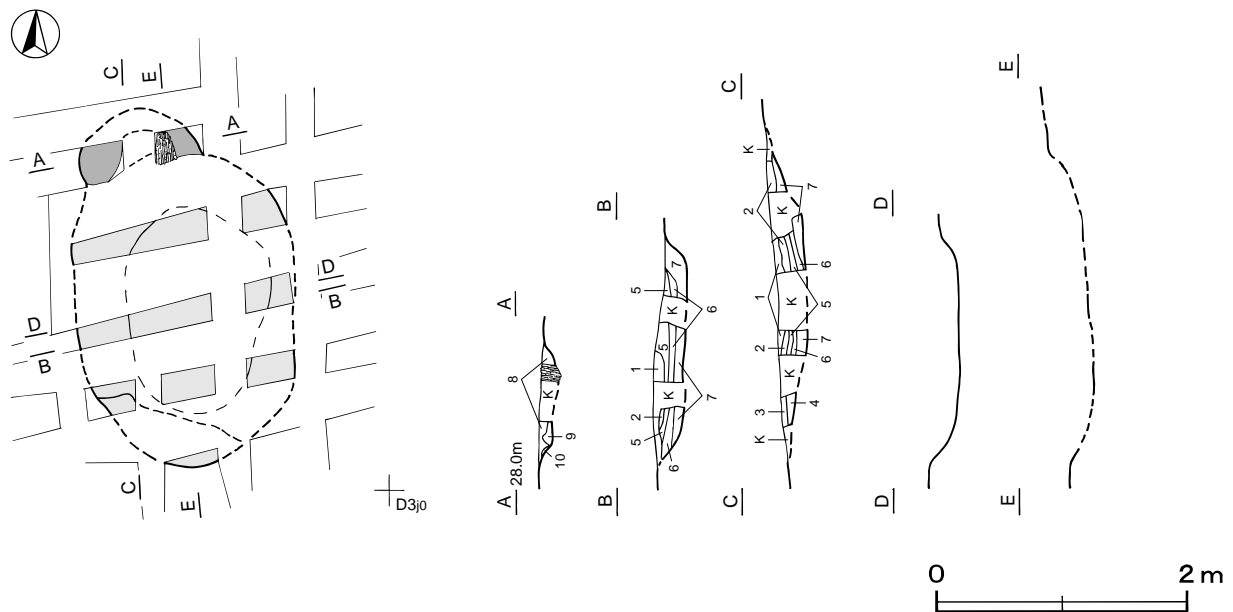
覆土 7層からなる。上部は攪乱により不明であるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第8～10層は煙道部の構築材である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化物少量 | 6 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 2 赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子少量 | 7 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量 |
| 3 黒色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子中量 | 8 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 9 暗赤褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 5 黒色 炭化粒子多量 | 10 黒褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土製品13点(構築材)、自然石3点(構築材カ)が、炭化室中央部の覆土下層を中心に出土している。煙道部手前から炭化材が確認された。

所見 時期は、出土土器がないため明確ではないが、規模や形状から近代と考えられる。



第104図 第1号炭焼窯跡実測図

第2号炭焼窯跡 (第105図)

位置 調査A区のB3h4区、標高28.5mほどの北に下る斜面部に位置している。

規模と形状 上部は耕作による攪乱を受けており炭化室のみが確認された。残存する規模は、長径2.80m、短径2.40mで楕円形と推定され、長径方向はN-9-Wである。

炭化室 浅い皿状で、火熱により赤変硬化した窯底及び窯壁の一部が残存している。

覆土 単一層で、層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1 赤 褐 色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土製品10点（構築材）が、覆土中から出土している。

所見 斜面部に位置していることから、焚口は北側に位置していたと考えられる。時期は特定が困難であるが、規模や形状から近代と考えられる。

第3号炭焼窯跡（第105図）

位置 調査A区のB 3h4区、標高28.5mほどの北に下る斜面部に位置している。

規模と形状 上部は耕作による攪乱を受けており、炭化室のみが確認された。規模は、長径2.40m、短径1.30mで楕円形と推定され、長径方向はN-12-Wである。

炭化室 攪乱のため規模、形状は不明であるが、皿状に掘りくぼめられた窯底が、火熱により赤変していることから炭化室と判断した。

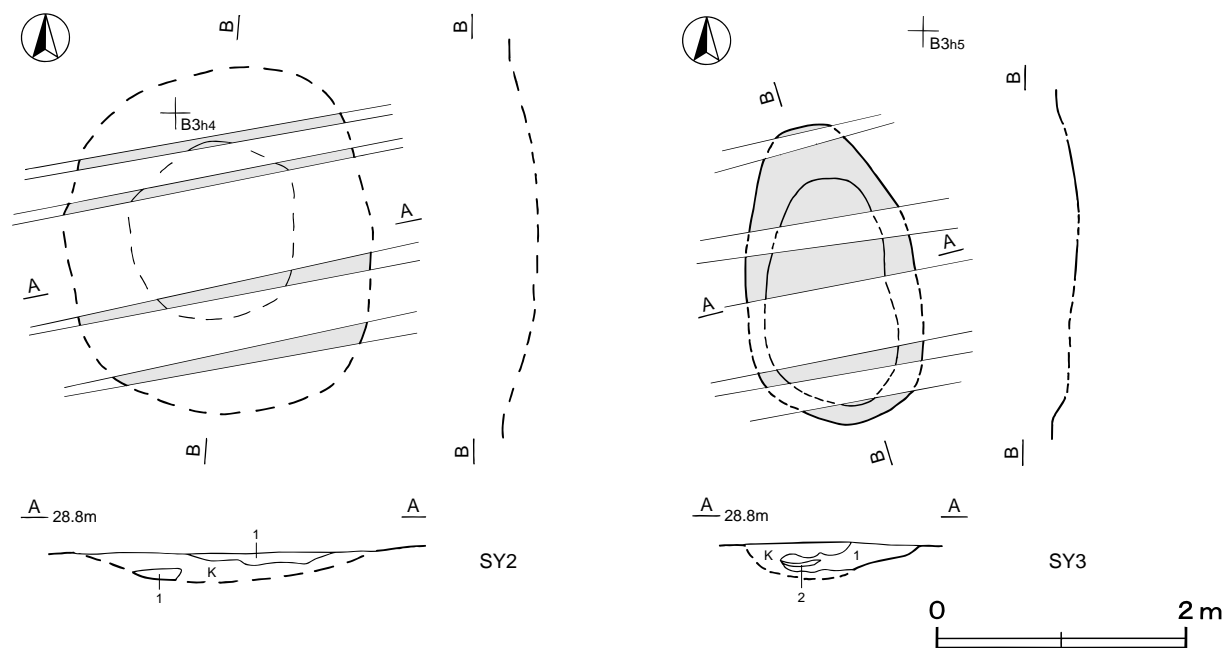
覆土 2層からなる。層厚が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1 赤 褐 色 ロームブロック多量

2 黒 色 炭化粒子多量, ローム粒子少量

所見 斜面部に位置していることから、焚口は北側に位置していたと考えられる。時期は、出土遺物がないため特定は困難であるが、近代と考えられる。



第105図 第2・3号炭焼窯跡実測図

第4号炭焼窯跡（第106図）

位置 調査A区のB 3g1区、標高28mほどの北に下る斜面部に位置している。

規模と形状 上部は耕作による攪乱を受けており、炭化室のみ確認された。規模は長径2.50m、短径2.30mで円形と推定され、長径方向はN-11-Wである。

炭化室 浅い皿状で、火熱により赤変硬化した窯底及び窯壁の一部が残存している。

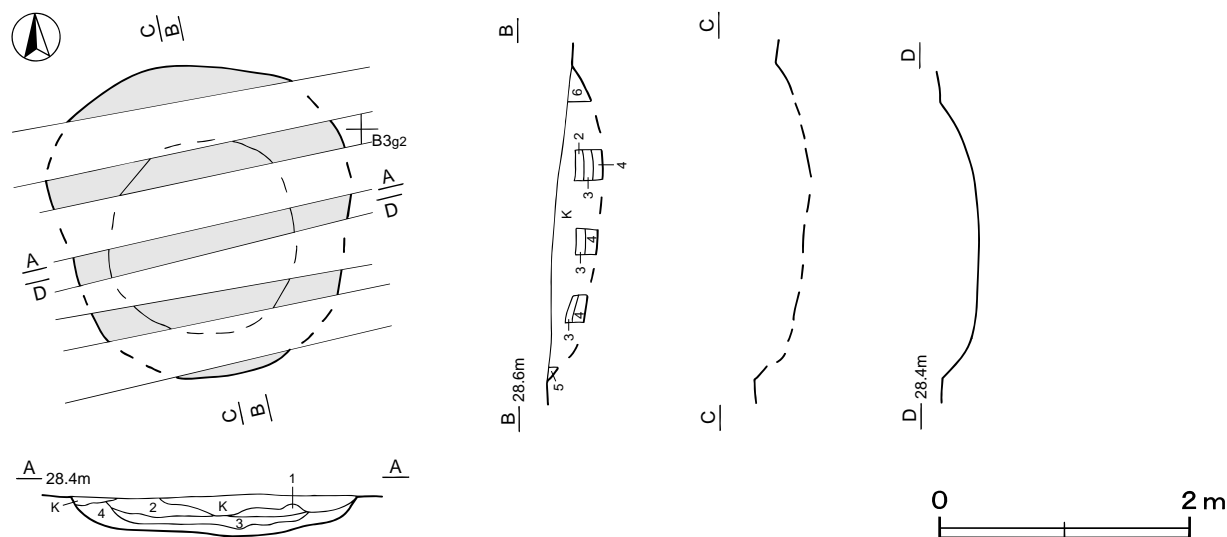
覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第1・2層は天井部の崩落層、第5層は煙道部の構築材である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 灰白色 砂質粘土粒子多量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量 |
| 3 赤褐色 焼土ブロック多量, 砂質粘土粒子少量 | 6 にぶい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土製品40点（構築材）、自然石4点（構築材カ）、瓦片20点（構築材カ）が、炭化室中央部の覆土下層を中心に出土している。

所見 斜面部に位置していることから、焚口は北側に位置していたと考えられる。また、煙道部は土層の中に構築材が確認できることから、南側の中央に位置していたと考えられる。時期は特定が困難であるが、近代と考えられる。



第106図 第4号炭焼窯跡実測図

第5号炭焼窯跡（第107図）

位置 調査B区のD6j1区で、標高29mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と形状 上部は耕作による攪乱を受けており、確認できた規模は、長径2.80m、短径2.10mで楕円形と推定され、長径方向はN-3-Wである。

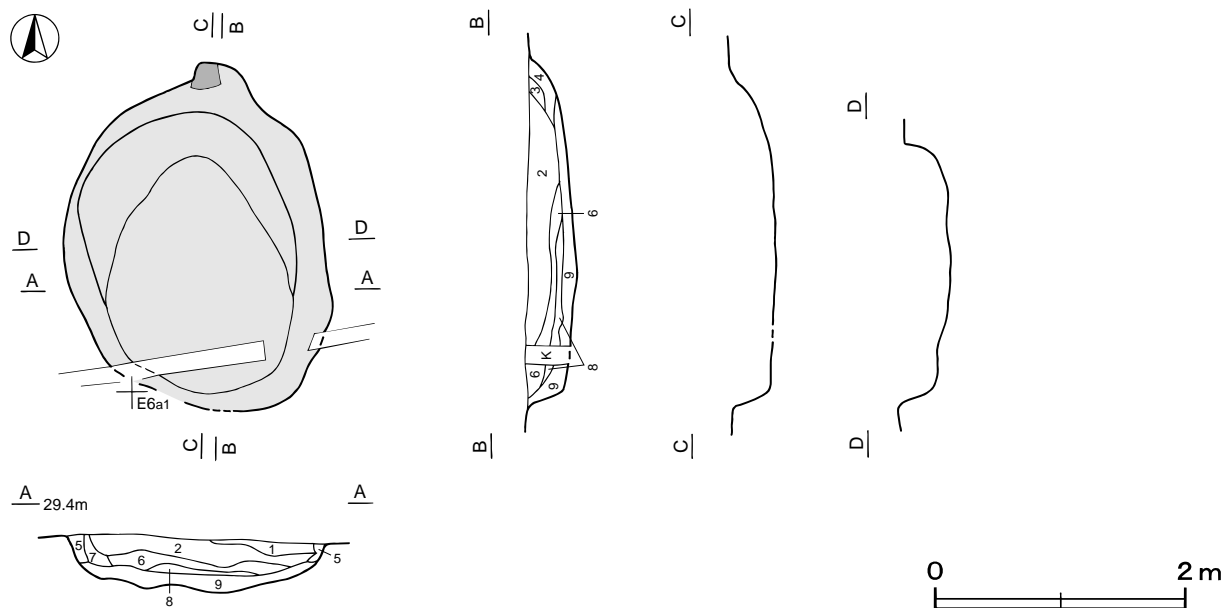
炭化室 浅い皿状で、窯底及び窯壁が火熱により全面赤変硬化している。遺存する壁高は40cmほどである。

煙道部 奥壁の中央部に位置しており、緩やかに立ち上がっている。粘土塊が据えられており、補強材としての機能を果たしていたものと考えられる。

覆土 9層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第2層は天井部の崩落層、第3層は煙道部の構築材である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 6 にぶい赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化物微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物微量 |
| 3 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 赤褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 4 赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化物微量 | 9 赤褐色 焼土粒子多量 |
| 5 赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子多量 | |



第107図 第5号炭焼窯跡実測図

遺物出土状況 土製品40点（構築材），粘土塊1点，自然石4点が，炭化室中央部の覆土下層を中心に出土している。

所見 時期は特定が困難であるが，近代と考えられる。

表10 炭焼窯跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	D 3 i9	N-6°-W	楕円形	2.90×1.80	22	外傾	平坦	自然	土製品	
2	B 3 h4	N-9°-W	楕円形	2.80×2.40	21	外傾	平坦	不明	土製品	
3	B 3 h4	N-12°-W	楕円形	2.40×1.30	30	外傾	平坦	不明	-	
4	B 3 g1	N-11°-W	楕円形	2.50×2.30	33	外傾	平坦	自然	土製品，瓦	
5	D 6 j1	N-3°-W	楕円形	2.80×2.10	42	外傾	平坦	自然	土製品，粘土塊	

(2) 土坑（第108～112図）

時期や性格が不明な土坑43基が確認された。以下，これらの土坑について実測図と土層解説を記載する。

第1号土坑土層解説

- 1 暗褐色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量

第2号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量

第3号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量，炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子中量

第4号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量

第5号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量，炭化物微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第7号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第8号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第9号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第10号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第11号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第12号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 鹿沼パミス少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 鹿沼パミス中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 鹿沼パミス少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第13号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 鹿沼パミス微量
- 4 暗褐色 鹿沼パミス少量, ロームブロック微量

第14号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 鹿沼パミス微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 黒褐色 粘土粒子微量
- 6 黒褐色 赤色粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量
- 9 黒色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック少量
- 11 黒褐色 ローム粒子少量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第16号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第17号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第18号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第19号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第20号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第21号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第22号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第23号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第24号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第25号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第26号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第27号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第28・30号土坑土層解説

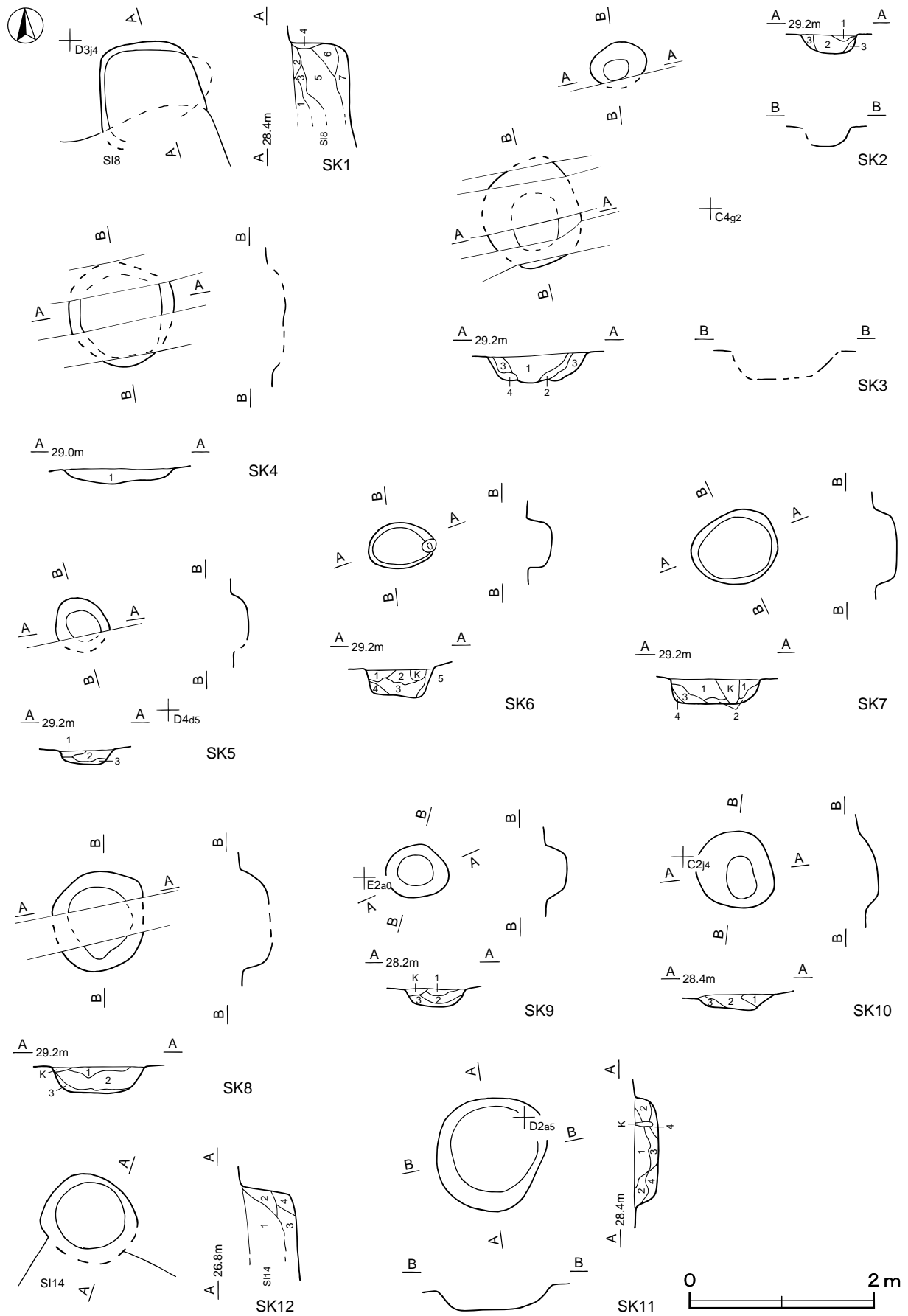
- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第29号土坑土層解説

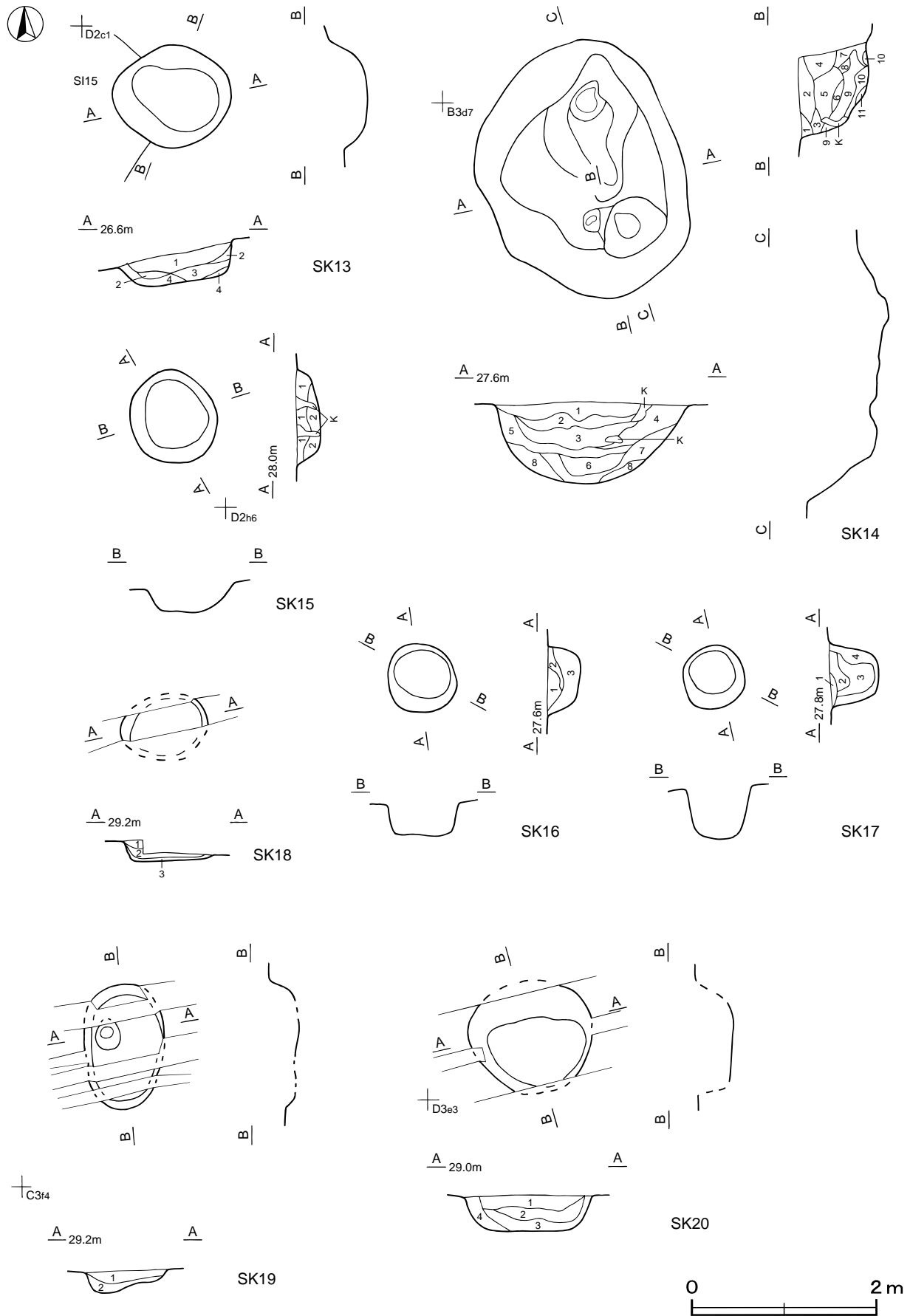
- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

第31号土坑土層解説

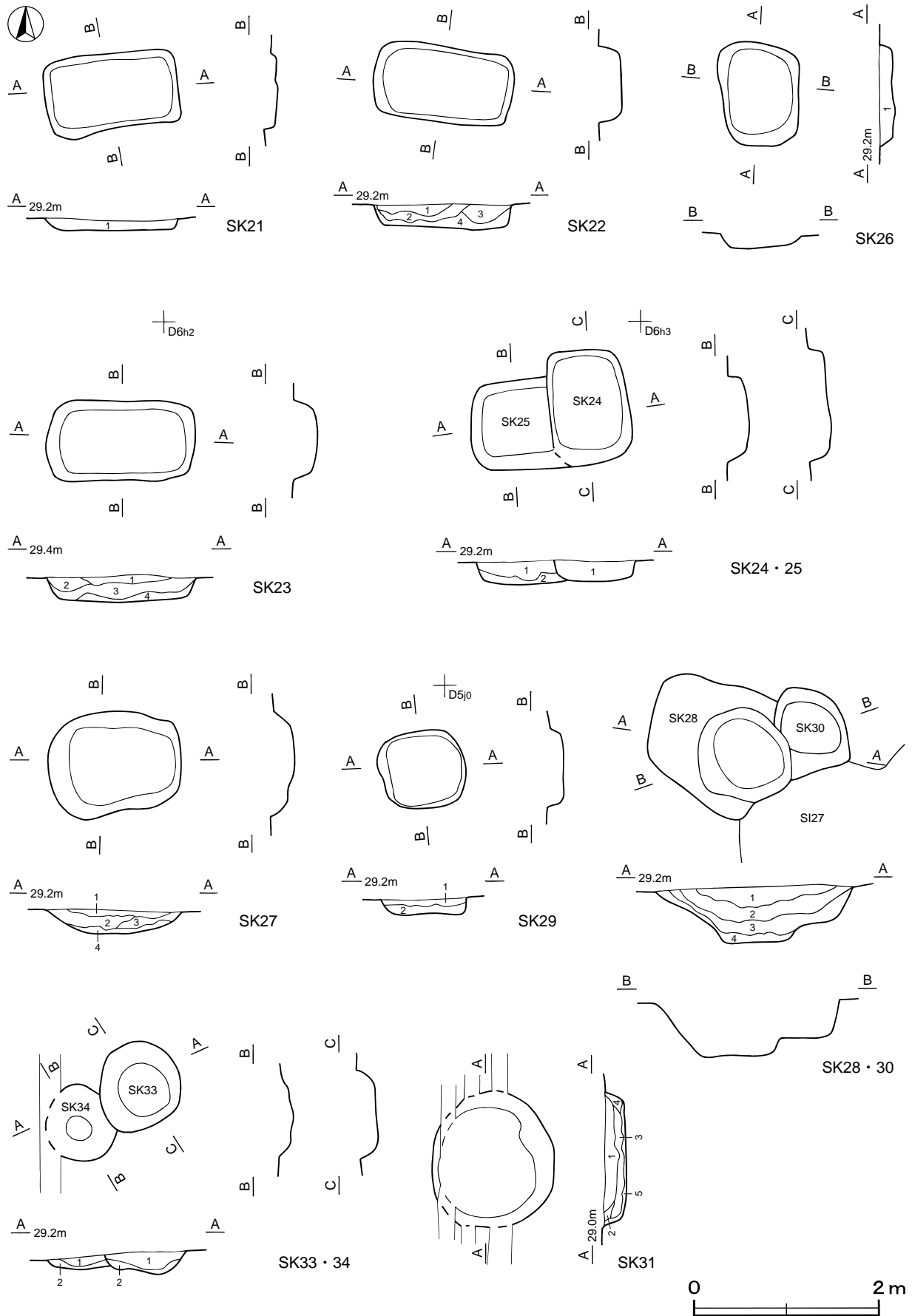
- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック多量



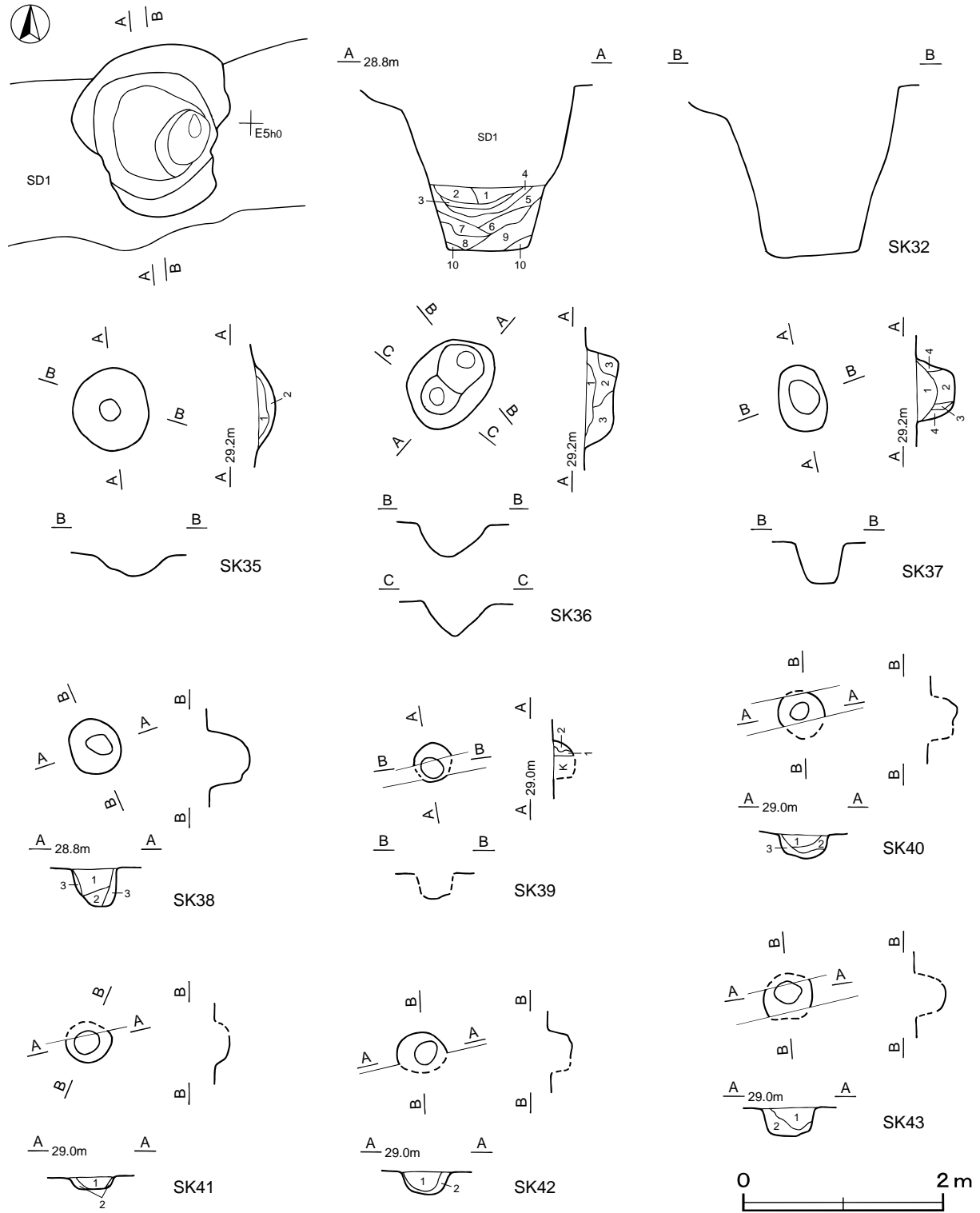
第108図 その他の土坑実測図(1)



第109図 その他の土坑実測図(2)



第110図 その他の土坑実測図(3)



第111図 その他の土坑実測図(4)

第32号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス中量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量
- 5 褐色 ロームブロック多量, 鹿沼パミス少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス中量
- 7 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量

- 8 黒褐色 鹿沼パミス少量, ロームブロック微量
- 9 褐色 ロームブロック・鹿沼パミス中量
- 10 黄褐色 ロームブロック多量

第33号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第34号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第35号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第36号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第37号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第38号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第39号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第40号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第41号土坑土層解説

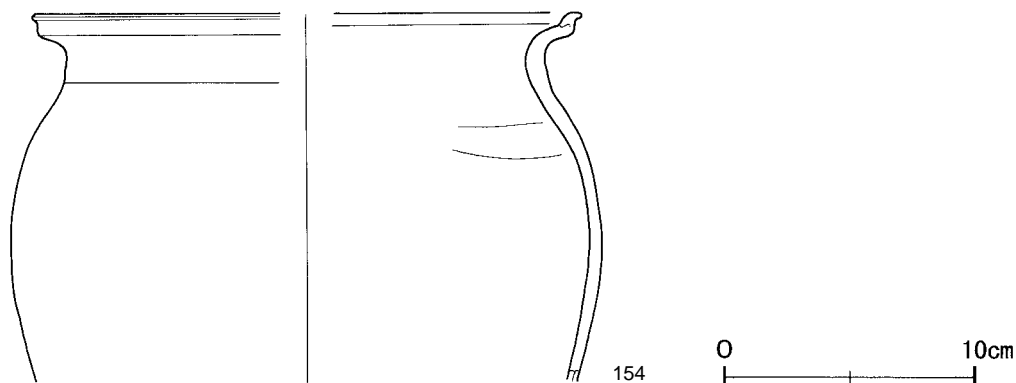
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第42号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第43号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量



第112図 第1号土坑出土遺物実測図

第1号土坑出土遺物観察表 (第112図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
154	土師器	甕	[21.4]	(14.6)		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	25%

表11 その他の土坑一覧表

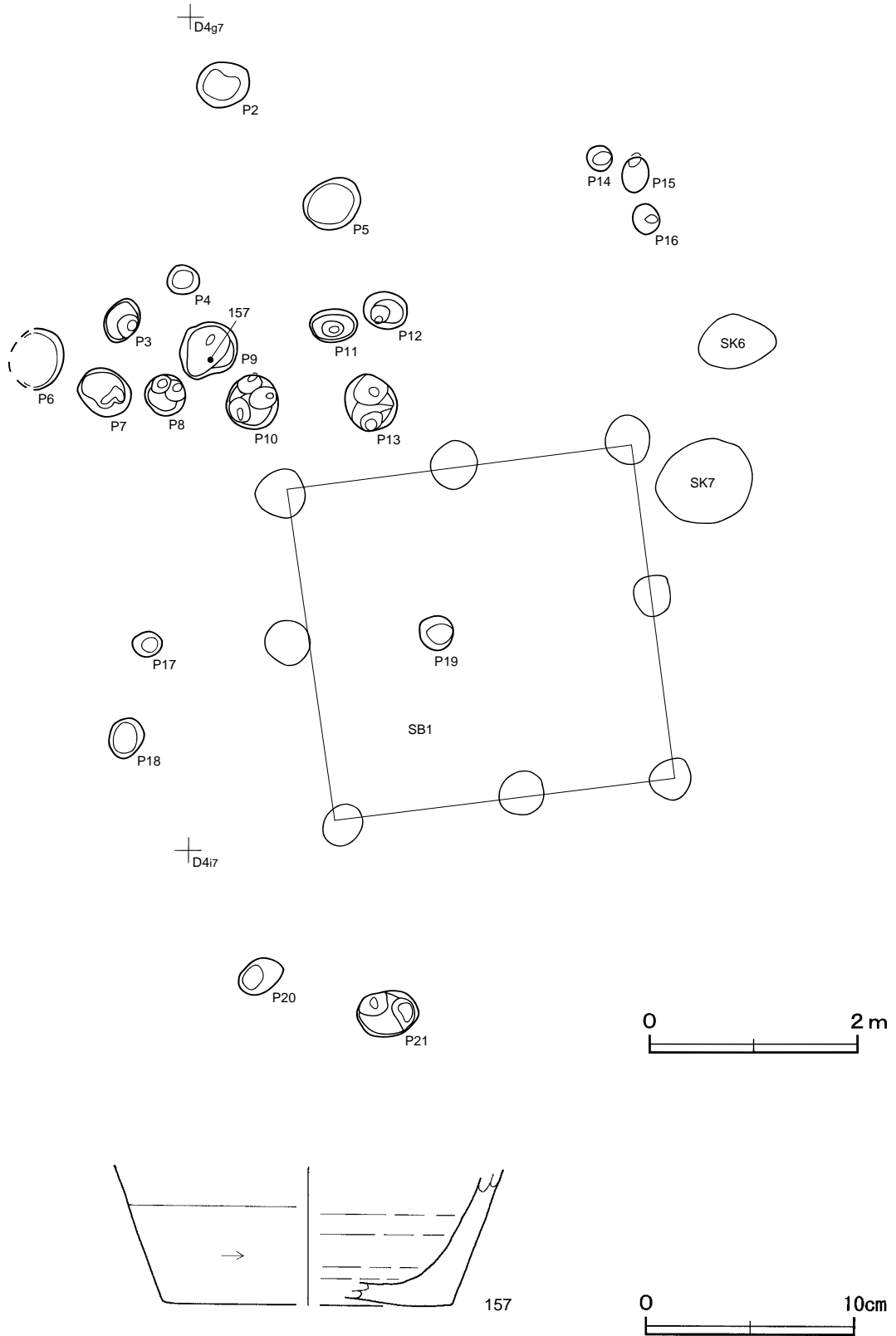
番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧 新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	D 3 j4	N-6°-W	[隅丸方形]	1.05 × (0.73)	59	外傾	平坦	自然	土師器	S18 (新旧不明)
2	C 4 f1	N-77°-E	楕円形	0.61 × 0.50	20	緩斜	皿状	自然	-	
3	C 4 g1	N-13°-W	円形	1.12 × 1.05	28	緩斜	皿状	人為	土師器, 須恵器	
4	D 4 b3	N-82°-E	円形	1.15 × 1.13	17	緩斜	平坦	自然	-	
5	D 4 c4	N-6°-W	円形	0.60 × 0.58	16	緩斜	平坦	人為	粘土塊	
6	D 4 h7	N-83°-E	楕円形	0.75 × 0.51	30	外傾	平坦	自然	-	
7	D 4 h8	N-80°-E	楕円形	0.93 × 0.79	24	外傾	平坦	自然	土師器	
8	C 3 g5	N-8°-W	円形	1.04 × 0.98	33	緩斜	平坦	自然	土師器	
9	E 2 a0	N-90°	楕円形	0.70 × 0.57	24	緩斜	平坦	自然	-	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧 新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
10	C 2 j4	N-10°-W	円形	0.84×0.81	18	緩斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	
11	D 2 a5	N- 1°-W	円形	1.24×1.18	23	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
12	D 2 c1	N-52°-W	[楕円形]	[1.00×0.90]	54	外傾	平坦	自然	-	SI14 本跡
13	D 2 c1	N-62°-W	楕円形	1.25×1.13	33	緩斜	平坦	自然	土師器	SI15 本跡
14	B 3 d7	N-13°-W	不整楕円形	2.80×2.20	90	緩斜	凹凸	自然	-	風倒木痕
15	D 2 g5	N-30°-W	円形	1.01×0.93	30	緩斜	平坦	自然	-	
16	D 2 d4	N-41°-W	円形	0.78×0.74	38	外傾	平坦	自然	-	
17	D 2 d5	N- 0°	円形	0.68×0.66	54	垂直	平坦	人為	-	
18	C 3 f4	N-80°-E	楕円形	0.93×0.70	24	外傾	平坦	自然	-	
19	C 3 e4	N- 0°	楕円形	1.35×0.86	25	外傾	平坦	人為	-	
20	D 3 d3	N-76°-E	円形	1.34×1.22	40	外傾	平坦	自然	土師器	
21	D 6 g2	N-85°-E	長方形	1.42×0.86	10	外傾	凹凸	人為	-	
22	D 6 g2	N-83°-W	隅丸長方形	1.50×0.81	28	外傾	平坦	人為	-	
23	D 6 h1	N-90°	隅丸長方形	1.60×0.87	25	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
24	D 6 h2	N- 5°-E	隅丸長方形	1.23×0.82	22	外傾	平坦	人為	土師器	SK25 本跡
25	D 6 h2	N-86°-E	隅丸長方形	(0.86)×1.00	24	外傾	皿状	人為	-	本跡 SK24
26	D 6 h2	N- 0°	隅丸長方形	1.13×0.86	14	外傾	平坦	不明	-	
27	D 6 i3	N-90°	楕円形	1.44×1.06	25	緩斜	平坦	人為	-	
28	D 5 g9	N-76°-W	不整形	2.70×1.47	72	緩斜	平坦	自然	須恵器	SI27 本跡・SK30
29	D 5 j9	N-90°	円形	0.92×0.84	16	外傾	平坦	自然	鉄滓	
30	D 5 g9	N-76°-W	円形	0.82×(0.40)	46	外傾	平坦	自然	-	SI27 SK28・本跡
31	D 5 g8	N- 0°	楕円形	1.46×1.32	23	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
32	E 5 g9	N-23°-E	不整形	1.74×1.58	154	外傾	平坦	自然	-	SD 1 本跡
33	D 5 j8	N-38°-E	円形	0.91×0.91	21	緩斜	平坦	自然	須恵器	SK34 本跡
34	D 5 j8	N-42°-E	[円形]	0.81×(0.67)	13	緩斜	凹凸	自然	-	本跡 SK33
35	D 5 j9	N- 0°	円形	0.83×0.74	20	緩斜	皿状	自然	-	
36	D 6 i1	N-11°-W	楕円形	1.00×0.72	34	緩斜	凹凸	自然	-	
37	D 5 h0	N-41°-E	楕円形	0.67×0.48	40	外傾	平坦	自然	-	
38	D 3 c4	N- 0°	円形	0.55×0.50	40	外傾	皿状	自然	-	
39	D 3 d6	N- 0°	円形	0.38×0.38	25	外傾	皿状	自然	-	
40	D 3 c6	N- 0°	円形	0.47×0.47	28	外傾	凹凸	自然	-	
41	D 3 c9	N- 0°	円形	0.45×0.41	15	緩斜	皿状	自然	-	
42	D 3 b9	N-90°	楕円形	0.50×0.40	25	外傾	皿状	自然	-	
43	D 3 b0	N- 0°	円形	0.49×0.47	31	外傾	皿状	自然	-	

(3) ピット群 (第113・114図)

調査A区・B区でそれぞれ1か所のピット群が確認されている。これらのピットは、当遺跡の掘立柱建物跡の柱穴と比べて、径が小さく、浅いものが多い。また、遺物がほとんど出土しておらず配置も不規則であるため、時期や性格は不明である。第1号ピット群は調査A区のD 4 f6～D 4 i8区から21か所、第2号ピット群は調査B区のD 5 g8～D 5 j0区から35か所のピットが確認された。第1号ピット群からは須恵器片1点(甕)、第2号ピット群からは土師器片2点(甕)が出土しているが、混入したものと考えられ、時期を特定できるものではない。

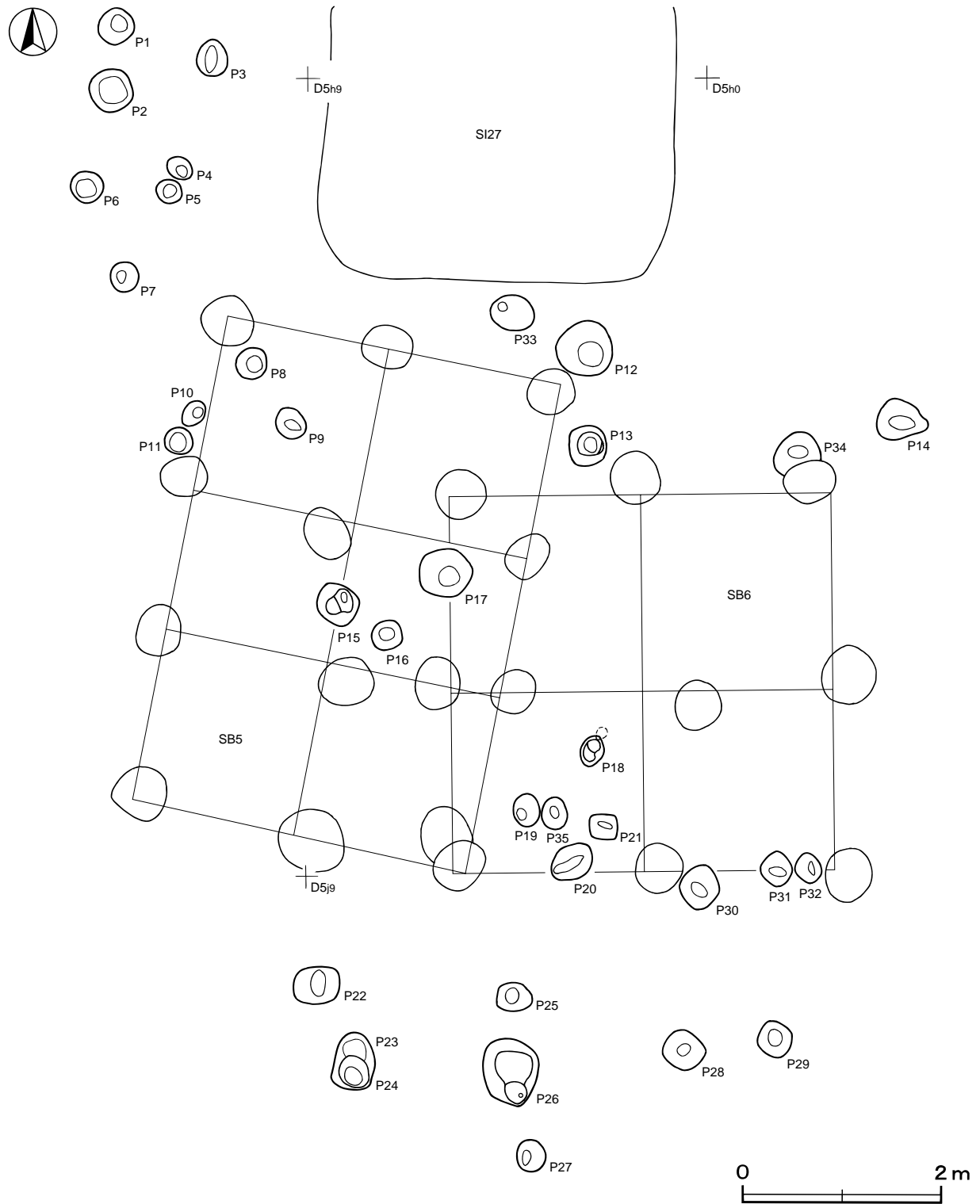
以下、平面図と計測表を記載する。



第113図 第1号ピット群・出土遺物実測図

第1号ピット群出土遺物観察表 (第113図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
157	須恵器	甕		(6.6)	[13.8]	長石	黒	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	P9覆土中	5% 外面自然釉付着



第114図 第2号ピット群実測図

表12 第1号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模		番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ(cm)				長径×短径 (m)	深さ(cm)
1	D 4 f6	円形	0.40×0.39	15	12	D 4 g7	楕円形	0.43×0.36	48
2	D 4 g7	円形	0.49×0.39	26	13	D 4 g7	円形	0.54×0.53	55
3	D 4 g6	楕円形	0.45×0.32	52	14	D 4 g7	円形	0.27×0.26	17
4	D 4 g6	円形	0.32×0.30	28	15	D 4 g8	楕円形	0.35×0.24	20
5	D 4 g7	楕円形	0.55×0.46	30	16	D 4 g8	楕円形	0.31×0.26	13
6	D 4 g6	(円形)	0.59×(0.46)	20	17	D 4 h6	楕円形	0.30×0.24	16
7	D 4 g6	楕円形	0.54×0.45	31	18	D 4 h6	楕円形	0.40×0.34	31
8	D 4 g6	円形	0.40×0.40	46	19	D 4 h7	円形	0.35×0.34	27
9	D 4 g7	円形	0.59×0.54	47	20	D 4 i7	楕円形	0.45×0.31	38
10	D 4 g7	円形	0.52×0.50	53	21	D 4 i7	楕円形	0.61×0.43	51
11	D 4 g7	楕円形	0.47×0.33	40					

表13 第2号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模		番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ(cm)				長径×短径 (m)	深さ(cm)
1	D 5 g8	円形	0.36×0.35	33	19	D 5 i9	楕円形	0.32×0.25	54
2	D 5 h8	円形	0.45×0.45	49	20	D 5 i9	楕円形	0.47×0.35	47
3	D 5 g8	楕円形	0.38×0.30	14	21	D 5 i9	円形	0.30×0.25	22
4	D 5 h8	楕円形	0.30×0.22	12	22	D 5 j9	隅丸方形	0.50×0.38	19
5	D 5 h8	円形	0.28×0.27	26	23	D 5 j9	楕円形	0.35×[0.25]	21
6	D 5 h8	円形	0.34×0.33	18	24	D 5 j9	円形	0.45×0.35	23
7	D 5 h8	円形	0.31×0.29	19	25	D 5 j9	楕円形	0.38×0.30	25
8	D 5 h8	円形	0.33×0.31	33	26	D 5 j9	楕円形	0.69×0.55	21
9	D 5 h8	円形	0.34×0.32	27	27	D 5 j9	円形	0.32×0.30	42
10	D 5 h8	楕円形	0.30×0.22	22	28	D 5 j9	円形	0.44×0.42	40
11	D 5 h8	円形	0.30×0.29	16	29	D 5 j0	楕円形	0.44×0.35	26
12	D 5 h9	円形	0.57×0.56	15	30	D 5 j0	楕円形	0.45×0.40	42
13	D 5 h9	円形	0.43×0.40	33	31	D 5 j0	隅丸方形	0.35×0.33	16
14	D 5 h0	楕円形	0.53×0.40	21	32	D 5 j0	楕円形	0.31×0.25	49
15	D 5 i9	円形	0.45×0.42	26	33	D 5 h9	楕円形	0.45×0.35	44
16	D 5 i9	円形	0.32×0.30	19	34	D 5 h0	円形	0.49×[0.31]	31
17	D 5 i9	円形	0.53×0.50	18	35	D 5 i9	楕円形	0.34×0.25	16
18	D 5 i9	楕円形	0.30×0.23	20					

(4) 埋没谷

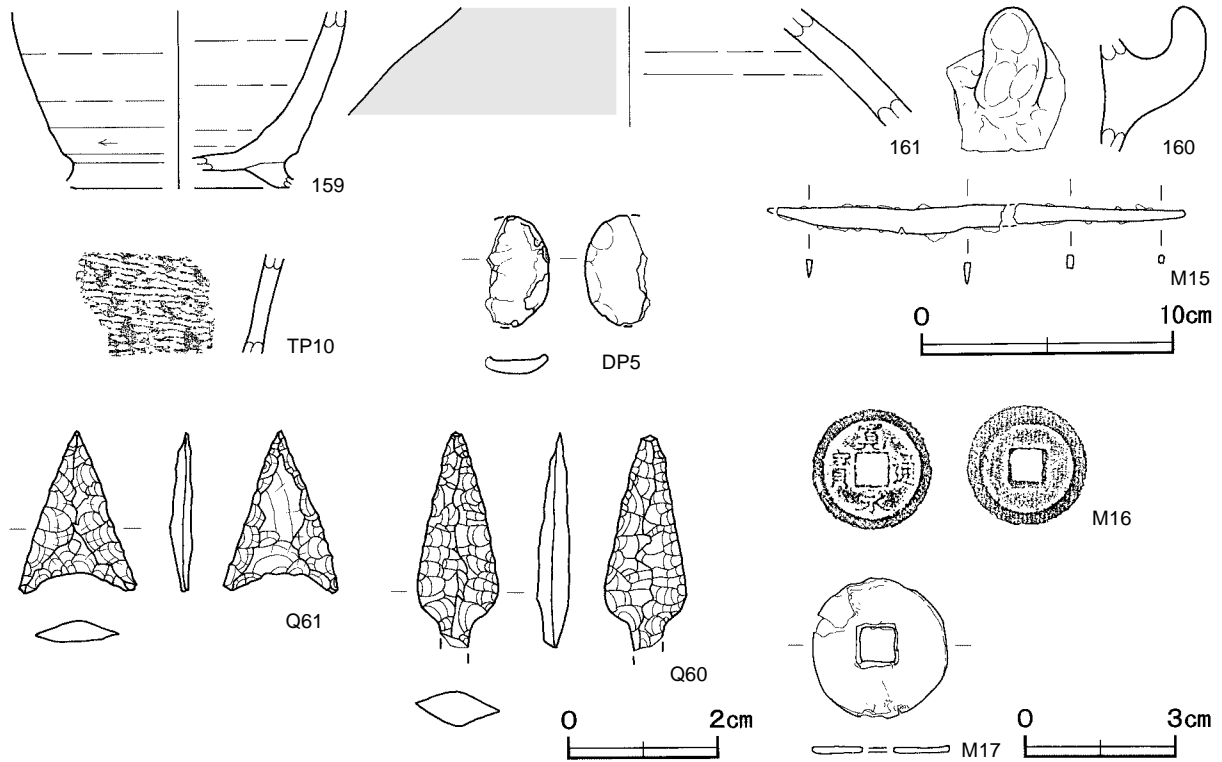
調査の過程で、調査A区の北部と南部に谷津が入りこんでいることが確認された。遺物包含層の可能性を想定し、北部を第1号埋没谷、南部を第2号埋没谷とし、トレンチを設定して調査を行った。その結果、第1号埋没谷の底面からは縄文時代の竪穴住居跡1軒（第24号住居跡）を確認した。第2号埋没谷からは何も検出されなかった。谷津の埋没した時期については不明瞭であるが、第1号埋没谷で検出された第24号住居跡は堆積した黒色土を掘り込んでおり、第6号住居跡が第2号埋没谷の堆積した黒色土を掘り込んでいることから、縄文時代中期以前から奈良・平安時代にかけて断続的に谷津に土砂が堆

積したと考えられる。

これらの埋没谷の範囲は、遺跡全体図に記載する。

(5) 遺構外出土遺物

遺構に伴わない主な遺物について、実測図（第115図）及び出土遺物観察表で記載する。



第115図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
159	須恵器	長頸瓶		(7.0)		長石	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り	表探	5% 外面自然粘付着
160	須恵器	甌		(5.7)		長石	黄灰	普通	把手部 指頭痕	表探	5%
161	灰釉陶器	短頸壺		(4.7)		緻密	暗オリーブ	普通	内・外面口クロナデ	表探	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP10	縄文土器	鉢		(4.0)		長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	無節縄文	S15	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP5	不明	4.4	(2.5)	0.8	(7.7)	粘土	半円形 指頭圧痕	S18	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q60	石鏃	(2.8)	1.1	0.4	(1.0)	瑪瑙	有茎石鏃 丁寧な両面押圧剥離調整	E 6 a1	
Q61	石鏃	2.2	1.5	0.3	0.6	チャート	丁寧な両面押圧剥離調整	表探	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	刀子	[16.6]	1.4	0.3	(9.9)	鉄	先端部欠損 刀身断面三角形	表探	PL24

番号	銭種	径	孔	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M16	寛永通寶	2.4	0.6	0.3	1636	銅	古寛永	SI18	PL24
M17	不明	2.7	0.7	(0.3)	不明	鉄	全面錆により銭種不明	SD1	PL24

第4節 ま と め

大戸富士山遺跡は小橋川沿岸の台地上に位置し、それぞれの時代において人々の生活の舞台となってきた。この地において旧石器時代には石器製作の場、縄文時代には狩猟の場となり、奈良・平安時代には集落が形成されたことが明らかになった。ここでは、時代ごとに調査成果を概観し、周辺遺跡の様相と比較するなど、若干の検討を加えまとめたい。

1 旧石器時代

調査A区から4か所の石器集中地点が確認された。第1・3・4号石器集中地点においては瑪瑙を主要な石材としたナイフ形石器、石核、剥片等が確認されており、石器製作の場であったことがうかがえる。また、第2号石器集中地点においては、様々な石材の剥片やナイフ形石器が出土しているとともに、焼礫の集中地点が確認された。南部に隣接する羽黒山遺跡¹⁾の石器集中地点との文化層の違いも含めて検討したい。

(1) 大戸富士山遺跡出土のナイフ形石器

当遺跡においては、4か所の石器集中地点及び旧石器の調査区域外からあわせて12点（瑪瑙9、珪質頁岩1、流紋岩1、黒曜石1）のナイフ形石器が確認されている。これらを、石器の形態と調整（刃潰し加工）の施されている部位によって分類した²⁾。

分類した結果、器体の二側縁（一側縁全体ともう一方の基部に調整を施したものを含む）に調整が施してあるもの3点、一側縁に調整が施してあるもの3点、基部に調整が施してあるもの4点、器体の一部に部分的に調整が施してあるもの2点となる。二側縁調整のナイフ形石器は茂呂型と称される型式で、縦長剥片の鋭利な側縁の一部を刃部とし、その下半部と反対側縁に刃潰しを行っている。器長は2.8～3.9cmと小形である。一方、一側縁調整のナイフ形石器は器長が5.4～6.5cmで、その他の部位に調整を施したものに比べて比較的大きい。石材も瑪瑙に加えて頁岩、黒曜石も含まれる。調整の施されてる側縁は弧状で刃部は直線的になっている。基部調整の4点のナイフ形石器は、いずれも瑪瑙の剥片を素材としており、基部に細かな調整を施した後に打面を取り除いている。

一方、羽黒山遺跡の第3号石器集中地点で確認された4点（頁岩）のナイフ形石器は二側縁調整、一側縁調整ともに2点ずつである。当遺跡のものとは調整の施し方が若干違っており、それが石材の違いによるものなのか、時期の違いによるものなのかは明確ではない。

また、当遺跡の周辺において旧石器の集中地点が確認されている大畑遺跡³⁾では、出土石器133点（瑪瑙101、安山岩29、凝灰岩3）のうち、ナイフ形石器9点（瑪瑙5、ガラス質黒色安山岩4）と報告されている。瑪瑙のナイフ形石器は部分的に調整が施してあるものであり、安山岩のナイフ形石器はいずれも横長剥片を素材とし、同様に部分的に調整を施している。層位的にみても、当遺跡の集中地点よりも古い段階のII a 期に比定されている。

なお、石材として多く使われている瑪瑙は、県内においては八溝山地に産出することが知られている。当遺跡の南に位置する涸沼前川からも瑪瑙は採取されるため、身近な石材を加工したものと考えられる。時期や調整方法に違いはあるが、同じ瑪瑙を石材として選択しているということは、比較的入手しやすい在地石材であり、道具として加工、使用に適していたと言える。

(2) 第2号石器集中地点の礫の集中

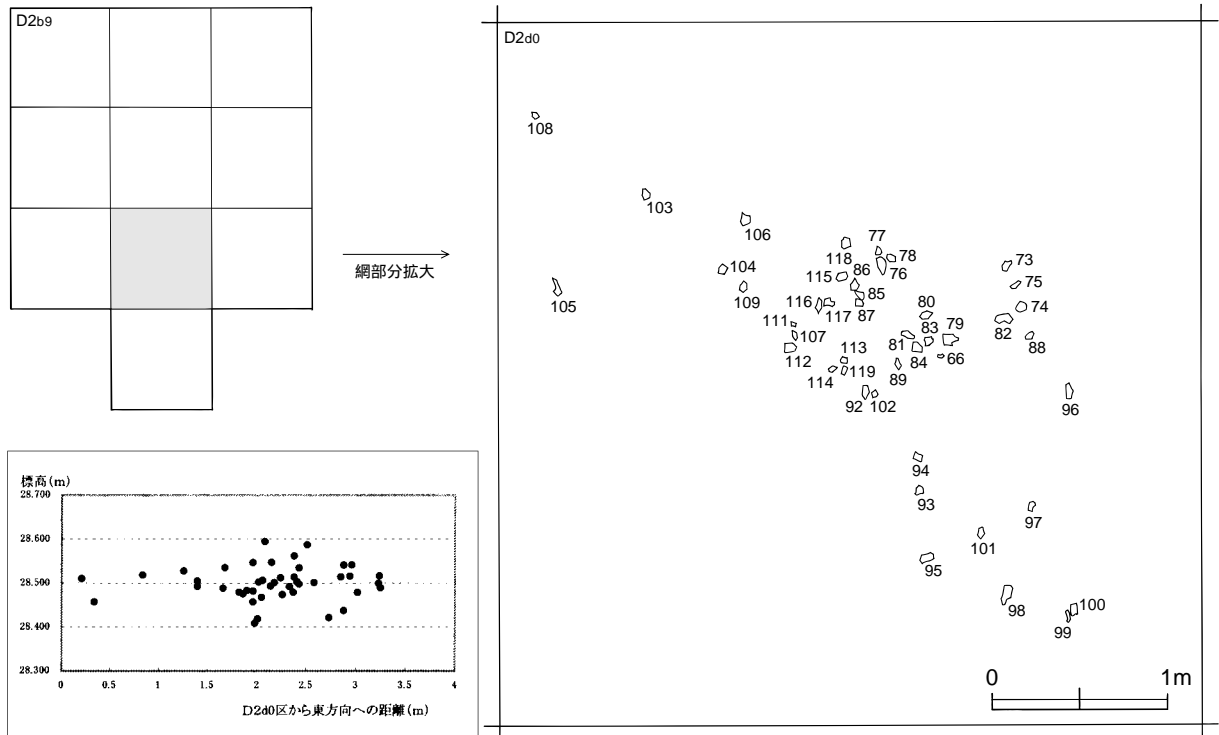
第2号石器集中地点からは81点の礫が確認された。特にD2d0区においては45点の礫が密集しており、その礫のほとんどが表面に焼痕を残している(表14, 第116図)。この礫の集中を「礫群」と捉えて調査した結果に考察を加える⁴⁾。

全45点の内、完存するものは13点である。破損しているものは32点であるが、うち18点はグリッド内での接合が確認されている。計測値は平均最大長62.2mm, 平均重95.6gで、垂直分布は標高28.418~28.594mで上下20cm弱の範囲に収まる。礫群は緩斜面部に位置しており西部の方が若干低くなっているが、ほぼ同じ層位からの出土と考えられる。基本層序にあてはめると、第4層のハードローム層の上部に相当する。石種は砂岩を中心に花崗岩、凝灰岩などが多く見られる。これらは涸沼周辺の礫層で確認されるもので、遺跡周辺で採取したものを使用していたと言える⁵⁾。すべての礫の表面は火熱により赤変しており、接合関係にあるものさえも、その割れ口が赤変している。また、中には黒色の物質が付着しているものも複数確認されている。栃木県の多功南原遺跡の礫群においても同様の黒色の物質が検出されており、分析の結果、動・植物系の脂肪であることが確認されている⁶⁾。当遺跡の礫群の周囲には炭化物や焼土の分布は見られず、火熱を受けた行為の地点と考えられる痕跡は確認されなかった。礫群の焼礫については一般的に調理・加工の可能性が想定されることが多いが、当遺跡においてはそれを肯定するだけの根拠は認められなかった。

第2号石器集中地点において、礫以外の出土石器を見てみると、石材が多種多様な上、多くが剥片であり、接合関係も確認されていないことから明確な性格を付けるのは困難である。3点のナイフ形石器も単独の出土で、それに伴う石核や剥片などは確認できていない。その中で、ガラス質黒色安山岩の剥片が28点出土していることから、主たる石材として石器製作が行われていたと推測される。南関東においてはIIc期に礫群が増加する傾向にあり、隣接する下総台地でも多くの礫群の存在が報告されている。また、ガラス質黒色安山岩と礫群の強い結びつきが認められるとの見解もある⁷⁾。当集中地点において、礫群とガラス質黒色安山岩の剥片の出土層位はほぼ同じであり、石器製作と礫群の関連が推測され、人々の生活の場であったことが考えられる。

当遺跡は後期旧石器時代には石器製作の場であったことが明らかになった。特に第1・3・4号石器集中地点は隣接しており、石材や器種、出土層位が共通している。今回の調査において、異なる石器集中地点の間に接合関係は確認されなかったが、同時期に形成された石器群の一部と考えられる。石材として用いられている瑪瑙は周辺の地域からも比較的入手が容易である。また、剥片の中には自然面(礫面)を残すものが多く見られることから、当遺跡周辺で石材を採取していたことが考えられる。全体的に接合資料は少ないが、第4号石器集中地点から出土した石核が3点の剥片と接合関係にあり、その接合状況から剥片を作出するために打面調整を繰り返していることがわかる。この地が石器製作の場であったことを裏付けている。

ここで当遺跡における4か所の石器集中地点と、同時期に調査を進めてきた南部に位置する羽黒山遺跡の



第116図 第2号石器集中地点における礫群の分布

表14 第2号石器集中地点における出土礫一覧表

番号	石材	重量 (g)	最大値 (mm)	垂直位置 (m)	形状	焼痕	備考
66	安山岩	7.7	30.0	28.587	破損	全面	
73	砂岩	133.3	63.0	28.541	破損	全面	
74	砂岩	83.3	121.0	28.541	完存	全面	
75	花崗岩	131.0	69.0	28.515	破損	全面	
76	砂岩	384.0	122.0	28.501	完存	全面	
77	砂岩	16.6	33.0	28.547	破損	全面	92と接合
78	凝灰岩	116.6	61.0	28.512	完存	全面	
79	凝灰岩	246.0	81.0	28.501	完存	全面	
80	砂岩	59.8	58.0	28.534	破損	全面	
81	流紋岩	183.6	82.0	28.492	完存	全面	
82	砂岩	98.3	82.0	28.514	破損	全面	
83	花崗岩	86.0	42.0	28.498	破損	全面	102と接合
84	凝灰岩	87.0	58.0	28.479	破損	全面	89と接合 黒色物質
85	花崗岩	69.4	72.0	28.506	破損	全面	117と接合
86	石材不明	129.0	69.0	28.502	破損	全面	112と接合
87	砂岩	43.3	45.0	28.467	破損	全面	119と接合
88	安山岩	18.2	49.0	28.418	破損	全面	
89	凝灰岩	36.1	54.0	28.474	破損	全面	84と接合
92	砂岩	66.8	40.0	28.594	破損	全面	77と接合
93	凝灰岩	29.4	41.0	28.561	破損	全面	113と接合
94	花崗岩	126.7	59.0	28.514	完存	全面	
95	砂岩	199.0	64.0	28.503	完存	全面	
96	砂岩	136.2	96.0	28.516	完存	全面	
97	砂岩	41.2	34.0	28.479	破損	全面	
98	砂岩	387.0	99.0	28.437	完存	全面	
99	砂岩	29.2	54.0	28.499	破損	全面	100と接合
100	砂岩	67.4	95.0	28.489	破損	全面	99と接合
101	砂岩	57.6	67.0	28.421	完存	全面	
102	花崗岩	33.9	36.0	28.493	破損	全面	83と接合
103	チャート	186.0	87.0	28.518	完存	全面	
104	凝灰岩	186.1	64.0	28.528	完存	全面	
105	砂岩	161.0	97.0	28.457	破損	片面	
106	石材不明	316.0	96.0	28.492	破損	全面	黒色物質
107	砂岩	90.8	63.0	28.535	破損	全面	111と接合
108	砂岩	11.7	22.0	28.510	破損	全面	114と接合
109	石英	74.5	42.0	28.505	破損	片面	
111	安山岩	22.9	32.0	28.534	破損	全面	107と接合
112	石材不明	74.5	91.0	28.488	破損	全面	86と接合 黒色物質
113	凝灰岩	27.5	40.0	28.547	破損	全面	93と接合
114	花崗岩	22.9	39.0	28.483	破損	全面	107と接合
115	チャート	265.0	64.0	28.482	破損	全面	
116	砂岩	138.9	89.0	28.479	完存	全面	
117	花崗岩	153.0	112.0	28.475	破損	全面	85と接合
118	チャート	131.7	73.0	28.408	破損	全面	
119	砂岩	8.9	46.0	28.457	破損	全面	87と接合

3か所の石器集中地点とをあわせて若干の考察を加えたい。隣接する二つの遺跡はともに小橋川を西に望む標高28mの台地上に位置しており、地理的な環境に違いはない。茨城県後期旧石器時代編年案⁸⁾にそってそれぞれの文化層を分類してみたい。

第1文化層は大戸富士山遺跡の第2号石器集中地点である。ハードローム層上部から確認された礫群とガラス質黒色安山岩の剥片を考慮するとⅡb期に比定される。第2文化層はⅡc期に比定される。大戸富士山遺跡の第1・3・4号石器集中地点は、瑪瑙を主たる石材とし、石刃技法によって縦長剥片を作出し、小形のナイフ形石器を製作している。羽黒山遺跡の第1号石器集中地点は石核と剥片のみの出土であるため明確ではないが、瑪瑙を石材として使用していることや、石核、剥片の様相などから同じ文化層と考えられる。羽黒山遺跡の第3号石器集中地点においては、頁岩を石材とし、石核やナイフ形石器の調整の様相も異なることから、大戸富士山遺跡の石器集中地点と若干時期差があることも推測される。第3文化層は羽黒山遺跡の第2号石器集中地点である。細石刃の剥片剥離が行われた当遺跡の石器集中地点は、「野岳・休場型」の細石刃核が出土しており、Ⅲa期に比定される。

一般に県内の遺跡は単一文化層であり、複数以上の文化層を有する例は武田西塙遺跡、後野遺跡、東岡中原遺跡他など数例に留まる⁹⁾。羽黒山遺跡・大戸富士山遺跡の7か所の石器集中地点において、Ⅱb期からⅢa期にわたる複数の文化層が確認されたことは、ローム層が薄く、層位的な調査が困難な地域性を考慮すると良好な一括資料と言える。

2 縄文時代

調査A区において、竪穴住居跡1軒、陥し穴2基を確認した。住居跡は調査A区の北部に位置し、第1号埋没谷の調査の過程において、堆積した黒色土の下層から確認されている。調査区域外に延びているため全容は明らかではないが、出土土器から縄文時代中期前葉と考えられる。陥し穴は標高28.5mの等高線に沿うようにおよそ5mの間隔で配置されている。遺構外ではあるが石鏃なども出土していることなどからも狩猟の場であったと言える。

3 奈良・平安時代

竪穴住居跡30軒、掘立柱建物跡6軒、柵跡2列、溝跡1条が確認された。南部に位置する羽黒山遺跡は、出土土器の様相などから5期に分類¹⁰⁾したが、当遺跡の集落をあてはめてみると2期から4期になる。小橋川を挟んで西部に向かい合う桜の郷遺跡群、また、同じ台地上の南部に位置する大戸下郷遺跡と比較しながら、集落の構成や変遷について検討を加えてみたい。

(1) 集落の変遷

2期（8世紀中葉）

この時期の住居跡は3軒（第1・10・25号住居跡）で、台地上の平坦部から緩斜面部にかけて、それぞれ距離を置いて位置しており、分布は散漫な印象を受ける。3軒は主軸方向や、規模・形状に違いが見られることから、これらを一つのまとまりと捉えることは難しい。

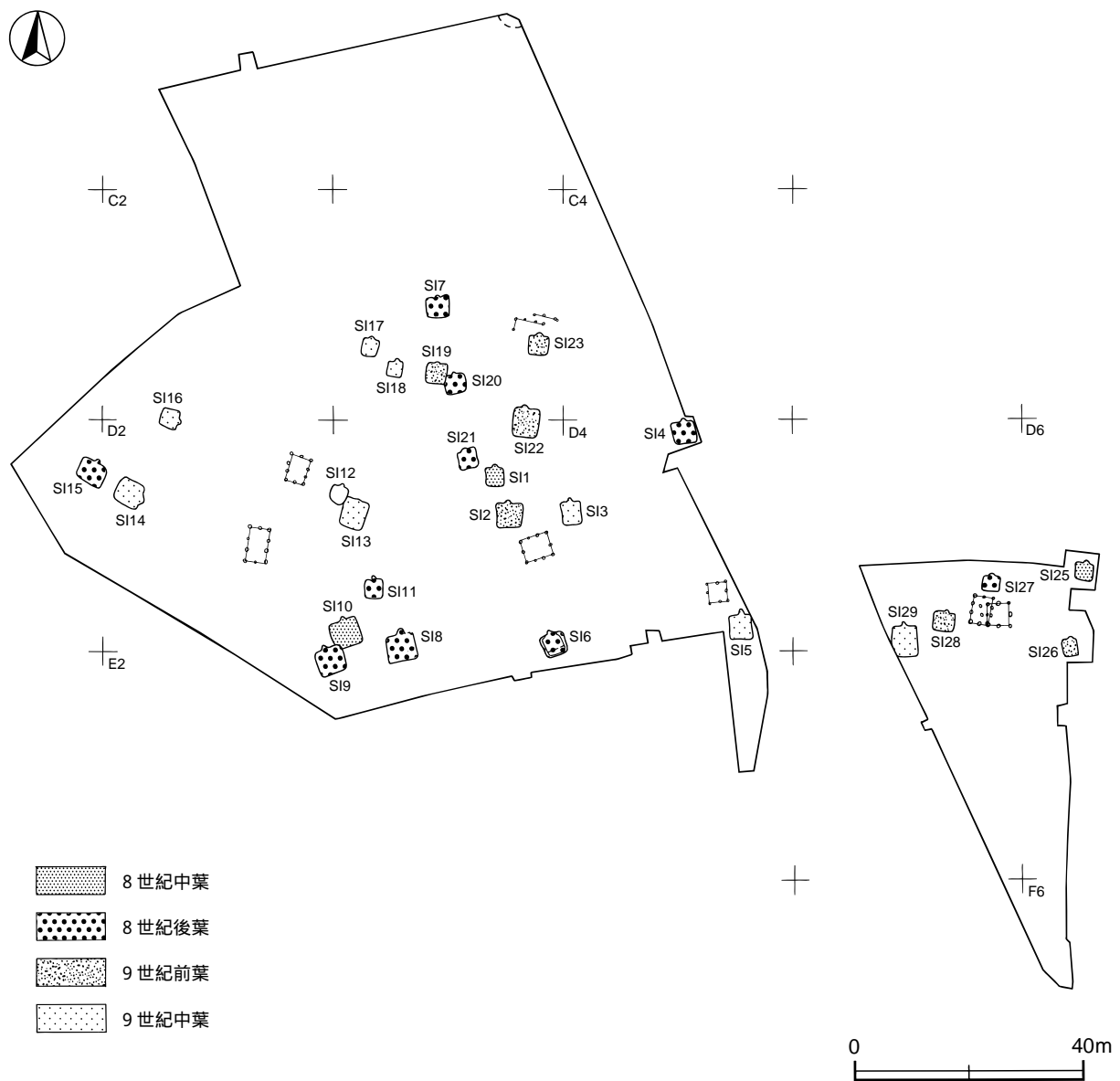
3期（8世紀後葉）

この時期の住居跡は10軒（第4・6～9・11・15・20・21・27号住居跡）が該当し、集落の規模が最も大きくなる時期で、台地の平坦部から斜面部にかけて広範囲に集落が形成されている。第4号住居跡は火

床面に伏せられた須恵器の坏の出土状況から、竈における祭祀的な行為の可能性が想定される。さらに、鉸具（馬具カ）とみられる鉄製品の出土も含めて、集落を構成する住居の中において優位的な立場にあったと考えられる。第6号住居跡は谷津に流れ込んだ黒色土が、住居内に堆積するたびに2度の貼床を行っている。第15号住居跡は東西に長く、柱穴の位置など他の住居跡と異なる上屋構造が想定される。第6・15号の2軒の住居跡は、ともに緩斜面部に位置しており、主軸方向の違いや立地条件から当該期の集落の中では異質な存在である。

4期（9世紀前葉）

この時期の住居跡は6軒（第2・19・22・23・26・28号住居跡）で、標高28.5mほどの台地上の平坦部に集落を形成している。第22号住居跡は当該期最大の住居跡で、鉄製品や墨書土器（「郷」）が出土していることから、集落の中心的な役割を果たしていたと考えられる。また、5軒から鉄製品、2軒からは筋溝状の研磨痕を有する砥石が確認されており、この時期に鉄製品が広く普及していた様子がうかがえる。



第117図 大戸富士山遺跡遺構配置図

5期（9世紀中葉）

この時期の住居跡は9軒（第3・5・12～14・16～18・29号住居跡）で、これまで多くの住居跡が見られた台地中央の平坦部を囲むように集落が形成されている。第5号住居跡からは、鉄器や漆附着土器などが出土している。約30m東に位置する第29号住居跡からも鉄器（鎌、鍬、刀子）や砥石、漆附着土器に加えて、墨書土器（「十万」「在カ」）が出土している。「在」という字は宮後遺跡から出土した墨書土器の40%を占める代表的な文字であり¹¹⁾、当集落との間に人の往来があったことがうかがえる。また、竈脇の柱穴の存在から他とは異なる上屋構造が想定されることや、炉を併設していることなどから、何らかの生産活動が行われていた可能性も推測される。いずれの住居跡にも、それぞれ軸線を等しくする第1・6号掘立柱建物跡が隣接している。第13号住居跡は墨書土器や鉄器（鎌、鍬、刀子）、石器・石製品（砥石、紡錘車）が出土しており、規模は当遺跡の中で最大である。西に位置する第3号掘立柱建物跡も軸線を等しくしていることから同時期に機能していたとみられる。該期においてはこれらの住居跡を中心とし、大きく二つの集団が形成されていたと考えられる。

以上のことから、当遺跡は8世紀中葉から集落が形成され始め、9世紀中葉には終焉を迎えたことが明らかになった。集落構成は、3、4軒で一つの家族的な集団を構成し、いくつかの集団によって集落が形成されていたと考えられる。また、その集団の中には、出土遺物などから推察して、他より優位的な立場の人物が存在していたと見られる。4・5期になると中心的な役割を果たしていた住居跡は、その近辺に軸線を等しくする掘立柱建物跡が存在する。その機能については明確ではないが、鎌などの農耕具が出土していることから、倉庫的な役割を果たしていたと推測される。南に位置する羽黒山遺跡とは、出土遺物や住居跡の形状・規模などがほぼ同じであり、同じ集落構成と捉えている。また、時期毎の住居跡数の推移を比較してみると、羽黒山遺跡から徐々に集落が広がりはじめ、当遺跡が形成されていったと考えることができる。

(2) 竪穴住居の形状と構築法

貼床の構築状況について

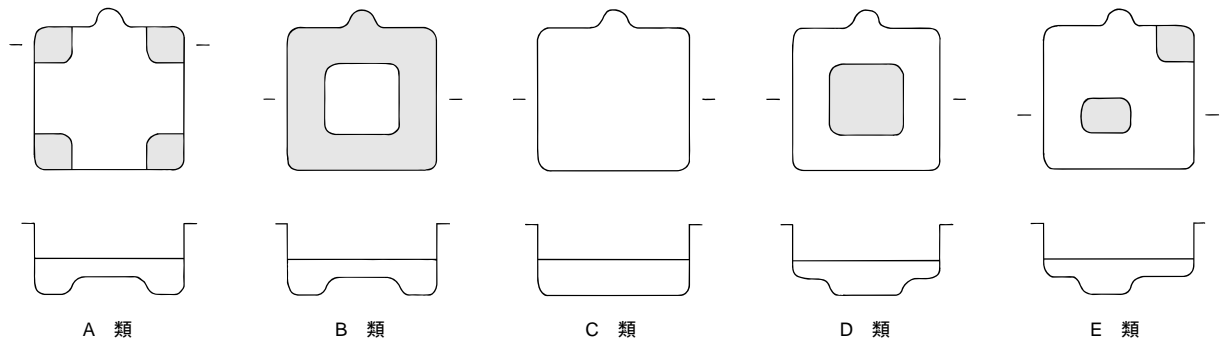
奈良・平安時代の竪穴住居跡30軒のうち、26軒で掘り方が確認された。ここでは掘り方の形状及び貼床の構築方法について分類する。床下の掘り方については、埼玉県飯能市の甲新田遺跡・播磨久保遺跡¹²⁾及び、茨城県桜川市の加茂遺跡¹³⁾における分類を参考にして、以下の5類に分類した（第118図）。なお、掘り方を有していても、削平などにより全体を調査できなかったものは「不明」として扱っている。

- A類 竪穴の四隅を深く掘り込んでいるもの
- B類 竪穴の壁際を帯状に深く掘り込み、中央部の掘り込みが浅いもの
- C類 全体をほぼ均一の深さに掘り込んでいるもの
- D類 中央部を深く掘り込んでいるもの
- E類 竪穴の一部を部分的に深く掘り込んでいるもの

この類型に基づき分類したところ、掘り方を設けていない住居跡、掘り方の形状が不明な住居跡を除いて、A類2軒、B類3軒、C類6軒、D類9軒、E類6軒となった。当遺跡は大きく4期に分けられるが、掘り方の形状による目立った時期差は確認されなかった。住居の規模という観点からすると、比較的規模の大きな住居はA・B類にあてはまることが多く、支柱穴を持たない小規模の住居はD・E類が多いよう

である。竪穴住居の構築方法は、「四隅から掘り始め、竪穴部の外形を形作るよう環状に掘り進めていき、最後に中央部の掘り残された部分を掘削して床面にあわせて平坦に整える」と想定されている¹⁴⁾。規模の大きな住居になると複数の人数で作業していくこととなるので効率的な方法と言える。一方、規模の小さな住居は作業人数も少なくなり、規格的な構築方法でなくても済んだことが推測できる。当遺跡においての掘り方の形状の違いは、竪穴住居の規模や作業工程に因るところが大きいのではないかと考えられる。

貼床の構築土については、いずれの住居跡においてもロームブロック・ローム粒子を含む褐色土・暗褐色土で埋土している。斜面部などに立地する住居跡では、鹿沼パミスや黒色土が混じることも確認された。竪穴住居を構築する際に掘り上げた排土を構築材として使用していたと思われる。一般に貼床は床面の亀裂を防ぐ防乾のため、あるいは水分をしみこませる防湿のためと考えられている。同様の考察を行った加茂遺跡、東岡中原遺跡¹⁵⁾では、掘り込みを持たず、地山を床面にしているものがそれぞれの時期において半数ほど確認されており、集落の半数の人間が防乾・防湿の必要性を感じなかったことになると言われている。逆に、当遺跡は8割以上の住居跡に掘り方が確認されたということは、防乾・防湿の必要性を強く感じていたと考えられる。



第118図 竪穴住居跡の掘り方の類型

竈の構築状況について

奈良・平安時代の住居跡すべてに竈が付設しており、その様相は地域性を色濃く反映していることから、「桜の郷遺跡群」との規模や構築法の相違点を検討することで、当遺跡の特徴を考察したい。竈の検討材料として、袖部の構築法、構築材及び火床部の形状について比較してみた。袖部の構築法は、大きく以下の三つに分類することができる。

- a 類 床面に直接構築材で袖部を形成するもの
- b 類 袖部の下に掘り込みをもつもの
- c 類 地山を掘り残して基部とし、その上に袖部を構築するもの

以上の観点で時期や規模による特徴の違いが見られるかを検討した。袖部の構築法に関しては a 類が10軒で38.4%，b 類が8軒で33.3%，c 類が7軒で28.9%となった。それぞれの構築法の特徴をみていくと、a 類は比較的小規模な住居で、火床部は床面をわずかに皿状に掘りくぼめて構築し、袖部幅は若干狭いものが多い。b 類は火床部にも掘り方を持っているものも多く、袖部の下と同様に埋土を充填して構築している。袖部は掘り込みにロームブロックや黒色土を充填して基部を形成し、その上に竈の構築材である砂質粘土で袖部を構築しているようである。袖部幅も a 類に比べて広く、二掛竈が想定されるものも目立つ

表15 大戸富士山遺跡住居計測値

住居番号	時期	規模 m ²	主柱穴	貼 床					竈					備考			
				掘り方形状					色調	主な構築土	袖部構築法				袖部幅	煙突口部	火床部構築法
				A	B	C	D	E			a	b	c				
1	8中~後	11.20						褐・暗褐	ロームブロック				100	100			
2	9前	19.60	4					黒褐	ローム粒子, 焼土粒子				174	118			支脚上に須恵器片4枚 三掛電力
3	9中	15.20						なし					142	140			
4	8後	15.75						暗褐	ロームブロック・粒子				143	126			火床部に須恵器坏逆位
5	9中	19.27	4					暗褐	ロームブロック・粒子				150	156			焚口から漆付着土器
6A	8後	16.62	4					不明					125	141			竈脇に柱穴
6B	8後	14.07						不明									
6C	8後	[12.16]						暗褐	ロームブロック, 炭化粒子								不明
7	8後	14.11	4					暗褐	ロームブロック・粒子				130	98			竈脇に柱穴
8	8後	26.34	4					暗褐	ロームブロック, K P				127	138			袖部灰白色の粘土で構築
9	8後	24.48	4					黒褐	ロームブロック, K P				137	110			袖部灰白色の粘土で構築
10	8中	20.50	4					褐	ロームブロック, 炭化粒子				145	120			右袖部基部充填 竈脇に柱穴
11	8後	10.81	7					暗褐	ロームブロック, 焼土粒子				115	100			壁外柱穴
12	9中~後	9.30						褐	ローム粒子, 炭化粒子								
13	9中	27.38	4					暗褐	ローム粒子, 砂粒				116	132			竈脇に柱穴
14	9中	20.61	4					暗褐	ローム粒子, 炭化粒子, K P				175	179			東竈 竈作り替え
15	8後	19.01	4					暗褐	ローム粒子, 砂粒				138	123			支脚(土師器髹付き) 横長住居
16	9前~中	10.75						暗褐	ローム粒子				-	98			東竈
17	9中	8.66						明褐	ローム粒子				104	76			
18	9中	8.55	4					なし					100	110			
19	9前	14.68	3					暗褐	ロームブロック・粒子				113	111			
20	8後	13.02						暗褐	ロームブロック・粒子				120	108			
21	8後	11.64						暗褐	ローム粒子				120	-			
22	9前	24.18	4					暗褐	ローム粒子, 炭化粒子, 砂粒				175	195			二掛電力
23	9前	12.98						褐	ローム粒子				-	110			
25	8中	10.59						暗褐	ローム粒子, 炭化粒子				91	96			
26	9前	9.95						暗褐	ロームブロック				-	120			火床部に小形襦逆位 袖部構築法左右で違い
27	8中~後	11.46	4					褐	ロームブロック				108	112			壁外柱穴
28	8後~9前	13.70						褐	ロームブロック				150	115			二掛電力
29	9中	26.22	4					褐	ロームブロック, 焼土ブロック	なし			-	140			火床面2か所 支脚 竈脇に柱穴 炉有り

*1 掘り方形状, 袖部構築法の分類については本文に準ずる。
 *2 火床部構築法は本文の記載に合わせて以下のように分類する。
 床面と同じレベルに火床部を構築
 地山を掘りくぼめて火床部を構築
 掘り方を設け, 埋土を充填して火床部を構築

ている。c類は火床部の構築法が二通りに分かれ、床面に火床部を形成するものと、掘り方に埋土をして
 いるものに分かれる。なお、桜の郷遺跡群において同様の分類¹⁶⁾ をしてみると47%がa類の床面に直接
 袖部を構築する方法である。b類は22.0%, c類は9.4%であることを考慮すると、床面に直接構築する
 方法が主流であったと思われる。当遺跡においてもa類が主流と考えられるが、c類も多く見られること
 が特筆される。当遺跡の竈の構築材である砂質粘土は粘性が弱い上、再利用したかのように焼土や炭化物
 が混じることが多く、良質な構築材とは言い難い。仮に良質な粘土の入手が困難であったとすれば、c類
 は地山で基部を構築することから粘土の量を少なくすることができ、欠点を補うのに好都合であったので
 はないだろうか。検討した結果、当遺跡及び桜の郷遺跡群において、住居跡の時期による竈の構築法の明
 確な違いはみられなかったが、b類の構築法は8世紀代に、c類の構築法は9世紀前葉から中葉にかけて
 多く見られるようになっていく。

また、当遺跡において東壁に竈を付設する住居跡が2軒確認された。茨城県の場合、10世紀前葉になる
 と住居の構造の変化とともに北壁から東壁に竈が付設される住居が増えてくると言われている¹⁷⁾。しか
 し、この2軒の時期は9世紀前葉から中葉と若干早い。そこで住居の構造の変化というよりも、地理的条
 件が大きく影響しているように思われる。いずれも西に下る斜面部に位置しており、床面を水平にするた

めには西壁より東壁が高くなり、南北壁においては必然的に斜めになってしまう。そこで、竈を構築する都合上、東壁を選択したように考えられる。第14号住居跡においても、斜面部に住居を構築し、北壁に竈を付設したことによって日常生活上で不都合な点があり、北壁から東壁に作り替えたのではないかと思われる。また、民俗事例などから竈の作り替えに伴う移動が行われた住居に関しては、家族の者が死んだときに古い竈を破棄したり、竈の灰を取り替えて改火するなど、祭祀的な行為の可能性も想定されるが、この住居跡においては明確ではない。

ここで、竈に伴う「祭祀的な行為」が想定される3軒について考察してみる。ここで扱う3例は、火床部の底面から完形に近い土器が逆位で出土し、二次焼成痕を受けておらず支脚への転用の可能性が低いと思われることから、その行為が推測されるものである。第2号住居跡からは、火床部の奥に据えられた支脚の上に、須恵器甕の破片が4枚重ねられた状態で出土している。当初、高さ調整を目的にしていると考えたが、観察した結果、須恵器片には二次焼成痕がなかった。また、竈の土層に天井部の崩落層がなく、廃絶時に竈を壊しているとみられる。このような出土状況から何らかの「祭祀的な行為」が行われたと考えられる。竈内から出土した須恵器甕片は、同一個体であり、竈の周辺から出土した破片と接合している。第4号住居跡は、火床部の奥壁寄りに完形の須恵器の坏が、故意に逆位で伏せられた状況が見られる。第26号住居跡は火床面奥に完形の土師器の小形甕が逆位に据えられ、その上に須恵器の高台付坏の破片が逆位でかぶせられていた。いずれの土器も二次焼成痕が無いことや、出土位置が奥壁に寄りすぎていることから、支脚への転用とは考えられず、祭祀的な意味合いを持っていると推測される。3軒は8世紀後葉から9世紀前葉の住居で、竈の構築法は先に挙げた分類のc類になる。桜の郷遺跡群において、同様の観点で「祭祀的な行為」が想定される住居跡は石原遺跡1軒、大塚遺跡2軒、宮後遺跡2軒といずれも少ない¹⁸⁾。以上のことから考えると、当遺跡にこのような竈を持つ住居跡が3軒あることは特筆される。

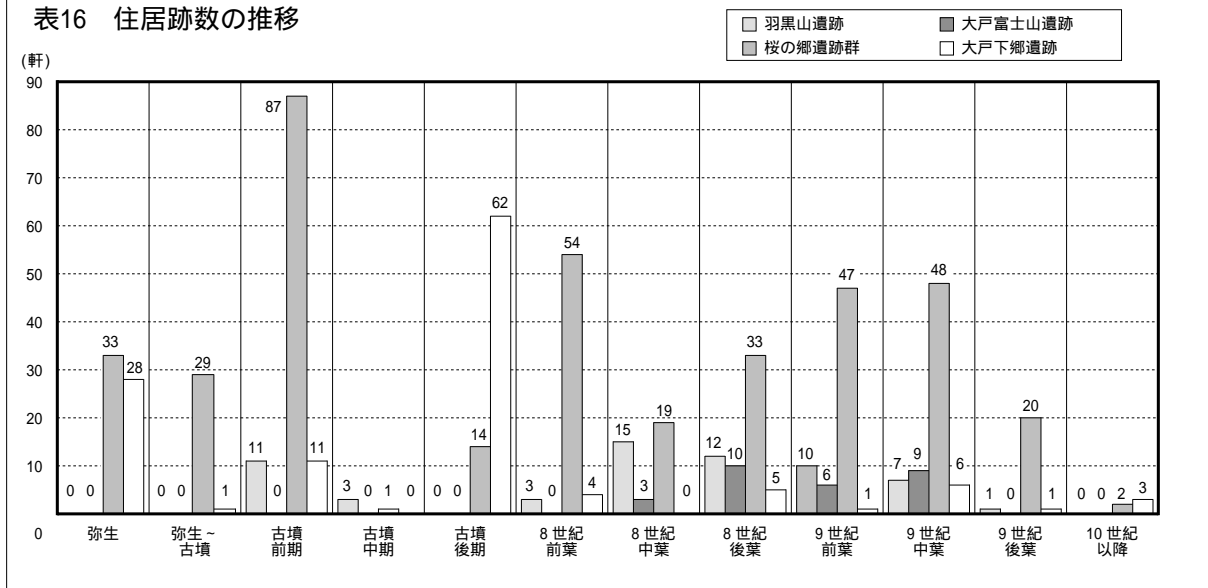
(3) 近隣遺跡と集落のかかわり

ここでは集団の移動が想定される桜の郷遺跡群と大戸下郷遺跡¹⁹⁾の各時期の集落の様相を踏まえ、今回調査した大戸富士山遺跡、隣接する羽黒山遺跡の集落の様相を比較検討してみたい。大戸富士山遺跡及び羽黒山遺跡は桜の郷遺跡群とは小橋川を挟んで向かい合っており、大戸下郷遺跡とは同じ台地上の縁辺部に位置している(第119図)。当遺跡は2遺跡のほぼ中間に位置しており、集団の移動があるとすれば何らかの影響を受けていると仮定される。そこで、住居跡数の変遷からどのように関わりを持っていたかを検討することで、当遺跡の性格について考察を述べたい。

まず大戸下郷遺跡と桜の郷遺跡群の関わりについては、次のように述べられている。『弥生時代後期から大戸下郷遺跡から「桜の郷遺跡群」へ「集団の移動または分派」という形で移り住んだ集団は、石原遺跡を起点に「集団の移動または分派」を繰り返し、その後わずかな間に大塚遺跡、宮後遺跡、綱山遺跡、木戸遺跡などへ集落を拡大していったのではないだろうか。(中略)可耕地や居住地の許容が不足している大戸下郷遺跡よりも、首長的な人物の出現に伴いより広い可耕地と居住地が確保できる「桜の郷遺跡群」が中心になっていったと考える』²⁰⁾。そこで、弥生時代後期から10世紀までの期間にそれぞれの集落がどのように変遷していったかを比較検討してみる。時期別の住居跡数の変遷²¹⁾は以下ようになる(表16)。

桜の郷遺跡群については、古墳時代後期から8世紀前葉にかけて住居跡数を増やすが、8世紀中葉には衰退している。その後、8世紀後葉から9世紀中葉まで徐々に規模を大きくしていく。石原遺跡は桜の郷遺跡群の規模が大きくなり始める8世紀前葉に、他の遺跡に先駆けて住居跡数が最大数となる。以後、数

表16 住居跡数の推移

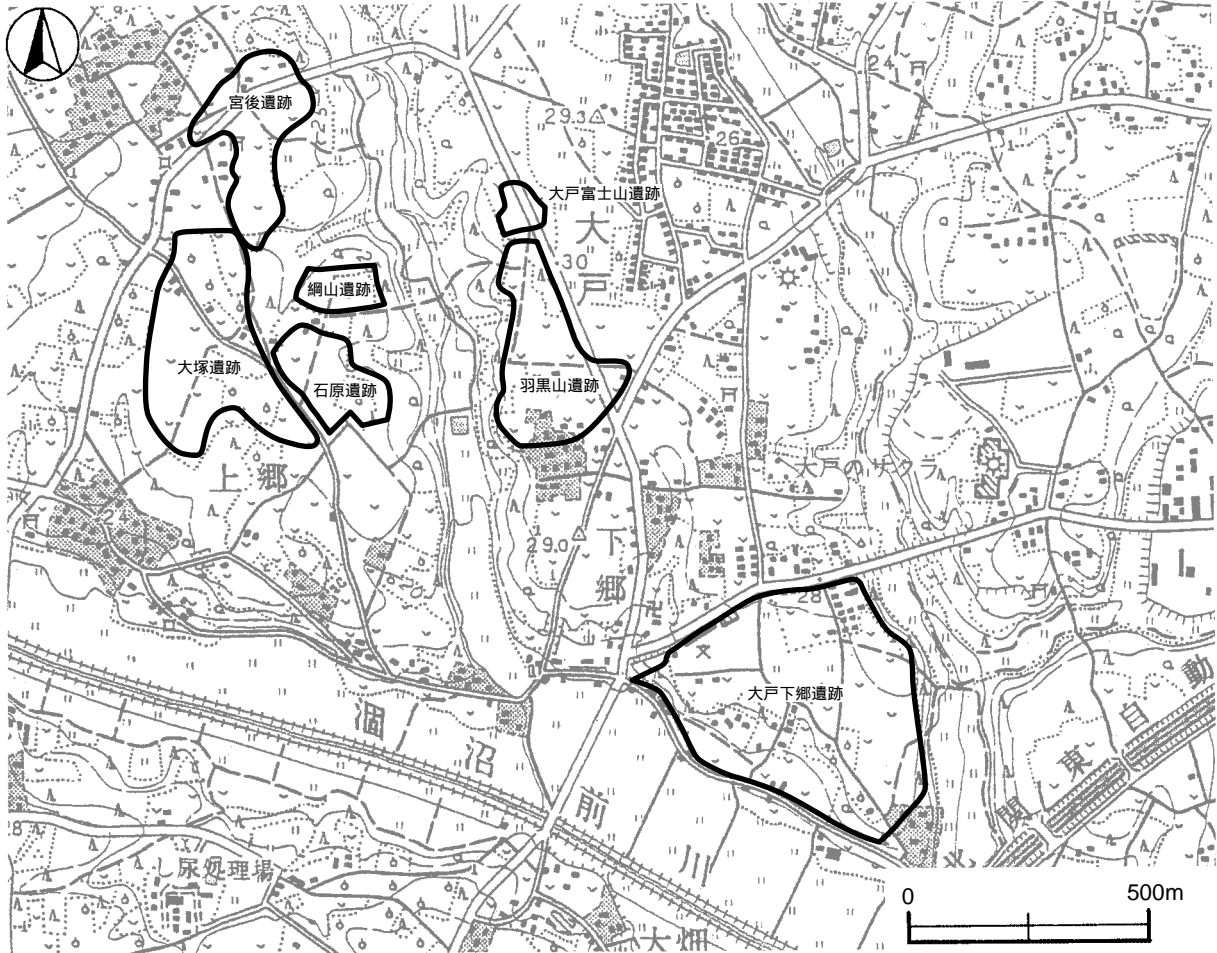


を減らしつつも10世紀まで継続して集落を形成している。大塚遺跡においては8世紀末から9世紀中葉にかけて、掘立柱建物跡群が存在しており、在地の豪族もしくは富豪層の存在が想定され、居宅を整備・拡大して地方末端の地域支配を担う行政機能の加わった施設が展開されていたと考えられる時期である²²⁾。これは桜の郷遺跡群全体の住居跡の増加と時期が一致している。宮後遺跡は8世紀前葉から住居跡数を増やし、9世紀中葉には最大規模となり、桜の郷遺跡群の中心集落となる。

一方、大戸下郷遺跡に関しては、古墳時代後期にその数を最大にするが、その後は5軒前後と規模は縮小している。桜の郷遺跡群、大戸下郷遺跡の住居跡数の変遷を相関的に見てみると、古墳後期から8世紀にかけて大戸下郷遺跡が衰退していくのに対して、桜の郷遺跡群が規模を拡大している。ここでも、いわゆる「集団の移動または分派」という形で動きがあったと想定される。

大戸富士山遺跡・羽黒山遺跡に関しては、8世紀前葉から中葉にかけて桜の郷遺跡群の集落の規模が一時的に縮小していくのと時期を同じくして集落が形成されていく。ここには桜の郷遺跡群からの「集団の移動または分派」があり、一時的に集落の規模が拡大していったと考えられる。特に8世紀中葉は桜の郷遺跡群の5遺跡の住居跡数が19軒に対して、大戸富士山遺跡・羽黒山遺跡は18軒存在し、この時期最大の規模を誇っている。しかしその後、桜の郷遺跡群においては大塚遺跡に首長的な人物が出現し、郡衙ないし郷衙的な様相を示す建物群が建てられ隆盛を迎える一方、小橋川を挟んで東に位置する大戸富士山遺跡・羽黒山遺跡は集落の規模を縮小させていくことになる。

大戸下郷遺跡からその支群である桜の郷遺跡群に移り住んだ集団は、そこで集落を形成し隆盛を極めることとなる。その中から小橋川を越えて東に移動してきた一部の集団は、律令期において安定した税の確保を目指したことにより、計画的な可耕地の整備を図るべく集落を開墾することになる。当遺跡の立地状況からすると、西に位置する小橋川沿岸が水田耕作に適していると考えられるが、決して広い土地とは言えない。一時的に集落の規模を拡大させるが限界があり、桜の郷遺跡群が隆盛を極める9世紀中葉には律令体制の衰えとともに衰退していったものと考えられる。



第119図 周辺遺跡分布図

4 終わりに

当遺跡の集落の変遷を考える上で、桜の郷遺跡群と大戸下郷遺跡の間における集団の移動があったことを前提に検討してきた。本報告では桜の郷遺跡群から一部の集団が小橋川を越えて移動してきたと考えているが、大戸下郷遺跡から当遺跡への移動については明確ではない。大戸下郷遺跡と羽黒山遺跡・大戸富士山遺跡との間の同じ台地上に寺坪遺跡が位置する²³⁾。寺坪遺跡については詳細は不明であるが、縄文から奈良・平安時代までの遺構の存在が確認されている。仮に大戸下郷遺跡から当遺跡に移動があったとすれば、立地状況からして何らかの関連が想定されるところである。

今回、小橋川の東の台地上に位置する大戸富士山遺跡と羽黒山遺跡を一部あわせて考察をしてきた。この二つの遺跡の間には小さな谷津が存在し、二分しているようにも見えるが、集落の変遷や出土遺物などから相対的に見ると大きな違いは見られない。羽黒山遺跡の南部には複数の掘立柱建物跡や住居跡が存在し、遺跡の中心であると考えられ、そこを拠点に集落が広がりを見せ、大戸富士山遺跡の集落が形成されてきたと思われる。

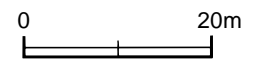
これまで沼沼前川周辺の遺跡の調査を重ねてきたことで、集落の様相や人の動きについて、当時の社会がだいぶ復元されつつある。今回の考察では、出土遺物や住居跡の構築状況という観点で集落の様相について検討してきた。今後、さらに多様な観点で遺跡相互の関係を見ていくことによって、各時代の人々の生活や社会の様子を明らかにすることができると思う。

註

- 1) 本報告書 第3章 羽黒山遺跡
- 2) 旧石器時代班「茨城県のナイフ形石器集成(2)」「研究ノート10号」2001年6月の7種の分類基準に基づいて分類したところ、その内の4種に相当した。
- 3) 長谷川聡「大作遺跡 大畑遺跡 北関東自動車道(友部～水戸)建設工事地埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第136集 1998年3月
- 4) 武田西埦遺跡の旧石器調査区R地点において確認された礫の集中する範囲を同様に「礫群」と捉えている。「武田西埦遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編」『(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第21集 2001年3月
- 5) 柴田徹・山本薫・鈴木素行「武田石高遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編」『(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第15集 1998年3月
- 6) 礫群において同様の黒色の物質が確認されており、理化学分析の結果、動・植物系の脂肪であることが判明している。当遺跡においては分析を行っておらず、物質の成分は明らかではない。(財)栃木県文化振興事業団「多功南原遺跡 一住宅都市整備公団宇都宮都市計画事業多功南原地区埋蔵文化財発掘調査一」栃木県埋蔵文化財調査報告第222集 1999年3月
- 7) 川口武彦「石器群の様相—ナイフ形石器新段階—」『茨城県における旧石器時代研究の到達点 一その現状と課題—発表要旨・資料集』ひたちなか市教育委員会 茨城県考古学協会 2002年12月
- 8) 前掲註7) 文献 橋本勝雄「茨城県における旧石器時代の編年」
- 9) 前掲註8) に同じ
- 10) 本報告書 第3章羽黒山遺跡第4節まとめの時期区分と同様の観点で分類を行った。
- 11) 川又清明・浅野和久「宮後遺跡3 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第241集 2005年3月
- 12) 飯能市教育委員会「飯能の遺跡(28) 甲新田遺跡 第2次調査 張摩久保遺跡 第28次調査」飯能市内遺跡発掘調査報告書14 2000年2月
- 13) 島田和宏「加茂遺跡 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅺ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第249集 2005年3月
- 14) (財)勝田市文化・スポーツ振興公社「武田Ⅶ 一1993年度武田遺跡群発掘調査の成果—」『(財)勝田市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第9集 1994年3月
- 15) 駒澤悦郎「東岡中原遺跡 中根・金田台地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第251集 2005年3月
- 16) 奈良・平安時代の住居跡計308軒のうち、竈が壊されているもの、袖部が遺存しないものを除いた254軒を対象に分類を行った。
- 17) 浅井哲也「カマドが東へ移るとき」茨城県考古学協会誌第5号 1993年6月
- 18) 桜の郷遺跡群の5遺跡の報告書において、「祭祀的な行為」と記載されているもの、当遺跡の「祭祀的な行為」と想定される竈と同じ様相が実測図や遺物出土状況から分かるものを抽出した。
- 19) ア. 近藤恒重「大戸下郷遺跡 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第216集 2004年3月
イ. 綿引英樹・松本直人「大戸下郷遺跡2 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第257集 2006年3月
- 20) 前掲註19) イに同じ
- 21) 各報告書において、時期が明確なものだけを抽出した。桜の郷遺跡群は5遺跡(宮後遺跡, 石原遺跡, 大塚遺跡, 綱山遺跡, 木戸遺跡)の合計数である。
- 22) ア. 長谷川聡・田中幸夫・小野克敏「大塚遺跡1 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第242集 2005年3月
イ. 井上琢哉・小林健太郎「大塚遺跡2・木戸遺跡 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第258集 2006年3月
- 23) 茨城県教育庁文化課「茨城県遺跡地図—地名表編—」茨城県教育委員会2002年3月

参考文献

- ・茨城町史編さん委員会「茨城町史 通史編」茨城町 1995年2月
- ・織笠昭『石器文化の研究 先土器時代のナイフ形石器・尖頭器・細石器』新泉社
- ・(財)栃木県文化振興事業団「三ノ谷・谷館野北遺跡 一住宅・都市整備公団小山・栃木都市計画事業 自治医科大学周辺地区埋蔵文化財発掘調査一」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第112集 1990年3月
- ・財団法人福島県文化振興事業団「江平遺跡 福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告12」『福島県文化財調査報告書』第394集 2002年3月
- ・財団法人印旛都市文化財センター「印旛の原始・古代 一旧石器時代編—」2004年3月
- ・桐生直彦「竈をもつ堅穴建物跡の研究」六一書房 2005年10月
- ・「精選 日本民俗辞典」吉川弘文館 2006年3月

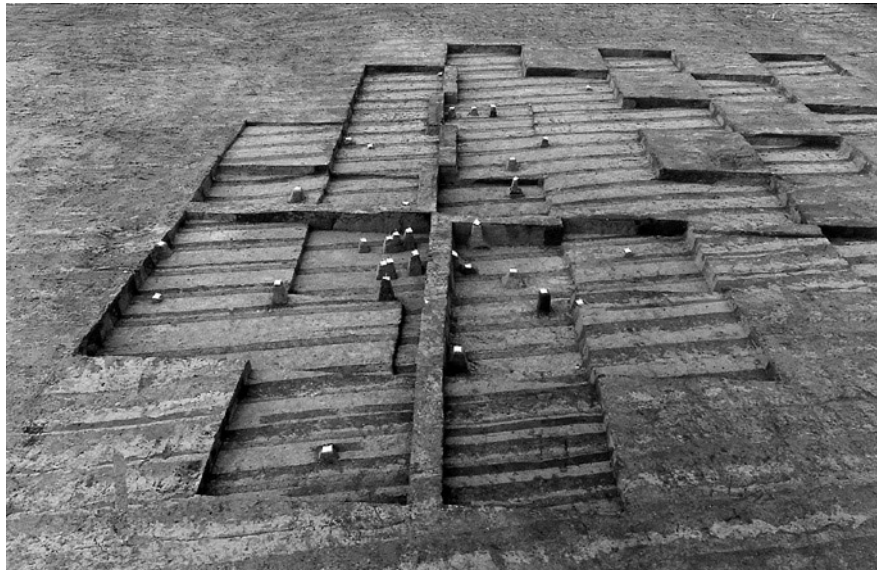


第120図 大戸富士山遺跡遺構全体図

写真図版



大戸富士山遺跡遠景（南東から）



第1号石器集中地点
遺物出土状況



第1号石器集中地点
遺物出土状況

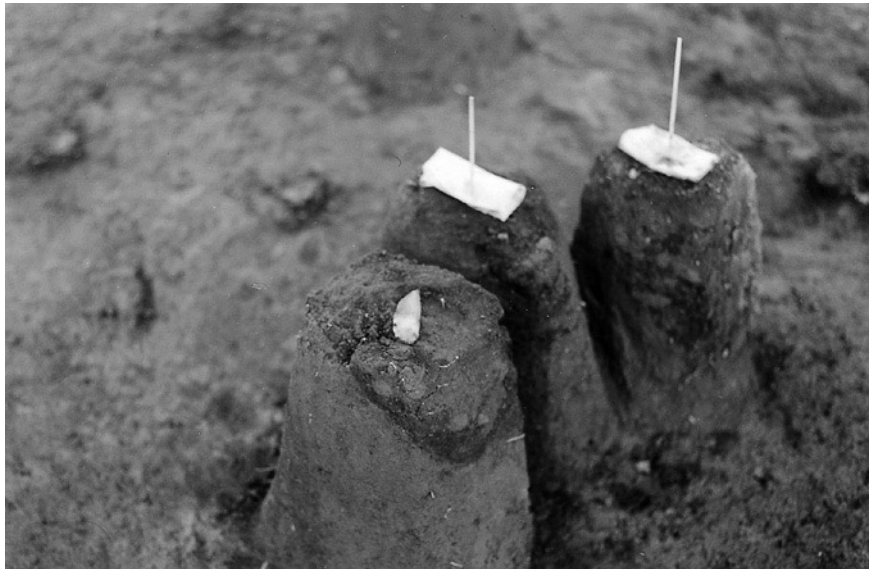


第2号石器集中地点
遺物出土状況

PL 2



第 2 号石器集中地点
礫 集 中



第 2 号石器集中地点
遺 物 出 土 状 況



第 3 号石器集中地点
遺 物 出 土 状 況



第3号石器集中地点
遺物出土狀況



第4号石器集中地点
遺物出土狀況



第4号石器集中地点
遺物出土狀況

PL 4



第 2 号 住 居 跡
完 掘 状 況

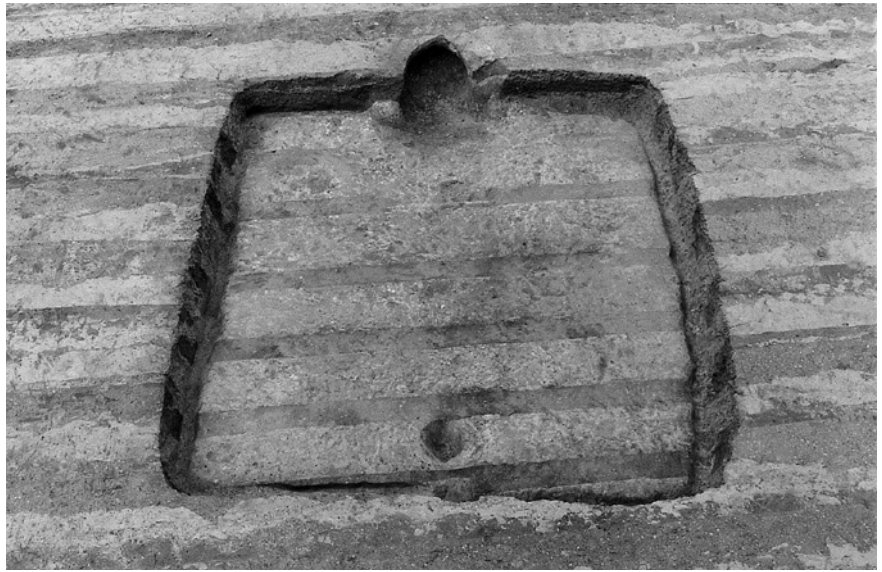


第 2 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 2 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況

第 3 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 3 号 住 居 跡
竈 遺 物 出 土 状 況



第 4 号 住 居 跡
完 掘 状 況



PL 6



第 4 号住居跡
竈遺物出土狀況



第 5 号住居跡
完掘狀況



第 5 号住居跡
竈遺物出土狀況

第 6 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 6 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 7 号 住 居 跡
完 掘 状 況



PL 8



第 8 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 8 号 住 居 跡
堀 以 方 完 掘 状 況



第 9 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 10 号住居跡
完 掘 状 況



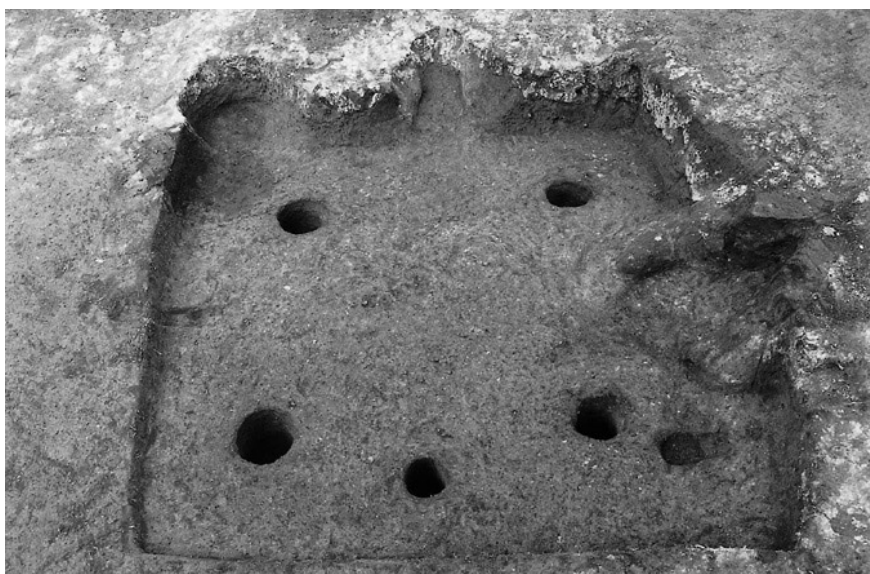
第 10 号住居跡
竈 完 掘 状 況



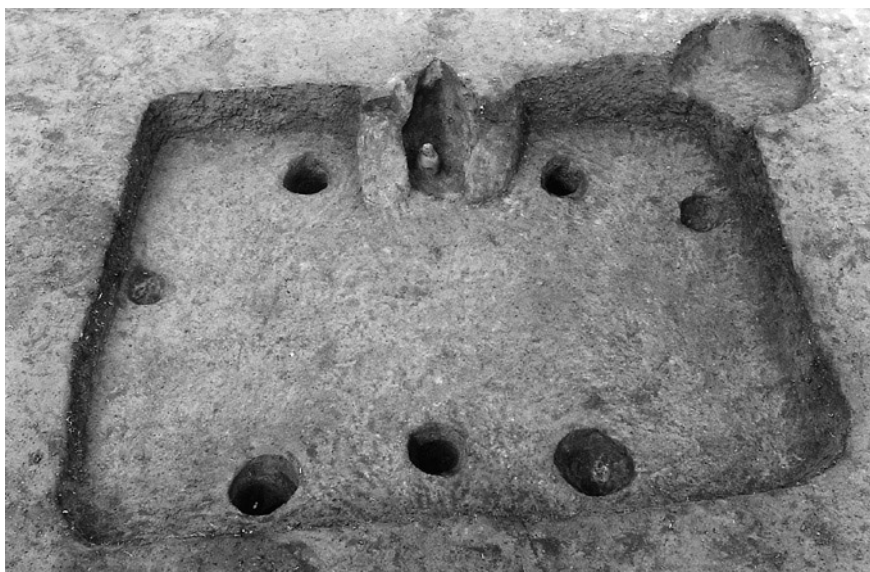
第 11 号住居跡
完 掘 状 況



第 13 号住居跡
完 掘 状 況



第 14 号住居跡
完 掘 状 況



第 15 号住居跡
完 掘 状 況

第 15 号住居跡
竈遺物出土狀況



第 22 号住居跡
完掘狀況



第 22 号住居跡
遺物出土狀況

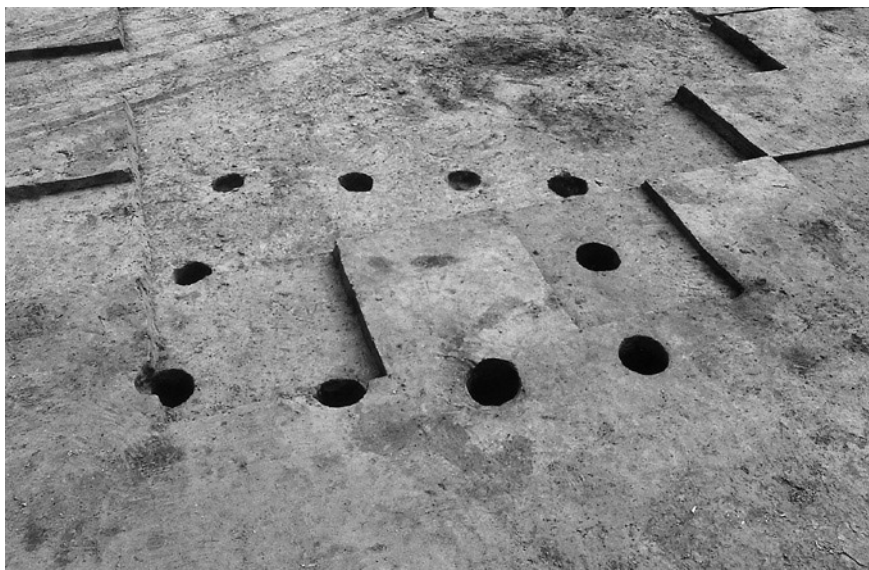




第 26 号住居跡
竈遺物出土狀況

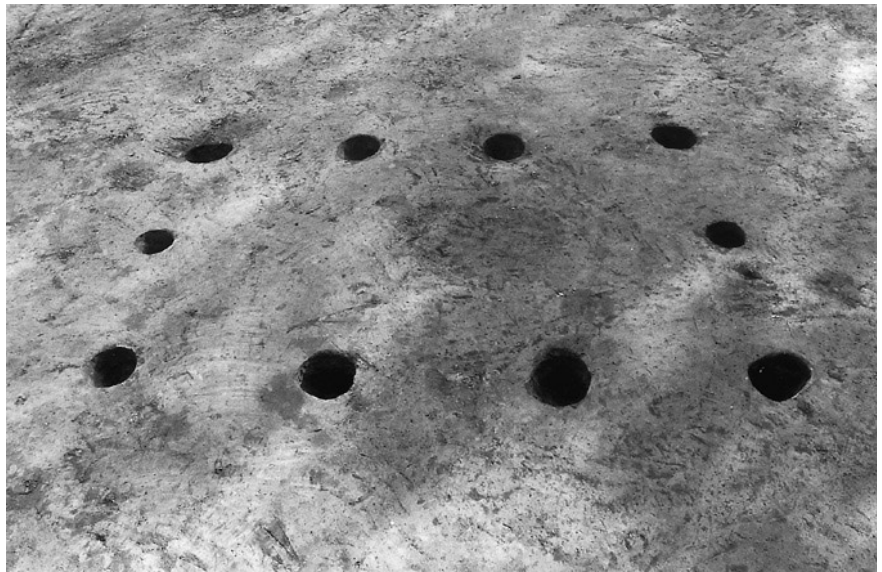


第 29 号住居跡
完掘狀況



第 3 号掘立柱建物跡
完掘狀況

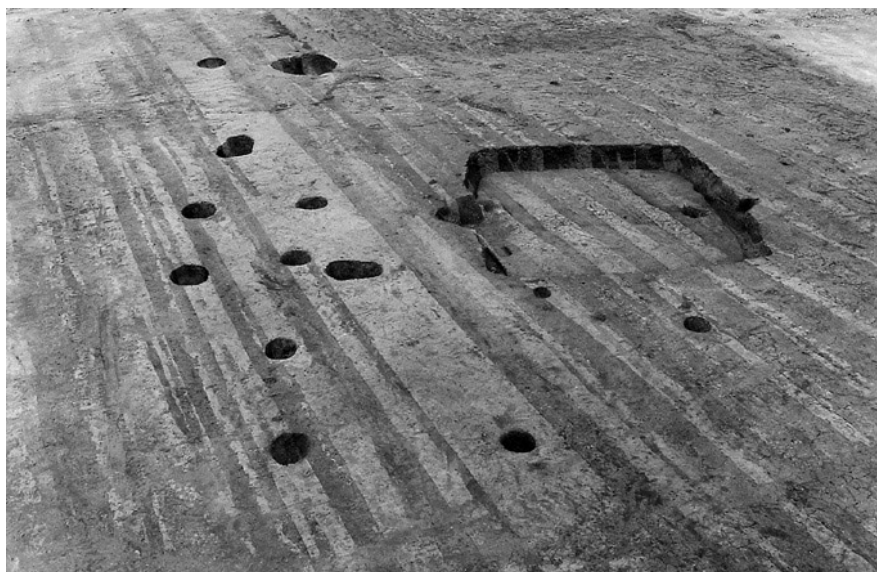
第4号掘立柱建物跡
完掘狀況



第1号溝跡
完掘狀況



第1・2号柵跡
完掘狀況





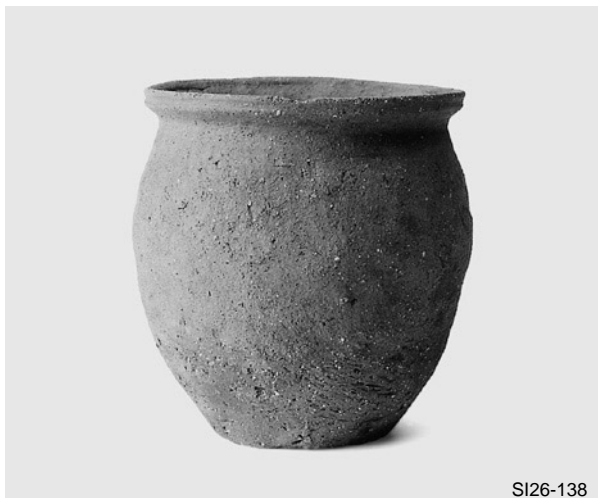


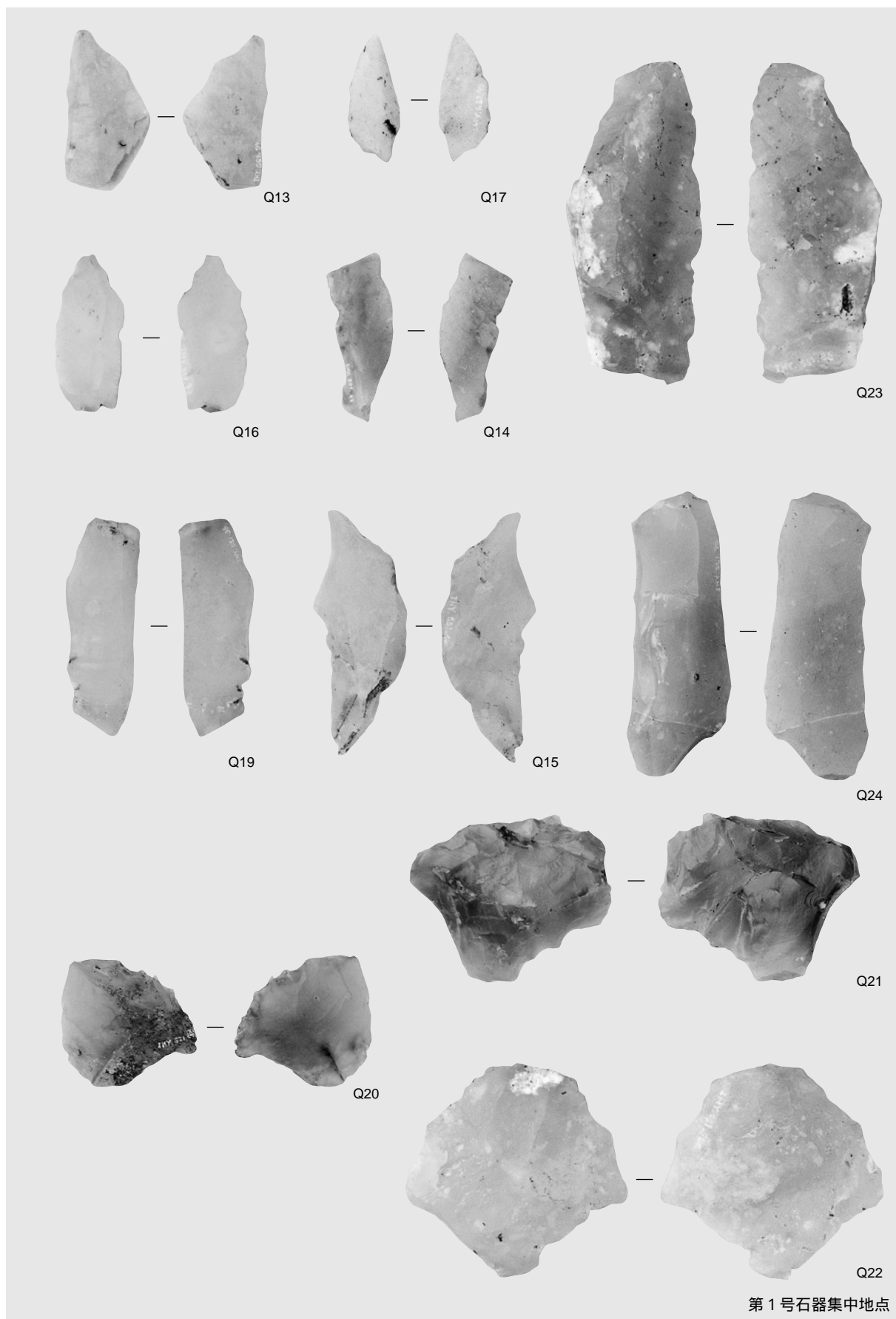
第 2 · 3 · 4 · 5 · 12 · 19号住居跡出土土器





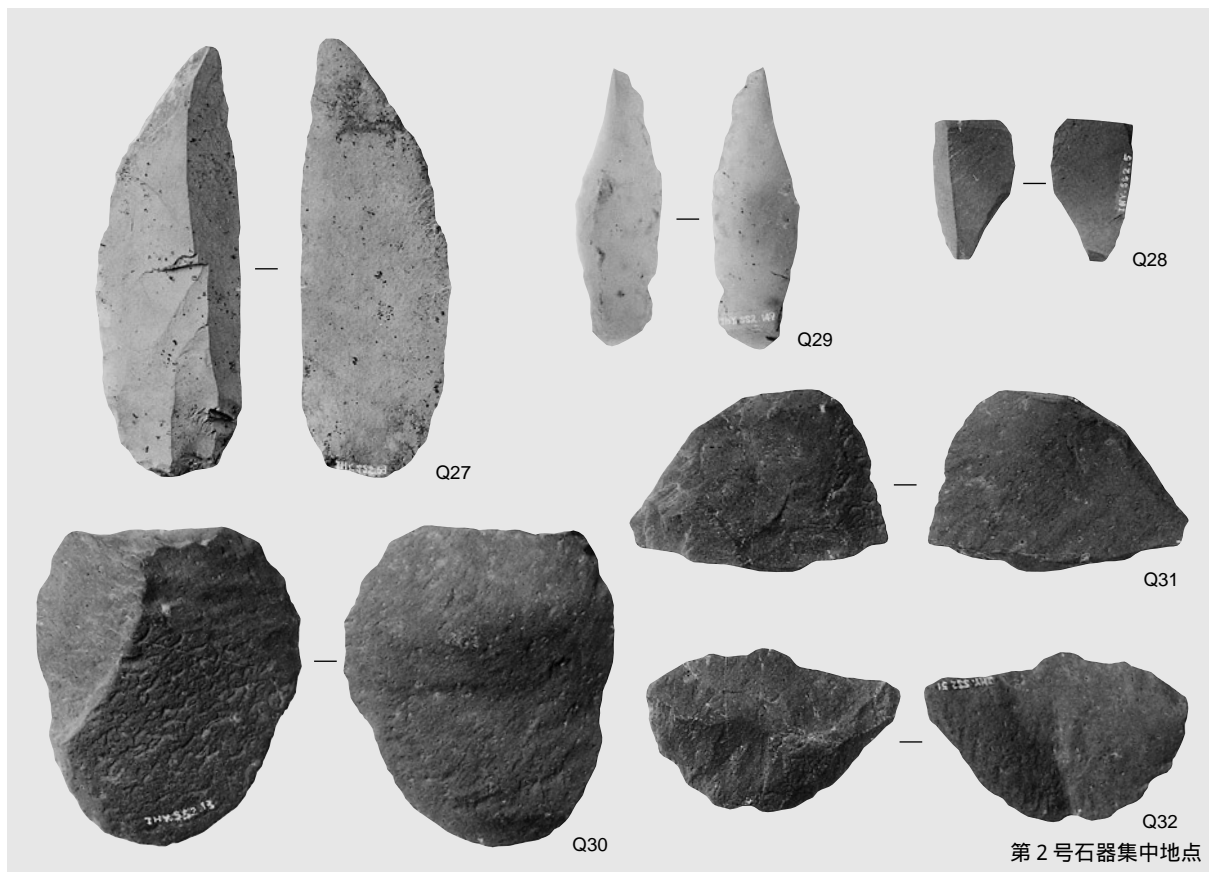
第5・6・7・9・11・13・26号住居跡出土土器



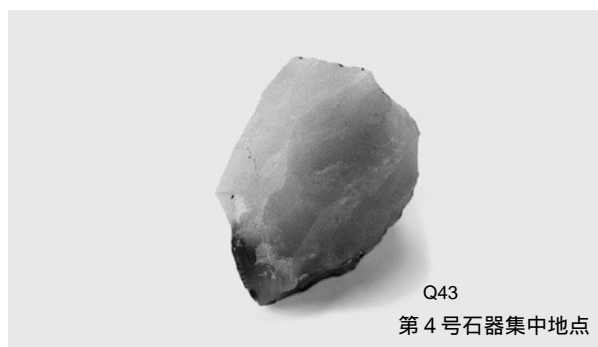
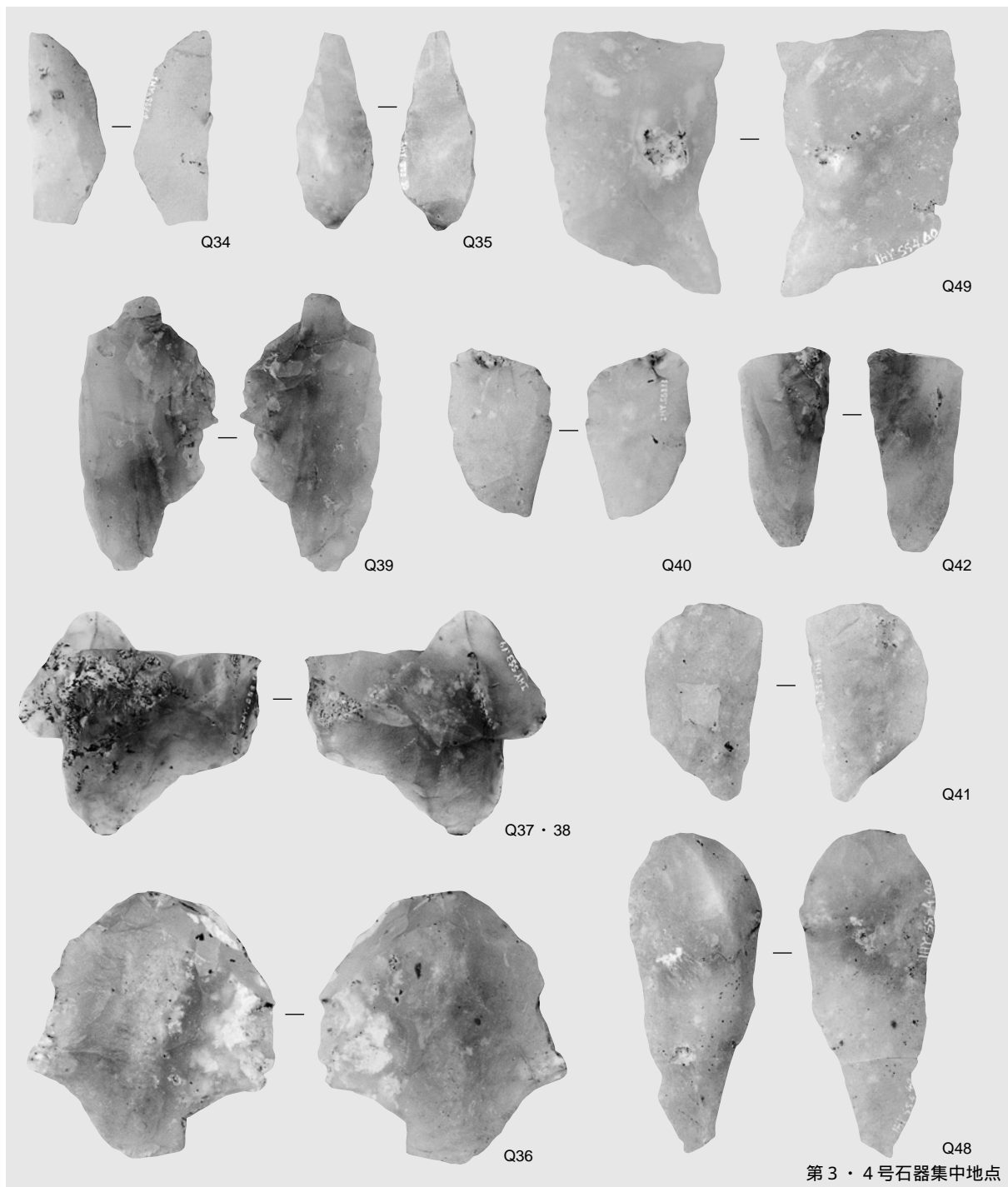


第 1 号石器集中地点

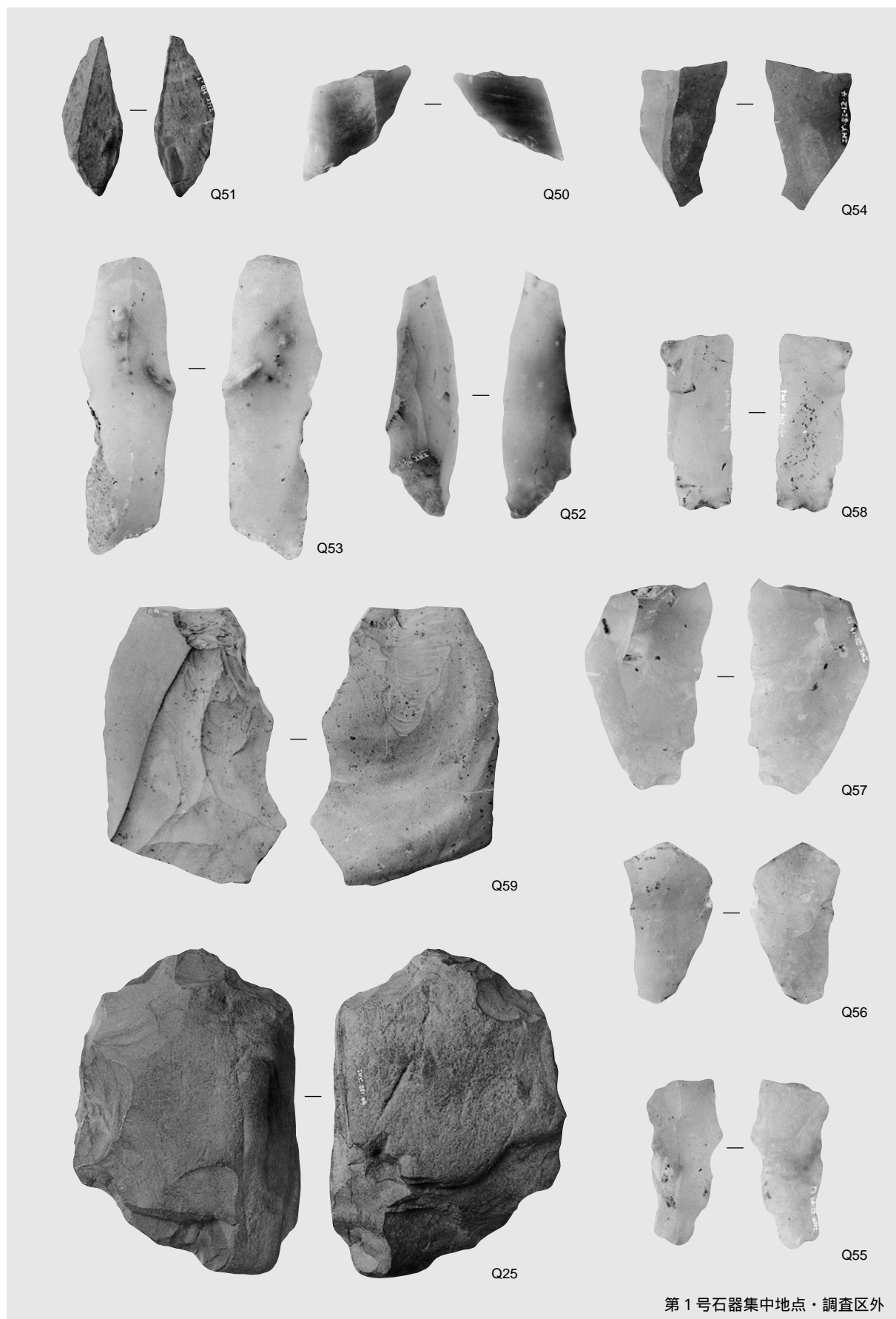
石器集中地点出土遺物



石器集中地点出土遺物

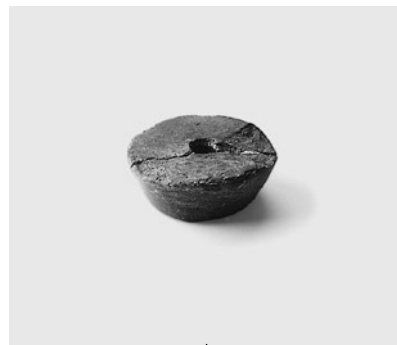
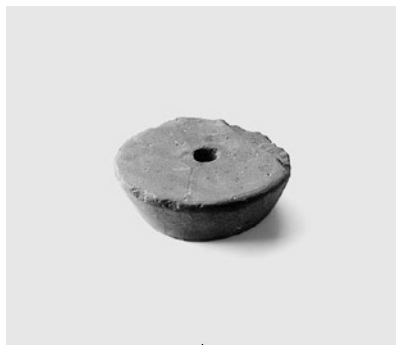
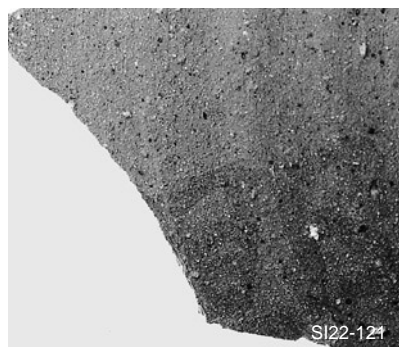


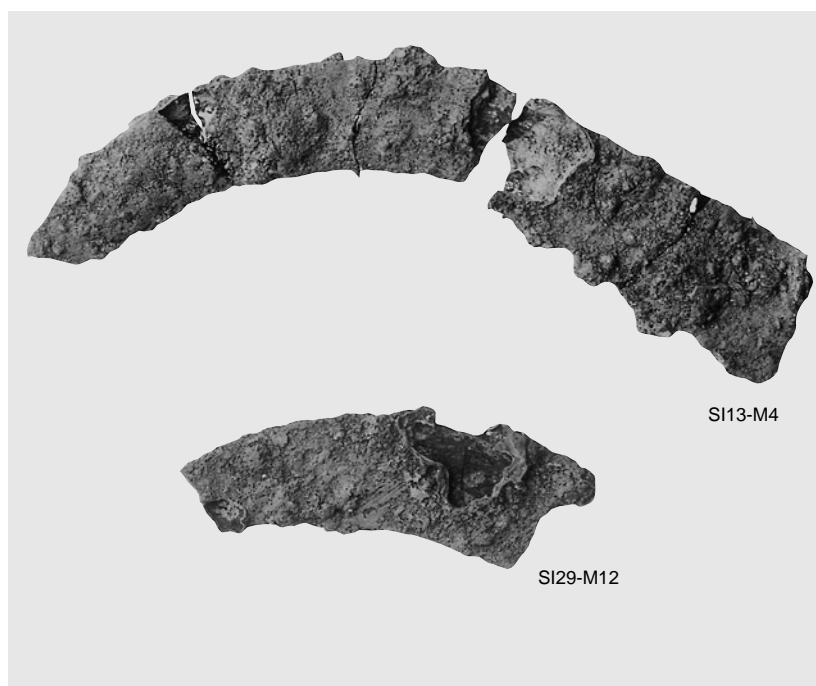
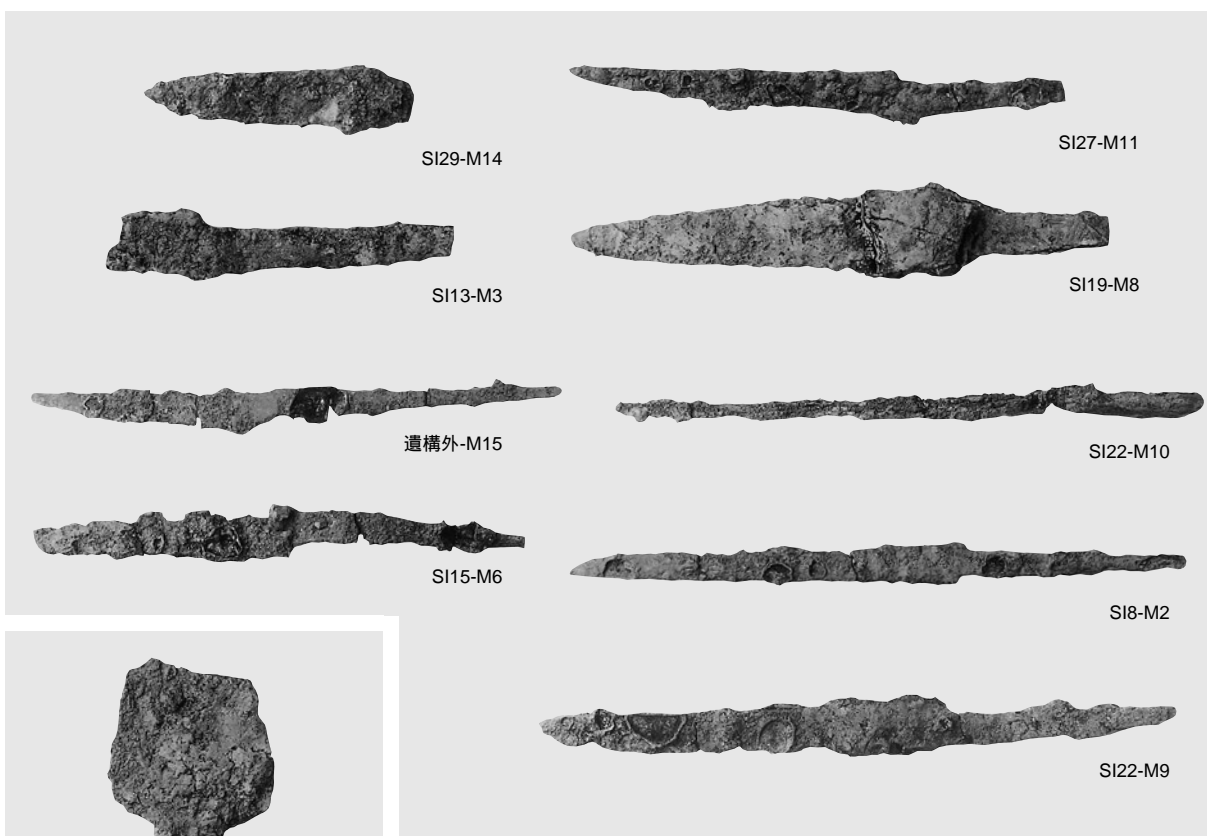
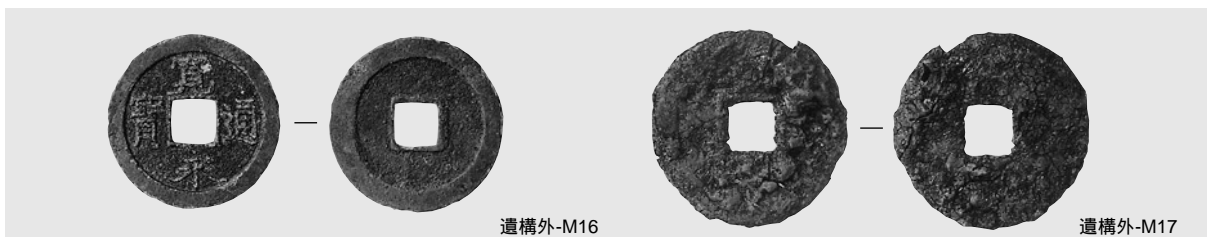
石器集中地点出土遺物



第1号石器集中地点・調査区外

石器集中地点出土遺物





茨城県教育財団文化財調査報告第279集

大戸富士山遺跡

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書Ⅶ

下 巻

平成19（2007）年3月19日 印刷
平成19（2007）年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (有)平電子印刷所
〒970-8024 いわき市平北白土字西ノ内13番地
TEL 0246-23-9051